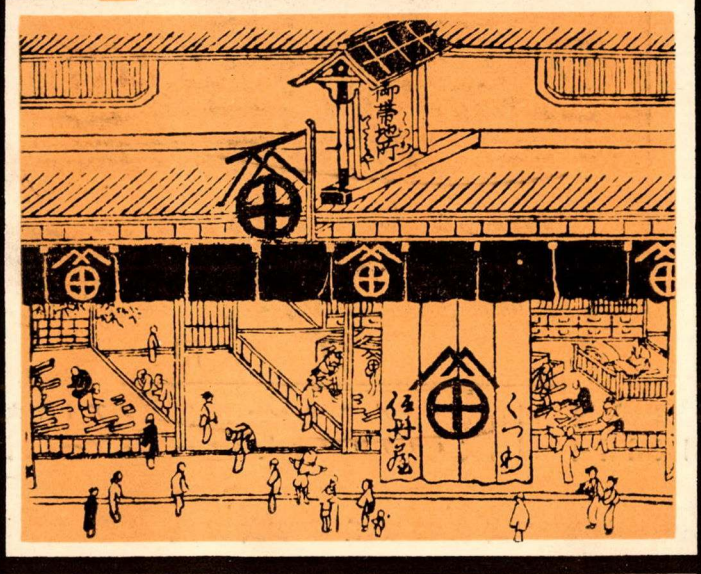
建築と社會

鄉土建築號



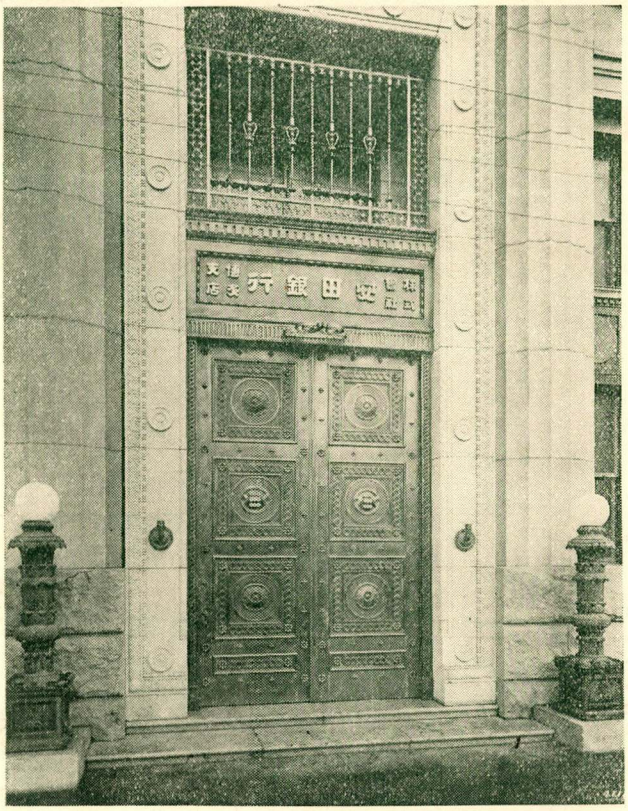
昭和四年四月一日

第十二輯
第四號

日本建築協會

寫眞は下記製品御使用の光榮に浴したる 株式會社安田銀行博多支店

東京建鐵!! 製造



三機工業!! 販賣

御　使　用

▶東京建鐵製　田島式上下ゲサツシ・田島式フアイヤカーテン◀
▶▶▶東京鋼板工業製　田島式メタリコン仕上スチールドアー(寫眞正面)◀◀◀

東京建鐵株式會社
東京鋼板工業株式會社

總代理店

三機工業株式會社

本　店　東京市麹町區內幸町一ノ三(大阪ビル內)
電話銀座(57)5330—5335(6)2831—2833(3)
支　店　大阪市東區備後町二ノ二一(野村ビル內)
電話本町1166・1525

取扱店　各地三井物産株式會社支店機械部

商標 OHNO SHUTTER PATENTED 登錄

特許第七九三五號(延長許可)外十數件併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式シヤッター
大野式自働防火鎧戸
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐
大野式轉子入戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉
應用特殊機械類
特許不二式サッシ受托販賣

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地(電話三田(七三三)七三三(八三三)番)

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二(電話土佐堀二七二五)



鄉土建築號　建築と社會　第十二輯　第四號　目次

特輯　建築事記

◇卷頭　大大阪新態・舊態　鄉土建築……九九
◇鄉土建築の所感……武藏野高等學校教授　山本良吉…一〇…三
◇舊大阪近郊に於ける鄉土建築の一種…工學士　葛野壯一郎…一三…一七
◇京都及その郊外の民屋…京都第三高等學校教授　藤田元春…一七…三
◇民家雜信……津田鑿…二三…二七
◇挿畫・古き文獻に現れた舊大阪の商家……二八…四二
◇西洋館漫步……小出榲重…二八…三二
◇ロシヤの家・支那の家……豐島欽爾…三二…三五
　―北滿の旅から―
◇民家行脚……津田鑿…三五…三七
◇四天王寺を廻ぐる傳說……上田長太郎…三七…四三
◇殘されたる舊大阪……鶴丸呆二…四三…四四
◇大阪と鄉土建築の一面……杉本儀八…四五…五〇
　―山の茶寮・十萬堂・新市街の農家―
◇をちこちの民家……中村義雄…五〇…五二

鄉土建築號　建築と社會　第十二輯　第四號　目次

鄉土

◇道頓堀の劇場小史……池田谷久吉…五三…五五
◇兩替屋の間取と局見世の今昔……佐古慶三…五五…五九
◇吉村彥次郎氏邸調査報告……杉本儀八…五九…六一
◇豪家吉村氏邸に就て……大阪府立今宮中學校長　三宅元勝……六三
◇茶席解說…一心寺・願泉寺……六七
◇圓珠庵……◇浪華と江戸……六八・七三
◇ランフアン（二）……藤田進一郎…六三…六七
都市計畫家銘々傳（6）
◇建築工事の勘定と事務……由良基夫……六八…七四
◇滋賀縣社會課主催生活改善展覽會に就て……中島智喜…六八…七四
中村義雄…七五…七七

附錄

◇寫眞・國際新建築集……三…一八
◇會報……
◇編輯後記……
◇本誌廣告目次……二

繪口

◇大阪島之內油屋近八商店……一
◇大阪淀屋橋實入商かぎや……三
◇大阪天王寺山田病院……五
◇大阪府下豪家吉村氏邸……七
◇大阪堀江油卸商ますや……二
◇大阪一心寺茶席……四
◇大阪府下豪家吉村氏邸……六
◇大阪府下豪家中氏邸……八

小野田白色ポルトランドセメント

小野田ポルトランドセメント

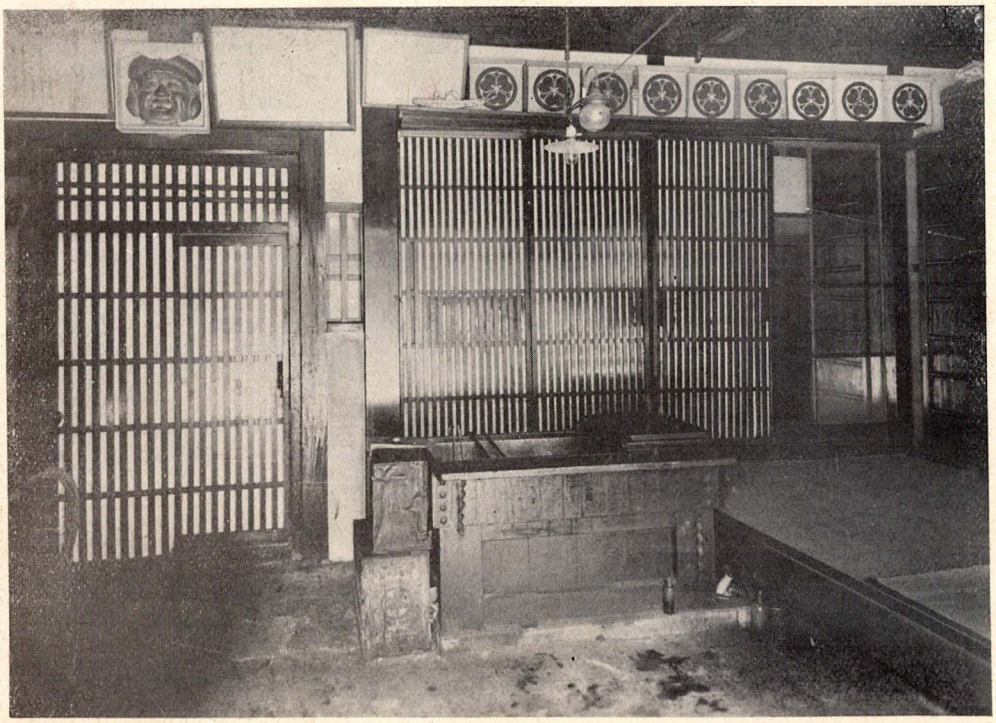
創　立　明治十四年
資本金　金参千万円
年産額　八十八万瓲(五百二坊樽)
本社工場　山口県厚狭郡小野田町

支社工場
大連市外周水子
朝鮮平壌府外勝湖里
朝鮮咸鏡南道線川内里
名古屋市南区熱田東町



一手販賣
三井物産株式會社

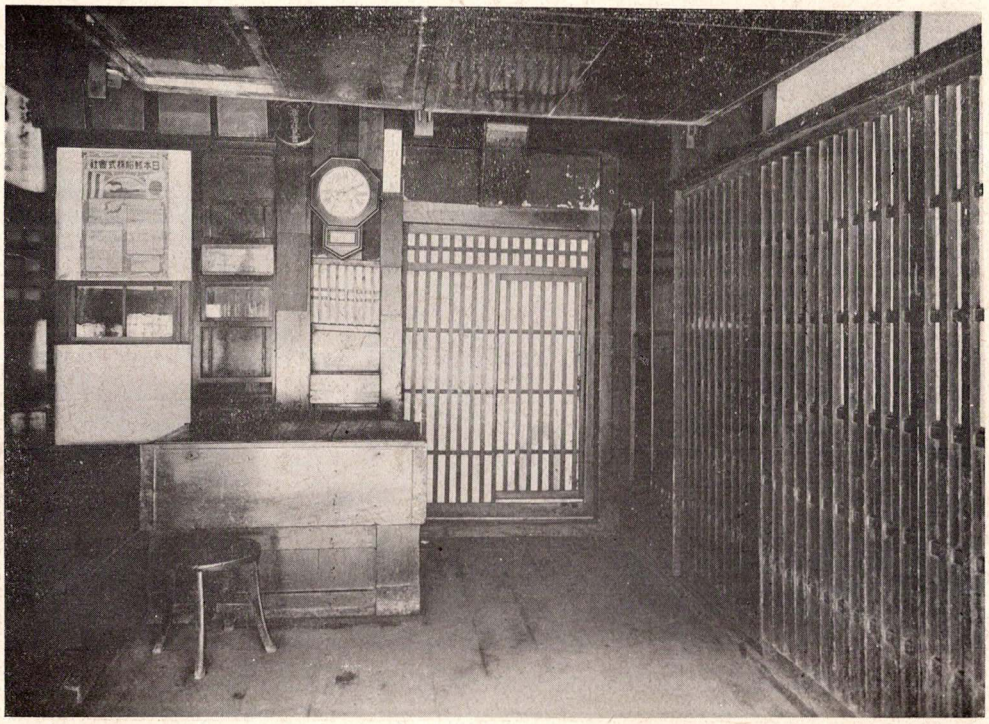




舊大阪の商店建築
油屋

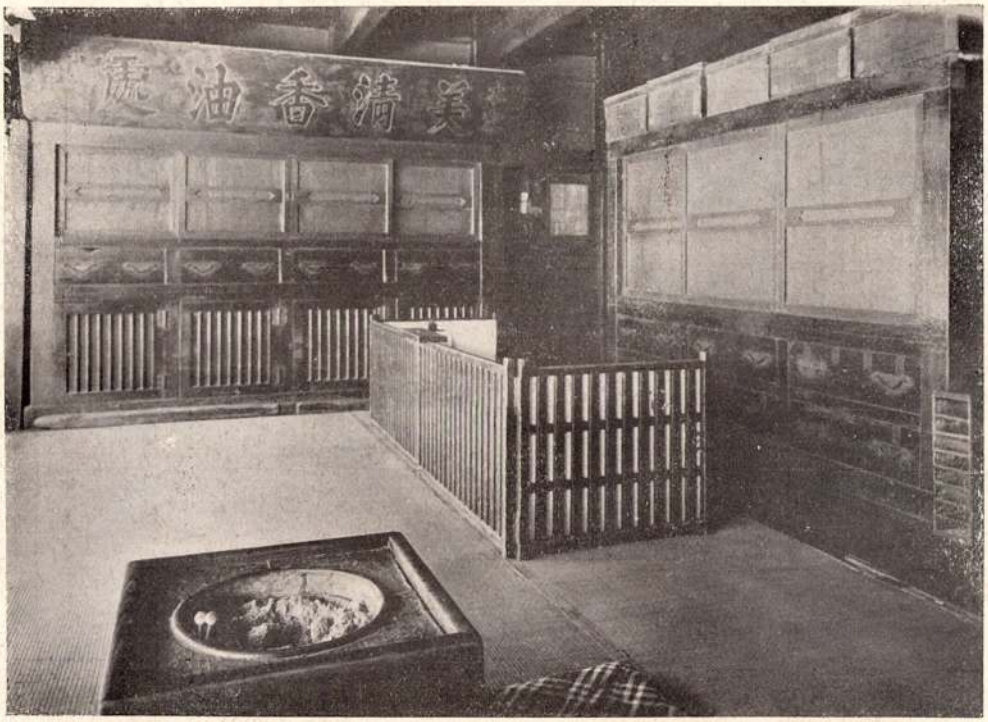
上・建築して百二三十年を經たといはれる油屋近八商店（大阪市南區千年町奥田由三郎氏邸）行灯は三百年間その儘傳へられたるもの
下・同古ながらの油賣場





舊大阪の商店建築
油卸商

上・大阪堀江の草分二百數十年其儘の「ますや」
(大阪市西區北堀江水野彌兵衞氏邸)
下・同油賣場　左方格子内は油藏





舊大阪の商店建築
蔦入屋

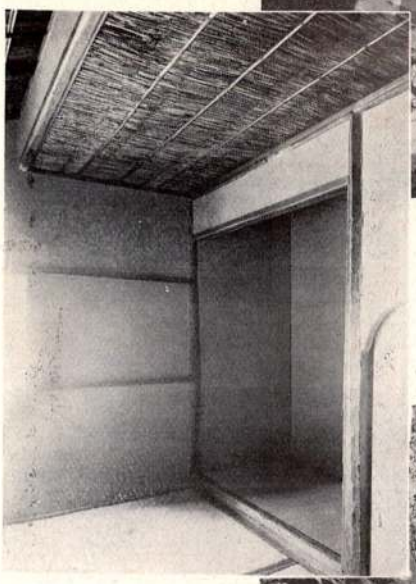
上• 前揭「ますや」の店の間・看板・戶棚共に創業以來傳來のもの
下• 蔦入屋「かぎや」五兵衞といへば京都の村田と共に由緒ある老舖その「かぎや」の店

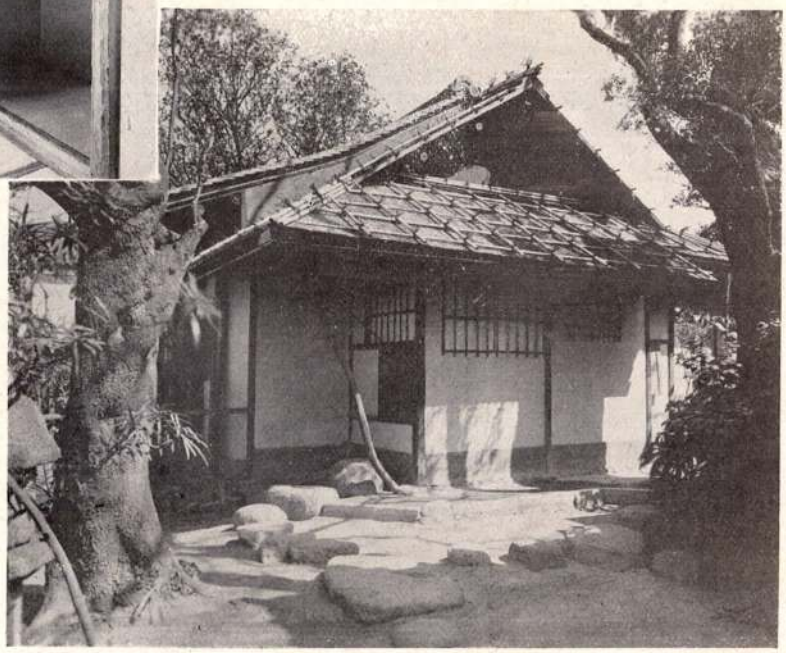
一心寺茶席

慶長十八年小堀遠州作にして大阪城中より現在の一心寺へ移建のもの

(大阪市天王寺區逢坂町一心寺)







1. 茶席(八窓 の東方よりの外觀
2. 同南方より觀たる外觀
3. 同茶室

1

舊大阪醫家建築

四天王寺再築の餘木を以て建てられ二百數十年を經たといはれる山田病院

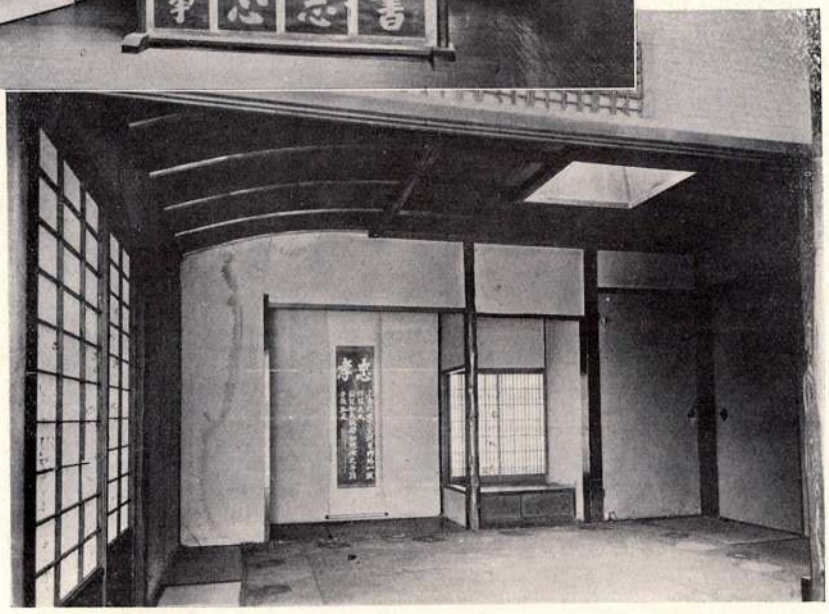
（大阪市天王寺區山田町之上　逢阪哲雄氏邸）



2



3



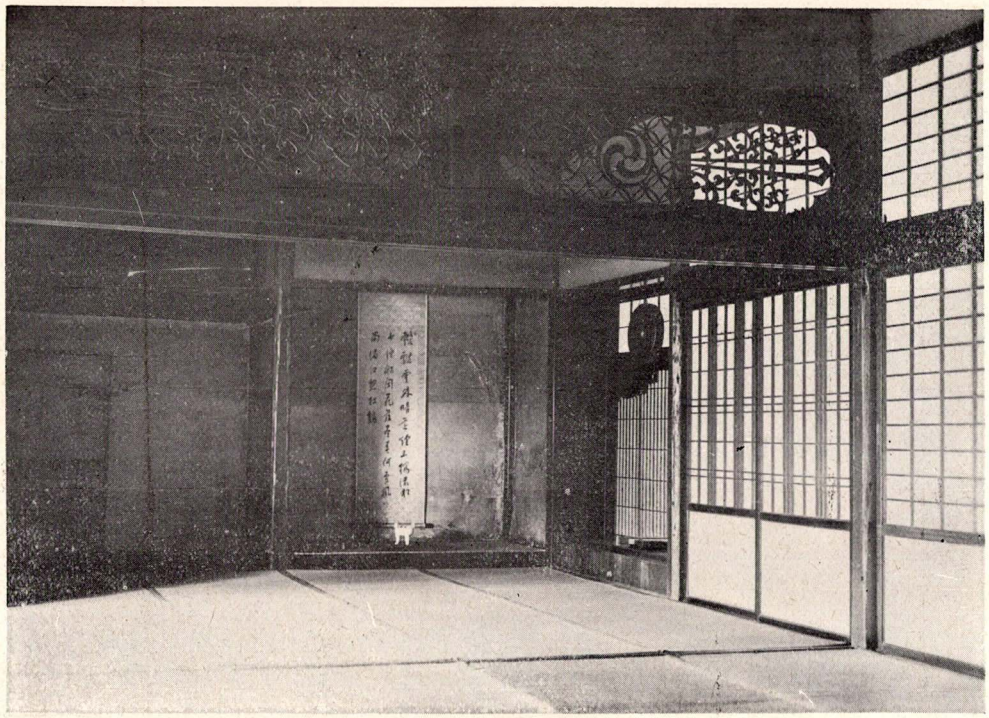
1. 同病院玄關
2. 同座敷
3. 同茶室

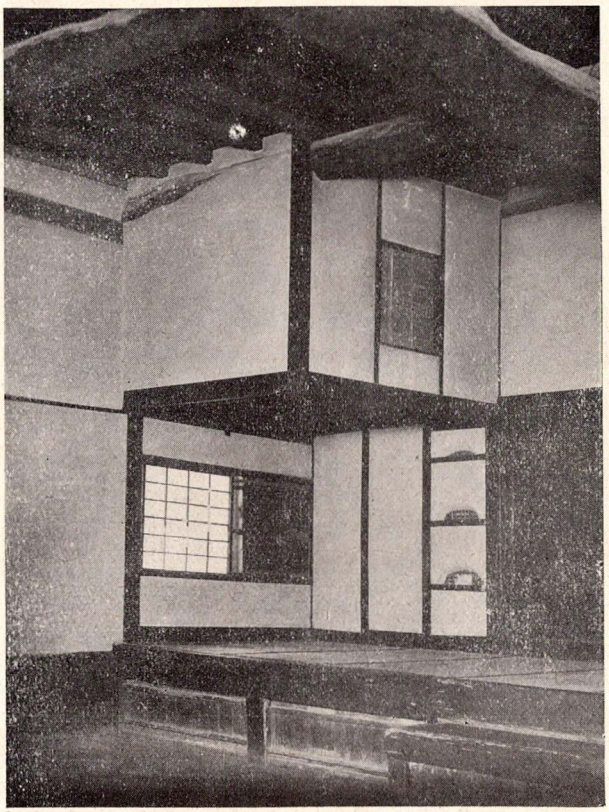




民家建築

上・天正年間より傳はる豪家吉村彦次郎邸母屋（本文記事參照）
下・同門納屋（大阪府下南河内郡高鷲村）

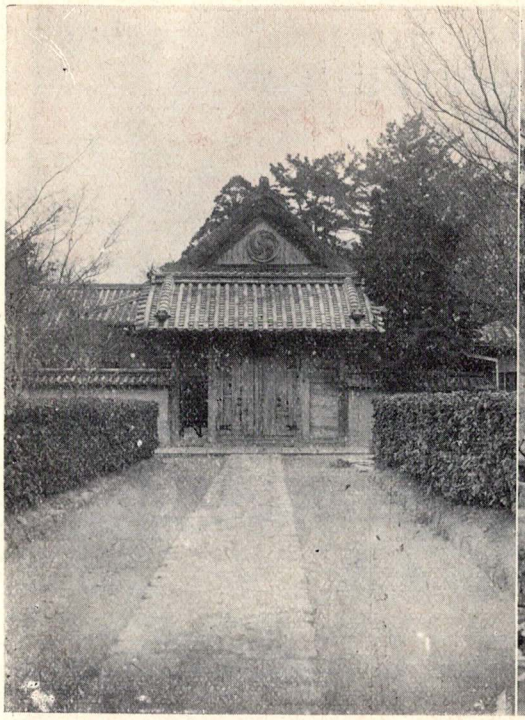




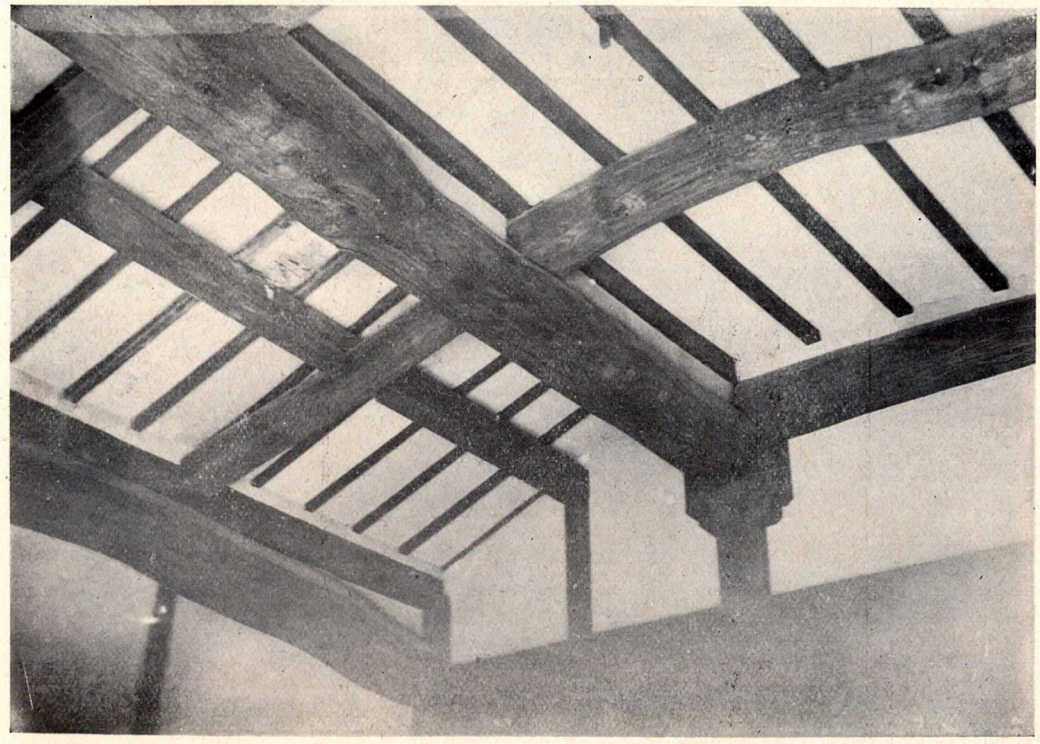
民家建築

上　吉村邸座敷及壁間の欄間

下　同臺所女部屋、中二階樣に見える一間へ壁の梯子を昇て寢みたるものといふ







民家建築　**上左・** 泉州の豪家中　氏邸　（德川初期のもの）　大阪府泉南郡熊取村五門

上右・ 同門、この門は鎌倉時代のものと傳へらるゝも手法より見るに室町時代のものらしい。嘗て後白河法皇熊野へ御臨行の際同家へ御駐輦遊ばされし際の建立で以來御門と稱し、其村名をも御門より變して五門と稱へるに至る由緒ある門なり

下・ 同支關天井木組

夏ノ蟲蚊ノ用ロールスクリーン

Rolscreens
The Ideal Screen For Casements

特許第74197號

近來模造品多數あり本品御指定ありたし



（型錄贈呈）

島貿易株式會社建材部

日本總代理店

本店　大阪市東區高麗橋四丁目
電話本局自五〇四〇—至五〇四七番

支店　東京市日本橋區平松町
電話日本橋　二二四番　三一六九番
　　三一六八番

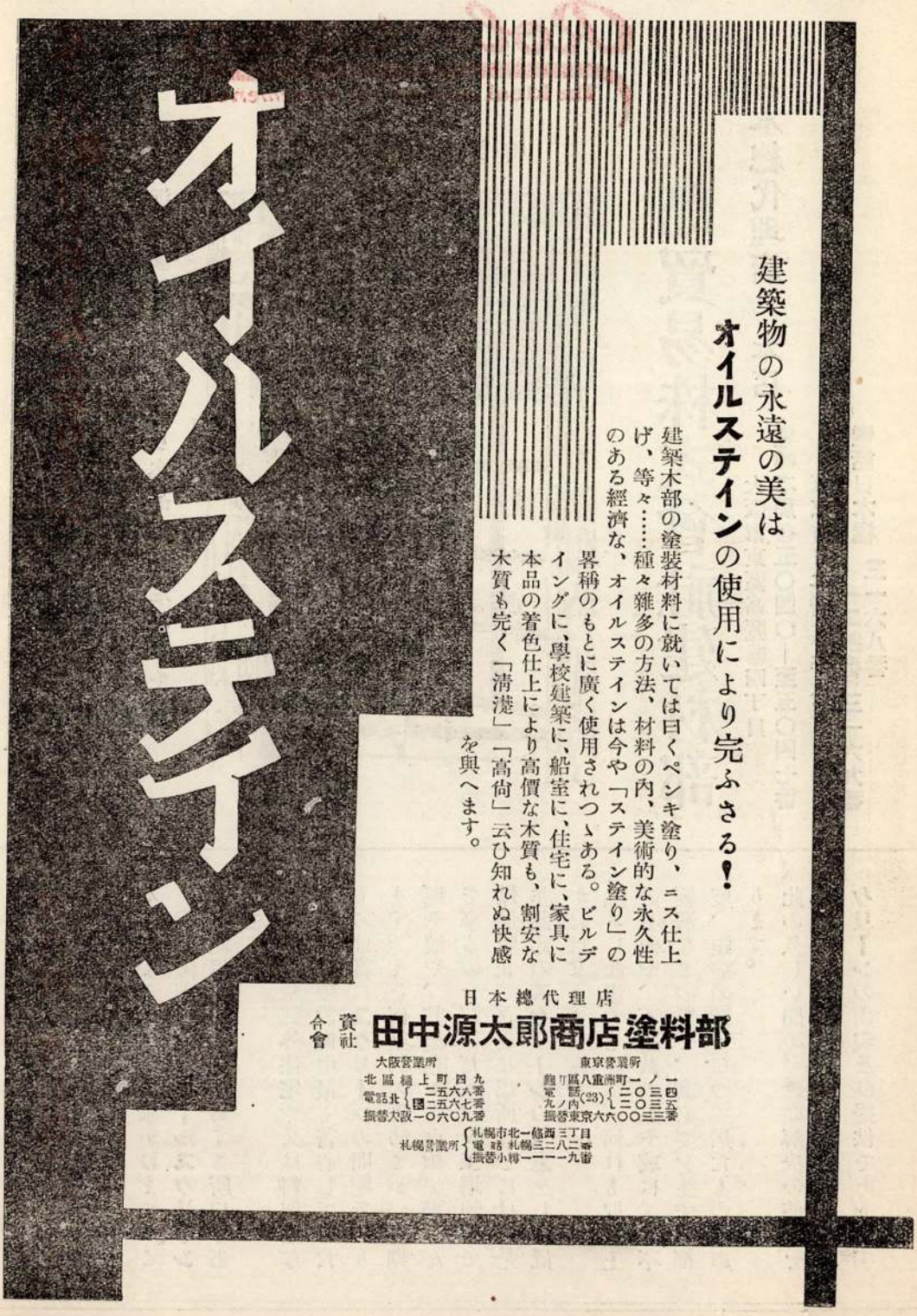
晝は蠅、夜は蚊と

夏は閑靜な郊外の住宅に在つても中々に快よき休息は出來かねます。これ我が優美輕便な**ロールスクリーン**の御使用を切に御薦めする所以であります。

從來病院や郊外住宅や又は料理場などで、窓の設備中最も苦心して來たものは實に**スクリーン**の問題であります。凡そ傳染病の豫防とか、夏期蠅や蚊や、其他色々の虫類が飛込んで來るのを防いだり、又工場地帶で煤煙防止の必要な場所などには、是非共此の**スクリーン**の用意をして置かねばなりません。

然るに此迄のものは、何れも取扱上の不便や、不體裁の點や或は又、不經濟などの點で、其必要を生ずる都度、頭痛の種となつて居たものであります。

此の久しい間の、難問解決の使命を果たすものこそ、實に我が**ロースクリーン**の出現及び提供であります



建築物の永遠の美は

オイルステインの使用により完ふさる！

建築木部の塗裝材料に就いては曰くペンキ塗り、ニス仕上げ、等々……種々雜多の方法、材料の內、美術的な永久性のある經濟な、オイルステインは今や「ステイン塗り」の名稱のもとに廣く使用されつゝある。ビルデイングに、學校建築に、船室に、住宅に、家具に本品の着色仕上により高價な木質も、割安な木質も完く「清澄」「高尙」云ひ知れぬ快感を與へます。

日本總代理店

資合會社 **田中源太郎商店塗料部**

東京營業所
一ノ一四
一〇三五番
八重洲町
(23)
二〇三七番
京橋區
九ノ內
電話
振替東京六六〇〇三三番

大阪營業所
北區梅上町四九
二五六八番
二五六七番
二五六〇九番
電話北
振替大阪一〇六〇九番

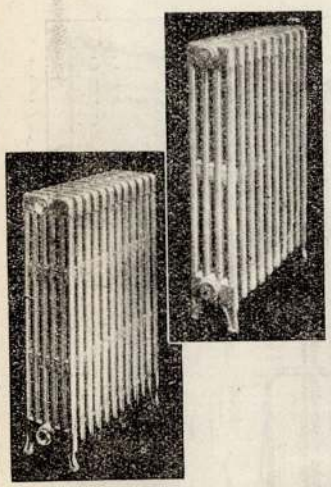
札幌營業所
札幌市北一條西三丁目
札幌三二八二番
一一一九番
電話
振替小樽一一一九番

AMERICAN RADIATOR COMPANY
NATIONAL RADIATOR COMPANY

アメリカン ラヂエーター會社製

ナシヨナル ラヂエーター會社製

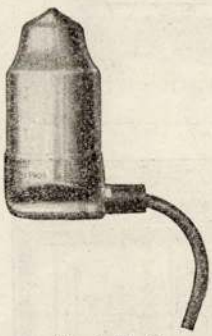
暖房用汽罐放熱器及附屬品一式



Ideal Classic Radiator



Ideal Red Jacket Boiler



Ideal Airid
Air Valve



No. 999 Arco
Packless Valve

日本代理店

大倉商事株式會社

東京銀座　大阪東區釣鐘町

ホイツトコー……素的に好い金物です

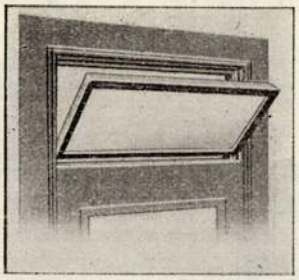
CASEMENT WHITCO HARDWARE

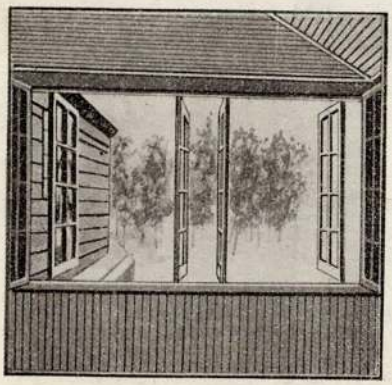
外開窓・回轉窓・欄間用としては

是以上の金物は他にありません。

下圖はホイツトコーにて釣れる

ウ井ンドウ及ランマの數例です





◇春夏秋冬……四季を通じて開閉・通風、換氣、採光、保溫耐久、拭掃除にも頗る便利!!



米國ピンセツトホ井ツトコーカンパニー日本總輸入元

近江セールズ株式會社

大阪出張所　大阪市西區土佐堀一丁目大同ビル七階一號室

電話土佐堀五三八四番

◆耐震耐火＝品質優良＝優美高尚＝價格至廉◆

金屬天井



金屬天井御採用の三菱銀行東京本店

◆田村商會創始
◆參拾五年經驗
◆施工全部請負
◆特殊圖案製作

營業種目

◆建築材料部
- ▲金屬天井
- ▲リブプレツクス（リブラス）
- ▲コーナービード
- ▲内外メタルラス
- ▲タイガーボード（耐火石膏板紙）
- ▲舶來ウオールボード各種
- ▲ルーフキングス（便利瓦）
- ▲アスファルトフエルト
- ▲其他建築材料一般

◆木材部
- ▲米材各種
- ▲チーク材
- ▲ラワン材
- ▲床板各種

◆穀類部
- ▲内外小麥粉
- ▲内外麩
- ▲内外米

◆工業部
- ▲製粉工場
- ▲製米工場
- ▲金屬鍛工場

型錄進呈

田村商會

本店
神戸市榮町六丁目
電話元町（五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五

支店
大阪市西區靱上通り一丁目
電話土佐堀（六八八一〇
東京市日本橋區元四日市町
電話大手（三七〇五、六三六〇、四六七一、二五二六
横濱市港町一丁目
電話長者町 二五四〇
北米晩香坡市ダンレピー街
電話 八八一

工場
神戸市兵庫新川
電話兵庫（九一、二四〇三、二四四、六四〇

小野田セメント専用
セメントタイル
セメントモザ井ックタイル
コンクリートタイル
ストンブロック
模造ゼンタータム
塀用ホーローブロック
其他各種人造石製造

大阪市港區大正通一丁目六三

創業明治三十六年　合名會社　田中タイリング商會

電話櫻川二〇四七番

分工場　大阪市東成區鴫野町五一一

電話鯰江二六八番

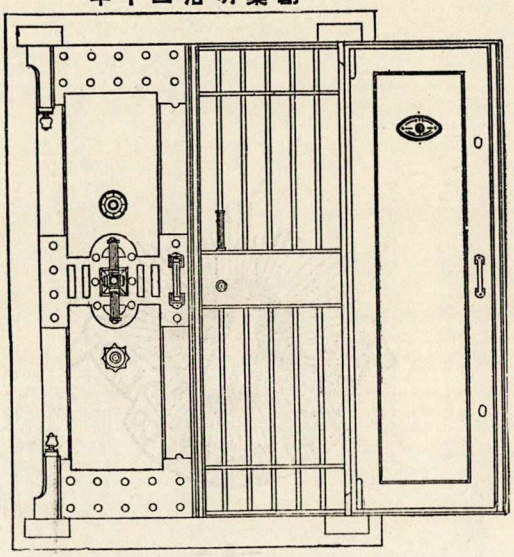
東京工場　東京市深川區東平井町一ノ一

電話本所四六六二番

創業明治二十年

新案特許 **火焰遮斷裝置防火扉**は

國立大阪工業試驗所に於ける耐熱試驗の結果
最高温度攝氏壹千貳百八拾度
連續加熱七時間十五分の新記錄を示せり



金庫室防火扉

金庫室は完全なる扉と
內部什器（書棚及書函）**の**
鋼鐵化に因り始めて絕對的
災害防止の效果を實現す

御用命を蒙り納入せる尊名

營業科目

金庫室入口防火扉
マンホール幷ニ窓扉
倉庫出入口防火扉
鋼鐵製書函並ニ書棚
美術建築用金物一式

日本銀行名古屋支店
三井銀行
三十四銀行
山口銀行
野村銀行
加島銀行
名古屋銀行
明治銀行
大垣共立銀行
濃飛農工銀行
蘇原銀行
濱松銀行
中愛知縣大野銀行
灘商業銀行
武庫銀行
西海商業銀行

久美濱銀行
大垣貯蓄銀行
大阪貯蓄銀行
內國貯金銀行
吉備貯蓄銀行
野村證券株式會社
野村合名會社
奈良信託株式會社
東邦瓦斯株式會社
三井信託株式會社
三井物產株式會社
大日本人造肥料株式會社
豐國火災保險株式會社
東洋海上火災保險株式會社
三菱電氣神戶製作所
松阪屋呉服店
岡谷合資東京金物部

名古屋 岡谷本邸
萩町信用組合
株式會社鹽野義商店
株式會社武田長兵衛商店
芦屋 八馬邸
芦屋 竹內邸
名古屋 安藤商店
名古屋 池田商店
名古屋 岩津邸
京都 平瀨邸
京都 西鄉邸
呉市 三宅邸
西宮市廳舍
多聞合資會社
魚崎 中村邸

大阪市港區九條南通一丁目一三〇番地

大塚鐵工所金庫部

所主 瀧村松之助

電話西五〇一七番

工場 九條南通一丁目 | 三軒家上之町 | 北境川町

理想的
床敷材

リノリユーム



東洋リノリユーム株式會社

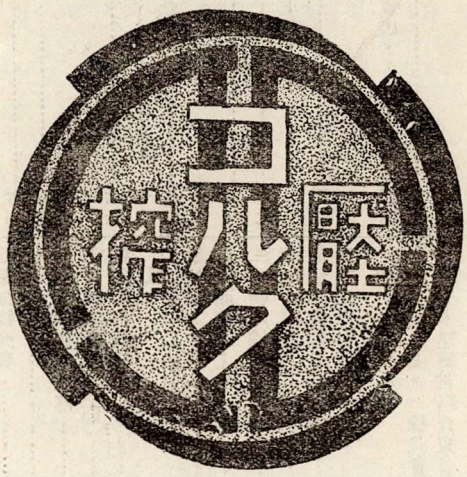
營業所　大阪市東區瓦町二山口ビル四階
電話本局二〇六〇番
三九一〇〇番

年額百五十萬平方碼

冷藏防熱用（製産高／工場設備）東洋第一位!!

住宅敷物用、リノリユーム下敷用

炭化コルク



東洋工業株式會社
コルク部

本社及工場　廣島市吉島町
電特長一七九二

大阪出張所　大阪市北區堂島濱通一丁目百十番地
電話北一三八九

東京出張所　東京市神田區豊島町七番地
電浪花八五三番

建築と社會第十二輯第四號

廣告目次

頁

A

アンドリユウス商會……一三
葵商會……二〇
有山組……四〇
安藤組大阪支店……四〇
淺野物産株式會社大阪支店建築材料部……五五
淺野スレート株式會社……一四
淺野スレート株式會社……七八
淺海商店……六四
阿部鐵工所……七二

D

デウエット商會……六七
大丸……七九
大和工業株式會社……八五

E

エッチ・イー・ルート……二一
エッチ・イー・ルート……二二
エッチ・イー・ルート……二三
榮進社……四三

F

福原工場大阪販賣店……四四
藤木工務店……三九

H

橋本建築事務所……三二
橋本庭園工務所……二七
波江野工生所……四九
白陽工務店……三六
汎建製作所……表紙三
灰久本店（新建材部）……二九

I

池田建築事務所……三二
池田組……三六
伊丹商店……五〇

K

クロースルーフキング製造所……六〇
江東サツシ株式會社……六九
木下謹三商店……七八
熊坂谷熊次郎商店……三九
高陽商會……一八
國枝工務所……三四
金剛商會……四五
片岡、石本建築事務所……三三
桐田商會……六六
建築金物商會……表紙四
鴻池組……四〇
駒井喜商店鐵工部……四〇
工材社（阪口芳三郎）……三〇
龜谷開作商店……三八

M

松村組……三九
松本商店……五三
三井物産株式會社……二
森本建築社……四一
眞水三橋建築事務所……三四
政正合資會社……八一

N

內外エレベーター株式會社……五一
內外土木建築材料合資會社……一六
內藤製作所……六四
日米商事合資會社……七六
日本洋瓦株式會社大阪出張所……四八
日本木材工藝株式會社……八三
日本スレート販賣株式會社大阪支店……七七
日本ペイント製造株式會社……一七
日本エレベーター製造株式會社……一九
日本石油株式會社……三一
日本水道衛生工事株式會社……六五
日本建築紙工株式會社大阪出張所……四九
日本鑿泉合資會社……三六
日本地下水協會……八二
日本建材社……七三
西村建築株式會社……一六
西孫南店建築金物部……七四
西原衛生工業所大阪支店……三五
中川辰藏店……三八
南滿鑛業株式會社……五七
野澤幸三郎商店……七〇

O

オキナ商店……五九
大阪ピトロライト工事合資會社……一八
大阪耐火リノリューム工業合資株式會社……五二
大阪窯業セメント株式會社……二五
大阪鐵筋混凝土事務所……三七
大阪橋本組……三七
大阪電氣商會大阪暖房商會……八〇
大林組……三七
大倉商事株式會社……五
大倉土木株式會社大阪出張所……三六
大塚鐵工所金庫部……九
大野製作所……一
小笠原建築事務所……三二
岡本工務店……三七
岡部建築事務所……三三
近江セールズ株式會社……六
奥村重兵衛商店……七一

R

ラバロイド商會……一五
玲光社（木內眞太郎）……五八

S

SO商會……四六
須賀商會……四七
島津製作所貿易部……九〇
島田硝子製造所……六一
島賀易株式會社建材部……三
佐渡島西店建材部……七五
佐村木勝吉商店……五〇
佐久間建材工業所……四二
佐伯組……四一
三機工業株式會社……表紙二
三機工業株式會社……二四
笹岡家具裝飾店……六二
澤田合名會社……八四
城口研究所大阪支店……六八
宗建築事務所……三三
設樂建築事務所……三四
清水組大阪支店……四一
品川白煉瓦株式會社大阪販賣所……七五

T

東洋コンクリート合資會社……六二
東洋リノリューム株式會社……一〇
東洋工業株式會社コルク部……一一
東亞鐵工所……五四
田中工業株式會社……八六
田中昌司商店……七六
田中タイリング商會……一八
田中源太郎商店塗料部……四
田村商會……七
竹中工務店……三八

V

ベニス工房……五六

Y

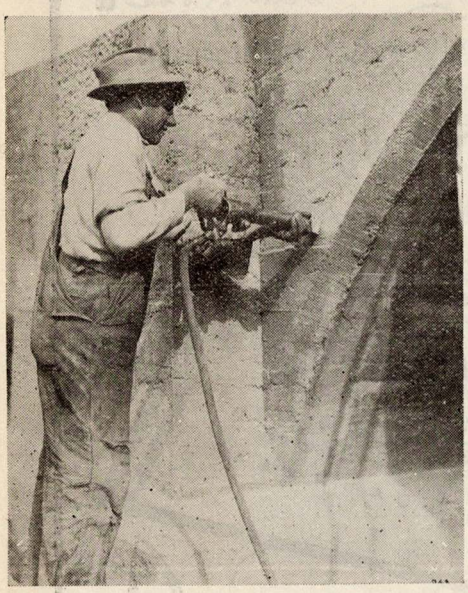
山本窯業商店……五六
山中商會……六三
山田大理石製作所……三九
矢橋大理石商店……四四
安井建築事務所……三四
米本商店……五八
横河工務所……三三

Z

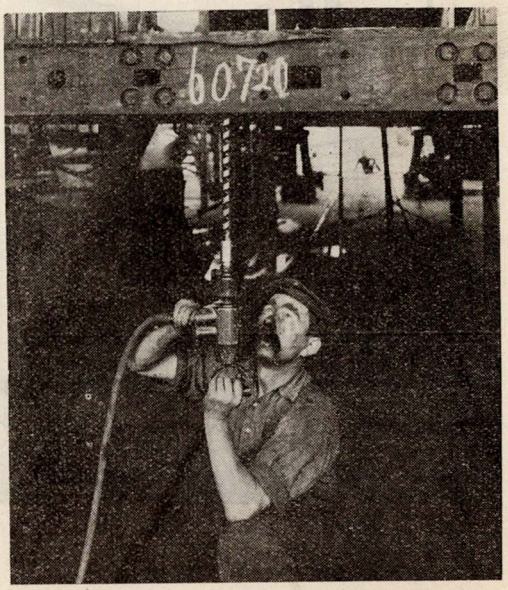
錢高組……四一

Cleveland
Pneumatic Tools

至極經濟的で
最高能率を示す
クレコ、ツール



高價なる壓縮空氣を使ふ各種のエアーツールの最も肝要なる要素は何程の空氣を使用して其能率は如何と云ふ點でありますクリブランド、エアー、ツールは能率及使用空氣量の點に於いて他の絶對追隨を容さぬ優秀なるもので其れは構造と品質の卓越せる爲めであります一度御試驗下さい。



リベッター、チッパー、エアードリル、グラインダー、ランマー等大小各種型あり、御照會を乞ふ。

The Cleveland
Pneumatic Tool Co.

東洋總代理店

株式會社 アンドリユウス商會

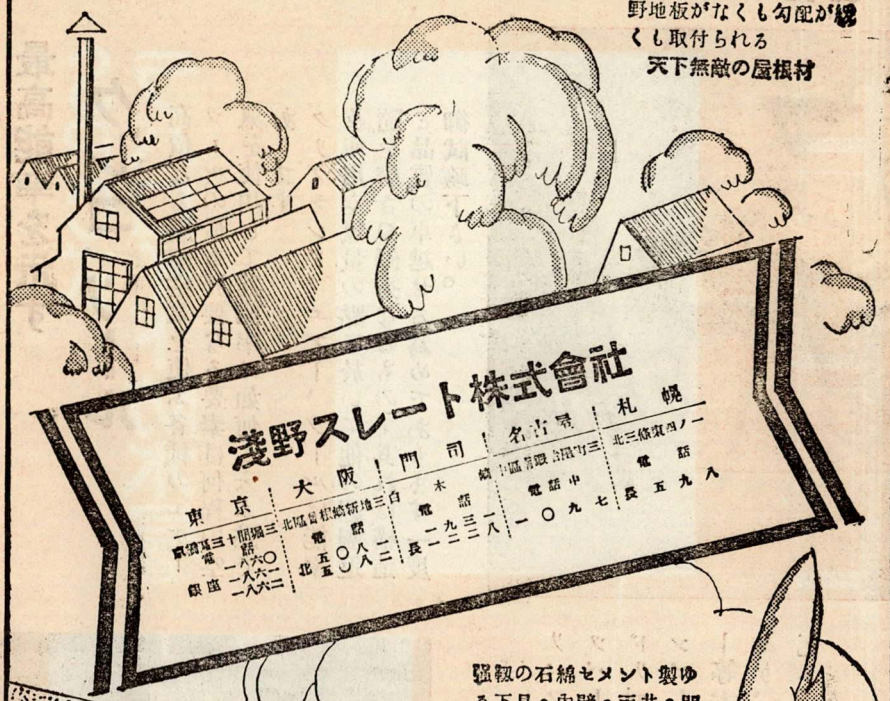
（創立 明治二十七年）

本社 東京市芝區芝公園五號地二ノ五
支社 大阪市西區江戸堀南通三ノ一八

名古屋・小倉・札幌・京城・大連・紐育

淺野波形板

母屋が木質でも鐵骨でも
野地板がなくも勾配が緩
くも取付られる
天下無敵の屋根材

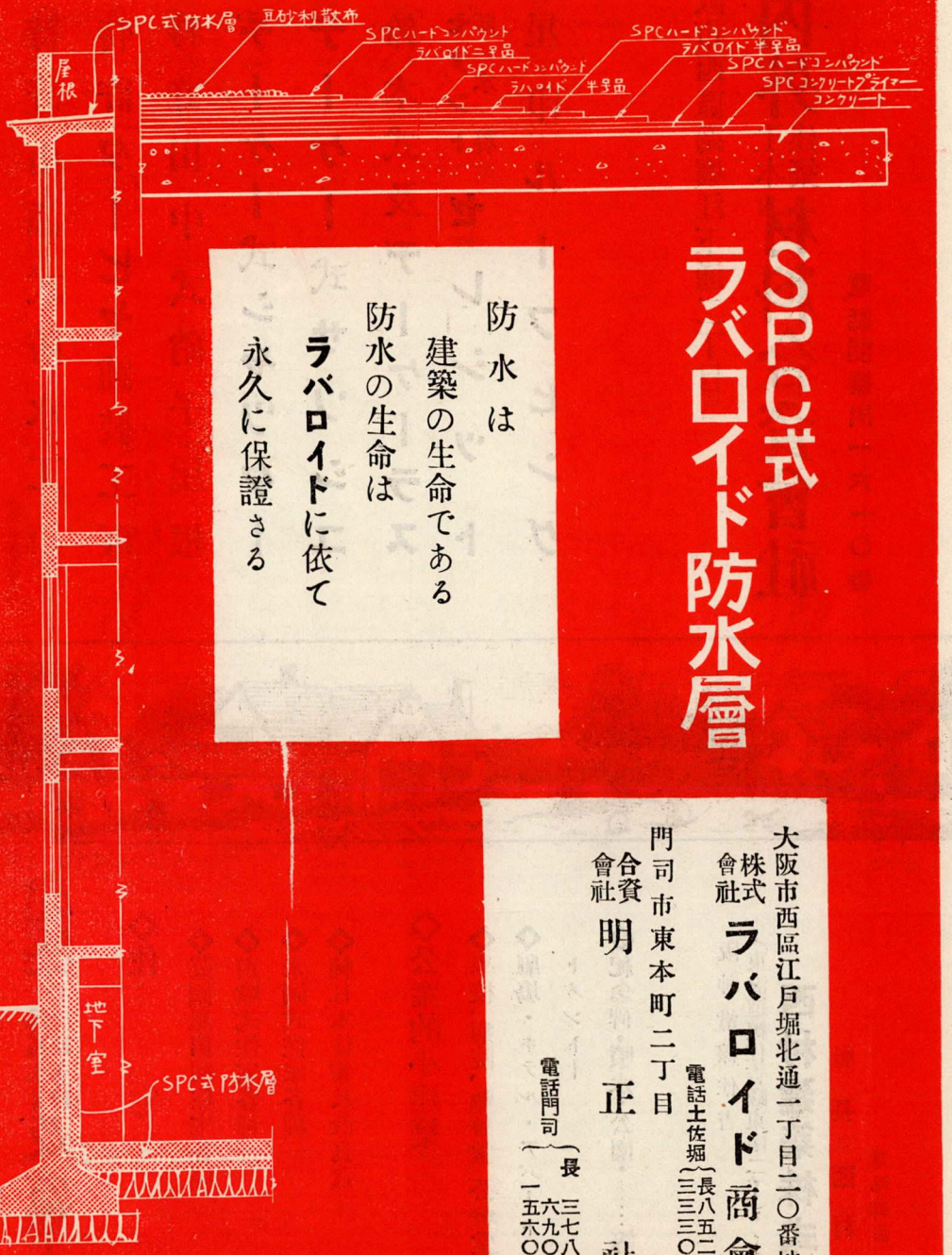


淺野スレート株式會社

東京	大阪	門司	名古屋	札幌
京橋區三十間堀三丁目	北區曾根崎新地三丁目	白木綿	中區錦町三丁目	北三條東四丁目
電話	電話	電話	電話	電話
銀座 二八六〇 二八六一 二八六二	北五〇八二 五	長一九三一 三八	中一〇九七	長五九八

強靱の石綿セメント製ゆゑ下見・内壁・天井・間仕切壁等に用ひて
比類なき最適品

淺野壁板



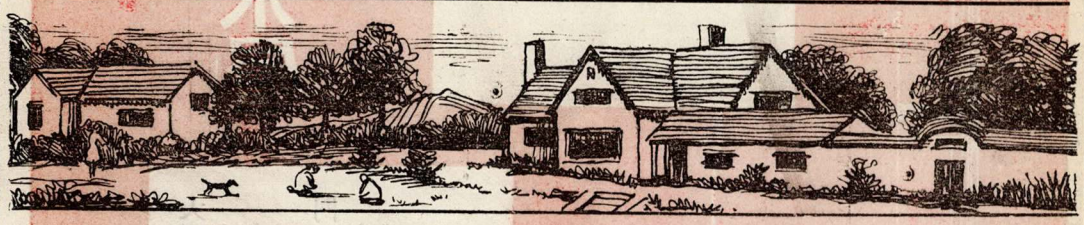
SPC式 ラバロイド防水層

防水は
建築の生命である
防水の生命は
ラバロイドに依て
永久に保證さる

大阪市西區江戸堀北通一丁目二〇番地
株式會社 **ラバロイド商會**
電話土佐堀（長八五二番 三三三〇番）
門司市東本町二丁目
合資會社 **明正社**
電話門司（長 三七八番 六九〇番 一五六〇番）

◆特許山添式防水工事
◆特許タービヤ舗裝工事
◆特許田中式硝子屋根
◆デーケー式シヤツター
◆デーケー式サツシユ
◆鈴木式及デーケーラス
◆セメント防水料セレシット
◆星印ルーフヒング

大阪市西區南堀江下通二丁目
内外土木建築材料合資會社
電話長櫻川一六一〇番



建築・設計及施工
◇住宅
◇英國風田園住宅各種
◇南歐式住家各種
◇米國式住家各種
◇純日本住家及改良式
◇公衆的小建築
◇學校、病院、教會堂、公會堂
◇劇場・ホテル・アパートトメントー
◇紀念碑・噴水・公園……等

建築案内郵税共廿五錢

阪神沿線住吉
(東海道線住吉驛東南二丁)
西村建築株式會社
社長 西村伊作
電話御影一五一〇

日本ペイント

創業 明治十四年

ニホンラッカー

ニホンラッカーは當社獨特の技術と最新の設備とに依りて製造された品質の優秀な高級繊維素塗料でありまして透明ラッカー、ラッカーエナメル其の他之れに必要な各種下地劑、及附屬材料を準備して居ります。**ニホンラッカー**は從來の油性塗料の欠陥である乾燥の遲滯、塗膜の軟弱を完全に補ひ、耐水、耐熱、耐油性で而も漆の様な強固な塗膜と上品な光澤を具へて居りますから自動車の車体、汽車、電車等車輛の内外に盛んに用ひらるゝに至りました。**ニホンラッカー**は此の他家具、樂器、機械、器具等に用ひて塗裝時間の節約と仕上げの美麗な点で大方の御滿足を得て居ります。是非御使用を御奬め致します。

（御通知次第說明書及見本送呈す）



東洋最大之工場

大阪 東京

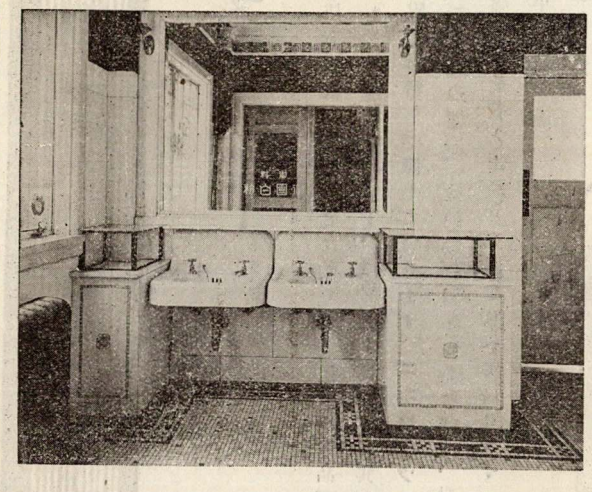
純國産
ニュース印（日本ドアーチエック製品）

扉閉鎖器（ドアーチエック）各種

重なる納入先

農林省	大阪朝日新聞社
八幡製鐵所	大阪毎日新聞社
大阪鐵道局	大阪遞信局
呉海軍工廠	寶塚ホテル
株式會社大丸	大林組
丸龜市役所	清水組
大阪商船會社	大倉組
大阪鐵工所	大阪高等工業學校
明治海運	其他省略

發賣元
合資會社
高陽商店
大阪市西區立賣堀南通四丁目
電話新町四三九六番
振替大阪二一二五二番



便所…化粧室…湯殿

ビトロライトは永久に、汚染、腐蝕變質、クラック等の憂は絶對にないと云ふ理想的の貼瓦材であります。これを便所に使用してはじめて衛生的と云ひ得るものではないでせうか

ビトロライトの大きさ
3尺×6尺
色合…白、黑、アイボリー、ジエイト

大阪市浪速區櫻川町一丁目一〇五四番地
大阪ビトロライト工事合資會社
電話櫻川二二一四番
出張所　東京市日本橋區江戸橋二丁目二番地　電話日本橋(24)〇九六九番

NIPPON ELEVATOR CO.



營業科目

一般輸送機械
ホイスト
ロープホーレージ
エスカレーター
ケーブルカー
コンベヤー各種
エレベーター各種

設計製作

大阪市東區中道川西町

日本エレベーター製造株式會社

電話東 (94.) 2367.3805 番

取締役社長 工學博士 片岡安

專務取締役 工學博士 堀覺太郎

東京支店

東京驛前丸ノ内ビルディング四階

電話丸ノ内 (23) 3073.3074 番

專賣特許 東松式外二拾八件

◀ 京都府警察廳舍內施工



アホイ式フローリングブロック
丸上式リソード床張の圖

理想的根太無床板

專賣特許第二三三號　新案特許第一七一號

衛生工事

特許葵式淨化裝置
水道、衛生工事
タイル、衛生陶器

實製 **檜床板**

特許ピトリウム床
特許ピトチック內外壁

專賣特許 **練革床**

葵商會

大阪市港區境川町四丁目四十番地　電西〔長〕四一九六
東京營業所　東京市京橋區木挽町一ノ一三　電話京橋三九五・九三二

MINWAX

ミンワツクス・エキスパンシヨン・ジヨイント・セメント
ミンワツクス・バルトライト・セメント
ミンワツクス・ジヨイント・フィーラー
ミンワツクス・マスチイツク　其他

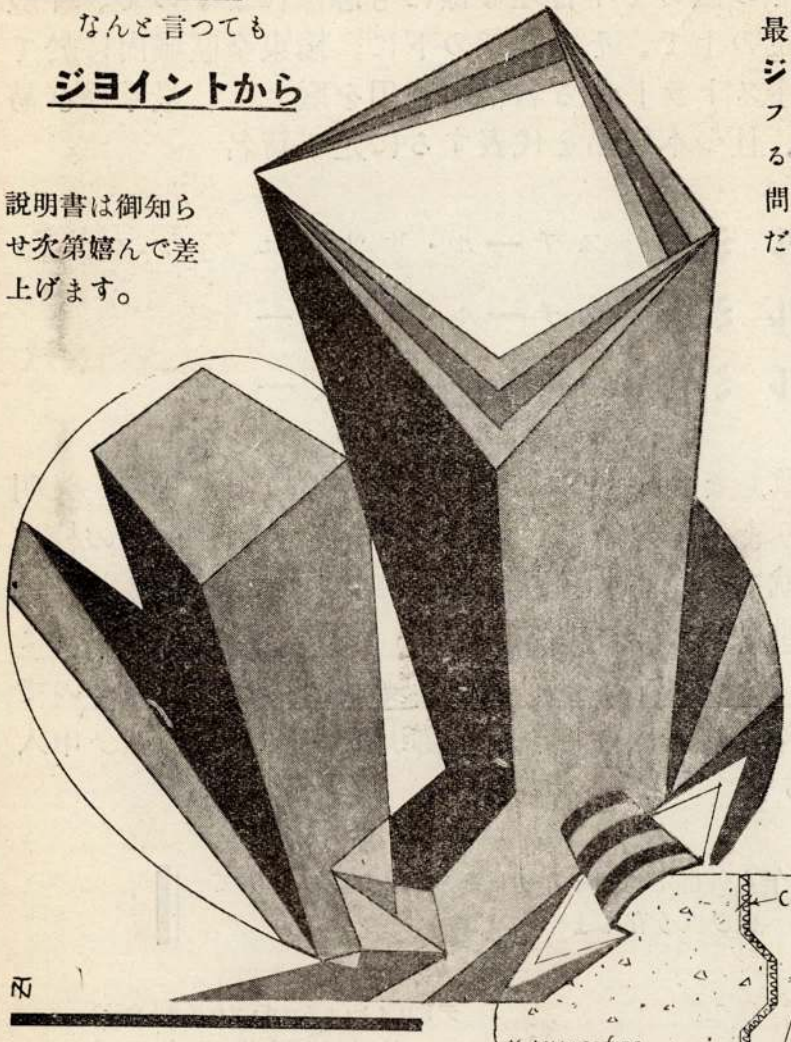
防水の急所は

なんと言つても

ジヨイントから

説明書は御知らせ次第嬉んで差上げます。

最も鋭角な感度を持つ**ジヨイント**専用のアスファルトを特製して居る會社は、先ず防水專問工場の**ミンワツクス**だけです。



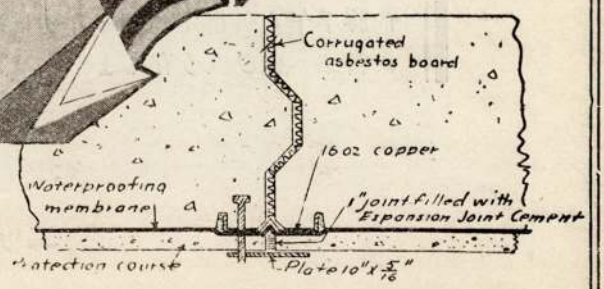
完全な施工を賣つて居る

代理店

東京
大阪　**島貿易株式會社**

朝鮮京城　**株式會社伊藤商行**

大連　**株式會社原田組**



ミンワツクス社會
日本特派代表者

AD-24-M

「フエネストラ」改稱御案內

左記各地代理店を通じ、各位より多大の御引立を蒙つて居ります米國デトロイト・スチール・プロダクト會社の製造に係る、各種スチール・サツシユ、ドワー竝にオペレーター(開閉機)は此れ迄米國內に於けると同樣「フエネストラ」の名稱を用ひて居りましたが、素、それは羅甸語で(窓)といふ意味でありますが、爲めに、材質構造とも特異の長所を有する製品の稱呼に斯の如き一般的の品名を用ゐることの極めて不合理な樣にも思はれますので、今般本國工場とも協定の上で、その同意の下に、極東全區域內に於ては從來の「フエネストラ」なる名稱の使用を廢して、最も呼び易く、記憶し易く、且つ本製品を代表するに足る新名

「ルミナ」スチール・サツシユ
「ルミナ」スチール・ドワー
「ルミナ」オペレーター

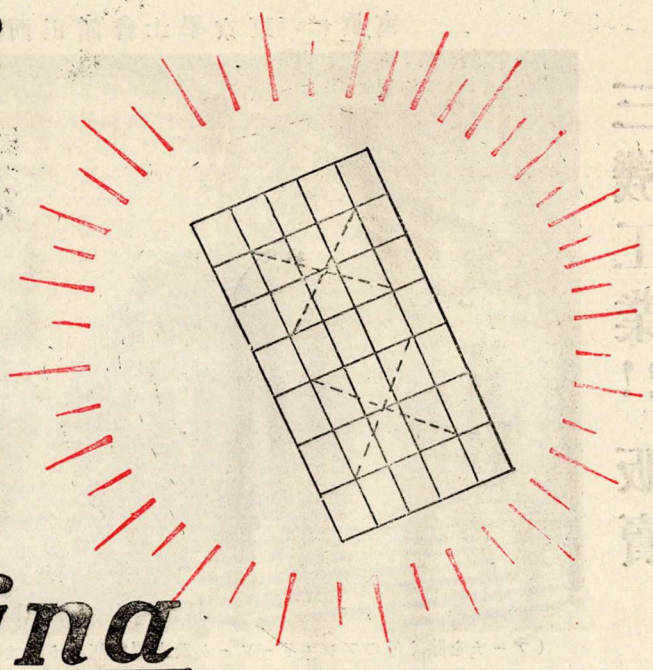
と改稱する事に致しました。「ルミナ」の含む意味は光輝とか光明とか言ふのでありまして、窓に對する稱號としては理想的の樣に信ぜられます。就ては以上は只單に改稱だけの事でありまして、製作工場及び代理店側の內容は勿論、製品も、その用材品質は素より、そのセクシヨン、タイプに至る迄何等變る點は有りませんので此の儀は特に御含み願ひまして倍舊の御引立を伏して御願ひ申入る次第であります。

尙勝手乍ら御指定御下命の節は新名「ルミナ」として御書添へ願ひ度う存じます。

デトロイト・スチール・プロダクト會社
日本特派代表者
エッチ・イー・ルート事務所

ルミナ 開キ窓
ルミナ 中心回轉窓
ルミナ 辷リ出窓
ルミナ 地下室窓
ルミナ 事務所窓
ルミナ 美術辷リ出窓
ルミナ 實用辷リ出窓
ルミナ 採光連續窓
ルミナ ドワー(開き竝引違)
ルミナ 格納庫ドワー

ルミナ ウオーム.ギヤ 開閉機
ルミナ スクリュー式 開閉機
ルミナ テンション 開閉機
ルミナ ラック.ピニオン 開閉機
ルミナ コンチニュアス 開閉機
ルミナ 開閉機電動裝置



Lumina
ルミナ
スチール・サッシュ

代理店

關東 島貿易株式會社
東京日本橋區通二丁目一番地

關西 島貿易株式會社
大阪東區高麗橋四丁目十番地

朝鮮 株式會社伊藤商行
京城府漢江通三角地

南滿州 株式會社原田組
大連山縣通リ廿一番地

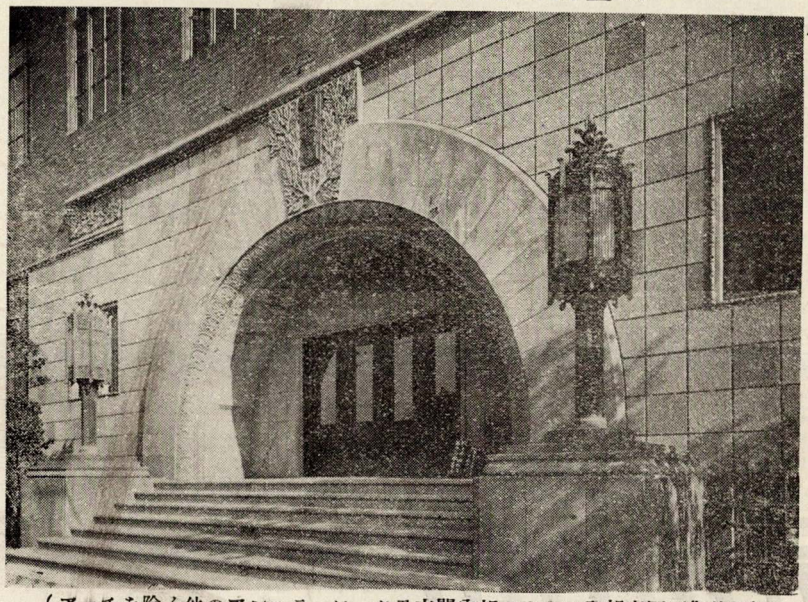
デトロイト・スチール・プロダクト會社
日本特派代表者
エッチ・イー・ルート事務所
横濱市中區山下町五十四番地

AD-23A-L

人造石界の巨擘

登錄 富國石

寫眞は東京學士會館正面玄關



（アーチを除く他のアシユラーワーク及玄關內部パネルは全部富國石御使用）

三機工業!! 販賣

株式會社 平田商店!! 製造

主ナル御使用先

總理大臣官邸・內閣書記官長官舍・岩崎邸外各邸宅
京都府立醫大・東京商大・早大外各專門中等小學校
鐵道省・京都府廳・福岡縣廳
橫濱市港灣部・日本赤十字社・各官廳
第一、三菱、安田・山口、川崎第百・川崎貯蓄大阪貯蓄外各銀行
博多、安田ビル・京都ビル・高島屋外各會社ビルヂング

總代理店

三機工業株式會社

本店　東京市麹町區內幸町一ノ三（大阪ビル內）
電話銀座(57)5330－5335(6)2833(3)
支店　大阪市東區備後町二ノ二一（野村ビル內）
電話本町 1166・1525

取扱店　各地三井物產株式會社支店機械部

第十二輯　建築と社會　第四號

郷土建築號



大大阪の新態，舊態，大川町川沿ひの家（近く電車線路となるため取はらはれる日本屋）

郷土建築

里は逢阪の里、ながめの里、いさめの里、たのめの里、あさふの里、夕日の里

等と異れど、

屋は。丸屋。の頃よりその型を傳へたる、

里里の家見る毎に、唯だそこわかとなくいとなつかしき。

◇

垂氷たれ込めたる軒深き越路の家。

木片にて葺き、石ころもて押へたる、流れゆるき屋根もつ信濃路の家。

あるひは、心ばかりなる反りに、いと輕さを想ふ大和路の家。

さては、厚く妻塗り上げたる土壁に小窓なごあけたるは河内の家。

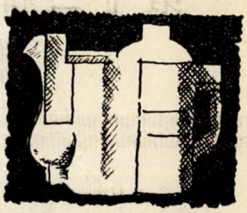
間口の割にいとも奥行の深い都會の町家。

◇

等と思ひめぐらせば、すべてはあたかも、

『各々の理想の女性を結局各々の母に見出す』

の言葉にも似たる感じのあるらしく思はるゝ。



鄉土建築の所感

武藏野高等學校教授
山本良吉

始めて佐賀市を見た。さびれはてた舊市、維新に偉人を出した雄藩の跡はない。やつれた市が强ひて新文明の氣分を表そうと努力する悲慘が滿市にみなぎつて居る。

新らしくなり得ぬ代りに、他の市にて殆ど見られぬ物が一つ殘つて居る。それは舊藩時代各階級の家の有樣である。封建時代に於ては階級によつて家の構造が違つて居た。その各階級の家は今は全國殆どなくなり、佐賀市に來て始めてそれを昔のまゝに見ることができたので、誠に珍らしく思つた。階級によつて家の形が違つたといふ事其事を國民は既に忘れて居る種々形の違つた家を見ても何等の感じをも印象をも起さない。しかし此階級の家屋制度は實物が一度よくなると、全くわからなくなる佐賀市に於てそれを保存することは年々の保存費の外別に大した費用を要せぬ。妄りにこれ等の家を壞して妙な文明(!)風にしてしまうよりは、各階級一戸づゝでよいから保存して欲しい。歷史の資料として、建築史の參考として。

◇

歸途京都によつた。大禮直後で毎晩『えらいやつちや』が盛んであつた。自分がその中へ入つて見るも餘りよい感じもしないが、自動車の上から見ながら通るも誠にきれいで、よい氣持である。ふと思ひついた。一體京都の家はいつまでこのまゝで續くのであらうか。法令によると、四條通りは耐火構造でなくては改築は許さないことになつて居るらしい。耐火構造は固より結構であるが、京都がそれを造る以上は、どこまでも京都氣分を保ちたい。何も日本の京都が防火のためだからとてシカーゴの無趣味な形をまねするには及ぶまい。耐火といへば鐵筋コンクリートを聯想し、鐵筋コンクリートといへばシカーゴ、よくてニューヨークを聯想するのは當代の流行である。しかしシカーゴ人やニューヨーク人は決して日本の京都がかれ等のと同じ鐵筋コンクリート建となるのを望みもせず、又それをまねしても何等感心はしない。日本には日本らしい、殊に京都には京都らしい家を世界の人は望む。日本人も望む樣になりたい。恐れ多い次第ではあるが、御大禮を大正の時には世界の新聞雜誌が一種輕侮の如き眼を以て描き、文明な國にも尙野蠻な遺俗があるといふやうな寫し方をしたが、この度は世界の態度がすつかり變つて、違つた文明には違つた儀式がふさはしいといつた書き方をして居る。歐米人も日本に對しては知識が幾分進んだ。その日本のしかも京都が歐米人間でも識者が上品とは考へて居ない鐵筋コンクリートを列べて見ても別に立派とも思はれまい勿論防火の必要はある。コンクリートも使つてよからう。しかし材料は何でもよい、家の構造に於てエレベーションに於て、氣分に於て、味に於て、歷史的京都の本質を失はぬ樣に工夫して欲しい。私は元來建築に於て行政官などがその狹い薄い知識で干渉して改惡せしめることを望まぬが、しかし歷史的趣味を失はぬ建築たるべしといふ一箇條位は法文に加へてもよくはあるまいか。もし府はたゞ防火のためのみから法文を造るといふならば、京都市自身は京都の自衛上更に建築の構造に關する法文を定めてもよくはないか。烏丸通は止むを得ぬともいはゞいはれようが、あの列んだ米國風の建築の中を御大禮の列が御通りになるのは何となく映りがわるい。況んや廣い河原町に妙なホテルの建築ができるのは京都の市としてごう見るべきであらうか。他の町は知らず四條通りだけは京都の四條通にしておきたい。野村銀行(?)の建築を見て、まさか京都人はこれで四條通りが立派になつたとは思ふ

まい。よし京都人がさういつても世界の人はさうはいはぬ。二十八九年頃までは寺町通の夜の店には尙長い提灯が下つて居た。あれが電燈の街燈や軒燈に變つたのは京都として何の進歩であつたらう。四條通りの新建築ができたら、願くはそれには圓形紅色の提灯形の電燈が下る樣にしたい。かゝる注文の設計には多少の骨は折れようしかし建築技師は外國の寫ししかできぬ低能者のみでもあるまい。材料强弱のみを計算するのが技師の能でもあるまい。

◇

京都をたつ日の午後、眞葛ヶ原を通つた。變な建築こベンチが澤山列んである。貧民の休息場かと思つたら音樂堂だといふ。不思議な物が東山の眞中にできたものだ誰のわざかといふこ、前市長とやらの寄附だといふ。これがそも京都出の京都市長こいはれた人の寄附か。京都程不思議な處はない。一方名所古蹟を昔ながらの風に改建して、少しでも歷史の芳香を保存しようこ努めるかこ思ふと、一方この名所の眞中にかゝる風致破壞を努める樣な頭の人を市長とする。ちよつと普通の頭には理解できぬ。理解できぬといへば、その妙な貧民休憩所の向側にも變な建造物ができた。きけば存命中には佛像やその他の美術品を集めた人のわざださうだ。こんな頭こ美術品が集つたかこ思ふと、これも京都出の京都市長こ同じ程度の不思議である。音樂堂の建築者の資財程度は知らぬが、南側の建造者は別に金に困る人ではなし、今少し趣味を解する人に相談して、京都らしい物が造れなかつたのか。かくして歷史的の美しい京都は、志のある京都人か保存に全力を盡す一方から、他の種類の京部人と金持とによつて無殘に破壞されてゆく。自然のまゝにしておいたら四條通が米國の新開地に變りゆくのも間違はあるまい。是非わかつた人々の考を集めて今の中に建築制限法を定めておきたい。

◇

十一月の滿目の夜の奈良公園を二人で占領した。滿月たゞ月と松車もなく人もない。千五百年の昔に歸つた氣持がした。又唐招提寺の夕陽を見た。紅葉は少し殘つて居り、水平の光線が淡く紅葉を照して、いつ敷いたが知れぬ白砂の上にはタの煙がたゞよふた。昔の種々の堂が、かなりよく揃つて居る。寺僧は案內しましようかこいふが、このタ暮に迂濶に上つてねだ板でもふみ外しては事だと思つて、上らなんだ。堂が殘つて居るこいふのは名ばかりで、內は文字通りのあばら屋であり、一寸の地震にでも大風にでも何時でも轉覆しようこ待つて居さうな風情である。法隆寺などに比べて建築の等が下ること勿論かも知れぬが、この色々の建築が揃つて居るのを無殘に朽敗に歸せしめるのは何だか情けない。世界各國に於ては五百年前七百年前の建築こいへば競つて保存に努めて居るのに、なぜ日本ばかりはそれを朽敗に歸せしめねばならぬのか。過去の負擔が現在人にとつては重すぎるのか。それこも過去をして過去を葬らしめよこの變國氣分が入りすぎたのか。過去なしで何の現在が存在し得よう。われ等の活動が未來にあるこ威張つて見ても、過去こ切放されて果して未來が生れ出得るのか。現在はたゞ一刹那、今こいふその時に今は既に過去となつてしまつて居る。過去のない今もなく、過去こならぬ今もない。奈良は過去の蓄藏である、卽ち未來の蓄藏ではないか。大河は深山をまつ如く大きな未來は大きな過去を要求する。奈良に來て始めてわが民族の發展の永遠無限なるを感じ得る。この未來の資源をむざ〳〵朽敗に歸せしめるのは民族發展をちよん切るのではあるまいか。

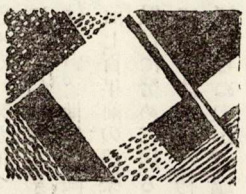
◇

かく思ふこ奈良はむやみに大事になる。今の奈良のみを奈良こせず、一層西方の法隆寺邊までを合せて奈良の大公園こし、そこに立派な、しかしふさはしいドライブでも造り、この歷史的民族の寶庫をいつでも自由に味ひ得るやうにできぬものか。そしてその間にある古い建造物は今あるだけは全部修理して、昔の氣分を永遠に殘されぬものか。畢竟は金の問題であるが、金は時代の風潮によつてどうにも集められる。眞に歷史に熱心な人々が起つてこの計畫を確立し、そしてそれを國民の間に宣傳するならば、或る期間に於て成就は疑ない。國民の力は未來の國民の中にある。まづ中等學校の生徒

に對して歴史がいかに大切であるかを說き、かれ等の理解の上からしてその父兄をも動かし、中等學校の生徒を皆この計畫の會員としかれ等をしてなるべく月に例へば十錢つゝを會に納めしめることとする。かれ等はこの月十錢を納めることによつてわが歴史の重んずべく史産の價値のあることを具體的に感得するのであり、かれ等を通じてかれ等の父母にもこの理解を與へるのである。從來わが學校教育は新日本をば全く明治維新によつて新たに生れたものと思はしめる態度をとつて居た。明治維新によつて新たに生れたのであるから、日本は即ち歐米文明の所産であり、舊日本の文化は一として顧みる價値はなくて、獨り歐米の模倣さへすればわが民族の發展が期待されるとの思想は、明治教育必然の所産であつた。それがために日本の歴史について何の知識も理解もない者が堂々たる國家の行政官となり技師となつて社會の上層を横行することとなつた。そして到る處不思議な法令や不思議な計畫が實施された。わが歴史は實に一部は政府者の手によつて破壊された。歐米人はわが民族文化の歴史的根抵を知らないで、維新以後四五十年でこの文明ができたものと思ひ、世界稀有の例として驚いたことがあつた。それと同じ思想をわが明治の青年は一樣に抱いて居り、そしてそれが今は社會の中心人物となつて居る。史産も同なり多く破壊された今日に至り、かゝる蒙昧な考は漸次わが社會から消え去らうとしかけて居るのは喜ぶべきであるが現在の青年が自ら歴史的所産の保存に關與することは、かの久しい迷想から脫出せしめる更に適切な具體的方法であると思ふ。私はこの問題を奈良のために、奈良の繁昌などのために提出するのではない、わが民族の自覺を高めるために必要として提出するのである。

◇

實をいへば、かゝる重大な計畫に對しては恐れ多くはあるが最も人望のあらせられる皇族方を會頭に奉戴して皇室におかせられても同じく史産尊重の思召のあらせられることを國民全般に知らせたい皇族方には近來は競技運動に御自身關係あそばされてその奬勵に力を注かせられる御方々もあらせられる。國民保健上誠に恐れ多くも尊い御事として知識階級が一同拜頌申して居る。史産の保存は運動競技に比べて重くとも輕くはない民族文化開展上の大事件である。尊い御方々がそれを御奬勵あそばすとなると、今までかゝる事を等閑視した人々も俄かに眼がさめてわれもわれもと力を盡すことにならう。この大計畫に當る者はこの邊までも考へることが必要であらうかと思はれる。（八九年一、二）



舊大阪近郊に於ける 鄕土建築の一種

工學士　葛野壯一郎

大阪市の西部海岸通一帶、南は住吉あたりから北尼崎邊にかけて殆んど凡てが埋立地であります。本願寺中興の祖蓮如上人が所謂『大阪といふ在所』の地を選んで伽藍を創設し、つゞいて秀吉の築城となつて、此處に芽ばえ育てられた大阪市は、止め度もなく海面に向つて西へ〳〵と成長したのであります。この大阪市の成長は必然的に海岸沼地の埋立となつて、舊大阪市の西部一帶は勿論、其近郊の木津川、尻無川、安治川、正蓮寺川、中津川、神崎川等の川筋が次から次へと埋めたてられ、埋立地即ち新田となつて數十の農村が新らしく生れたので有ります。尻無川といふ川の名が、その河口が沼地やよし原で漠然としてはつきりしないところから起つたことに觀ても、その時代の狀況がよく想像せらるゝので有ります。

尤もその內には傳法とかひえ島とか、大和田、佃など相當古いと

ころもまじつて居たやうで有ります。貫之の土佐日記に『もそり〳〵と舟を引き云々』とある和田のとまりといふのは今の大和田であると言ふやうな說も有ります。東京の佃島の先祖はこゝの佃から移住した人達で、何でも佃の村人が家康の危難をすくつた其報償として江戸佃島に移住し、あの近海の漁業を許されたといふやうな話が近頃まで土地にのこつて居たやうで有ります。稗島といふのも古名姫島で、あの土地の人に限つて『ひ』と『し』のなまりが有つたなぞも何か相當古い理由のあることゝ、思はれます。

◇

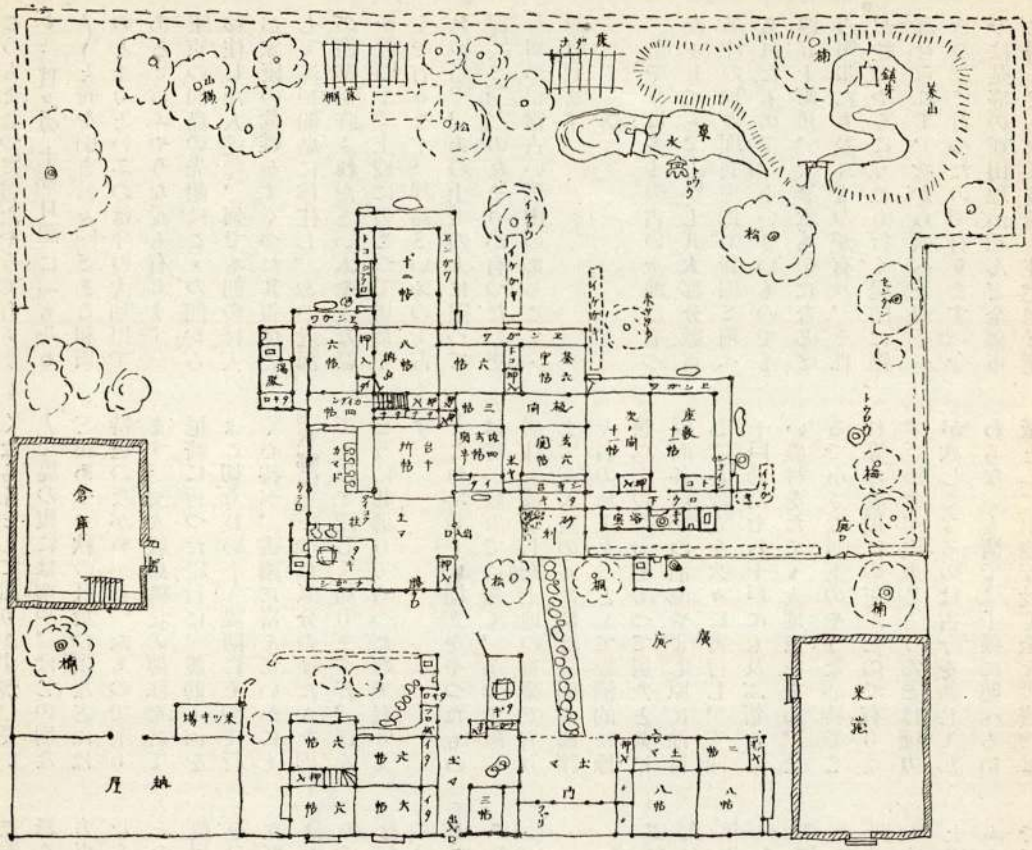
かやうに多少の古い土地は有つたとしても、しかし其大部分數百萬坪の地は埋立地即ち新田と稱へられたもので、小いさいものでも四五十町歩、大きなものになると百町歩にも及ぶものが有り、それが蛇のやうにうねり行く堤防に區畫せられて、次から次へと河下へとのびて行つたので有ります。今では是等の新田地が殆んど全部市に編入せられ工場地や住宅地と變りはてゝ、當時の面影は殆んどなくならんとして居りますが、長い〳〵堤の腹には柳や、はじの樹などがあつて秋の紅葉の頃などには特趣のながめが有つたもので有ります。文人成島柳北の傳法を經て尼崎に行つた紀行に、幾筋も河をよこ切り長い〳〵堤防にそつて行く心持が、畫趣に富んだいかにも『水鄉』といつた氣分のゆたかな處であると記して居りますが、ほんとうに其通りで有つたので有ります。

これ等數十の埋立をやつたものは時の政府では無く、多年大阪に居住し成功した土地の富豪で有ります。大阪のお金持は一面西國諸大名の金主をつとめて經濟的に豫想以上の勢力をもつて居たと共に反面各河筋の沼池やよし原に注目して其埋立を次々に實行し、三四十戶乃至七八十戶にも及ぶ新らしい農村をたてゝ大地主となり、まるで小さな領主のやうな心持でこれ等の農民にのぞんだので有ります。お金が出來るとこんどは權力が欲しくなるのは古今を通じてかわらない人情で、子孫に傳へる恒産として土地が最安全な投資物といふことが主要な考で有つた事は勿論で有りますが、それだけでは無く大きな土地の地主となつて一方平素身分の低い西國大名の下さむらいにまで低頭平身させられるそのうめ合せを、其所有の新田の農民たちに本家様地主様としてあをがれる事に求めたのも、是等埋立事業を促進せしめた他の心持ではなかつたらふかと想像せられるので有ります。うめ合せといふ事は何んな場合にも必要でありまして、それが完全にいつてさへ居ればすべて平衡は保たれるが、さうでないところには色んなさくそうした問題が起るので有ります。

◇

各新田には會所或は支配所とよぶ統治機關が有つてそこには支配人が居住し、其新田農民からする年貢米の取立てその他の要務をすべると共に、一方ではこれが地主の別莊即ち遊び場所保養所として誰れに遠慮もなく足腰をのばせる別天地ともなつたので有ります。私がこれから大阪近郊に於ける鄉土建築の一種として述べやうと思ふのはこの會所或は支配所の建物で、それこそは何のさはりもなくおん〳〵と延びていつた大阪市の成長と共に、其近郊主として海岸に近い方面に芽ばへ發達した、今から想ふと非常に興味の深い鄉土建築の一種かと考へられるので有ります。殊に其會所或は支配所の一つに小學時代から中學時代をすごし、古く德川時代からのしきたりを親しく見たり聞いたりして居る筆者にとつては、色々な意味に於てなつかしい想出の種の一つで有ります。

支配所の位置はその新田部落の中央堤防にそふのが普通で、宅地の大さは千坪內外が一般ではなかつたかと思はれます。中にはずぬけて大きなものや贅をつくしたものも有り、筆者の緣家の所有にかゝるもの、如きは、もと岸和田の富豪めし野家先代の計畫したもので、同家の出入であつた紀州侯から拜領したといふ豐公の桃山御殿の一部を移したといつた樣なものも有つたので有ります。この遺構は現在橫溝原氏の別莊三溪園に移されて今は只其庭園の巨石に古い面影を止むるばかりで有りますが由緒も正しく建物も相當根據のあつたもの、やうで有ります。廊下の妻戶に朝鮮傳來といふ變つた扉



新田に於ける會所建物の一例

のあつた事や、大廣間の上段下段のいかめしいかまへ、桃山風の欄間彫刻、淀君の化粧室、山樂常信元信などの襖繪が今も筆者の記臆にのこつて居ります。

◇

無論かうしたものは特種の一例で、その用途と目的が一樣であるだけに一般のものは何の新田の會所も略似よりの大さや配置を持つたのが當然の事實であります。圖に示したものは神崎川筋にあつたある新田の會所の一例で、すでに述べたやうに筆者が小學時代や中學時代を居住した想出の多い建物で有ります。これをもつて會所建築の標準とするのは或は何うかと考へますが、割合に古風なその一例として他をも想像する上に於ては、少しもさしつかえないものかと考へて爰にかゝげた次第で有ります。

新田の出來たはじめからかうした整つた建物があつたか何うかは疑問で有ります。會所といふ名が示すやうに、最初はほんのさゝやかな村民の集會所のやうなもので有つたのが、何時のまにか其名にはふさはしく無い地主の別莊を主とするものに變つて了つたのかも知れません。この建物のすぐお隣に疊數二十帖ばかりの、寺ともつかず集會所ともつかない村有の建物のあつた事なども何だかさうした疑問に或る暗示を與へるやうで有ります。

子供の時分の記臆といふものは意外にはつきりしたもので有ります。圖は別に實測して置いた譯ではなく、その當時の記臆にさかのぼつて間取を書いてみたので有りますが、可なり正確な間違ひのないものが出來たやうで有ります。宅地の間口は大約三十間、奥行も略これに近い大さで、前面と堤防の間には凡そ二間通りの空地を置き、堤防の外の一間餘の餘地には松並木がありました。會所の前面には松並木のあるのがこの場合だけではなく何處も一樣の構へで有つたやうで有ります。この會所のあつた新田は何ちらかといふと小いさい方では有りましたが、神崎川筋では上の方に屬し埋立地としては可なり古い方の部ではなかつ

たかと思はれます。自然建物も古く間取の上にも餘程古風な趣が見えるやうに感ぜられるので有ります。此新田や建物の築造が何時頃であつたか、住んで居た當時には無論考へて見た事でもなく、今それを考へるにも何等適當な材料の持合せが有りませんが、邸内にあつた四本の大きな眼通り四尺以上もあつたかと思はれる楠の樹齢から押しても、德川時代の中期以前にさかのぼつてよいものゝやうに考へられます。

◇

邸前松並木の外には巾十間ばかりの外島（すべて新田では堤防外河川敷にある耕作地を外島とよんで居りました）があり、そこには船屋形が有つて屋形船が藏されて居たもので有ります。是れも大抵ごの會所にも有つたもので、其構造は丸太造りのわら葺で一寸面白いもので有ります。今日とは違つて交通の不便な當時では、市内とはやつと一里餘りより距れて居ないかうしたところでも、歩いて行くといふよりも舟で行くといふ方が寧ろ氣樂であるといふところから、本家即ち地主との交通にも多くこの屋形船をつかつたので有ります。いくら急いだと言つても河筋を迂回して大阪に出るので有りますから、二時間以上もかゝつた至極呑氣なもので有ります。しかし人通りの少ない堤防にそつて靜かな河筋を春さきなどゆらり〳〵とこいで行く心持は、さても今日では味ふ事の出來ない別途の趣のあつたもので有ります。舟がまごに重寶な輸送と交通の機關であつたと共に、地主の一族がそのをり〳〵やつて來て、春の潮干や秋の投網の娯樂に利用された事も充分想像せられるので有ります。

◇

門はいかめしい武家風の長屋門で、支配所といふ心持がよく表はれたもので有ります。圖に示した一例では、其右に八帖二間三帖一間のもの、左には六帖四間三帖一間のものがついて居りましたが、何れも支配人や其下働使用人の居住所に當したもので有りませう。右隅にある大きな米倉は言ふまでもなく年貢米の貯藏所であり、左隅の大きな納屋には薪炭の外に洪水の場合につかふ數十本の丸太杭や、鋤、鍬、ちやうな、かけやなどの類が貯藏せられて居たやうで有ります。新田の統治には農民の總代に組頭といふものがあり、それが農民の意見を代表し、地主側の臨時出張の手代や常置の支配人とせつせうして事を決めるのが普通であつたやうで有ります。

門を入ると一筋の敷石が玄關に通じて居りますが、此例では玄關前に三坪ばかりの砂利敷があつてまるで白洲か何かのやうな面影が有り、爰にも地主の權威を強く表す心持が充分に受けられるので有ります。ずつと古くは此玄關先で地主が農民にあつたので、農民はその節この砂利敷の上に下座させられたものだなぞと聞いた事を小供心に記憶して居ります。果して何うだか甘眞僞はわかりませんが、かうした新田地では地主が其地下農民に絶對權を以てのぞんだ事だけは間違ひの無い事らしく、是れは大阪に於ける富豪の心裏の一面を語る面白い事實のやうに思はれるので有ります。

◇

玄關前の廣庭は年貢米の檢査所で、年貢納入の際爰で一々俵目の檢査をうけそれが直ちに米倉に收藏されたので有ります。米庫には此方の入口の外に直接外部に面して別に出入口があり、米を外部に搬出するのに便利なやうに出來て居ります。米藏と反對の側に二階建の家財川の倉庫があります。大きさの割合に大きいといふ事は、納められて居た器物の多かつたといふ事を說明するもので、それはやがて地主の一族が五日或は十日ごと、に氣保養に來ても何等さしつかへがないやうに設備されて居たもので有りませう。筆者の住つて居た頃まで立派なかご等がしまつて有りましたが、これは大阪へ往來する自用のもので有つたらうと思はれます。

その頃なほ『日役』といふ制度なごが依然として新田に行はれて居た事を思ひ出すと、今日から觀るご不思議なやうな感がします。會所に米をつくとか何か特別の勞働を要する場合には、地下の農家に順々に勞役の出役を命ずるので有ります。ほんのしるし許の賃金は拂つて居たやうで有りますが、殆んど無給に類するもので强請的に勞務がよぎなくされて居たので有ります。しかし時代はさう地主

ばかりに都合よく進むものではなく、その當時から年貢米の協定となると幾日も〳〵もめ勝ちで、ある歳などすぐ隣の新田の如きは地主の方から出張した手代が、農民のために河へ投り込まれるといふやうな喜劇が演ぜられた事も有ります地主と農民間の爭議は必ずしも近年からのものでは無いやうで有ります。

◇

玄關は六帖で三尺のしき臺と三尺の叩き床があり、鴨居上にはやりかけ等があつていかめしい造りで有りました。やりを持たしたお役人などもお時折は出張して來る必要からかと思はれます。玄關につゞいてすぐ右に座敷次の間各十一帖が有りますが、座敷の如きは床脇に書院窓が有るだけで棚もない至極簡素な造りで、床脇には火燈口が有つて後方廊下に通じ、便所浴室への通ひ口となつて居ります次の間には一間の押入その脇に同樣火燈口がやはり廊下に通ふやうになつて居ります。

◇

次の間からは一間の板敷があつて勝手に通じ、六帖の茶室兼小座敷には大目の塗込床、一間半四枚立の襖には兩側とも美くしい彩色繪のあつた事を記憶して居ります玄關と板間取合の障子を開けると此彩色繪が眞正面に見えるやうに出來て居たもので、そこにも何物かの暗示が有つたやうで有ります板間につゞいて玄關脇に三尺の通ひが有り其端には茶室用の水屋が有ります。內玄關三帖とつゞいて六帖の小座敷があり、織部床に大目の押入、椽側から十二帖の廣間に通じて居ります。この廣間は他が皆くれ縁であるのに特に切目椽になつて居り、床脇棚の裝置などからみても後補のものであつたらしく思はれます。八帖の納戸、四帖、六帖の小座敷とつゞいて椽側を通じ便所湯殿が有ります。この湯殿は焚口があり普通の構造のもので有りましたが、座敷裏の浴室は貴人用のさし湯風呂であつた事も注意す可き點だと思はれます。四帖には階段が有つて二階に通じて居りますが、二階は屋根裏を利用した廣い納戸用の部屋が一室と他に小室が一つ有つた許りと記憶して居ります。

臺所は十帖の疊敷の外にかなり廣い土間と叩きの流し元のある大きなもので有ります。太い八寸角もあつたかと思はれる大極柱に地棟をかけ、それに大小の梁を寄せかけたいかにもがんぢやうさうな架構で、かまどの上には古風な煙ぬきがついて居た事を記憶して居ります。かまどは普通の大さのもの四個の外に特別大きなものが二個別にすはつて居ります。これは臨時用のもので洪水などの場合はいつも此かまどで炊き出しをするので有ります。

◇

淀河が改修されて大阪市並に其北郊は全く洪水の難からのがれた譯で有りますが、筆者の居住をして居つた其當時には殆んど年中行事の一つとして洪水の難があつたので有ります。何んなひでりの歳にでも新田地には渴水といふ事がないだけにさあ洪水となると大變で、寺の鐘がなると、村民が總出で出動する、炊出しをする、疊や土のうや丸太抗などが持ち出され、かゞりを焚き夜を徹しての大騷ぎでそんな事變の爲めには何うしても勝手元が廣い必要があつたので有ります。不作で村內に窮民の出來た時にも、每日〳〵大かまで炊き出しをしたやうな事もあります

正式に地主が會所に來て村民に接するのは、村の氏神の祭禮の日と、年貢米の納入がとゞこほりなくすんだ『皆濟』の日とで有ります。殊に皆濟の日には村民全部をまねいて門脇の長屋で御馳走があり、組頭や總代が座敷によばれて地主にあいさつしお流れ頂戴と言つたやうな事が行はれて居たので有ります。

◇

庭園は圖に示すやうに相當廣く楠、松、櫻、せんだん、いてう等のかなり大きな古い樹木があり、北東の隅には築山や、筆者の住んで居た頃にはかたばかりのこつな泉水なども有つて、その當時は相當な庭であつた事が思はれたので有ります。長らく居住者なく荒れるまゝに捨てゝ有つたためか、筆者の移住した當座は築山のかげなどに狐の穴があり、夏の日くれ方などに狐のすがたを見かけた事の度々有つたのはうそのやうな話で有ります。

配置を見て特に感ぜられる事は何の部屋も〳〵も凡てが北向で、

南の光線などは全く考へに入れて居ない事で有ります。これは地形から止を得ない事で有つたかも知れませんが、古い住宅ではそんな方面が全く問題にならなかつた事が思はれます。又幕末時代に最流行した家相説なぞにも全然無こんぢやくに建てられて居るのもその特色の一つで有ります。それからしても此建物の可なりに古い事が思はれます。倉庫や便所、湯殿、門などの構へに普通云はれるやうな事がすこしも考慮せられて居りません。宅地の如きはわざ〳〵鬼門張につくつてそこに築山なぞが設けて有るのは一層面白い點で有ります。

新田といふ名がいつの間にか失はれ、大部分市に編入せられて純すいの農作地が町となり、工場敷地や三流どころの住宅地と變つて了つた今日では、會所建築の多數も昔の面影をとゞめずなつて了つたので有ります。市の異常な發展のいたすところと是れをよろこぶのが至當であるかも知れませんが水に最も親しみの多いさうした所ろに、想出多い少年青年の時代を靜かにすごした筆者の如きには、今大阪近郊に於ける鄉土建築の一種として會所建物の一例を述ぶるに當り、無量の感慨を禁じ得ないものが有るので有ります。(完)



京都及その郊外の民屋

京都第三高等學校教授
藤田元春

一緒言

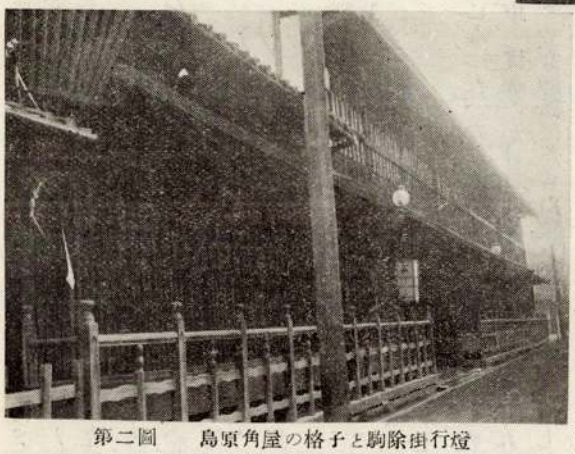
かうし　見出しで冥想すると、昭和の今日では第一に雜然たる棟割長屋借家建を聯想する。一寸離れると低利資金の安普請、中にきのきいたのが文化住宅、いやにいかめしい別莊建、いづれを取出してみても夏向きでない。上下兩加茂から修學院、一乘寺、白川、鹿ヶ谷、さては山を越えて山科、東山の南側は今熊野から粟田口、九條から梅小路、西院から花園、鷹ヶ峰から紫野、京をぐるりと一廻りしてみて山河は依然たる舊態を保ちながら、野とか山とかはず山至る所新しい落つきのない普請場になつた。なかんづく西南部、汽車の煤煙のかけにゆくと、それはさても御話にならぬ狹い借家建の棟つゞき、蒼々蔚々たりし東寺の森も殆ど枯はてゝ、あはれ、五重塔が裸のまゝに淋しくたつてゐる。女政頃の歌人千種有功卿が時折遊びに行つて唐橋村の五葉亭、その庭園に珍しい五葉の松があつたがこれ又枯死して開けゆく世を恨んでゐる（五葉亭は今井上周之助氏宅）洛南の森のみでない。下鴨の糺の森も、戸口やたらと增加し林相日に凋落の恨がある。何れにしても京の近くは野も山も俗化せずんばやまぬが當世ではある。昔の郊外は靜寂な田園であり、市中だといつても、今の世のやうにケバ〳〵しくはなかつた。瓦葺の白木造りなどいふのは少なくて、黑味勝のベニガラ塗が風をなし、二階の作り方もひく〳〵厚い土壁の連子窓いはゆるムシコ造といふ形式で、庇はすべて奥ふかく、軒下に一寸した出格子があり、往々にしてバツタリの床凡がさりつけてあつた。德川時代を通じて、元來建家は蹴放より外は大道幅の內さきまつてゐたから、道の兩側葛石から軒の戸口まで、狹くとも三尺二寸五分は引込んでゐた。格別に張出した出格子もなければ、今の世に見るやうな大造の駒除はなかつたから、筆者の子供の頃は雨でもふれば京極から寺町荒神口の學校まで傘なしに軒づたひで歸れたものである。しかし維新以後各戸いづれも葛石までを私有地と心得るやうになつてから、鐵棚をめぐらす駒除をつける。遂には店の間を張出してきて、軒下といふものをないことにした。昔は良質は深く藏して空しきが如きを誇つたのと今はたゞ並べたてゝこれ足らざるを憂へるから、店の構へ方も全く一變し、土間に陳列棚といふ形式

が增加してきた。換言すれば昔の大道陳列が家の中に入つてきて、いはゆる御棚なるものはその影を失ふといふ時代になり下つたのであるが、しかし流石は京は古い都である。市中のそこゝにまだ軒下の深い昔の面影がのこつてゐる大宮邊の糸屋町、室町邊の呉服問屋、細い出格子の横に紺のれんが飜めていかにもくらい店の間に角帶の店員が坐つてゐる。さうした老舗で店の間の奥に更に中庭がある家でないと、祇園祭の夜の情趣が湧いてこない。鐵筋コンクリートまがひの四條邊の四角な豆腐を切つて積んだやうな家の中には祭の金屏風も銀屏風もあつたものでない。新奇に走つてクリスマスの菓子のやうな四階建が加茂川縁に聳立し來つては、四條河原の夕涼み木屋町の床の上の情調も全く以て過去の夢と觀ざるを得ないのを悲しむ。

ここで市中に殘存せる古い都の町家で、その最も古いのを二三お眼にかけて、懐古の某にしておきたい。**第一圖**は西の京の古い酒屋明和頃の古建築である。今は二戸にわかれて機屋になつてゐるが、屋根の兩側にある卯建が古い形式である。かうした防火壁は今出川通りにも殘つてゐる。祇園下にもあるが、京雀の挿畫や、延寶四年奉納の祇園の古扁額などを見ると市中一般の形であつて、軒の格子に掛行燈誠に特色のあるのは**第二圖**島原の角屋である。どこが面白いかは見る人の心にまかせるがさにかくかうしたものがまだ今の世にも殘りうるといふことを多とせねばならぬ。市中でもかうだから、いかにひらけゆく都の郊外だといつても、すべてが安普請の瓦葺にかはるのではない。やはり昔のまゝの草葺の中に美はしい先人建築上の苦心の跡を傳へてゐるのが少からぬのである。筆を改めてその樣式的な民家二三を述べるであらう。



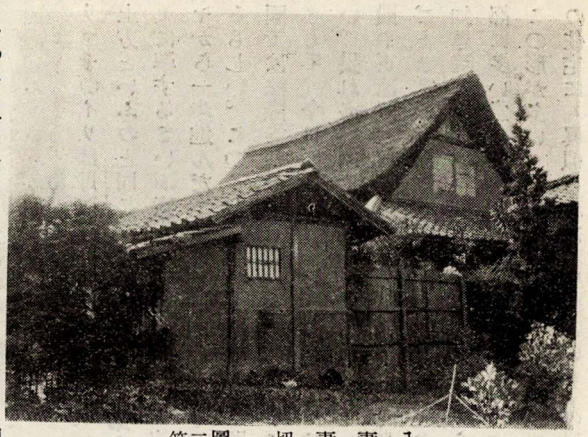
第一圖　卯建のある家



第二圖　島原の角屋である。格子と駒除街行燈

二　切妻の草葺

日本のみでない。世界の屋根で最もプリミチーブな屋根はといへばまづこの切妻造りであらう。これを邦語で雨下さいふ。眞屋の義である。出雲の大社や、伊勢の神明造りといふ神々しい姿は即ち眞屋の形で我國での原始民屋を今に傳へるものだとは誰しもいふことであるが、この屋根の起源を天地根元宮造りさもいふ。掘立柱に藁のやね、千木高知りて森の中に聳えた古代、恐らく妻から入つたであらうから、屋根が地面から離れ雨下の床張りになつた後にも、やはり妻入が古風として傳はつたらしい。神明造は平入であるから、古い時代に切妻平入もあつたに違ひないが、近畿には切妻の妻入の民屋が多くのこつて古い傳統を傳へてゐる。**第三圖**さ**第四圖**とは實にこの切妻民屋の二つの標本であつて、何れも洛南上鳥羽村に現在してゐる。第四圖は一世の俳人松永貞德のあしのまろやに近くその隣の家で主人を吉田富三郎氏さいふ吉田氏は中頃に買得してこゝに移つたのであるから、今の吉田氏の好みで建てたのではない。切妻妻入の摶風に美はしい飾り文字があり、屋根のカーブのてりや



第三圖 切妻入妻

ね氣味な所に面白さがある。吉田邸の隣に第四圖の家がある。この家は街道に沿うた平入であるが棟は瓦ぶき、庇も瓦ぶきである。棟の下の白壁と妻一面の白壁との間に丸い一つの烟出しが、いかにも大膽な有効な妻飾になつてゐる。小屋から本宅、高塀から土藏、ずつと見渡した屋敷の構へ方はいかにも落ちついたもので、建物全體としては美はしい構架だと見ねばならぬ。日本最古の邸宅で現存せるものに大和法隆寺東院の傳法堂といふのがある。天平寶字五年の緣起に橘夫人の宅を奉納したとあるから、間違ひなく天平の右大臣藤原不比等公の夫人の邸宅であつたのであるが、それが本瓦葺の切妻である。特にその妻がうるはしいので有名であるがさうした古代の屋根の趣きを今もこの洛南の一小民居に髣髴せしむるのがうれしいと思ふ。序にいふが、山城では切妻の民家は都の南部に多い。綴喜郡川口村へゆくと元祿五年に八幡宮の安居頭人をつとめたといふ名門(?)西川氏の宅が、やはりこの切妻草屋根である。川口から南木津から大和へかけてこの形式は分布がひろい。飛驒の白川から、甲斐の田舍、山道至る所にこの形があるのも古い時代の名殘と見るべきであらう。

三 片入母屋造

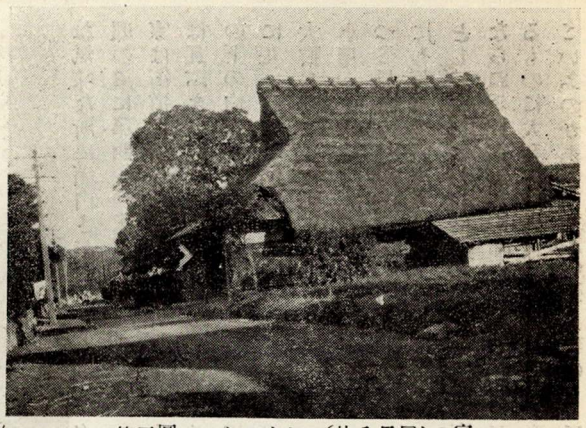
第三圖吉田邸の切妻を見ると、妻の入口の上に瓦庇がある。この瓦庇を同じく草屋根にして母屋に取付ると、家の正面に三角形の破風が出來る。しかし裏口の方は元のまゝにほつて置く、かうした屋根は神社建築で春日造といふものであるが、同じ類似の民家が、又我國の各地に分布してゐる。なかんづく古い京都の西南郊外に最も濃厚に存在するのが面白い即ち葛野郡と乙訓郡とは特にこの片入母屋をもつて地方色とする。これを方言タテノボシといふ。光秀が山崎合戰にまけて避難した勝龍寺城そこに今も城跡の濠があるが、濠に面した北井菊太郎氏の家のごときその好例である。六疊二間に四疊半の一室を庇にした小さい家であるがタテノボシの屋根が非常に低く、葺おろしてあつて、いかにも家の中はくらゐ。大原村の灰屋に行くと一村擧つてタテノボシであるといふが近く嵯峨は大覺寺の南、釋迦堂の北、嵯峨天皇御陵の麓の一區には、これ又タテノボシが多い。**第五圖**は同村三宅忠一氏の邸である。杉の生垣柿の木の茂みの中に片入母屋の南から、妻入が四方庇の上にのつてゐる形はさながら畫中の景である。三宅氏の外にこの形はまだ多い。藪の影森のこなた落柿舍ならず共、かうした所に住めばとは誰しも望む所である。故大森太夫がこゝに隱棲の地を卜したのも流石は良二千石の概があつた。但し當時その家のつくりをタテノボシにする程に研究が積んでゐなかつたのを殘念に思ふ。



第四圖 切妻平入

四 入母屋造

日本の農家で最もポピュラーな屋根は入母屋である。タテノボシの裏の方を前の方と同じやうに破風構へにした屋根のこゝである。イ



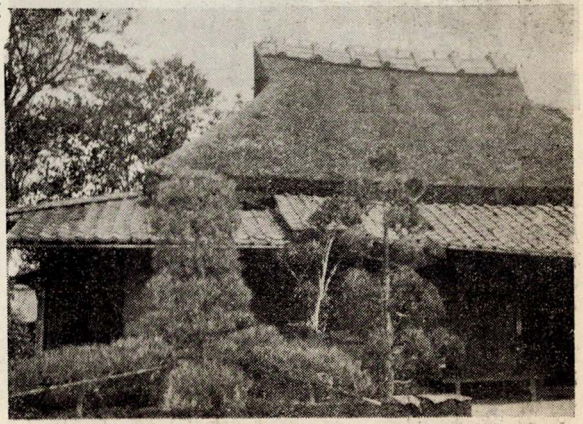
第五圖　タテノボシ(片入母屋)の家

リマヤのイリは丹波や近江をイリ上方といふのと同じ接頭語で、イヤに準ずるといふ意味、切妻のマヤから一歩進んだ意を現す語であるらしい。このイリマヤ作りは我國では法隆寺の金堂を最初のものとして、今日に現存せる殿堂に多い。畏れ多い例ではあるが、紫宸殿や正涼殿をはじめ、二條離宮のごとき雲の上は勿論、祇園神社、知恩院、東西兩本願寺その他、京都に多い堂々たる國寶的建造物にこの形が多い。それが自ら下萬民の住宅にも眞似られたと見てよいであらう。

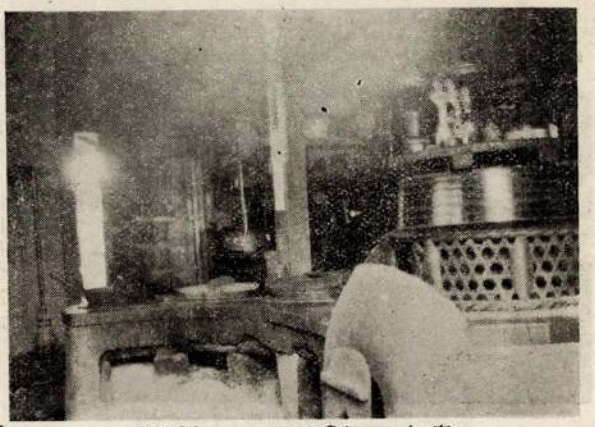
第六圖は實に洛南巨椋で予の撮影した二間に二間の小さい農家であるが、見らるゝ通りの入母屋である。それでも七本からの針目覆をつけてゐて老松の幹にこの屋敷の古さを示し瓦の四方しこころも、道路の方は短かくそいで、クルツペルワルーム式にしてあるなど棄てがたい趣がある。竹の網代の小垣と燒板の配合など、これで一廉の美的要素を具備してゐるのがうれしいではないか。洛北一乘寺字舞樂寺の澤村三之助氏**第七圖**の宅は、これも大きい家ではないが、屋根が清水寺のやうに丸味を帶びてゐるのが特色だと思ふ。庇は前面に深い軒をつけ後で座敷の方に廻り緣をつけたから二重庇になつてゐる庭先きの植込みに松がつくつてあるのも氣がきいてゐるつぎに一乘寺の筋氏の宅この家は大きい、針目覆が十一も並んでゐる、本家と小屋このつぎ目にタテノボシ式の面影をのこしてゐる。見らるゝ通り軒下が馬鹿に深い。これは京の東から北へかけての農家の特色である。從つて家の中は暗い。しかも暗いニワの中に驚くべき大竈が七ツクド、又五ツクドの上に存立するのが例である。大竈は**第八圖**の如くに荒神松をたて神酒を供へる、いかにも家の中で最も尊敬してゐる神であるから、カマのマヘは土足で決して入らない。草履をはきかへる習慣がある。カマのあ



第六圖　洛南巨椋、入母屋の農家



第七圖　洛北一乘寺、入母屋庇の家



第八圖　ニワの中の大竈

以上で京の郊外を南から右廻りにずつと一覽して現存せる屋根の種類はのべ終つたやうであるが、も一つこゝに特記しておきたいのは『つのや』といふ屋根である。本宅は切妻でも入母屋でも乃至四阿でもかまはないがその本宅の側面に更に直角につのをつけた家を『つのや』といふ、或は『マガリヤ』或は『カギヤ』なご所によつて名もかはる。ドイツではこれを『クロイソダツハ』といふ。

その發達の最初の形は**第九圖**である。これは洛北岩倉村の田中幸四郎氏の家であるが、かうした小棟をやめて、たゞちに本宅に直角につのをつけると**第十圖**の如くになる。これも岩倉村の橋本氏の宅で妻入のつのやである。妻のレンジ窓が土壁で歪んでゐるのが却つて面白い。この建方にすると間取の工合もよく體裁もよいが鍵の手になつた付根が雨で腐る恐れがあるので、今日では民家の中から段々滅じてきて、この家も昨年まであつたが、本年取壞したさうだ。しかし平安朝の初期にはこの形の家が京都の市中にも多かつたと見える今昔物語などに出てゐる放出といふ家のつくりがこれであることは伊勢貞丈も證明してゐる。同物語りの北邊大臣（嵯峨天皇の王子源信公）家には、放出のこうしの上に光る物の見えたと云ふ話であるまた同書廿七三善清行が五條堀川で古屋敷を見つけ出して、轉宅した記事を見るご、化物屋敷で借り手のない家であつたごある。それは五間の寢殿に放出があつた。化物の風評をかまはず清行は勇敢にこの家に引こしをした。まづ放出の南の板敷を拭かせて持つてきた疊をその放出の中の間に敷いて夜を明したところ、老狐が女に化けて來たと書いてある。洛中にかうした物すごい家が多かつた證左には、同書の三條東洞院にあつた僧都殿といふ恐ろしい屋敷には榎の大木があつて、夜な〳〵その木蔭



第九圖　洛北岩倉村「つのや」農家



第十圖　洛北岩倉村妻入の「つのや」

五　つのや

るニワの天井は普通簀子であつて中には簀子もないのがある。多くはカマの外に厩があつて、厩の横にカラウスがある。昔はカラウスを足にかけてふむ、そんな汚れたものは神に供へられぬと云ふのでカラウスをつくることを忌んだこともあつたらしいが、今日の洛北ではさうした風はない。否カラウスさへ用ひないで、水車で精米をするのが多くなつてきた。これも世相の一變化である。

から赤い單衣の化物が飛出したこある。かうした物語をよんで、今の都人に古い迷信がのこるのを考へ合はすと、いかにも面白いと感ずる。洛の内外、至る所かうした狐殿や鬼殿や僧都殿などいふ陰惨な古屋敷があり、狐狸の活動も甚だしかつたと見える。しかし今はさうした化物なごは影をかくし鐵筋コンクリートの殺風景なしかしハイカラな洋式家屋の中に三善清行に對面した老狐狸どころではない。もつこ窈窕たる美鬼が住はぬこは斷言しかねる世になつたが、



第十一圖 洛外詩仙堂の『つのや』

さうした市中に古いつのや草葺がまだ一軒だけは確かに殘つてゐる即ち現に等持院中町にある東本願寺の別邸がそれである。今でも僊鬼位は白晝に人を驚かさぬではないらし。洛外の名勝では一乘寺の詩仙堂第十一圖でがこの『つのや』である。いかさま京都府廳でさへ洋館の『マガリヤ』であるのだから、一々調べたならば、この屋根は非常に多いことであらう。蓋し『つのや』なるものは、雨下からタテノボシ、タテノボシから入母屋こ進んできた屋根を、さらに複雜化したもので古い日本民屋の最後の發達の形式である。

結論

嵯峨は臨川寺の際に、富豪原氏が秩父の山奥からチョンノハツリ栗の總柱の四阿草屋を、そのまゝに引うつして、邸園内の茶室につくりかへてゐる。この家は天井なしで屋根裏の簀竹が下から見える。いはゆる内室作、座敷の中央に一疊敷からの大圍爐裏がきつてある。入口の軒にみのかさ、山刀といつたものをぶらさけて、いかさま田園趣味を強めてゐるがその屋根の形は近畿では珍しい。東國や西國に共通する『アヅマヤ』である。近國では丹波南桑の大井村か近江の貴生川日野在まで行かぬと眼に入らない草屋根である、かうした珍しい屋根が近ごろになつて輸入されてきたこも、やはり京都の郊外であるからだ。東山から北山、さては小見山に西の岡幽すいの勝境誠に俗塵にけがされてゐない清淨の地に、かうした古い草やねを見出すのも愉快なことである。屋根よりも更に内部の間取をみてゆくこ、單純から複雜への進歩の跡が歴々として眼前に現れてくる。いづれ機會をみてさうした、間取についても說明しやうこ考へる。

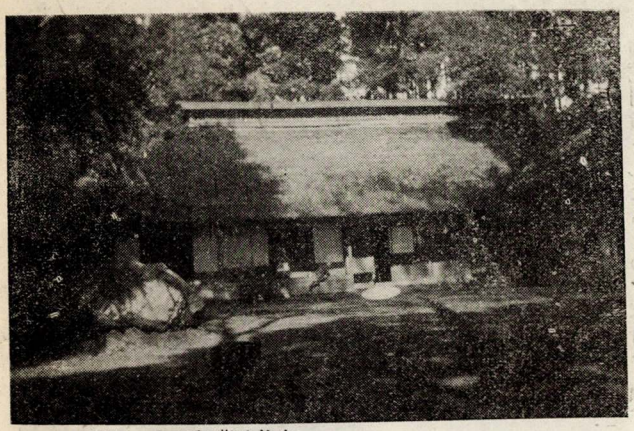


民家雜信

津田鑿

一、廣漠たる武藏野の一角『上荻窪』に所在する小俣福藏氏の住居は、森に圍まれ數多き間取りこ、後部更に二階建あるは珍らしく、藏へ渡り廊下の連續せる點と茅葺屋根の棟押へこは、餘程近代化し煙抜きを兼用せる形は餘り感心せざるも全體に飾りなき農家らし。

一、東京府下府中。源義家が奥州に下り、歸途戰勝を告げたる官幣大社ある古き町街道に面したる藏造りの平家建、昔風の塗り家はなんこなく關西に見る形である。然も妻入の呉服店で、右は土藏、店の奥に住居があり店こ藏の中間の屋根、門を入れば廣き庭に面して一圍ひの内に整然と住家が建て連らねられ、其他各用途の建物がある。特に藏



1 上萩窪 小似福藏氏住宅

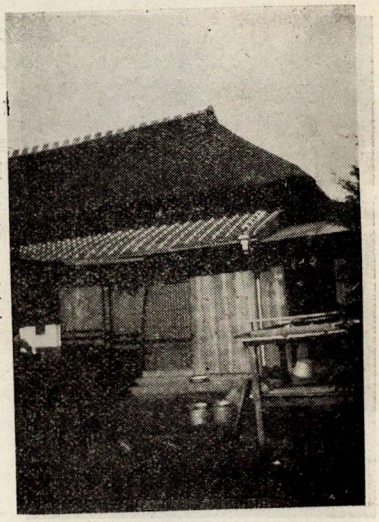


2 府中 藏造呉服店



3 府中 箱棟梵鐘積の棟

甲4 熱海村附近多賀村

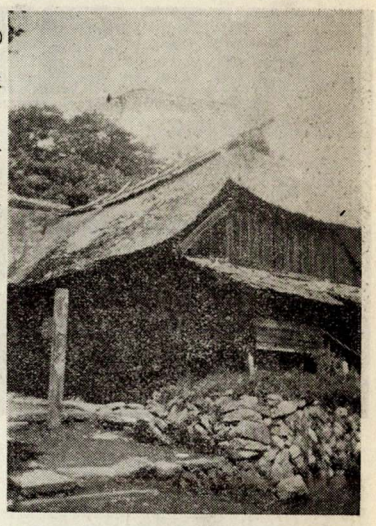


甲6 上井草

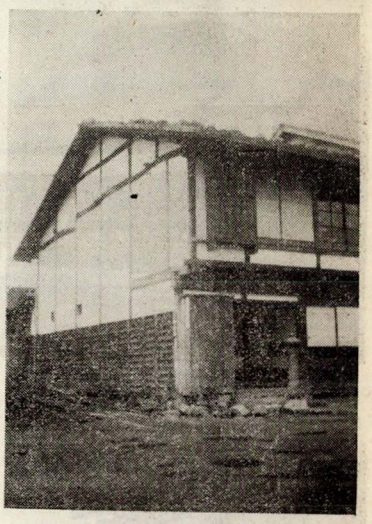


乙5 熱海附近多賀村

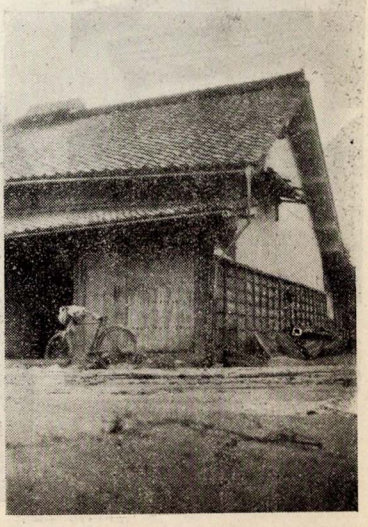




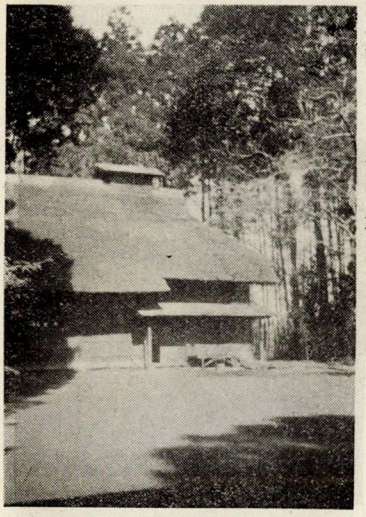
10 碓氷峠



11 沓掛



12 追分



乙7 上井草



8 下井草



9 府下高圓寺に在る藏

の上家は全く木部を漆喰で塗り潰したるは、安全に藏を保護することが出來やう。寫眞(一)

一、同町の中程にある店舖、これは江戸風の塗家、屋根の棟を箱棟覓側積としたるもの、落付きたる古雅の點保存したき部類に屬する建物なれども、近く都の風に襲はれ何れ土戸はペンキ塗りの硝子戸に嵌替へられそうな氣がする。寫眞(二)

一、熟海附近。多賀村、海に近い農村甲は方形造り茅葺屋根に葺卸し小屋根瓦葺あるもの、乙は同じ場所切妻瓦屋根同じ葺卸し小屋根あるもの、共に椽側の用途近代に近く單純の間取りは部屋と同じ、長さを有する點外觀に變化なくして却つて面白く之れ等が進歩し凹凸を生じ庇しが矩手に廻り亞鉛引鐵板を張りペンキ塗りと化し、硝子障子を嵌込めば雅致なく現代の住居と變ずる譯である、此の形式は全國到る處に見受けらる、最も數多き民家であろう。寫眞甲(四)乙(五)

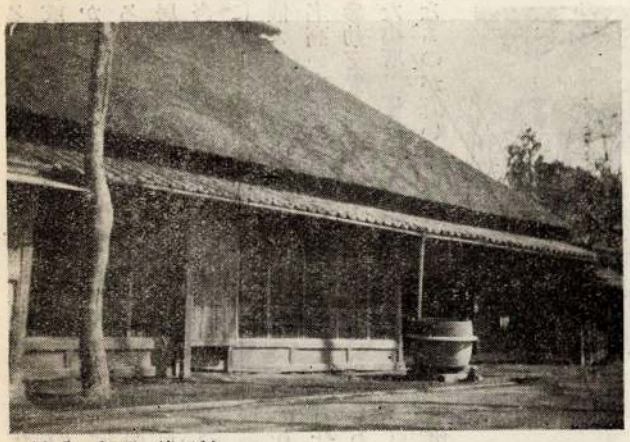
一、東京府下西武電鐵線上井草附



13 甲洲街道 上の原附近甲



14 甲洲街道 上の原附近



甲15 府下 練馬村



乙16 府下 練馬村

近所在平家建ながら中二階の爲め、殆んど二階建に等しく堂々たる軒高を有し臺所及び入口の附近を寫したもの手法單純なれども面白く、屋根の配置は正面入口に屋根附門を置き左右を物置き又は納戸とし、別棟として西寄りに藏を建て上家を載せ東寄りに農家に必要なる種々の小屋掛に等しい建物を配置してある、四周は特に樹木を植え密集せしめ森の中の一園苑の民家が附近に點々する。

寫眞甲(六)

甲と殆んど同じ、形式なれども少しく軒高、低く臺所の直上に必要丈け煙抜きがある、尙此の附近強き南風を避くる爲めか圍ひの内、更に住居の前面に近く樹木を植込み繁る枝の垣を造り自然暴風を避け更に屋根を保護する樣である

寫眞乙(七)

一、同下井草。附近上井草と數十町の距離なれば大差なし、寫眞は普通の入母屋造りなれども、茅葺屋根に特に造りし棟瓦の取付けある點無風流ながら又更に見方によりては葺卸し屋根下の椽側に硝子障子嵌込なきは却つて雅致あり。寫眞(八)

一、同高幡。屋敷内の一隅にある藏白漆喰塗り上屋根あり、此の種のもの到る處に見受けらるゝ別に特種の構造には非らざれども防火の爲め茅葺屋根に對し塗家は安全に財産を納むる場所として自然必要より造らるゝ。寫眞(九)

一、輕井澤附近。舊輕井澤の町から約一里東の方に登り坂を曲りくねりて行く眺望の佳次第に加りて、更に頂上に達すれば淺間妙義の遠望絶景である、右に折るれば碓氷峠の熊野權現が鎭座する、石階段の右手にある古い建物茅葺に千木が載せてある、

千木吾れ〳〵には懐かしい、破れた雨戸太き柱薄暗き土間何んとなく現代を離れた心地がすると同時に屋根や下見や室内を見るに優佳清楚と感心するより他に言葉がない古風の住宅又捨つべきでない。寫眞(十)

一、輕井澤から西へ沓掛の町がある、淺間の登山口二階を張り出した民家軒を揃へて屋根は駄板葺に石塊を載せて白壁に柱を三尺間に表はし其の間は塗り壁である、下見は時として丸太の脊板或は太き押縁荒つぼい手法になか〳〵面白味がある、前に流れる小川は又建物に風致を添へて居る。(寫眞十一)

一、沓掛。から更に一里進めば街道に面して左右の民家が極めて行儀よく揃ふて居るのば追分節に名高い處である、今は淋しいが參勤交代の時分は相當幅を利した場所、屋根の瓦は非常に古風なものが葺いてある、そうして甚だ良質である、葺卸しの庇し家の格好申分がない、かゝる田舍に立派なものがあるとは一寸想像に苦しむ、妻の塗り潰し腰の下見張り木材の凡て肉厚のあるのは、氣持よくぎつしりと見ゆる且つ幸に未だ一軒もペンキ塗りの家がない、之れが何により仕合せである茅葺もあり駄板もあるが七割は多く瓦葺である。寫眞(十二)

一、甲州街道。上の原附近玉石を載せた民家は何んとなく粗雜の住居らしい氣がする、近時文化の普及は煉瓦をほりあけてあるのには驚く、若し壁や軒先が相當飾られてあれば『スイスコッテイジ』を思ひ比べて面白味を增す、輕井澤附近にあるものは煙抜きが突出して大に風致を添へ此の附近は多く妻又は軒下に小穴を設けて居る、甲は妻の煙出し穴を示し甲乙共に棰形右前先端屋根と水平に切られてある

寫眞甲(十三)
乙(十四)
寫眞甲(十五)
乙(十六)

一、東京府下練馬村大木金兵衛氏宅、醬油醸造家廣大なる間取りに茅葺急勾配の大屋根は相當人目をひく、建物棟は瓦葺き雨流れ豪壯なる手法である、入口上に深き軒を有し磨き丸太の桁を持送りにして支



17 府下 練馬村



甲18 上板橋



乙19 上板橋

へ肉厚き欅の板を使用、繪様附き極めて古雅に且つ出桁の長短に應じて大小ある風變りの點は一層興味を添へ、店先の天水桶さして直徑約五尺に近き大釜を据へ付けあるは、增々昔を偲ぶ材料たるべし、同家の玄關は別に左手に破風造りの立派なるものなれども、前面の塀は近時の工作にかゝり波形亞鉛引鐵板なれば撮影の勇氣なかりし、斯く世人一般貴重なる民家に對し無關心なるには只驚嘆の他なし。

寫眞(十七)

一、同家醬油釀造場の塗り家造り竪格子入りの小窓と煙抜きの調子垂涎に足る、此處にも海鼠板の塀はありがたからず是非共土塀に瓦を載せたし斯く改造して全體の保存を希望する。

寫眞甲(十八)乙(十九)

一、同府下上板橋原、中尾一郎氏宅、農家なれども附近の貧弱なる茅葺に對し瓦葺と共の敷地の樗えに依れば有福者らしく、二階建瓦葺且つ屋根の棟に無暗と力を入れ過ぎたる傾きは此附近の風習なるべきも頗る堂々たり屋根の方形は軒先甚だ賑にて民家の資料とするには充分價値あるべく、藏を東端に撰びしは他と異なる點なり、庇しは既に亞鉛引鐵板なれば研究者の爲め特に今後機會あれば瓦に葺替へ昔き透し模様は良き意匠なりし。

一心寺茶席

寺は淨土宗智恩院末にして阿彌陀佛を本尊とす。

茶席は一心寺境内書院の南にありて八ツ窓の茶席と稱す、家康の好みにて三疊臺目なり、慶長十八年小堀遠洲の作にして大阪城中より移建せしものと傳へらる。

プランは桂離宮の御苑の池畔に建てられた松琴亭と同一にて中柱はき闕にあり、周壁に八つの窓を開けたるによつて八つ窓の名あり

茶席内外の結構數寄を極め此種のものとしては代表的のものである。一心寺(天王寺區逢阪上の町)

願泉寺茶席

日下山と號し眞宗西本願寺末に屬し阿彌陀佛を本尊とす。

茶席は藏弗堂と稱し政宗好の三疊臺目なり、伊達政宗の寄附になり慶長二年三十一日定龍の建立なり。定龍は利休及び紹鷗の門に入りて茶事を修め豐臣氏の時には茶禮を以つて諸侯士太夫の間に引見せられたり 政宗もまた定龍に就て茶道を學びたりしが大阪落城の後奥州に歸らんとするや其の邸舍を寄附されたり、庭園は相阿彌の作にて西本願寺、東寺智恩院のものと同作なり。願泉寺(木津勘助町二丁目字敷津)

浪華と江戸



◇用水槽貸家札

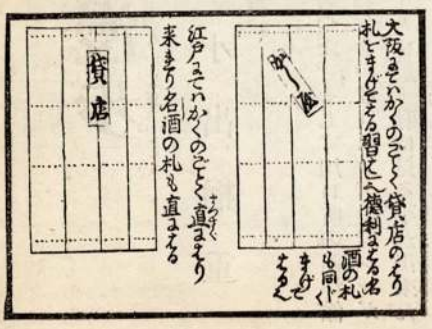
浪華の天水桶は四角な石か又は大釜で町の入口には別に町名を入れた用水桶を備へてゐた、

江戸のそれは四斗樽か油だるを用ひたよし、

浪華の貸家札は斜にまげて張る德利に張る名酒の札もこの通り、

江戸の貸家札は眞直に張り名酒の札も同樣眞直であつたよし、

天保版街酒噂より(橋本氏藏書)



古き文献に現れたる

舊大阪の商家

攝津名所圖繪（寛政版）街廼噂（天保版）及浪華買物獨案内（弘化版）に現れたその頃の建物



第一圖　その頃の砂場（新町）
難波名物蕎麥屋づゐみやの繁華振り



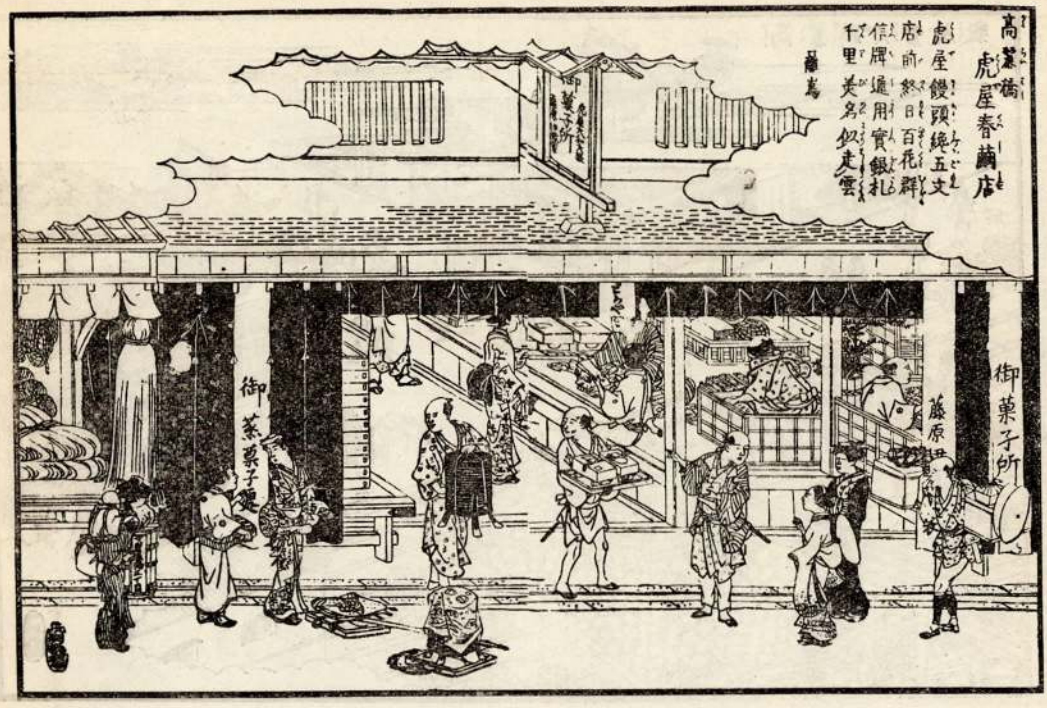
西洋舘漫歩

小出楢重

私の市内散歩に興を添へてくれる一種の建築がある。それは明治の初め頃に建てられた所謂西洋舘と稱せられる處の建物である。それ等の建物は概して木造でありペンキが塗られてゐたり、漆喰であつたりして少しも歐洲の古いもの様な永久的な存在の感じを起させない處の建物ばかりである。でも私達ちは小供の時から是等の西洋舘によつて外國と云ふものを夢見さゝれてゐたものである。ロンドンや巴里はこの居留地の様な處だと計り思つてゐた。處でだんだん、どうやらさうでも無いらしく思へて來て、さう〳〵私が巴里へ到着した時巴里はさても古めかしく莊嚴な石の蔵の連續であつた。そしてあの居留地の西洋舘と云ふものは、ほんのバラックであり、はんの腰かけの爲めの家である事が判つた。そして川口町の西洋舘に似たものはコロンボや、シンガポールに於て私は見る事が出來た要するに植民地の西洋舘が即ち私達ちの最初の西洋舘であつた譯だと云つていゝかと思ふ。

然し乍ら、そこには、簡略乍らも、異人の故鄉を思ふ心から、その建物はバラックではあるが、その窓、その屋根、その柱、その玄關にあらゆる異人の傳統と趣味による裝飾が施され、異人の傳統から出た色彩が施され、その部屋の内部は日本人にとつては合點の行かない處の構造に仕組まれてゐたりするので、吾々がそれによつて異國と異人の心の奇妙さを感じ、その心を知らうと思はせられ、日本人の見た事も無い地球の裏側の世界を忍ばしめたのである。

それ等の影響から、日本の縣廳



第二圖　高麗橋虎屋春藏店(菓子)の物名頭饅に終日買人繪とあるとゝ

や警察署等も亦、木造の西洋館と變じ、當時の異人の手によつて建てられたり、或は日本の大工によつて模造されたりした事と思ふ。

それ等の西洋風建築は大阪では何んと云つても川口町本田あたりの昔の居留地に最も多く、現在もかなり遺つてゐる。

◇

川口町では、舊大阪府廳舍などは、最も代表的のものと思ふ。私はいつも、茂左衛門橋から、或は豊國橋の上からこの府廳の圓屋根を眺める事を重大な樂しみの一つとしてゐる。殊に豊國橋から見ると、その兩岸に、まだ錦繪時代の倉と家があり、一本の松が右岸の家の庭から丁度圓屋根の右手へ聳え立ち甚だよき構圖を作つてゐるのである。處が最近、その松が枯れて了ひ今は骨のみ立つてゐて眞に淋しくなつて了つた。そしてその府廳舍は空家となり、この先き、この風景はどんな事になつて行くか、私は心細くも考へてゐる

私は支那めしを食べる爲にのみ本田町邊りへ出かけるが天華クラブや天仙閣は、いつも支那めし以外、そのかご口から見る家の眺めを私は愛してゐる。殊に天華クラブの前庭に腰をおろすと、そこは日本では無く西洋でも無く、支那でも無い一種混雜した情景が漂ひ私の心を歐洲航路の船室へ運んで行つてくれる。

今は空家となつてゐるらしいが板屋橋の南側には住友邸の西洋館がある。その附近は大阪の中心地であり乍ら今尙ほかなり閑靜であり、晝間でさへ猫の子を捨てに行くには都合のよい場所である。私の幼時トンボ釣りの修業場でもあつた。その白き土塀の中には西洋らしく、ゴムの大樹が繁つてゐるその中の、オークルジョヌや青緣のペンキか何かが塗られた古風な木造の洋館がトンボ釣りの私の心をいたく刺戟したものであつた。その建物の內部を私は知らないが私は今も時々、その邊りを散歩する時、こんな人氣のない家と場所が混雜せる長堀橋の一寸東に存在する奇妙さを面白く思ふ。そしてこの奇しき家の內部を知るものはたゞ永久に、蜘蛛と鼠とだけである事を惜むのである。

◇

それから、私は心齋橋を散歩し



第三圖　高麗橋矢倉屋敷圖（今の高麗橋西詰附近）

て二つの古めかしき時計臺を眺める事が出來る。その西側のものはかなりの修繕を加へた樣子だが、東側のものは殆んど昔の俤をそのまゝに保ちつゝ人々に存在を忘れられつゝ聳えてゐる。私はこの時計臺とその洋館をいつも立ち止つて觀賞するのである。赤い煉瓦づくりであり、二階兩側にはブロンズの人像が立ち、その人像も決して拙いものではない。時計臺の上には美しき笠があり、その周圍にはシャンデリヤの如く、レースの如き美しき裝飾が施されてゐる。時計の文字も亦古風であり、古めかしき音によつて今尙ほ、時を知らせつゝある。

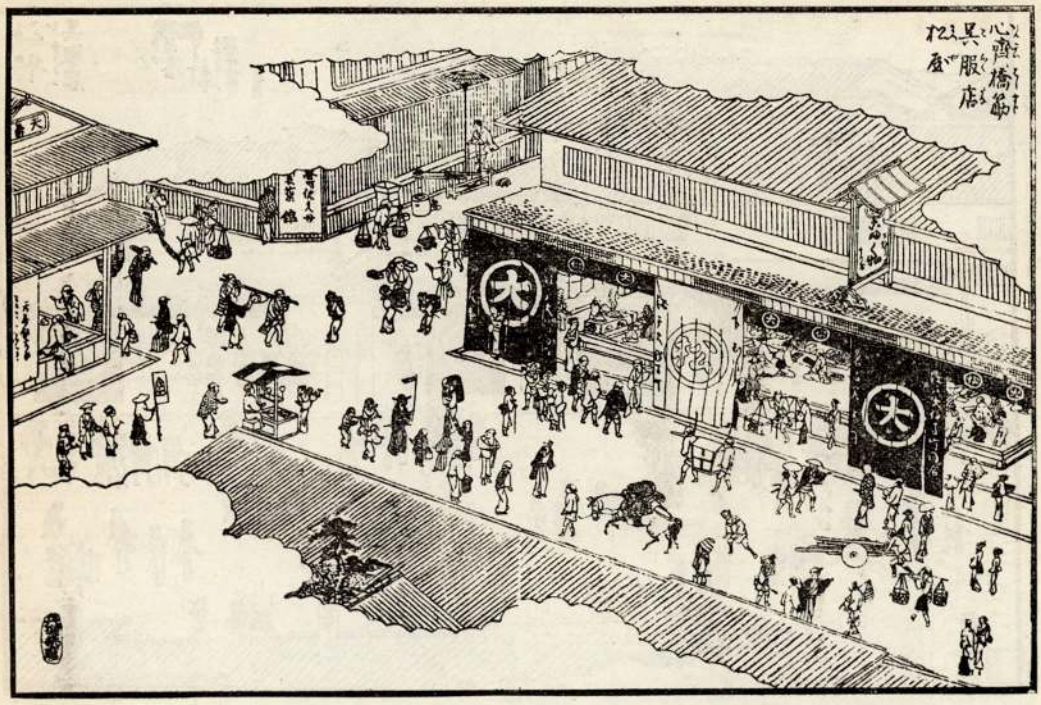
私の子供時分には、大阪に二つの高塔があつた、それは天王寺五重の塔とは違つて、當時のハイカラな洋風の塔であつた、一方は難波にあつて五階であり、一方は北の梅田邊りと記憶するが九階のものだつた。九階は白き木造で聳え五階は八角柱であり、白と黒とのだんだら染めであつたと思ふ。私は二つとも昇つて見た事を夢の如く思ひ起す事が出來る。

◇

つい二三日前、バスの中である老人の大工がこの五階に就いて話してゐた、昔はもつさりしたものをこさへたもんや、あの南の五階はお前、八角のと云ひかゝつた時タクシと市電が衝突してゐるのを發見して大工は話頭を轉じて了つた爲めその八角の塔の由來を聞く事が出來なかつたのを私は頗る殘念に思つた。

消滅した建物では、堺筋の南方今の新世界の邊りかとも思ふが、多分それは商業クラブとか何んとか呼ばれた處の圓屋根を持つ建物があつた、それは、白色のものだつたが堺筋に立つて南を見ると、必ずこの建物を望み得た事を記憶する。

圓屋根と云へば私は先きに述べた處の舊府廳舍の圓屋根を愛する大阪最初の記念すべき洋館である西洋人の設計になつたものだと聞くが詳細の事を知らない。二三年前の院展がこゝで開催された時私は這入つて見たがかなり暗くて、不氣味だつた、殊に圓屋根の內部は階下から見上ける事が出來從つて二階の床には圓屋根だけの穴があり、古めかしき手摺りがあ



第四圖　心齋橋筋呉服店松屋

り、その穴からヨカナンの首が現れさうな氣がした。その他まだまだ此時代の建築を探せばかなり出て來さうであるが尙ほ、私は神戸の居留地と山手に散在する處の古き洋館に頗る愛着を感ずるもの、多くを發見してゐるのであるが長くなるので神戸は省略する。

たゞそれ等は殆んど木造であり半バラック風で植民地的であるが故に、如何に時代の變遷の中途に位する處の記念すべきものであり特殊の面白さを持つてゐるものであるにしても、永久に保存し、永久に住む事が不可能な都合に出來上つてゐる爲めに、だん〳〵それ等のものは此世から消滅して行くであらうけれども、私はその代表的のあるものだけは、せめてこの時代の記念塔として保護し保存し度いものだと考へる。

◇

近來大阪の都市風景は日々に改まりつゝあり、新しき時代の構圖を私は中之島を中心として、現れつゝあるのを喜ぶけれども同時に古き大阪の懷かしき情景が消滅して了ふのを惜しむものである。

私は本當の都市の美しさと云ふものは汚ないものを取り捨て、定規で豫定通りに新らしく造り上げた處にあるものではなく、幾代も幾代もの人間の心と力と必要とが重なり重なつて、古きものの上に新らしきものが積み重ねられ、時代が時代の上に置かれて行く處に新開地ではない處の落付きとさびがある處の、掬ひ切れたい味ある都市の美しさが現れて行くのだと思つてゐる。

私はそんな街を眺め乍ら味ひ乍ら散歩するのが好きである。

浪華と江戸

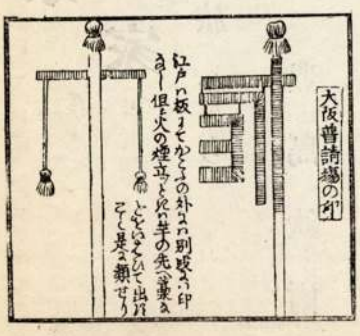
大阪普請場の印

大阪の普請場には左圖の如き印となす。

江戸は板圍の外印なしと。

天保版街廼噂より

（橋本民藏書）





第五圖　三井(越後屋)呉服店（今の三越大阪支店）

ロシヤの家 支那の家

北滿の旅から

豊島欽爾

春から秋に亘つてよく日本人は滿洲へ旅行をする、特に夏休暇の頃になると學生の旅行團で非常に滿鐵沿線は賑ふ。その旅行團の指導者は西郷隆盛を千分に薄めたやうな今樣志士と云つた格の人々かそれとも日露戰爭當時小隊長位で指揮刀を無暗に揮つてゐた今の學生軍事教練の教官と云つた人達である。かうした人の御高說は朝鮮の愚民政策、支那の阿片政策、この二つさへ完全にやれば東洋の平和は永遠に保てる、日本は永久に東洋の盟主としての地位を占むることが出來る、とかう判を押したやうに誰もが云ふのである。

ある夏の日の朝であつた。ハルピンの自分の寓居を訪ねて呉れたのがかういふ志士の一人Aであつた。東都の學生數十名を引率して來た序に寄つて見たと言ふ。例に依つて御高說を拜聽、稍、時を過してA君に市中を案内するために家を出た、その頃自分はロシア家屋の古いさゝやかな平屋に住んでゐた、A君はそれを振返つて屋根を見上げたが

『トタン屋根だね、よく冬が越されるな』

と云ふ。如何にもこの不審は尤もである。冬になれば零下三十度に下る日が少くない。それだのにトタンの屋根ぢや寒うてたまるまいといふのである。が屋根はトタンでも東京あたりのバラックのそれとは全然趣を異にしてゐる。

『トタンの下には鋸屑が一尺位つまつてゐるんだぜ』



第六圖　住吉新家三文字屋貸食店（今の飲食店）

『ふん、さうか、それぢや大丈夫だらう』

『その上にまだ牛毛をつめたり板を貼りつめたり、屋根には随分手數がかゝつてゐるんだ』

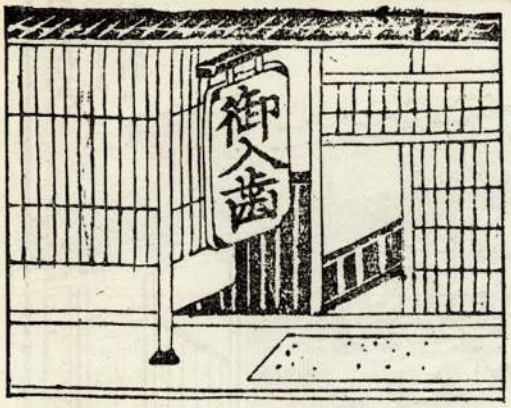
A君は手輕さうに見えてゐるトタン屋根の下の重苦しさを今更のやうにうち眺めてゐた。この手數はたゞに屋根ばかりではない。A君のやうに日本から來たばかりの人は周圍のロシヤ家屋の外觀の何となく鈍重なのを見るばかりで、その壁の中の手數までは眼につかない。

春が來て雪が溶けて丁ふど家の修覆が方々で行はれる。するど厚い〳〵壁が半分ばかり削り取られて新しい煉瓦に積みかへられたりする。その場合、鋸屑をつめたり羅紗屑を貼りつめたりしてその上に煉瓦を被ふてゐるのをよく見受ける。床下だつて勿論さうであるデツキの下には一面に鋸屑を敷きつめてゐる。

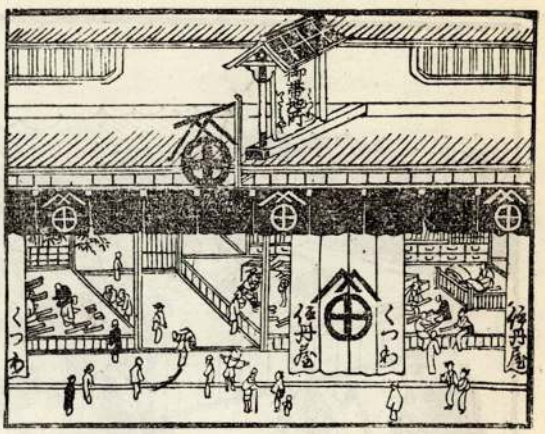
そして冬は二重窓にする、大きなペーチカをたく、中西某といふ日本人が臺所の火を部屋の壁の中一面に廻すやうな工夫をして中西式ペーチカと稱し非常な巨利を得たことがある、かういふ風だから零下三四十度になつても部屋の中では浴衣がけでゐる。恐らく日本のやうに綿入なぞを着てゐるものはあるまい。

この反對に夏になつたら部屋の中が暑くてたまるまいと思はれるが、さうではない、夏になつてもロシヤ人は日中は窓を開けない。夕方になつて涼風がたちそめる頃になつて始めて窓を開ける。日中は外氣の溫度よりも部屋の中の溫度が高くなることがないから絶對に窓を開けない、開けるど却つて部屋の溫度が高くなる。日本流に窓を開け放して下宿のロシヤ人のお主婦さんから注意をうけたことがしば〳〵である。

日本では夏が更けて秋風が吹きそめると、そろ〳〵障子の用意をする、それと同じやうにロシヤの家でも川遊びで焼いた顔の黒さがまだ消えやらぬのに二重窓の準備をする。何分長い冬の間ピツタリと閉め切るのだから十分念入りに窓をはめる、一度冬になつて缺點が見出されても零點下何十度ぢや仕事も何も出來やしない、だから秋の中に缺點のないやうに仕事を



第七圖　古の齒科醫の家



第八圖　伊丹屋　帶地所

弘化版浪華買物獨「案内」より

油屋〔ますや〕に就て　史蹟研究家蒲田氏の紹介で、堀江で草分けの家、油屋〔ますや〕を訪ねゝ、同家は三百年から連綿と續いた舊家で建物も、二百數十年を經た昔その儘の家（口繪參照）である、殘された商家建築の標本を初めて此處で見る様な氣がした、當主水野彌兵衛氏は大變當世風の温厚な方で、この家も茲二三年ならずして、都市計畫で道路擴張の爲軒切をされるので、改築の豫定だと語られた。同氏は勿論のこと懷古的趣味あるものには何んか此家のなくなることに惜しい様な感じがする。

する、それに大きな窓だ、冬籠りの間、雪に閉されがちな地方だけに窓だけは大きく取つてある、それを奇麗に拭き上げて二重の窓硝子にする、その中間には鋸屑や綿などを敷いて水分を吸收するやうにする。さういふ窓が大抵一軒に五つや六つあるから秋になるとこれが一仕事として數へられる。この窓の仕事だけを專門に商賣にしてゐる者もある。大抵は女である女は注意深くて窓硝子を壞す率が少いから自然女の仕事になつて了つたのであらう。

× ×

支那人の中でも東省人と言へば野暮なものとして支那人それ自身から輕蔑されてゐる。東三省は新開地で文化の程度が低いから輕んぜられても仕方があるまい、その東三省の中でも最も野暮な北滿、ハルピンあたりに上等な支那人がさう澤山ゐやうとは思はれぬ、偶々ゐてもロシヤかぶれのしたバタ臭い民國人で爲すこと言ふことが西洋を通してゐるのに驚く。たゞ近年他の支那領土のやうに戰禍を絕えて見ない。而も土地は豊饒である。依つて山東直隷あたりからの農民の移住は素晴らしい景氣である。彼等は牛馬同然の取扱ひを受けて南からこの北へと移送されて來る。そして見渡す限り何のさへぎる物のない廣い北滿の土地に拋り出される。

最初彼等は如何なる家を造るか氣候は冬零下三十度を下る。加ふるに彼等には金がない。ロシヤ人は如何なる貧民と雖も冬期自らの家の氣溫を五十四五度に保つだけの薪炭は川意することが出來る。又保溫設備の完全な住宅を持つことを社會が許してゐる。然るに同じく北滿に進出して來た支那人の貧民に到つては完全にさういふ權利を剝奪されてゐる、何故ならば彼等は牛馬と同樣であるからである。

で彼等支那農民は先づ大地を堀る、地の温みに依つて僅かに越冬せんことを企てるのである。東支鐵道の淋しい小驛のかたほとり、アンペラを覆ふたこの人間の住む穴を嚴冬三十度の寒天に眺めた時、この民族の持つ粘り强さを思はざるを得ないのである。

やがて彼等は春を迎へて耕作に從ふやうになる。けれども矢張り



第九圖　順慶町井戸辻夜店と當時の家

穴居である。幾年かこの穴住ひを續けた後、漸く彼等には地上に建つ家が酬はれる。

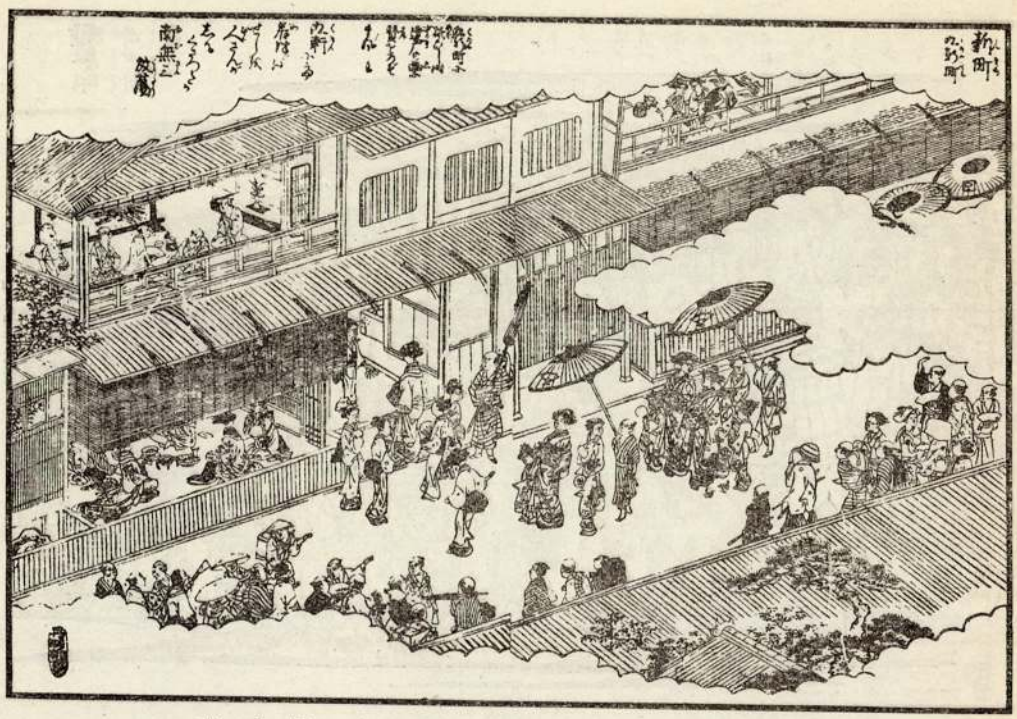
東支鐵道に乘つて瀋洲里に向けて走る人はその沿線の曠野に城廓の如きものが一時間おき位に眼に映るのを覺えるであらう、この城廓こそは彼等農民の家なのだ。長年穴居して働いた農民に酬はれた家なのだ。城廓と見るは馬賊の難にそなへた彼等の防禦壁である。この城壁は何千といふ農民の家を安全に守つてゐるのである。

國王の恩を知らない彼等は能く自らの間に協心協力して自治を營むことを知り外敵に備へることが出來るのである。木材に乏しいこの地方では總てが土造りだ、屋根土も、壁は勿論土、床さへも土、土を堀つて穴住ひした彼等は地上に家を建て、も土を盛るより他に爲すことを知らないのか、勿論東支鐵道の驛々にはロシヤ風の完全な住宅が建つてゐる。けれども彼等支那農民は馬か牛肉の側を通るよりも尚薄い興味さへも湧かないらしい、彼等は土の家に住んで朔北の曠野を耕す、そこからは世界に於ける五割の大豆が生産される巴里の女優がその美しい肌を洗ふ石鹸もこの土蛛蜘の如き支那農民の汗から作られた大豆に依ることは不思議な因緣より他に感じ方がないやうである。

民家行脚

津田鑿

研究は何んでも決して樂な仕事ではない、特に民家の研究は中々面倒である、夢中になつて居る時は何の道樂も同じ事ではあるが見るもの聞くもの民家ならでは夜も日も明けない程仕末の惡いもので最も建築家が民家を調べずして舶來の住宅を猿眞似して、二軒か三



第十圖　今も在る新町九軒町の古のお茶屋

軒建てて住宅が解決した様に假りに思ふ人があつたら、其れは未だ前途遼遠そんなに住宅は手取り早く解決されない、又されるべきものでない。

屋根裏の温度を調節する事は何れの民家でも考へられてある、熱せられた空氣が必ず上昇するとは限らぬ、船底に換氣をする時『ホース』を突込めば、冷氣は呻吟りを生じてしかも水面より遙かに低い船底に暴風の如く通ずる。

木材の腐朽如何は建物には大切な問題である、古い民家に昔其儘の材料が雨や風に晒されて木理を現はしながら杉より松、松より檜檜よりは樫又は欅と云ふ風に保存されつゝあるのを見て其の通風の良否による事を知る事が出來る。をかしな惡質ペンキ塗りより遙かに木地其儘が却つて保存に確かな事が證明さるゝ。其他幾何も古き民家に學ぶべき點がある。形に於てもそうである近來文化の聲は八釜しいが、文化は薄ぺら安物を意味するとは少し極端であろうが粗雜は又粗雜で優佳清楚夫々落付きのあるのは古い民家に窺ふ事の出來る賜である。

材料の使用法にも學ぶべき點があり氣候風習又自然の教訓を授けらるゝ場合は多く說る必要はないそんな意味に於て暇を得れば遠近を問はず研究に飛び出す、駈け廻る撮影を歡迎さるゝ、村人もあれば先輩が寫眞の約束を果さざりし結果復讐の積りで追ひ拂らはれる事もある、犬に吠へられ頑固の老人は寫眞は眞平御免と相談相手になつて呉れず時としては家丈けを要求するに衣服をかへて入口の前に家族の勢揃へには閉口する、此の時はしかたなく種板二枚を奮發する德義心が必要である。先年岩佐信也君には大阪奈良地方の民家數十枚撮影を依頼した頗る良きものが入手又隱れたる研究家山口正君には到る處の寫眞や間取を頂き且つ同氏は本年正月の休暇を利用されて九州一帶の民家を贈られて非常に嬉しかつた、其他の各位にも相當無理な注文をして御世話になつて居る深謝の次第である。

臺灣蕃民の家を撮影すべく寫眞師に依頼して前金の撮影代を絞られ、其儘に暖簾に腕押しの悲劇もあり、日本中の書店繪葉書屋を調べ片端から二百に近い店に適當の



第十一圖　市雛羅島堂（今では云ふ堂島米穀取引所）

もの送附の依頼をなし、且つ其の有無を問合せ決極結果は郵便代に貴い時間を食はせた骨折り損の草臥もうけ位が落ちで天を恨む位が關の山である、其れでも此の道樂否本職は未だ中止されない、田舍道を狐の如く走り猿の如く屋根裏に飛上り夏の日、汗と煤に汚されたる顔を道端の小川で洗ふ時の愉味は又別である、思はざる人より有益の通信に飛上り折角當てにした依頼は五年十年中々果して貰へぬが民家の西行法師又樂しからずやと自から慰むる次第である。

四天王寺を廻ぐる傳說

上田長太郎

はしがき

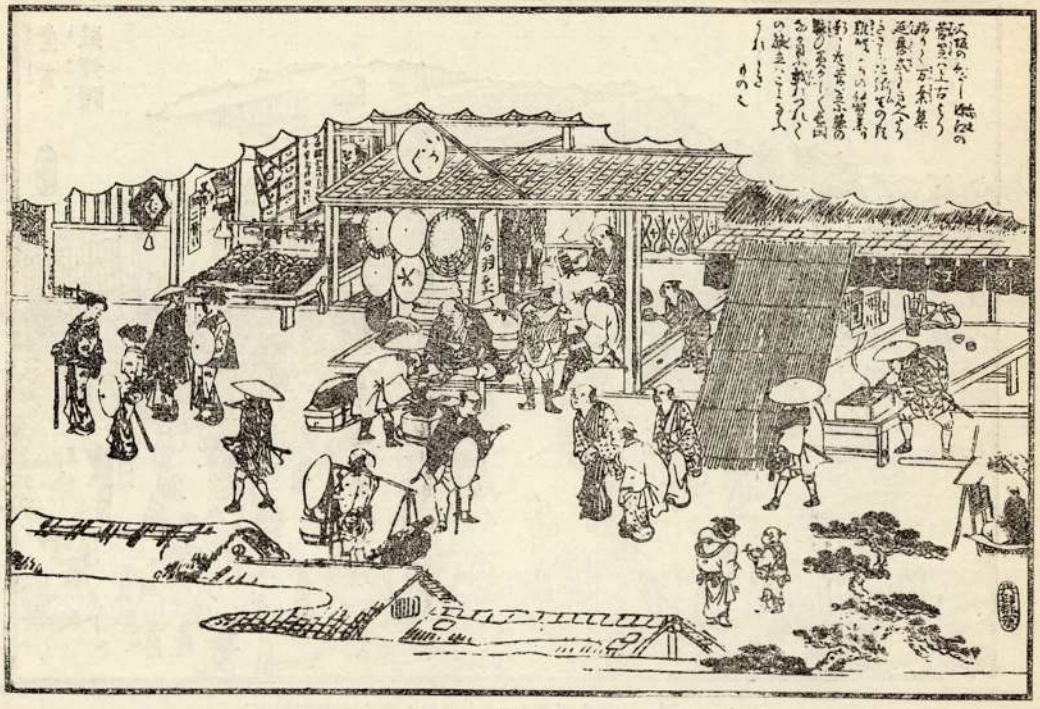
『大阪現存最古の建築』に就いて何か書けと、編輯部から御注文を受けたが、小生建築の方面は全然素人であるから、到底斯道の專門家諸君の一粲を博するやうなものは出來ない書けば、自分の畑の通俗的な傳說位なものである。

曾て見た映畵の一場面に、紐育のあの高層建築の櫛比する所の、ある窓の一つに、見すぼらしい鉢植が、他分偶然にだらうが寫つてゐたのを記憶してゐる。若し此の稿が採用されて、あの鉢植の役目でも演じ得たならば幸ひである。

建立の緣起

話は古い——　佛在世の時、舍衛國に四種の惡疫が流行して、萬民を患めたことがあつた。月蓋長者と目連尊者は其の慘狀を見兼ねて、萬民救濟の願を立てて龍宮城から閻浮提金を取り寄せ、御長一尺五寸の阿彌陀佛、觀世音菩薩、至勢菩薩の三像を鑄造し給ふたとある。

かうしたお伽噺めいた傳說から一千年を經て、其時鑄造された阿彌陀佛が百濟に渡り、更に百濟か



第十二圖　深江の菅笠屋（今の大軌沿線深江）

ら我國へ渡來した。それは欽明天皇の御代で紀元一二一二年の頃であつた。

神性（しんせい）の我國へ、佛教など、いふエキゾチツクなものが渡來した結果は、兎や角議論の生ずるのが當然で、大いにこの新らしい宗教を奉ずべしといふ急進派と、異國邪教は宜しく排撃すべしといふ保守派が對立した、そして蘇我稻目一派は急進派の代表として立ち、物部尾輿一派は保守派として立つた。

この經緯は小學校の歷史でさへ教へてゐるのだから、敢て茲に喋々する迄もないことで、兩派の間に宗教戰爭が勃發し、戰爭の結果は保守派の勝利に歸し、天竺傳來の阿彌陀佛は浪速の堀江へ抛り込まれてしまつた。この浪速の堀江が現在の阿彌陀池である。（尙此の地點には異說がある）

ところで其當時、畏れ多い話であるが、泊瀨部（はつせべ）、穴穗部兩皇子の間に皇位繼承の御事で爭が起つたるとき、蘇我物部の兩家は、それを宗教爭ひの渦中に捲き込んで、一層騷を大きくしてしまつた。即ち崇佛派の首領、蘇我稻目の子の馬子は泊瀨部皇子を頂き、排佛派の頭目、物部尾輿の子守屋は穴穗部皇子を奉じて相對した。

ある時、蘇我軍は物部軍を澁河の邸（今の中河內郡長瀨村字衣摺の邊にあつた）に襲つたことがある。ところが物部の方も仲々豪勢で、却つて蘇我軍に逆襲して、彼等を殆んど死地に陷れた。其時、蘇我軍の中に厩戶皇子（聖德太子）が居られた。太子は白膠木（ぬるで）で小さい四天王の像を作り、それを髻の中に結び込み『此度の戰に勝利を得させ給へば、お寺を建立しておまつりしやう』と祈願を掛けられた。物部馬子も、固より崇佛派だから、『諸天我を助けて利益（りやく）を獲せしめば、寺塔を建立し三寶を流通せん』と誓つた。

さういふ意氣込で戰つたから、遂に太子や馬子の軍勢の勝利となつた。そこで太子は玉造の東に四天王寺を建立され、馬子は法興寺を創設した。これが四天王寺の起因で、後に茶臼山の東の荒陵（あらはか）に移された。それが現在の四天王寺である。

往昔の四天王寺

往昔の四天王寺は、再三の兵燹



第十三圖 天保頃の富くじ屋



第十四圖 天保頃の大阪の家の造りかた

橋本氏所藏『街廼噂』より

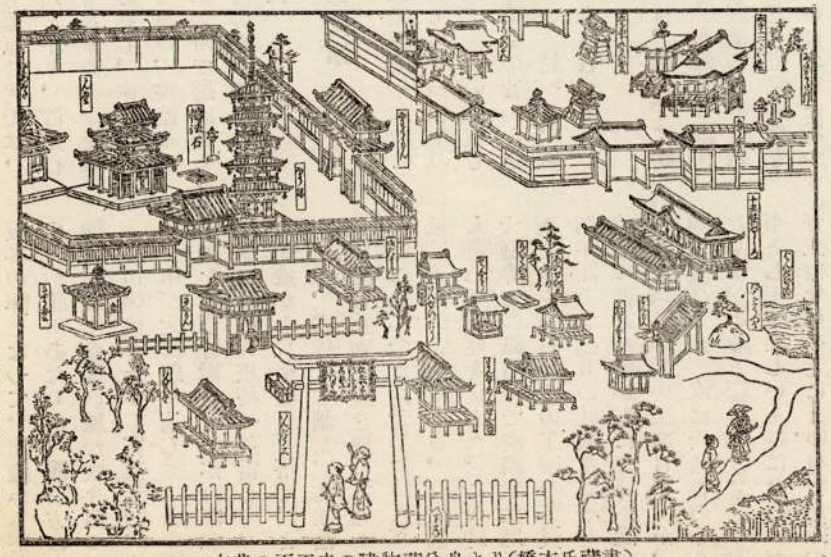
貰屋〔かぎやに〕就て 淀屋橋南詰かぎや五兵衛といへば大阪でも古い店で、其名は地方にもよく知れてゐる、同家の寫眞を撮つた三日目には都市計畫一等路線二十四日間道路の犧牲となつて毀されたなどは、ひどいとつばしりを受けたものだ、口繪にある寫眞などは最後の日の記念物となるであらう。

油屋近八に就て 大阪の眞中島之内ての古い商家て建物も古いものだが、軒行灯が三百年其儘に同家に傳つてゐて今にそれを使つてゐる樣な話であつた。

で烏有に歸してしまつたが、その結構の大要を記せば、先づ現存の五重塔、金堂、それから丹塗の歩廊は昔の面影を傳へてゐると見てよからう。

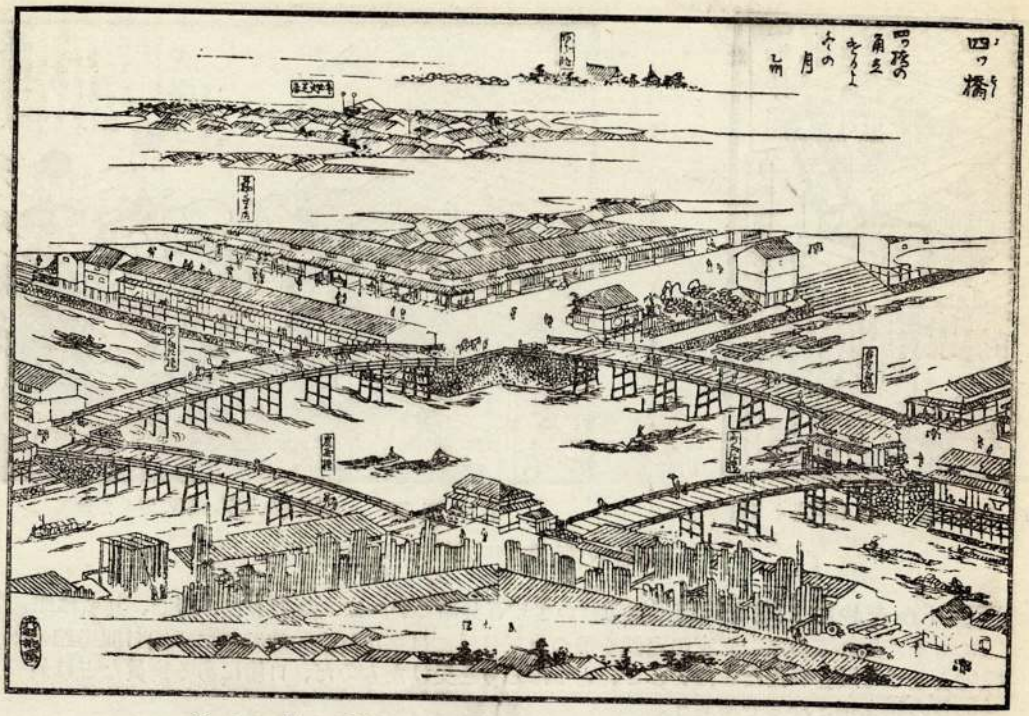
それらを中心として、四大門食堂、僧坊などが甍をならべ、その外廊には施藥院、悲田院、療病院の三つが鼎立して、寺域の敷地東西八町南北六町といふ廣大なものであつたといふ。

これだけの大伽藍を維持して行く財源は、固よりお賽錢などを、たよりにしてはゐられないから、戰に負けた守屋の一族二百七十三人の所領田畠十八萬六千九百反歩を沒收し、それをそつくり寺領とした。それから下つて、孝謙天皇の御代には墾田五百町、また桓武天皇の御代には墾田八十町を賜つた。かうしてお寺は末世に至る程段々有福になつて行つた。



古昔の天王寺の建物(橋本氏藏書)より抄

かうして財源も豐富になるし、また弘教の方法も年と共に完備して來たし、各時代々々の名匠巨師



第十五圖　『涼しさに四ツ橋を四つわたりけり』で有名な昔の四橋

の手になる佛像佛畫の類も澤山集められたから、四天寺と言へばまことに此世からなる極樂淨土の觀があつた。だから藤原時代では、京師から船で淀川を下り、渡邊に上陸して四天王寺に參詣し、それから住吉神社へ參拜し、岸の姫松を見て歌の一首も詠み、歸路は再び渡邊へ戻り、例の舟で遊ばせる遊女の群と樂しむのが、絕好のピクニックであつた。

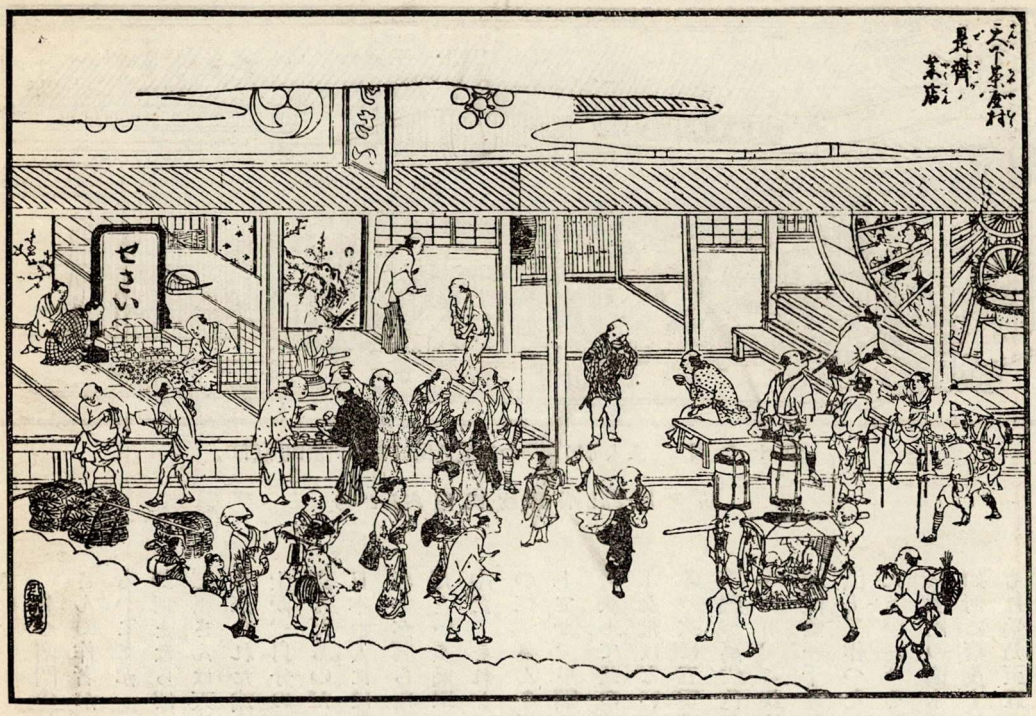
四天王寺の受難

佛の說き給ふ極樂淨土を此世に移したもの、つまり極樂の模型のやうに思はれた四天王寺の淨域も此世にある限りは婆婆の昔から免れることは出來ないと見へて、屢々天災と人災に惱まされたのであつた。

先づ元弘二年四月、楠正成は此地に陣を構へて、六波羅軍の隅田通治、高橋宗康を迎撃したのを始めとし、延元三年三月北畠顯家も此家に駐屯して大いに北軍と戰つたし、また正平十六年六月二十四日には大地震で金堂が顚倒し、五重塔は傾いて、塔上の九輪が地に落ちたこともあつた。

それから、すつと時代が下つて慶長年間に豊臣秀頼の發願で立派に修築されたが間もなく、例の大阪冬の陣となつて、此邊から茶臼山、お勝山あたりは、關東方の本陣となつて血腥い風が吹き募つた。

徳川の代になつて寛文年間、家綱將軍が大修理を施して、昔の隆盛振を再び髣髴させたが、享和元年十二月に五重塔へ落雷して、塔の頂邊から火を吹き、塔は固より太子堂、六時堂、講堂、食堂など目ぼしい建物を燒き拂つてしまつた（これが天王寺燒けだ）時に幕府は二千兩の寄進につき、諸國勸進を許して再建を促した。この時、大寶寺町の紙屑屋で淡路屋太郎兵衛といふ男が、その工事を請負ひ四年間で普通りの壯麗な堂塔を再建して世人を驚かしたといふ逸話がある。（この時の工事日程とか、請負金高とか　或は仕樣書のやうなものがあると『建築と社會』の記事として應はしいものになるのだが生憎今は手元にその材料が揃つてゐない。だが若し他の筆者が此の問題に觸れてゐなかつたら、研究を進めて他の機會に詳述してもいゝと思つてゐる）



第十六圖 天下茶屋村是齊藥店

現今の四天王寺

かうして、四天王寺の歷史は古いが、建築物としては寛文年間、即ち今を距る二百六十有餘年のものだから、嚴密に言へば『現存最古の建物』といふ譯には行かなくなる。

これはそれとして、現今の四天王寺は、この間まで寺域二萬九千餘坪と號してゐたが、最近南西隅の八百四十四坪を都市計劃のために切り取られたから、更にそれだけ減少することになる、次に堂塔伽藍及佛像のうち主要なるものを擧げると、先づ金堂には本尊如意輪觀世音、脇壇には彌勒佛、四天王を安置し、太子堂には聖德太子の御神像あり、其他五重塔、愛染堂、講堂、食堂、六時堂、本坊、それから世界一の大梵鐘と鐘樓、龜井水に龜の池、石の鳥居などであらう。それから門だが、恐らく大部分の人は西門が正門だと思つてゐるだらうが、實は南門が正面になつてゐる。

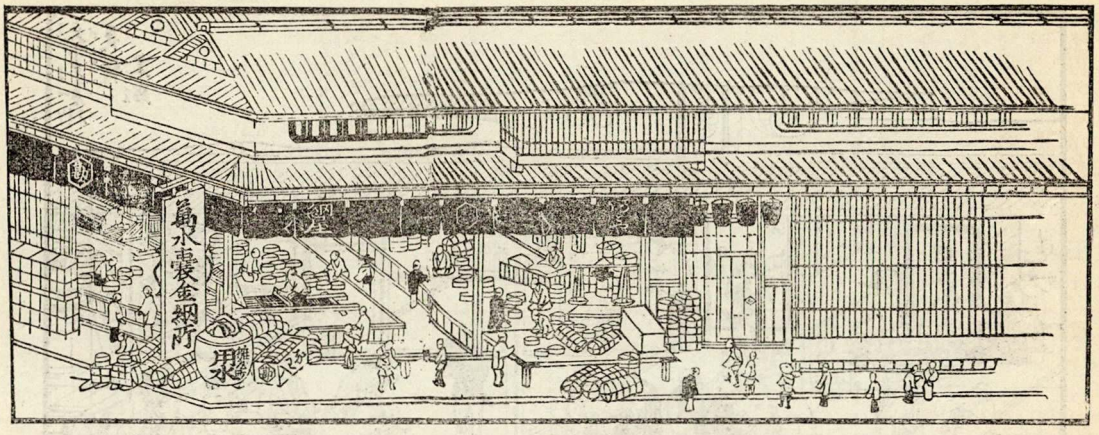
しかし此等のうちで通俗的に有名なものは、西門の石の鳥居と大梵鐘で、前者は日本一、後者は世界一と稱せられてゐる。

先づ石の鳥居は永仁年間（今を距る六百三十餘年前）鎌倉極樂寺の長老忍性上人が天王寺の別當職に赴任して來た頃に建立したもので、其後寛文年間の修築の時に手入れはしたが、石材もなるべく昔の物を尊重して使用し形式も從來の樣式を保存するやうにしたからまづ創設當時の面影を傳へてゐると見ていゝ。さすれば日本最古の鳥居で、特別保護建造物の値打は充分にあるさ、先年奈良縣古社寺修理技師岸本熊吉氏同技手森賢次氏が調査の結果は發表したことがあつた。

次に世界一の大梵鐘は明治三十六年二月に出來たもので、境内に溶鑛爐を設けて鑄造した總重量四萬二千貫、高さ二丈六尺、口徑一丈六尺、厚さ二尺二寸と言ふ。惜しいことには此の鐘、龜裂があつて鳴らない。

二種の七不思議

天王寺の七不思議といふことがよく言はれてゐる。『不思議』である以上『考へる』こさは要らないから諸君よ暫く、『科學』を忘れて下



第十七圖　久太郎町にあつた銘酒屋〔あみや勘四郎店〕

弘化版『浪華買物獨案內』より

さい。

先づ南門の仁王さんの作者が判らないことが一つ、如何とならばこの仁王さんは天竺から來られた或る力士が、自分の像を刻んだものだから日本の人には其の名前が判らないのだといふ簡單な理由だ。それから此の仁王さんを崇敬してか、鳥類までも決して此の門の上を飛ばないと言ふ。次に五重塔の露盤が萬代色を易へぬ事、これは閻浮檀金一千金を鑄潰して作つたからだといふ。それから境內の樹木は、如何に繁茂するも金堂乃至五重塔より高くはならない、若し間違つて幹を延ばす樹があつても、枝だけは必ず下を向いてゐると言ふ。次に境內一圓、雨だれが落ちても地が凹まない事になつてゐる。これは當寺建立の砌靈鷲山から天龍に銀を運ばせて地に敷かせたからだとある。それから、境內の池に住む蛙は一聲も啼かない。それは池の底に十丈の大蛇を祀るが故であり、また龜井の水は天竺の無熱地から龍宮へ銀の樋で水を引き、それを更に龍宮から、この龜井の水へ引いたからといふので不思議の一つに數へられてゐる。最後は石の鳥居で、お寺に鳥居があるのも不思議だが、箕形の扁額も珍らしく、その文字の筆者が小野道風であることも異とするに足るし、更に此處が極樂の東門と接觸してゐるのも不思議とされてゐる。

さて、これらの不思議は『片分舟』に載つてゐる說だが、もつと通俗的なものは、太子堂前の二股竹（但し今は枯れてしまつてゐる）元旦にニヤンと鳴く猫の門の猫（この猫は左甚五郎の作で、日光のと一對だと言ふ）龍の姿の浮び出る底無の井戶、あの世まで響く引導鐘、極樂の水が吹き出す龜の井叩いて聞くと、冥土に居る人の聲が聞へる『ぽん〳〵石』、最後は前者と同じく、お寺に石の鳥居のある事の七つである。

俗信のいろいろ

當寺には七不思議の外に種々な俗信が言ひ傳へられてゐる。先づ西門石の鳥居を潛つて南側を見ると、『乳のお乳母はん』と言ふのがある。本尊は布袋さんで、產婦が乳の出ない時は、この布袋さんに餡ころ餅を供へて祈願すると乳が出るし、また其の反對に、乳が出過ぎて困る時は、乳を少し瓶に入れ、これまた餡ころ餅を添へて祈ると、乳は巧みに加減されると信じられてゐる。

それから南門を入つて西側の燈籠堂の『紙子はん』と言ふのがあるこれは生死を豫言する無氣味な佛さまで病人の生年月日と性別を告けると、堂守の坊さんは佛壇に向つて祈念した後、お守札を授與してくれる。この守札の色が白たつたら、たとへ醫者が匙を投げた病人でも屹度全快するし、若し赤色だつたら如何に手當を盡しても、

所詮壽命は無いものと諦めねばならない。

また西門の柱に掛けた木製の車輪を廻はすと、それで身の不淨が清められたことになるのださうだ終りに大阪の人々は『雲が天王寺詣りをすればお天氣になる』と言ひならしてゐる。これは俗信でも頗る論理に協つたもので、當寺は大阪の東南端にあるから、雲がお詣りをするには西北の風が吹く時である。西北の風は晴に極つてゐる。但し大大阪になつた昨今は、この諺にも例外が出來たわけになる。



殘された舊大阪

鶴丸呆二

この稿は、先にある雜誌に、舊大阪風景漫談として懷舊の筆を執りまして、大阪の明治中葉に於ける四季の情趣の一端を記し、續いて殘された古い建築にも、說き及ぼすつもりでしたが、遂に、この方は稿を續けることが出來ませんでした、これはその續稿を書くつもりで思ひついてゐたものを締切間際に忽々筆を執つたものです。

今日の大阪は、その特色を漸々失つて、近代都市のもつ類型的な外觀を呈するに到りました、現代の唯物的、實利的な生活に順應して行く爲、傳統をすてて、新らしい都市の建設を見ることは、實に已むを得ない事でありませうが、特色のある、纏つた都會美が、まざまざと破壞されて、新らしく建設されつゝあるものには、市街建築として考慮に入れなければならない調和とか、統一とかいふものが殆ど顧慮されてゐないかの、感じがあり、すのは、遺憾に堪へません。眞實の意味で云へば、市民の生活に適應するといふことは、總てに於いて渾然と綜合された、甚抽象的な言葉ですが、藝術的都市の建設にあると思ひます、都會の活動的要素である文化施設は無論、進化の上に必要でありますがそこに一片の藝術的考察を入れたならば、どんなに市民の生活に豐かさは增すだろうかと考へます、巴里では、歐洲の戰亂の時、鹿塞の材料として街路樹まで伐る必要を生じたとき、一本置きに伐つて一見、街路の美觀を殺かなかつたといふ程、街そのものを愛してゐます。

大阪は幸にして河や堀割があるので、稍、其美と、特色を保つて行くことが出來ます。柳の茂る河岸の上に、高い物干をもつた濱堀の手拭染場、築地宗右衛門町の濱座敷、舊府廳のドームが白壁の並藏の上に悠然と巨人の樣に聳えてゐる江戶堀、京町堀、海部堀等は晴雨、朝夕に其情趣を更へその版畫的感興は、大阪に小林清親のあらざりしを惜むものであります。西橫堀の下流、水に臨んだ四五軒の古い家並靜かに澱む堀江川なども、廣い河のもつてゐない情趣をもつてゐます。橋にしても、廣い河の長橋、新型式のものは兎に角として、淀川橋などは、周圍の情景にそぐうた、好い感じをもつてゐますが、短い橋の方が何となく橋らしい感じがします、藏と藏との間、或は橋詰の床屋、湯屋の間から、眞中は柱燈をもつた、橋が突として架せられてゐるのも、實に興味ある都會風景であります、殊に橋詰に柳でもあれば、一篇の市井詩が生れそうです。河岸場の樹木も追々枯死して行くようですが、これは是非保護して行きたいものです、西長堀の柳などは晩春新綠の候、毿々として、對岸の木場に向ひ合つてどんなに情趣を添へてゐることでしよう。

建築については、もはや鄕土味のあるものは何程も殘つてゐません。近頃はあまり歩きませんから、唯、記憶に止まつてあるのを、漫然と書くに止めますが、船場も本町だの堺筋に、電車の通つてゐない時代にて、軒先の深い、揚げ店のある、紺暖簾に間屋らしい面影をもつた商店が、軒を連ねてゐました、二階窓を低く塗壁の格子になつて店の間から、內玄關のある中庭を隔て、奥、即ち家族達の、住居になる船場邊の商舖の典型的な構造でありました、今は僅かに南船場の一部と、伏見町の西の方に四五、舊觀を止めて居ります、南

御堂の南手、小橋屋も呉服店として御堂の石垣や、なまこ壁の建物に對して、舊い老舗らしい外觀をもつてゐました。

舊幕吏の住居としては上町邊には、かなりあつたようですが、今は僅かに被服廠東手及桃谷附近、に京橋與力達が住んで居た家を、天滿松ヶ枝町、與力町、同心町邊に、町奉行與力達の居つた練塀の家が僅かに殘されてゐる樣です、

何と云つても一番舊然を存して居るのは、因習を墨守する、遊廓の建築だと思ひますが、北陽は燒けてしまつて、蜆川に沿つた細い狹斜の巷は、なくなつてしまいました、南の方も新らしい傾向に、追はれて皆東京の待合風になつてしまいましたが、中筋に丸政とかいふ鳥屋が拭きこんだ躍場 黑く低い天井に、稍舊い茶亭の態らしいものを殘してゐます。何といつても古い歷史のある新町は近古一度燒けたそうですが、まだ好い情趣をもつてゐます、越後町の茨木屋、特に九軒の吉田屋には昔のまゝの、寬達な味を殘してゐます。片側の櫻の並木に花が咲く時分には門前には廓の文字がある箱提灯がかゝつて軒並の茶屋の二階の欄に赤毛氈を垂れ、夜は雪洞に櫻花が映へて、宛然、幕政時代の風物を現はし、自働車、電車が通つて洋館の建ち並ぶ、大阪の一劃にある事を忘れさします。堀江には阿彌陀池の境内に「すまくだ」といふ腰掛の料亭が殘つてゐます、それは大阪唯一といつてもよい特種な古い建築であります、中塗の壁皮つきの柱、竹の茶碗、棚の裡には、庭に筑つた大竈、黑い格子に暖簾がかゝつて、昔ながらな舌代とかいた獻立が揭げられてあります德川則の茶店が、殘し忘れられた形であります、朝の十一時頃迄 野菜の小鉢、さゝ汁、麥飯などと謳ひた瓶子の酒をのましてゐました。卯月八日の植木市などには鋏を腰にした植木屋の老人が、法被姿のまゝ片足を上げて、好き者らしい隱居と盃をとつてゐる、さながら舊劇の舞臺面を想はす、情景に接することもありました。

島の內には長堀橋筋の、豊田家も前に電車が通つてゐるとは思はれない古い豪家らしい構へをしてゐます、千年町の近八といふ油屋もお染が出て來そうな、古い店構へに、行燈にくぐり油とあるのなども古い大阪を想はします

前に市川新升氏の住んで居つた今宮の家も昔しの郊外住宅らしい奥床しさがありました、下寺町の廣田屋も池に臨んだ古い方の座敷はそうした味が殘つてゐます。北には安土の城門をもつて來たといふ東茶屋、朝妻、鶴の茶屋、なごの舊郊外料亭が殘つてゐましたが今は殆ど舊然を存してゐないだらうと思ひます。

安綿橋の舊住友邸の洋館は明治初期の建築として、周圍の丁字形に流れる川と樹立に調和した好い形をもつた建築でしたが、今度末吉橋、安綿橋、などが新形式の橋と架け構へられたのであの建物も取り殘された廢墟のように、淋しく見へるようになりました。

舊府廳舍はあの時分の地方主權の權威であり、市民の尊敬の的になつて居つた、だけあつて何といつても堂々と棠を睥睨してゐますあの建築が殘されたのは、市民にとつて實に悅ばしいことです。古川橋の天主教會堂も、古色蒼然たる煉瓦の色と色硝子の華圓窓に唯一の異國情緒を殘して居ます。それにしても惜しいのは造幣局の建築が取り毀されたことです。本館の玄關は云はずもがな、門を這入つて河に面した、アーチ形の窓が並んだ、濕い色調の煉瓦造りの一棟などは、堂々として淀川上流の一偉觀だつたのですが時代の趨勢には仕方がないと見へます、あれなどは內容さへ換へれば、まだ充分使用に堪へられた建物だと思ふのですが、何の爲に取り毀したのか愛惜の情にたへません。泉布觀階行社が未だ殘つてゐるのにまだ幸ひだと思ひます。

何といつても由緒ある美しいものは、なるべく保全して置きたいものです、此頃のように無味な建築が建ち並ぶようになれば我々は勢ひ尙長的になるの己むを得ないことになります。まだ各方面にも時代に取り殘された、老人のように、寂しけに、恥かしげに、この都會の一隅に、殘つてゐる好い建築も、あること、思ひますが、何れ機を見て逢ひにまわり親しく話しかけて此稿をつゞけたいと思ひます。

大阪と鄕土建築の一面

山の茶寮、十萬堂 新市街の農家

大林組住宅部長 松本儀八

鄕土建築とか鄕土藝術とか乃至は鄕土文化など、いつた鄕土趣味的方面の研究が最近段々と色んな方面から問題とされて來た。

鄕土藝術にしたところで、同じく文化にしたところで兎角其時代に於ける地方的色彩を深刻に印象された産物に外ならない。

封建制度の甚しかつた江戸時代には、格式から割出された建物が生れ、武家が暴力的勢力を逞した鎌倉、足利の時代には武人本位に則つた武家造の家が發達するのも無理はない。

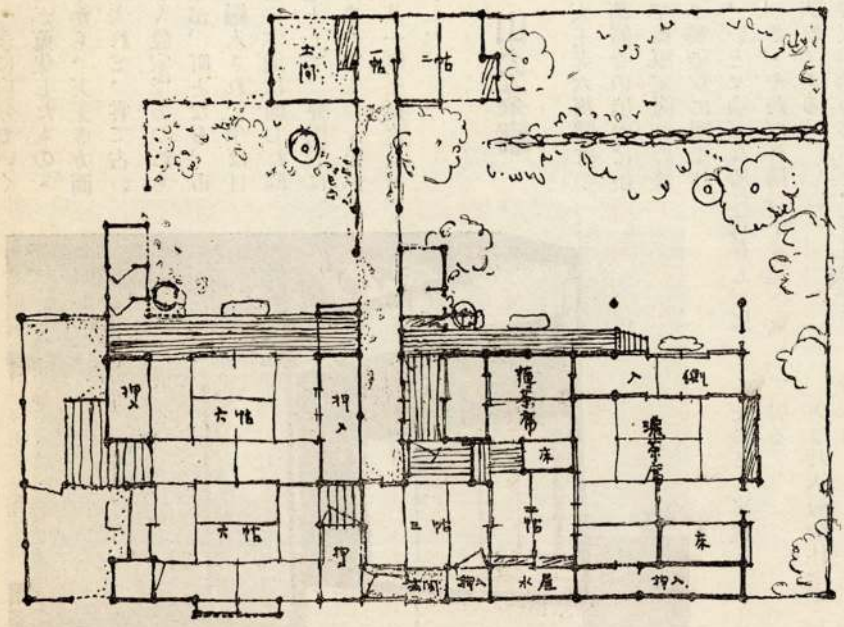
そして又同じ時代にしたところで、地方〳〵によつて有つ色彩が自ら相異なつたる所が多い事も見逃すことは出來まい、西から東へ都會から田舍へといつた具合に其間多分の隔りがある。

其隔りこそつまり地方的色彩(ローカルカラー)として鄕土藝術、鄕土趣味となつて現はるゝものであらう

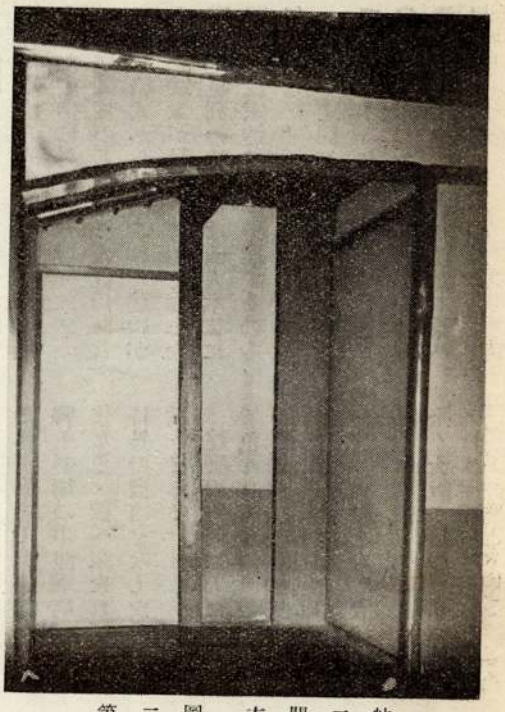
浪速で芽生へ、浪速で育まれ、浪速で發達した所謂鄕土藝術の中淨瑠璃、歌舞伎など、數へ來たれば隨分特異の發達をなしたものが段々とある。

建築の方面にしたところで色んな種類のものが大阪を鄕土として發達して居る早い話が道頓堀を中心とした芝居小屋から商家建築で市内に散見する下田家など全く大阪が持つローカルカラーの一部とも見ることが出來よう。

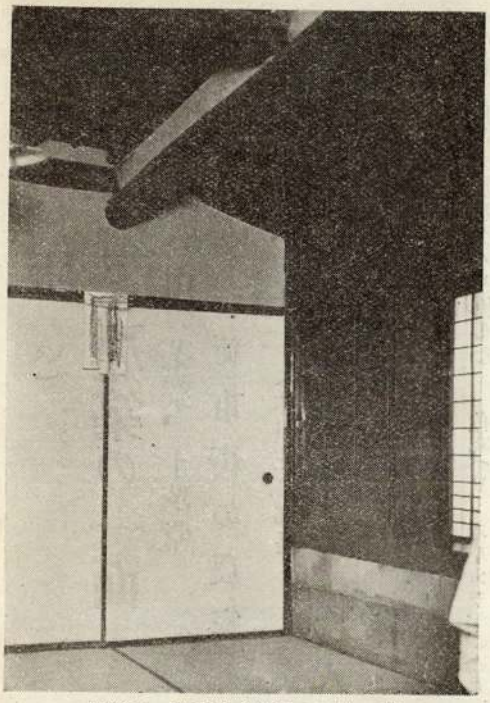
そして大阪の町の地理的關係から觀察して、南の方特に天王寺方面にはユイショある歷史的に趣味ある家が見受られ、船場、島の内など、そういつた大阪のシビックセンターには所謂大阪獨特の町家下田家が現存し、新市に編入された北方海老江、東の方鶴橋、猪飼野方面には亦農家とも商家ともつかぬ一種風變りの家をチョイ〳〵見出す事が出來る。



第一圖 山の茶屋實測圖



第二圖　玄關二帖



第三圖　玄關左手六帖の間

つぎに自分でいくらか蒐集したもの、中から、天王寺方面の夫れと、曾て古い〳〵農家であつたものが、町となり、市に編入され、今は目貫の本通に面した邸宅として、變則的に育まれたもの、中から其一例を掲ぐる事にした。

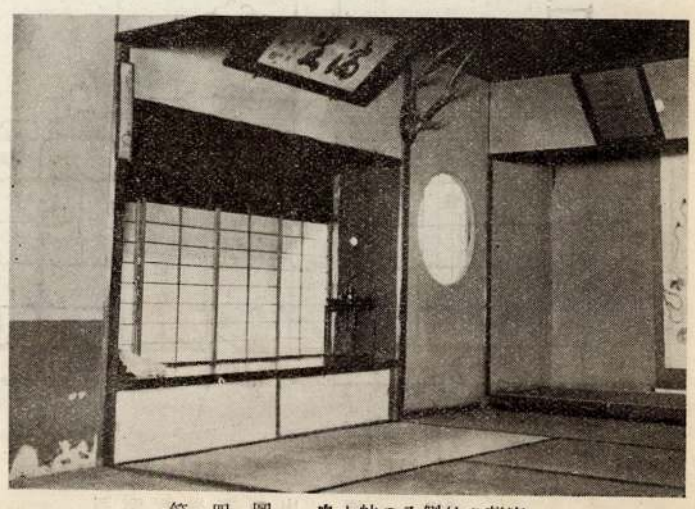
山の茶寮

天王寺六萬體町の六萬體寺の境內に續いて藤原家隆卿の墓所と愛染堂に圍まれた、いと〳〵陰氣な所に現存して居る、さゝやかな外構の平家建茶寮が夫れである。

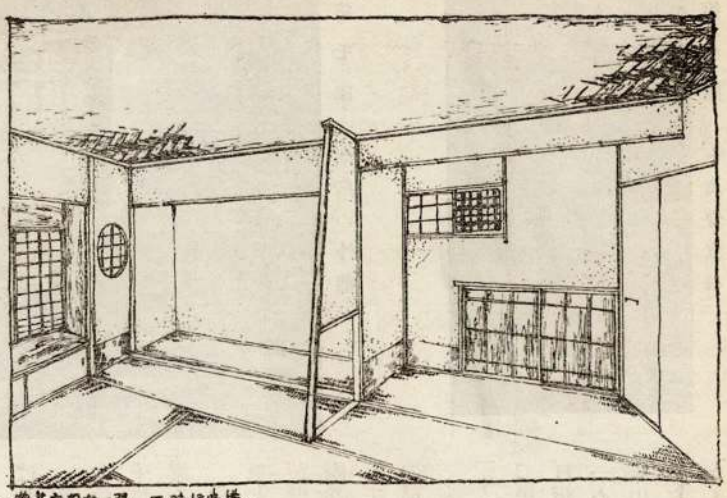
慶長の始めつかた、豐臣秀吉が千利久、小堀遠州に命じて造らせたもので、秀吉が高津の宮へ詣づる折には必ず此所へ立寄つて裝束を正しふしたと傳へられて居る。片桐且元、木村長門守、織田有樂など諸將の面々も、この家に會合したことも事實らしく言ひ殘されて居る。

とまれ大阪の住宅として、歷史的に觀ても自分等の知れる範圍に於ては最も古い部に屬するものである。

現存せるものは茲に掲げた實測圖のプラン**第一圖**の如く、正面の出入口の土間から三帖の玄關**第二圖**がある、此玄關は面皮柱建、



第四圖　茶寮の付側入の帖六奥



第五圖　奥六帖濃茶席

家の各室中最も豪放な構への間で徑一寸もあらうと思ふ丸竹を桁や梁へと掛込んだ大膽な手法と、其寂び加減は全く當時の夫れかと思はせる面影を髣髴たらしめて居る。

夫から女關突當りから土間傳ひに離れ茶寮へと通ずる思切つた廊下がある。

女關三帖の突當りの片開き襖から奥に三帖の薄茶の席が設けられてある、この席から女關三帖の次の間の二帖へも、又奥の濃茶席の入側へも、雨緣側へも通ずる事になつて然かも落付のある、そして捉はれない變化の妙味に富んだ茶席である。

女關次の間二帖は水屋を具へた『コヂンマリ』した室と思ひの外、其襖下は五六尺ほども土を堀下げられてある、今は昔關東方の侍達が此の茶寮を訪ふたものは、只の一人も其まゝ歸されなかつた、ある者は不意討に會つて殺されたりある者は抜け穴から大阪城へと送り込まれたりしたものだとの傳說を聞くにつけ、この二帖の床下を覗けば何だか小氣味悪い様な感じがする。

夫から一番奥の入側付の六帖**第四圖**、**第五圖**は濃茶席で後年松平不昧公が手を入れて改築したさいはれて居るが、洒落なる網代天井や、掃出窓を持つた肘懸け雇書院の取具合、丸窓の位置、入側の構へ、特に目立て面白いのはチサの木の床柱の無遠慮な轉び加減雜木名栗と丸竹とを組合せたら掛込天井などの結構誠に無雜作で面白い。

左手押入の所管は『ドンデン返し』になつて、其床下は土を堀り下げ優に數名位忍ばせ得る程の仕掛となつて、其押入から又女關へも通ずる事になつて居る。

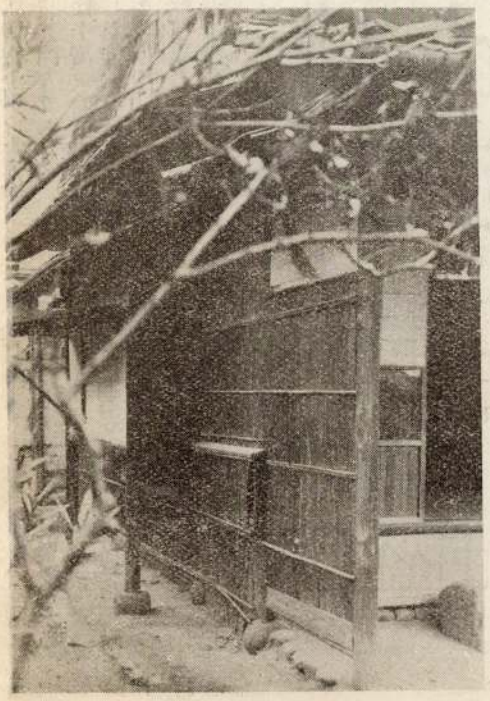
女關の左手六帖**第三圖**はこの狗潜りの際立つたところ、次の間二帖と壁及び襖の取合の要領、ニジリ口と押入(逃口)の特種的關係の妙趣等實に此道の人をして唖然たらしむるものがある。

十萬堂

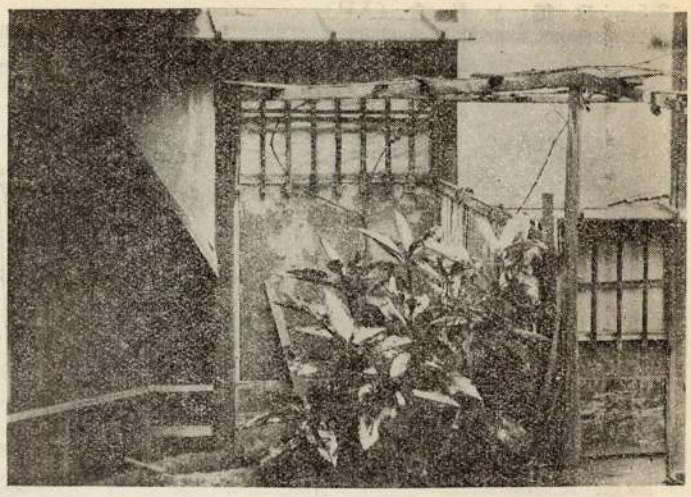
來山遺蹟今宮の

大阪を鄉土として持つ詩的歷史を物語る物寂びた建物の中に、小西來山の餘生を送つたと云ふ今宮惠美須町の十萬堂も今尚其佛を止めて居る。

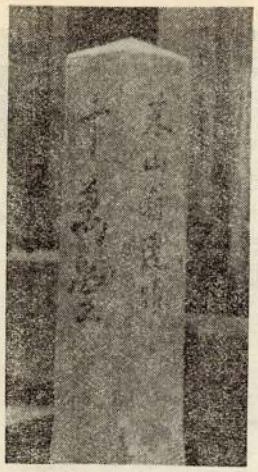
來山は小西行長の苗裔で、明曆元年泉州堺津に產れたもの、幼に



第六圖　入側付の寮茶外觀



第七圖　便所の外觀



第八圖　十萬堂立柱

して兩親を失ひ大阪の藥種商小西某親戚の故を以て入れて其家に養ふ。

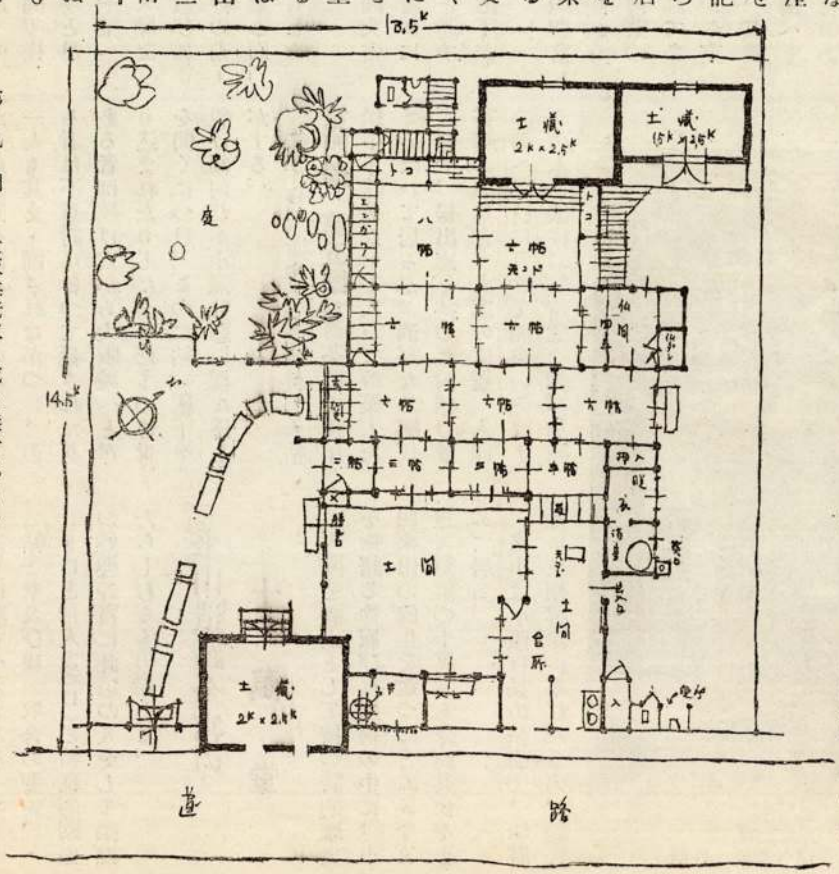
齡未だ二十に滿たずして一家をなし文名世に現はる、常に酒を好み斗米の資に窮するも顧る所なく又女人形を購ひ書は座右に置き夜は枕頭に侍せしめ、其所謂女人形の記は世人の膾炙せるところである、晩年に及んで居を今宮村に移し其學資を十萬堂と名づけ、俳諧茶事を樂んだと聞いて居る

當當雅人騷客爭ふて交を求め、交友天下に洽く黃檗山の悅山和尙も時に南岳舍利寺に在住し友として好く、爲めに十萬堂の扁額に毫を揮つてゐる

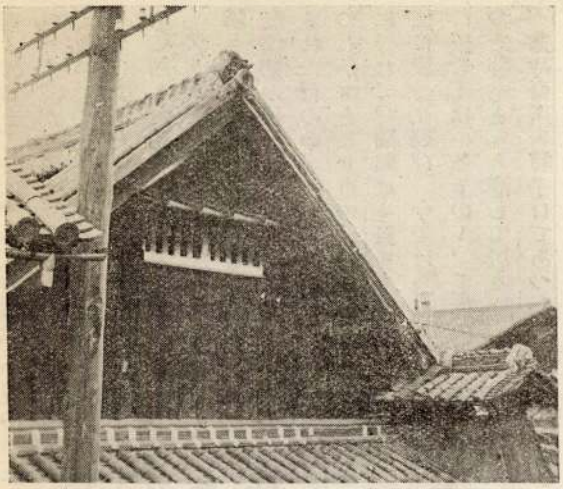
來山の俳句及び俳文は「今宮學」といへる書に出て居る、享保元年十月三日沒す年六十一、逢阪山一心寺に葬る、辭世に『來山は生れたとかで死ぬるなりそれで怨みも何もかもなし』とある、長井家久、高橋文十、村井古道、井上布門等皆其門人である。

來山は十萬堂の楣間に京の詩仙堂に擬した俳仙の扁額いくつかを掛けめぐらして、何となく床しい感じを呼び起している。

今は昔桑田碧海の變へに洩れず十萬堂の座敷の椽側から見れば『時雨る、や時雨れぬ中の一心寺』とかいつたと云ふ一心寺邊まで目路に遮る何物もなかつた二百十餘年の以前と、今は打つて變つて十萬堂の建物の庭先界には、迚も耳を聾せんばかりの南堺線と市電の



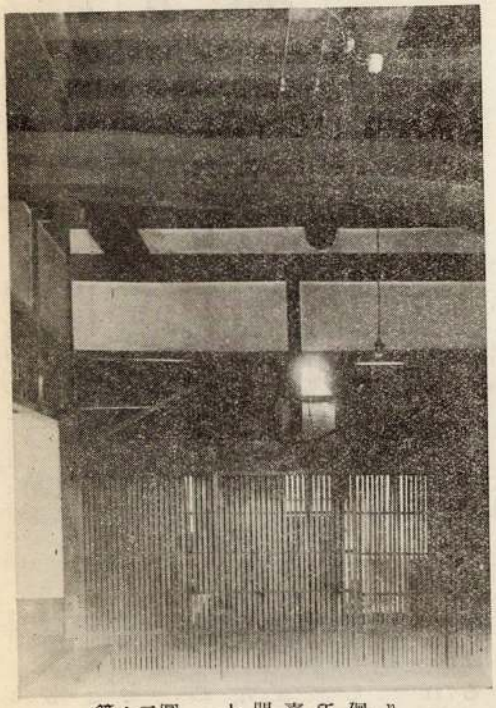
第九圖　大阪海老江　或る農家のプラン



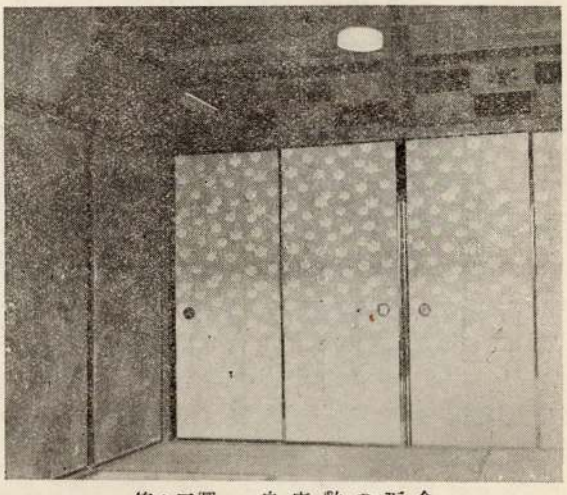
第十一圖　正面妻入口の一部屋根の形狀



第十圖　街道に面した妻入口と外觀



第十二圖　土間臺所廻り



第十三圖　奥座敷の取合

通行、さては眩きばかりイルミネーションの新世界が目前に聳立つて居る。

又十萬堂夫れ自身にしたところで、きつかけの門塀から洋室の增築やら室々の模様替など施され、惜くも舊態のほどが段々と薄らいで行きつゝあるをたまらなく思ふのである、然し奥の廣間こそは俳豪來山の隱栖居として其座敷に坐して瞑想し俳諧を樂んだらしく思はるゝ物好み、又松風の音に心耳を澄ましたと云ふ茶室三席も近年一部模様替の危には遇ふて居るが、大體舊態を止めて居る、建築的方面からみても誠に面白味の横溢するところが多分に伺はれる。

新市街に殘された古い農家

曾ては大阪郊外の古い農家であつたものも、何時しか町となりついで新市に編入されて、今では押しも押されもせぬ目貫の通りとな

つて居るところに、異樣の體裁を具へた家がチラホラ東大阪や、北大阪の邊に見受けらるゝ、茲に選んだのは北大阪の海老江町の本通りに面した舊農家である。

プラン第九圖の如く其當時は隣とは可なりの隔たりもあつて、農繁期の秋のサバキも庭先で始まされた程のゆとりある明地も、いつしか町となり市の仲間入をするにつれて、周圍は身動きも出來ぬ位に家の立列び、今では全く町内に伍してはいるものゝ、毛色の異つた邸宅となり澄して居る。

當時臺所の勝手口であつたものが、今となつては主要なる正面出入口の役目を仰付かつてゐるし、當時作男の部屋であつた二帖三帖といつた樣な小部屋が現在では玄關や子供室の働きをして、廣い土間は今分のところ殆んど持無沙汰の體ではあるが、さりとて近來各所で建てらるゝトコトンまで切詰められて土間の一坪をも持たない家などからみて、ほんとに面白いコントラストである。

外觀の屋根にしたところが當時は平入であつたものが現在では道路に面した妻の方から出入して臺所の上にあたる櫓形の煙抜き、臺所のレンジ窓、など坐ろに當時の面影を忍ぶに足る資料が漂ふて居る。



をちこちの民家

中村義雄

都會と田舍

都會生活者の我等は民家特に農家に就て、兎角の批評は出來ないが、旅の一生で見たこと聞いたことに就て斷片的にこれを研究して見たい、色々と組織立つて分業に生きる都會人に比べて、農民は人生の眞の幸福者である　それは一軒の家と雖も都會にあるもの、あらゆるものを持ちこれを自分で使ふ爲めには自身が作ることで、都會人は生活に必要なる諸設備や機關は皆大規模と分業化され、河岸に沿ふては倉庫を建て、町の並びには商店を、中心地帶は官公署や學校を並べて、其の間を十文字に或ひは放射狀に交通機關を配置して、生活必需品は工場で製造し、住宅は之等の周圍を取り圍んでゐて、其の分布狀態は最も能率的に出來上り、生活する人はそれ等の機關を工合よく利用し、自己の職業は單純で機械的に働き得る所は田舍の生活と大なる相違がある、田舍の生活はこれ等の都會の諸設備を各戸に小規模に備へ、家族は食料品の製造に或ひは販賣に貯藏に自分のみの力に依りて、行ふ爲めに生ずる住家の間取りに於ても都會に比べて各段の相違がある。

民家の間取り

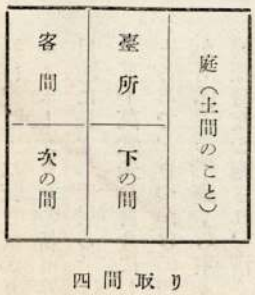
民家の建築は各自が極めて自然に工夫をして、其の土地に合ふ樣に設計されてゐる、其の型に於ても何式とか云ふ樣なことはない、常に吹く風の方向と、山河の位置と永い間の習慣とに依つて、利用を第一として考へてゐる。

民家の間取りは四間八間が多いまたこれを四間取り六間取りとへなへ、土地の百姓を本業とする大工は四間取り六間取りで、大體の設計が頭の中に出來てゐる位である。

地方に依りても相違はあるがこれは日本全國一般の型になつてゐる、土地に依り利用法や室の呼方等もあるが大體に



四間取り



四間取り

土間		
臺所	中の間	
納戸	座敷	

四間取り

土間			
臺所	玄關		
納戸	中の間		
客間	次の間		

六間取り

呼方にも間取りにも佛壇を置く佛間とか、上段の間等と云ふ所もある。

塀の工合、門の工合や構造、それを納屋に利用する方法、便所納屋、牛馬舍、土藏の位置は、この四間取りの室に續いて幾分の異ひはある。

本栖湖畔の民家

寫眞で並びの良い民家は山梨縣の本栖湖畔の民家である、私が富士の裾野の七湖を巡り歩いた時精進湖附近で取つた寫眞はなくなつて此の本栖湖畔のもの(**第一圖**)を出すことゝする。此間は三里程



第一圖　甲洲本栖湖畔の民家

ではあるが、民家の差は大きい、山中湖、西湖、河口湖畔皆幾分農家の副業のちがいでも差があるが精進湖、西湖附近の民家は屋根に石を載せた軒の深い家が多いが、本栖湖畔の家は寫眞の通りである。

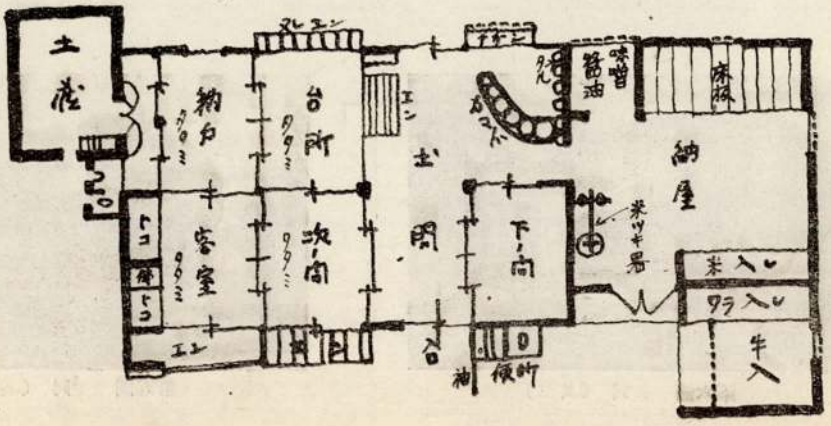
本栖湖は湖水の差が大きい或る時はこれ等の民家は浸水する、屋根裏に物置を取つてある浸水の時は二階で生活するらしい。

富士颪を防ぐ爲めには此附近では防風林の如く植木で防ぎ、入口の左か右には『空臼』(米を搗く道具)を据へ、庇の出も多く夏は此の庇の下で娘等が織機をしてゐるのが普通である。屋根の千木の様なものは他の民家には餘り見ないものである。

大和南部の民家

大和南部には古いもの(**第三圖**)が多い、これは私の生れた家に就て見ると、これも四間取りである、田舍の家は四間取りはよく考へてゐる何か集合の時は建具を外して一室とすることである、屋根の瓦は明治の中年に葺き變へた間取りは其儘で門や塀はこわれたものを復舊せず取り去つたので、土藏は赤い土で塗つて今では澁い色を出してゐる、建てた年數は判らないが餘程古いものらしい。

納戸は寢る爲めと御產をする爲めの室らしい、晝は野良で働き夜寢るのは暗い室が良いらしい、普通は臺所で遊び晝の食事は腰掛け式として板間に腰を下してするのは現代の新しい式によく似てゐる味噌醬油を各自で造る爲めに味噌部屋を取つてある、樽は煤で黒く



第二圖　大和南部の民家の間取



第三圖　大和南部の民家

なつてゐて一列に並べてある。

下の間は下店とも云ふ普通下男部屋で、下男のゐない家は此部分で織機をする、床は板張りが多い家に依つて米の粉や麥粉を造る小さい空臼が置いてある。納屋の一隅に床を高くしてある所は雨降りの日に繩をなひ草履を作る所である、土間は籾を玄米にしたり貯藏したりするので必要な場所である此室の天井裏は藁莚を置く場所になつて一隅に米搗の道具がある、一回に一斗位搗ける樣なものであ



第四圖　富士山麓大宮附近の民家(其一)

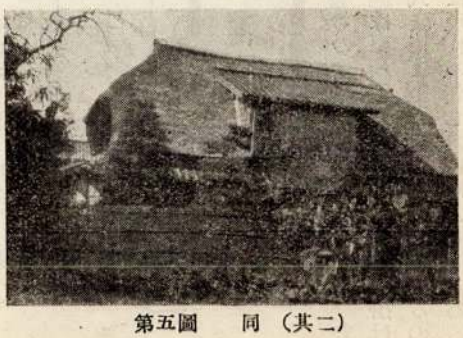
る、出入口の横には下便所があり其の便所は南の光で腐らす爲めと汲取に都合よき爲めに板を並べただけで椽先は濡し椽式で建具がなく、床は三尺程上り床下は芋寢屋と稱して穴を堀り籾殻を入れて芋を貯藏する所である、天井裏は薪木を貯藏し、屋根には煙出しと稱する空氣拔等が付いてゐるのは、通風と換氣と煙突を兼ねたるものを裝飾化してある。

一般に大和の民家は研究すると面白い、此の家は吉野川沿ひて此附近は昔、天誅組の戰爭で燒けたものが多く、十津川附近の民家は武家が住んだ爲めに變化し、宇陀附近、生駒附近の民家、二上山附近郡山より西大寺附近の白い壁の民家は面白いものである。

富士の麓の民家

富士の麓と云つても廣い、これは裾野の中でも表側に面し、大宮附近(第四、五六圖)のことである、私は此の土地に住んだこともある、冬は富士山から直接吹き下す風はつめたい、石と云へば燒石ばかりである、土は黑く昔の富士の墳火を思わしめる所である、どこの村も大體配置は同じ樣ではあるが、天神の森を圍んで家を配置するか、正面の奥に天神の森を置いて前に家を並べるかである、民家も四間取りで大差はない、土藏は關西地方と幾分異つて、伊豆石を以て積上げ居るのが多い。

旅行をしながら民家の研究を徹底的にやることは非常に面白いことであるが、これには色々の學問的な知識が必要であろう、民家の內漁村、水田、畑け百姓、湖畔の民家等何れも變化が多い、これは自然其の人間の體質までが異つてゐるのも面白い現象である。



第五圖　同（其二）



第六圖　同（其三）

道頓堀の劇場小史

池田谷久吉

日本の劇場建築の歴史はさのみ古いものではない。歌舞伎の初期即ちお國の頃は建築物といつても只假設的のもので河原に棧敷を設けて能舞臺を應用した程度の極貧弱な最も簡單なものであつた。

然して大阪に始められたのが寛永三年の頃で今から約三百年程前である、當時は若衆歌舞伎が流行し太夫藏人が女歌舞伎と併立して競つてゐたが女藝禁止が出て以來藏人一座の興行主龍谷九郎右衛門を始めとして大和屋甚兵衛、河内屋與八郎、松本久左衛門、大坂太左衛門等出願認可を得て濱側に歌舞伎を興行し若衆子供五十人餘を一座として歌舞させてゐた、當時の許可は比較的容易に得られたが承應元年には興行者を規定し臨屋九郎右衛門、大坂太左衛門、松本左久衛門の三人に特に櫓を免許された。尤もその頃の劇場がどこにあつたかといふ事は不明であるが之を中の芝居、角の芝居、大西の芝居と稱した。

承應二年に大和屋甚兵衛が物眞似芝居の興行の特權を得たが翌年三月に禁止されてゐる。次いで明暦二年には仔細あつて芝居の取崩しを申付られたが六月には復々再興を許可されてゐる、尤もこの頃の芝居といつても僅かに雨露を凌ぐ程度のものであつたから毀つのも建てるのも容易であつた。寛文二年には竹田の芝居が千日の濱筋に建設され延寶年間に初めて棧敷が設備されて劇場建築發達の曙光がさしかけて來た、貞享二年二月には竹本座が建設されいよ〳〵道頓堀が賑ひかけて來たのである。

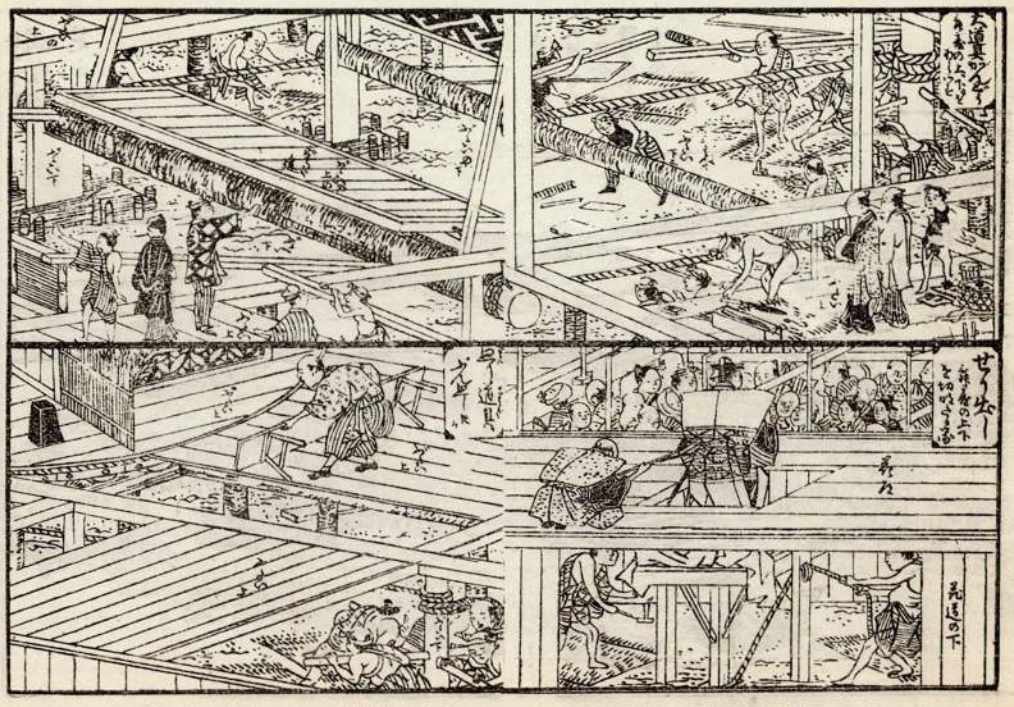
享保六年七月には山簾を張拔いて海上の景色を造り出して舞臺裝



第一圖　道頓堀芝居側（摂津名所圖繪より）



第二圖　道頓堀歌舞伎戯場（摂津名所圖繪より）



第三圖　大道具がんどう・せり出し・廻り道具（戯場訓蒙圖繪より）

置に於ける新機軸を見る事が出來る。同九年三月には道頓堀八座の內中、大西を除いた六座は失火燒失し延享年間には三座休業してゐる。

大道具の發達

大道具即ち、舞臺裝置の發達は寶曆に到りて特異的に創始せらるゝに至り寶曆三年の冬には大西芝居にて『傾城天羽衣』の大切にせり上げを仕組み、同七年の冬豐竹越前芝居にて『祇園祭禮信仰記』金閣寺の場にてせり上げせり下げ道具が用ひられ、翌八年冬角座『三十石艤船』大切渡しの場に廻り道具が始められ觀客を悅ばせてゐる、續いて翌年四月大西芝居にて『奈良都大佛供養』大切にせり上げが斜に用ひられるなど急進的に進歩してゐる。

翌月大西、中座失火。

同十一年正月西樓敷から向樓敷へ宙釣りが始められ舞臺技巧の上に新方面が開かれて來た、同年秋中の芝居にて『秋葉權現廻船囃』大切にガンドウ(ごんでん返し)が始められるゝなど我國舞臺史に一エポツクを劃した時代である。

明和三年春竹本筑後芝居にて『本朝廿四孝』四の切に場を東西に引き分け下から御殿をせり上げが出來た。

文政十年二月角座より出火戎、中、角丸の各座類燒、嘉永五年四月復々角座から出火、中、大西の兩座延燒幾度か祝融子のために禍されて居る。

此頃の建築は最早やかなり完備されたものであつて現在道頓堀五座の先驅であると見ることが出來る。

翌六年外船の渡來ありて世はいよ〳〵物騷となり芝居は閉門の餘義なきに至り衰頽の極に達して德川時代の終りを告げた。

明治維新に及んで些か復興の氣運に向ひ、竹田座も歌舞伎に轉じて五座共歌舞伎芝居となり若太夫座(非筒鎧鈍屋の向側)は明治十一年火災に罹り舊角丸座の跡に移轉改築して朝日座と改稱し同十三年竹田座も火災に罹り新築して辨天座と改稱し戎座も十三四年頃浪花座と改稱し五座は角、中、浪花、朝日、辨天の三座を濱芝居と稱して今日に至つたのである。



兩替屋

載所藏代永本日

兩替屋の間取と局見世の今昔

佐古慶三

兩替屋の間取

武斷封建の下でも大阪の町人だけは、天下の諸侯を恨れてはゐなかつた。『刀さすかさゝぬか武士も町人も客は客』(天網島)と自負してゐたのである。これも彼等の藏の中に大判小判が唸つてゐたからであらう。剩つさへ富豪の町人金銀の力を以て諸大名を苦しめ、官吏を指揮することも捨て、町人の大皷持をする也(松屋筆記)

それで流石の武士も一概になんぢ素町人の分際で、頭ごなしにおどしつけることも出來ず樣付の書狀に殿付の口上に(山下幸

と、可憎の至り也、大阪の町人諸侯の用達をして、其の仲間同志相談し締貸をすること其一也そは用達町人に一人金を返さゞる諸侯あれば、例の仲間相談して皆用達てざれば、其大名の役人は詮方なく、舊の貸主に詫び入り贈物なぞなし、古借金を返し機嫌をとり直して、更に貸金を賴むなり、役人は心中無念ならんも、主君の爲なれば武士道

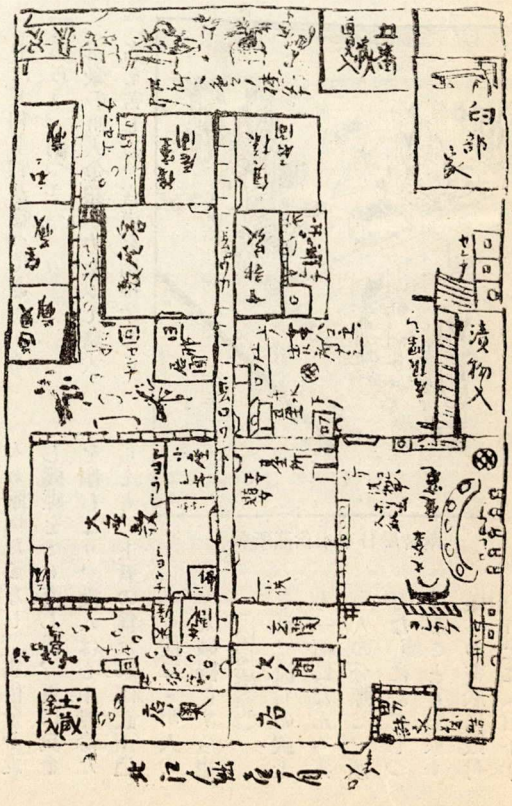
内上書、あたら二本差も七重の膝を八重に屈して了まふ。全く金權の前には刀の手前も武士道の權威もあつたものではなかつた。蒲生君平が『大阪の富豪一度怒れば天下の諸侯皆慄へ上る』とすら評してゐるのも、滿更出鱈目の御世辭ではない。つまり『人界に上もなく國を保てる守々さへ勝手のよしあし難波津の、裏判を据え知行を賓に金を借』(諸藝太平記)らねばやつて行けぬ武家の弱味である。

兩替屋にも大小雜多がある。しかし十人兩替ゕ兩替と云つた大兩替は、いづれも諸大名に立入り藏元銀掛屋なぞの名目で、その藩政の差繰を面倒みたものであつた。大名小名が出入の藏元、銀掛屋以下に、扶持米を與へ苗字帶刀を許し、まゝ家老格の殊遇をしたり、箸ノコロンダニモ目六ヲ送ル、伏見ヘ御目見ヘニ出ル日六ナリ扨紋付ノ上下、時服扨端物、扨國ノ産物、扨四時ノ付屆、寒暑ノ見舞ナリ、コレハ利息外ナリ或者コノ銀主茶ヲ好メバ唐津井戸、ト、ヤ、ハンス、イラボナドトイフ名器ヲ送ル(稽古談)いづれみな御機嫌を取りその甘心を購ふて、藩政の遣繰算段をば有利に展開せんと欲する苦肉策に過ぎぬ。さるを道學者は

眞ノ金銀融通ハ、返濟ニ違約ナク、タシカニスレバ天下ノ財寶ハミナ自己ノ府庫ニオサメ置クト同ジ、殊サラ浪華ノ豪家ドモハ、元來金銀ノ貸シツケヲ家業トイタシ來レバ、實ニ返濟ノアルベキ道ナレバ、アリガタク存ジテ五六朱ノ下歩ニテモ謹デ用達スベシ、近來風儀アシキ諸侯方ノ重役ヲ見ルニ、從者數十人召シ連レ音物ヲ重クシ、銀主ニ逢フテ王侯貴人ノ如クニ存ジ、其手代ナドノ鼻息ヲ伺ヒテ諛ヒ笑フノ醜態、實ニ悲シムベキニアマリアリ(破レ家ノツヾクリ話)

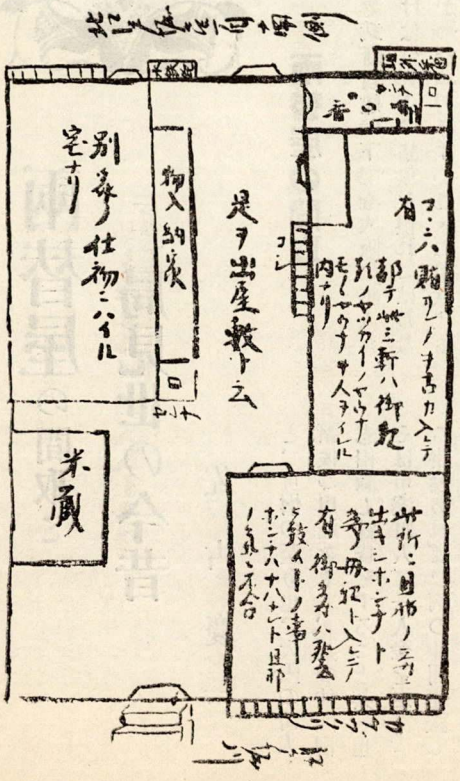
と慨嘆するのは無理な話『封君皆低首仰給(史記漢書)その根本の動機は『入ヲ量リ出ヲ爲ノ利ヲ忘レ、一向ニ用度節無』(草茅危言)ひたすら奢侈逸樂に耽けつた結果『益借テ益窮シ』(經濟要語)町人の天下をば造る。

藏屋敷と出入町人ミの交涉を一瞥しても、留守居自身兩替屋の店先へ繰り込むのに、町人側は多く



第一圖　大阪某家本家

(田中善太郎自傳附中島屋仁兵衛傳所載)



第二圖　同出屋敷

手代の出頭位でお茶を濁してゐる年頭の廻禮でも髷斗目上下の盛裝で供廻り揃へて威武堂々と留守主自ら挨拶に赴くのに、銀主の方では不相變手代の代理で濟ましてゐたのである。天保十四年鴻池店の萬日記に

四　日　秋田藏御藏開　幸八、幸四郎
五　日　米子藏御藏開　幸八、彌八、伴作
十一日　弘前藏御藏開　幸八、伴作
同　日　越前藏御藏開　彌八

と見え、『今は町人が世を治むる世の如し』(塵塚談)と痛罵したる位尊大にかまへる。藏元掛屋としての出入は、必ずしも一人一藏と限つてはゐない。だから十人兩替の天王寺屋五兵衛などは、丹羽瀬、平戸、大津、高松、丸龜、松江、今治の七藏に關係してゐた(難波雀引)かうなつてはもう名は武士の天下でも、その實は町人樣の世の中と變はつてゐる。

かくて金のあるにまかせ榮耀榮華をひたすらに追ふた。

本居宣長が町人の物質生活を說くに、今の世町人の奢りは殊に甚しき事也、總て飲食衣服よりはじめ諸道具住居等、皆高貴の人のうへざさのみ異ならず、中にもすぐれて富る者などは、内々にこまかなる事のおごりは、大名にもおさ〳〵おとらず、何事も善美を盡してゆたかに暮す事也

(玉くしや別本)

こゝに天下の町人と自惚れる貰祿が光る。甲が伽陵の袖に千金を投げ出せば、乙は普賢の肌に萬金を惜まず。衣裳較らべ食道樂なんかはまだ〳〵優しい方で『奢侈の頂點に酒池肉林』(稽古談)をも逡巡せぬ輩もあつた程である。

從つてその居宅に王侯を凌ぐものがあつても何等怪しむに足るまい。手許にある一兩替屋の間取を檢しても、そのすばらしさに一寸面喰ふ。

本家と出屋敷とに分れて、本家には家族以下、出屋敷には妾別家が住ひする。本家に居る人達は、

家族	二人
店	九人
女中	一三人
(上女中(裾長)	七人
(下女中	六人
丁稚	六人
下男	四人
常傭	四人
都合	三八人

よしんば城廓の構こそなけれ、素町人の分際としてはこても堂々たる居宅である。

局見世の今昔

『京の女郎に江戸の張を持たせ、大阪の揚屋で會はゞ此上何があるべき』(好色一代男)と云ふのが、昔は粋人の念願であつた。それほどに九軒の揚屋は

諸國にくるわといへるもの多しといへども、當津の廓全て寬活なり、殊に此地の揚屋に優りたるはなし中略、門構先寬活にてさながら遊廓の粧ひもつともいさぎよし、唐土にて紅樓などいへるもかくはあるまじとおもはるる。(澪標)

位、賞美されたものである。だが太盡ならぬ局買の徒輩は、いづくも同じ四尺五寸の局長屋で我慢せねばならなかつた。

局とは遊女のうちでも最も下位のもの。

かねつかひとは何々ぞ太夫天神かこひかひ、鹽かけ月の局買、ふられた晩はむだつかひ、一筆書てやらうかひでもいておさす戀の矢先のつゞけ買、外をせき買、アヽ陽氣がひ、新造買は水揚の味なところになづみかひ、にくやそこ行くのら坊主、たつ名獸はゞ比丘尼買、白人買にろう買、ねもせぬうちにとひに來る、何を跡とや人の思はんおら買、手枕ならで伏見坂、手まはし早きけんたん買、濱べに二人樂むは、惣右衛門買とぞ笑ひける。(傾城國姓爺)

松の位の太夫を最上とし、天神鹿總これに次ぐ。鹽影月は端女郎と通稱する、御前義經記に

端女郎は鹿總より下、みせ女郎をいふなり、替名をけちとも火打とも山家とも局女郎とも端とも小松ともいふ位は一を一寸とも月ともいふ二は二寸とも影ともいふ、三を三寸とも汐ともいひ、又五を五歩ともわけとも北向ともそろりともいへり

と品評してゐる、一は銀一匁、二は銀二匁、三は銀三匁五は銀五分がその揚代だと云ふ意味、一に局

女郎と呼ぶは太夫天神のやうに揚屋茶屋へ赴かないで、その局にて用を達したからであらう。新町には五六百もゐたと聞く。夕霧は太夫であつたが梅川は見世女郎に過ぎなかつた。

梅かんばしく松たかき、くらゐはよしや引しめて、あはれふかきはみせ女郎、

天神太夫の身でもなく、さもしいかねに氣がふれた、みせ女郎のあさましさ、せけんのこなへほうばいの、かもん殿をはじめとして、かうし女郎衆の手前も有(冥途の飛脚)

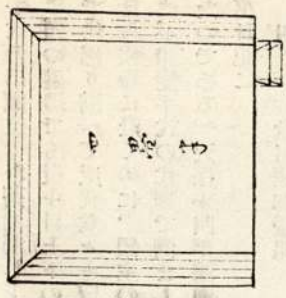
局見世の構造は大略こんなものらしい。

間口四尺五寸そのうち二尺を開き戸の入口にあて、あと二尺五寸が羽目板の腰をつけた塗りごめ。戸口に若干の土間を設く、長屋の隔ては唐紙の腰高障子。上り框に近く鏡臺を据える。居間も客室も兼用で、客なき折は戸を開放し、蒲團は隅に帖み置き、自ら出でゝ客を呼ぶ、客つかば『戸をさして豊島走のせまきを片手にして敷、足にて煙草盆を直し男引こかして』(好色一代女)萬事畢はる。泊りには夜着を出すが一切遊びの客には出さなかつた。また蒲團も敷だけで濟ましてゐる。俗に鐵砲見世の名がある所以は、これで讀めやう

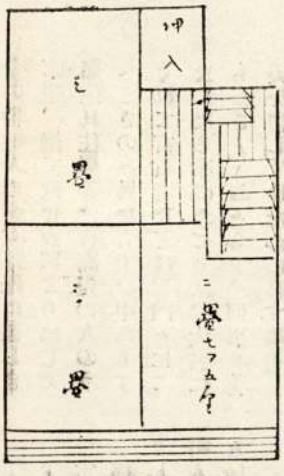
鐵砲の庇年をへて鼻へぬけ　川柳

今も大阪の娼樓は總じて狹まくるしいので知られてゐる。地價の關係もあらうが贅六の勘定高いことも有力な因子であらう。そんな次第で昔の鐵砲見世の名殘はふんだんに漂つて居る。まして平屋だつたのが、二階三階にも上に伸びだしたので、愈々面黒いことである芝居裏あたりも其好適例の一つ。

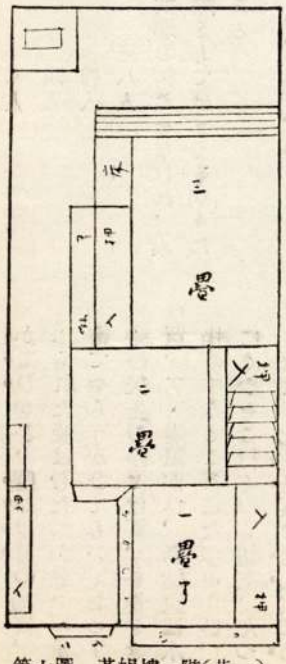
左圖で判斷してもその地坪がいくら位だか直ぐ想像出來やう。土地の利用、間取の巧者、流石に贅六たる本領をよく發揮してゐるのである。だがこの芝居裏は送り込みと云ふ奴だから、妓はその部屋に住んでゐるのではない。しかし松島や新町の裏通にあるのは、建物こそ大きいが、部屋は不相變二疊三疊見當が普通と聞く。そこでは店附とて客は妓の部屋に通るのである。世帶道具一式はあたりに取り散らかしてゐる。いくら箪笥なんかゞ納敷に置かれてあつてもこても窮屈な感じを與へる。でも夜々の繁昌は局見世よりも格段に優れて、大衆向の極樂となりきつてゐる。



第五圖　某娼樓三階(其一)



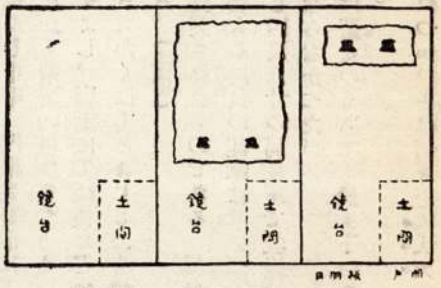
第六圖　某娼樓二階(二其)



第七圖　某娼樓一階(一其)

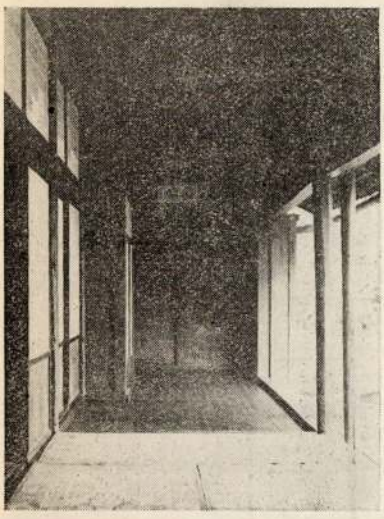


第三圖　局見世(難波鶴跡追所載)



第四圖　局見世の構造

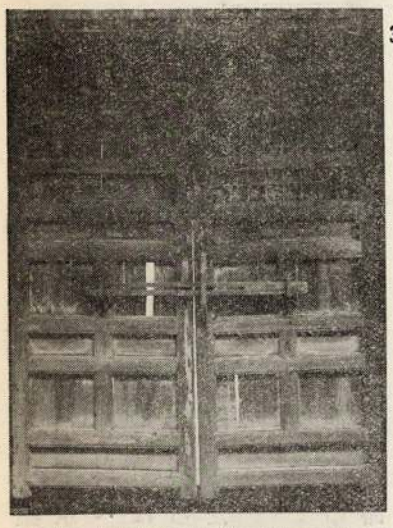


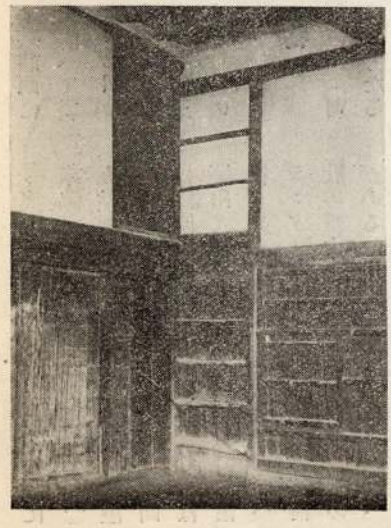


寫眞說明

大阪府南河內郡
高鷲村
吉村彦次郎氏邸

1 茶の間
2 幅一間半もある椽
3 中庭へ通ずる扉
4 下男部屋





吉村邸宅調査概要

日本建築協會
敎化委員　松本儀八

昭和三年度に於ける本協會敎化委員會事業の一つとして史蹟調査を行つたのであるが左のものは當時其の委員たる松本氏の調査報告の一部である。寫眞は次揭のものと口繪とを參照ありたい。

一、調査年月日
昭和三年五月二十七日

一、場所
大阪府南河內郡高鷲村字北島泉
吉村彦次郎氏邸

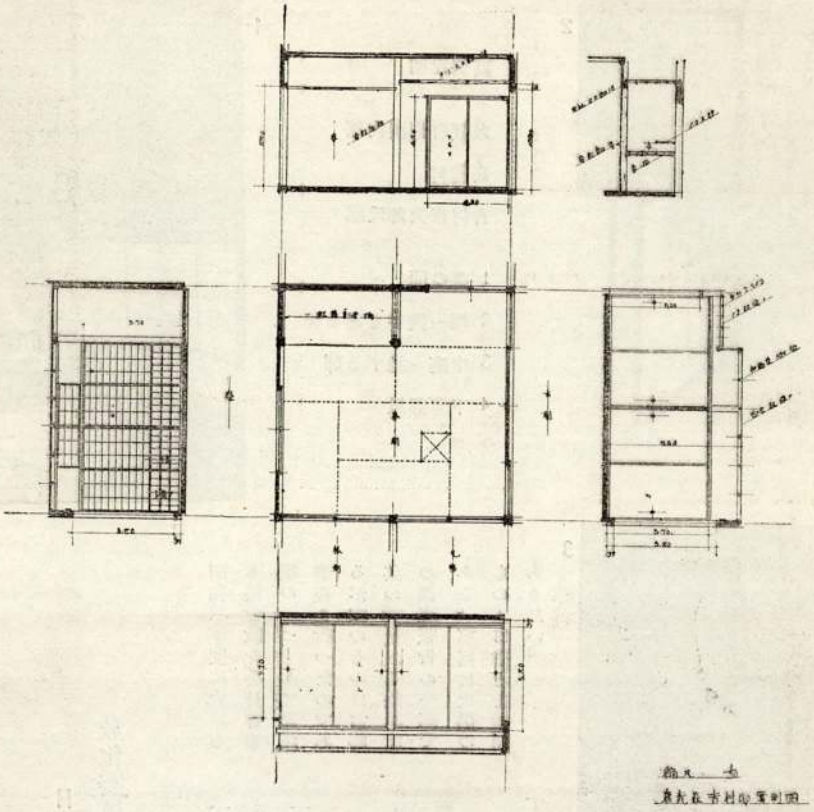
一　吉村家の古文書と邸宅

同家に現存せる古文書類に依つて之を調査すれば別紙目錄の如く天正年間よりも以前に吉村家が中心となつて其界隈に十一軒許りの農民部落が散在して居いた事が記されてある。

そして超請文其他の古文書類に徵すれば同家は我青史に其名も芳しく播州赤穗の義士と因緣關係の淺くない家柄であるといふ事も明かにされて居る、兎に角同家は相當に古い歷史を有し曾ては其地方の大庄屋であつた事も古文書や現存せる建物等から推測するに難くはない。

二　敷地

敷地は南北よりも寧ろ東西の方に延び其廣さも約千六百坪を擁し前面（南面）道路に面するの外三方は廻すに堀を以てし特に戌亥の方



圖測實邸氏郎次彦村吉

位に築山を築き其前面に池泉を堀り水を湛へて書院、座敷、ベランダーからの眺望をほしいまゝにしたる所坐ろに醍醐の三寶院を髣髴たらしむるの感がある。

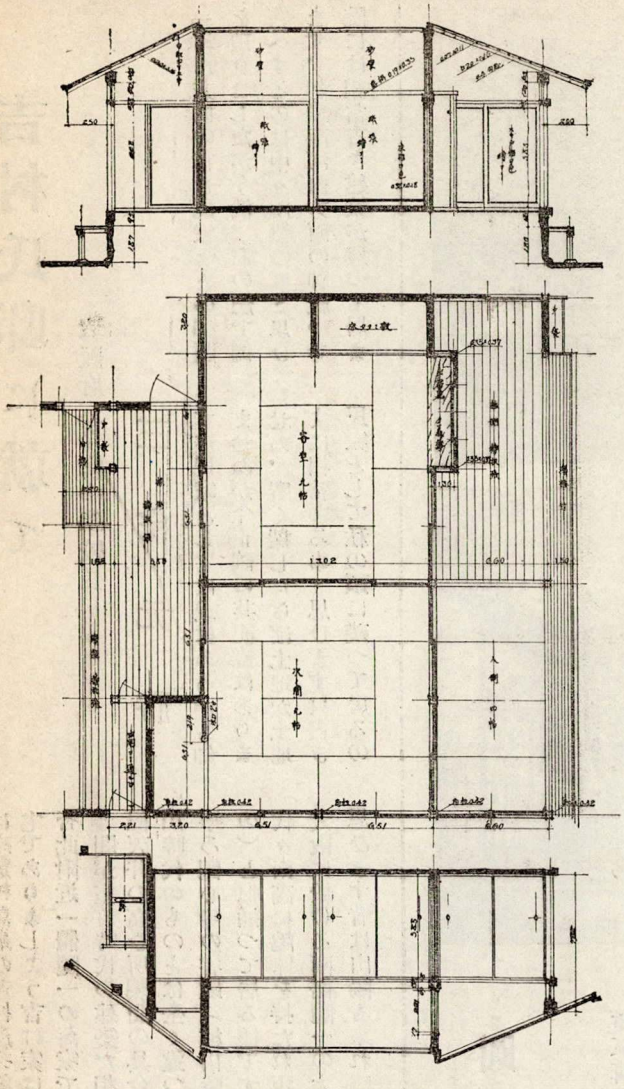
三 建 物

建物全體の配置は（別圖參照）道路に面したる南面へ正門と倉庫とを構へて、さながら外塀の働をなさしめ、特に正門は其位置を異の方位にとり込み母屋は東西に延び中央部から右に倚つて下男部屋、物置をとり左方は家族の居間や食堂、廣間茶室、客間等を按配してある、そして奥の間に致る室の配置は格式的に疊の高さが順次に下、中、上段と型の如く三段構へとなつて所謂上段の間となつて居る奥の書院付の室と其次ぎの間とが此邸宅の中で最も歴史的に價値あるものである。

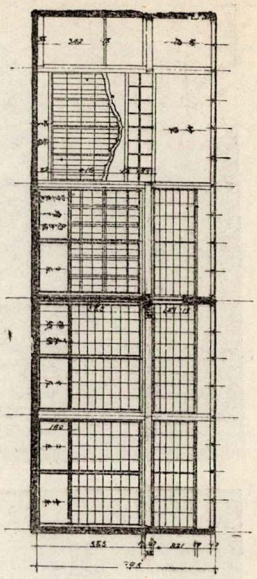
四 室内の特徴

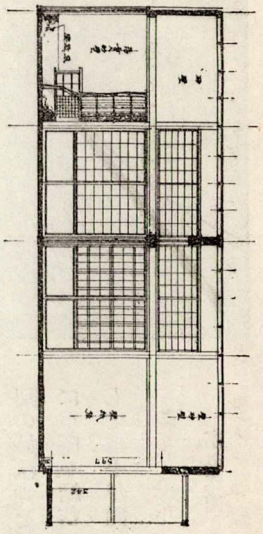
奥上段の九帖の間（八帖の間に床脇一帖込）と中段の間（次の間）九帖の間（八帖の間に一帖大水屋付）は東西の桁行となり南北兩面は庭園に面し、南側は平庭北側は築山式となり、又南面の椽側に濱椽を架し北面は吹抜式六尺巾のベランダーを取込みたるところ其構壯の雄大にして誠に掬すべきものがある。中段（次の間）の東南隅へは一帖代目と覺しき室をとり無雜作に爐を切り水屋を取設けたる手法を始めとし、上段の間と中段の間との界に嵌込みたる巴と劍と七寶崩しと、寶相華風の唐草をモチーブとして彫抜いた左右シンメトリーを破つた欄間模樣、出書院火燈窓框の形態、雲障子の所に嵌込んだ透彫模樣、障子棧の組子、長押釘隱金物の四葉六葉等に現れたる模樣オーナメント及浮彫毛彫等を調査考究すれば恰も足利末期より桃山時代へかけての共通せる特徴を發見するのである。

尙江戸末期の構成かと推定さる正面入口から土間庭を左右に男女僕室の構へに面白いものがある男衆室は納家の上部に垂直壁に木棧を一尺五寸間位の歩みに打つて



吉村彦次郎氏邸實測圖





昇降の段梯子たらしめ、玄關長六帖の片隅に三帖大位の中二階を吊して女中室たらしめ、昇降は男衆室と同樣垂直壁へ横桟を渡し壁下地の小舞竹を足先掛りとなしたるところ却つて風流味を横溢たらしめて居る。尙揚蓋式の出入口が其室の床面の片隅に設けられて居るなど當時としては頗る用意の周到なるを忍ばるゝのである。（寫眞並に圖面類參照）

大阪城

大阪城は規模の雄大で壯嚴なることは天下に其比を見ない、この城は天正十一年に工を起してから、天正十四年まで僅かに三年間の日子で竣工したもので英雄秀吉の事をなす迅速機敏なる、到底凡人の想像も及ばぬところである、昭和の今日この大阪城が再建されるのであるがどうか早くその立派な天主閣がその當時を今にしてみたいこと切なり

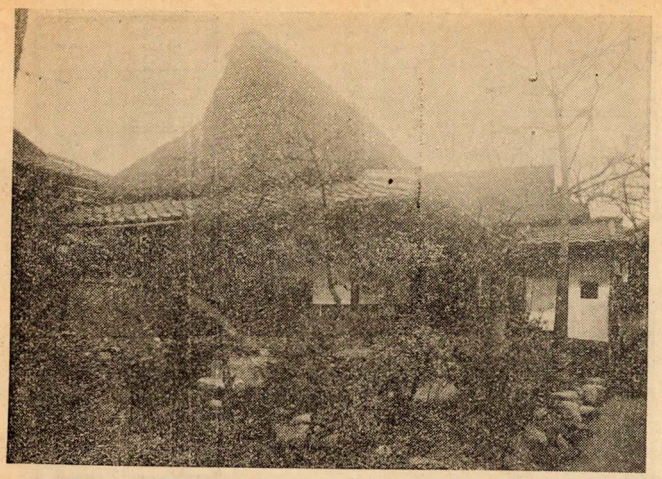
吉村氏邸に就て

大阪府立今宮中學校長
三宅元勝

「河内方面の古き民家」との御題を頂きましたが今俄に右の題で御答へするのは中々困難の事と思ひます、勿論南河内方面の神社や寺院には相當古き建築が殘つて居ますが民家としては或はあるかも知ませぬが今正確に其記憶はありませぬ、廣く探したらば土地が土地丈に相當ある事と思ひます只古き民家として私の頭に殘つて居るのは高鷲村島泉の吉村彦次郎氏の御宅でありましょう吉村家は高鷲村否此附近一體隨一の舊家で同家の客間が室町時代の建築だ相です成程天井の高き所欄間の具合など德川時代のものとは全く違つて居て寧ろ觀心寺の客殿（桃山時代のもの）と似通つて居る樣です同家は代々南畵に趣味を持たれ現主も吾大阪に於ける南畵隨一の大家だと思ひます昔は山陽も來れば半江も泊ると云ふ有樣で文人墨客の集合所だつた樣です。此地は大阪役の道明寺磧の古戰場に近いのに能く殘つたと思ひます。

河内一體に私共の眼に異樣に映るのは周圍に土塀を圍らしてあることです。之は私共の眼には珍しいことです。

之れ位で失禮します御參考になれば幸甚。





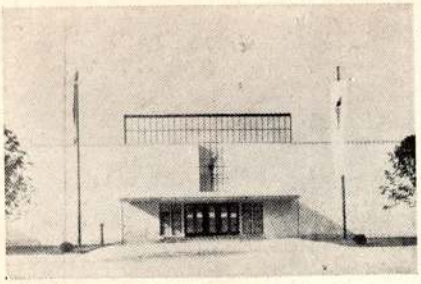
圓珠庵

契仲阿闍梨の舊跡

東區御差町にあり雲光山と號し眞言宗御室派大山寺末に屬し不動明王を本尊とす。

庫裏は當時の建築にして本堂の西にあり桁行五間、梁間三間半の茅葺庵は天和元年契沖阿闍梨の妙法寺を退くやこゝに草庵を結び俗客を屏謝して二十年間清修自適せり指令を受くに至る

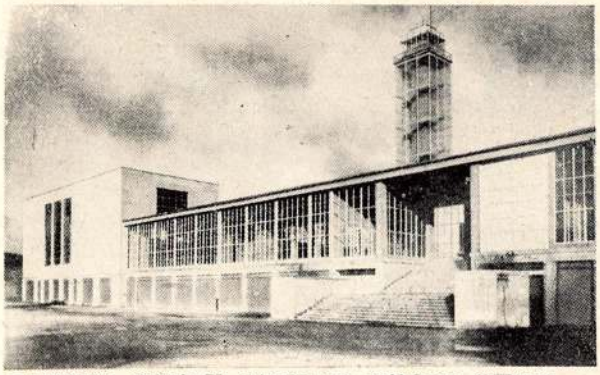
寫眞說明（上）圓珠庵外觀（下）圓珠庵正門


1


2


3


4


5

千九百二十八年伯林に於ける博覽會（1）工場聯盟館、建築家 V. BAIER（2）本館內部と其圓天井 建築家 JOSFE KALOUS（4.5）商業館と硝子塔、建築家 B. CERMAK

切取線

登録商標

LION BRAND

資本金 五百万円
年産 百五十万樽

ヨロギミ・セメント
ヨロギミ・高級セメント
（特許七一八四五）

二日で普通セメント四週の強度
耐壓力 一日 三〇〇
二日 四〇〇
七日 六〇〇
二八日 七〇〇 瓩平方糎

高輪伊皿子路面工事は冬期
三日で八噸ローラーに堪えて
完全なりき

「早期高强度」時代の要求
脫枠迅速工事期間の短縮は
弊社高級セメントに
依りて得らる

終局强度も大にして
使用法は普通セメントに同じ

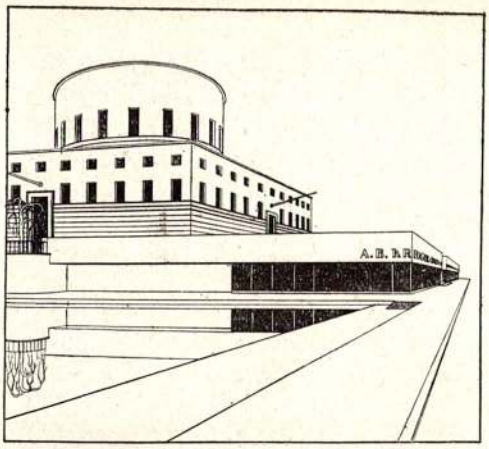
本品は已に陸軍省、鐵道省、東京、大阪兩市等に御使用の榮を得たり

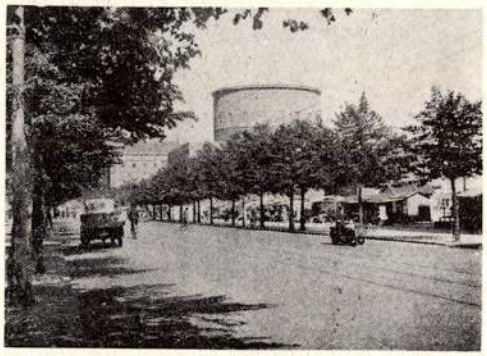
大阪窯業セメント株式會社

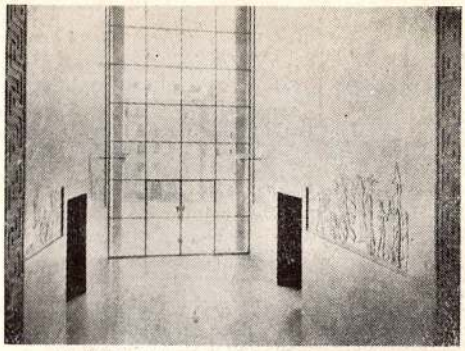
大阪市北區堂島濱通二丁目　電話北自一一〇至一一三番

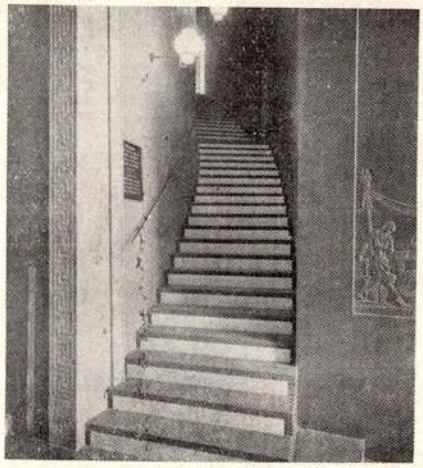
工場 大阪市港區南恩加島町
電話櫻川 一一七七 二六〇九 二八四三

東京出張所　東京市神田區表猿樂町
京都出張所　京都市二條驛前
名古屋出張所　名古屋市中區老松町七丁目


1


2


3


4

瑞典ストツクホルムの新市立圖書館（1）　設計者　E.G. ASPLUND
1 配置圖 2 外觀 3 入口廣間 4 階段室

切　取　線

サンマーハウス設計圖案懸賞募集規程

一、社團法人日本建築協會に於てサンマーハウスの設計圖案を募集す

二、應募設計要件

1. 位置　海邊、山上、丘上、林間其他任意とす
2. 敷地　百坪以內
3. 建坪及仕要室　二十坪以內とし、室數、室大さ等任意
4. 構造　木造平家建たること
5. 建築費　可成經濟的に施工出來ること

三、應募圖面及書類

1. 平面圖　百分ノ一
2. 立面圖　二面以上百分ノ一
3. 透視圖　添付は任意たること
4. 簡單なる仕樣書又は說明書

四、圖面は原圖紙へ墨仕上げとし、陰影着色等任意たること

五、各圖面並に書類には暗號を附し別に暗號及住所氏名を記したる紙片を封筒に入れ添附すること

六、審査員　工學博士　武田　五一氏　工學博士　藤井厚二氏
工學士　葛野壯一郎氏　本會編輯常務

七、賞　金　一等　一名　金參拾圓　二等　二名　各貳拾圓宛
三等　三名　各拾圓宛　選外佳作　數人　粗景呈上

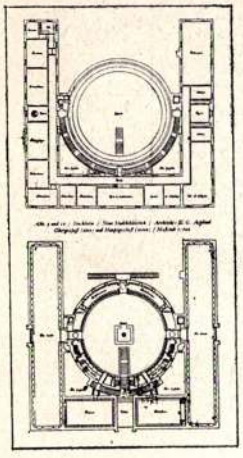
八、締切期日　昭和四年四月十日

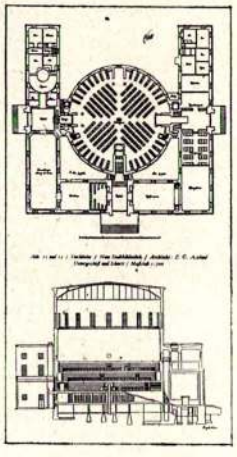
九、審査及當選發表　本誌五月號にて發表

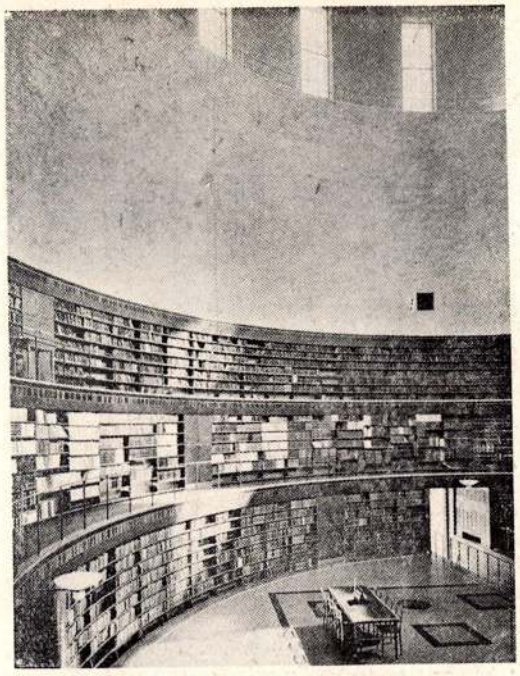
十、應募圖案は還附せざること

十一、應募圖案發送宛名
大阪市西區土佐堀通一丁目
大同生命ビル日本建築協會編輯部宛





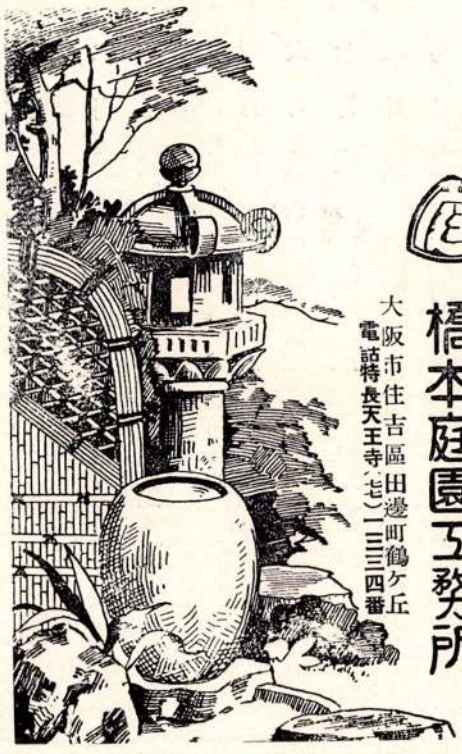




瑞典ストツクホルムの新市立圖書館 (2)
設計者 E. G. ASPLUND

(1) 書庫へ通ずる階段室 (2) 書庫 (3) 最高部平面
(4) 主階平面 (5) 下階平面 (6) 斷面

切取線



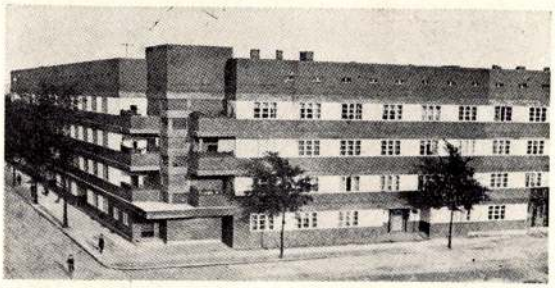
庭園
設計と施工

造庭學上の新智識を實地に應用して經驗を積む事十餘年
獨特の技術と從業職人の訓練と優秀な設計と完備せる施工

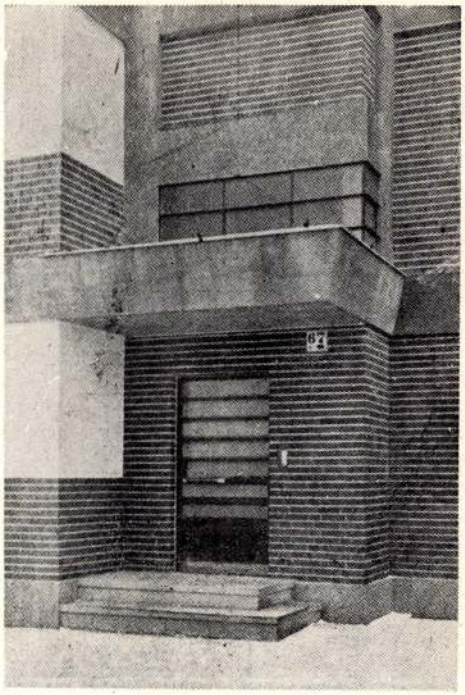
和洋庭園築造請負專門
創業大正五年我國唯一　設計と施工案內進呈

橋本庭園工務所

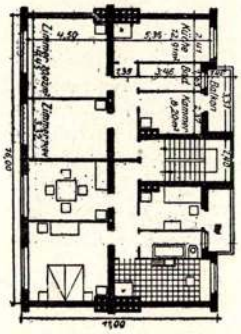
大阪市住吉區田邊町鶴ケ丘
電話特長天王寺(七)一三三四番

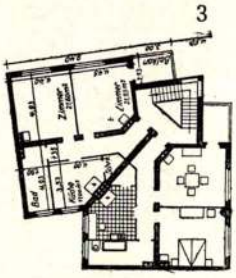


1



2





3

獨逸伯林リヒテンベルグの共同住宅（1）
1 ビスマーク街の外觀 2 隅入口詳細
3 一階の標準平面二種

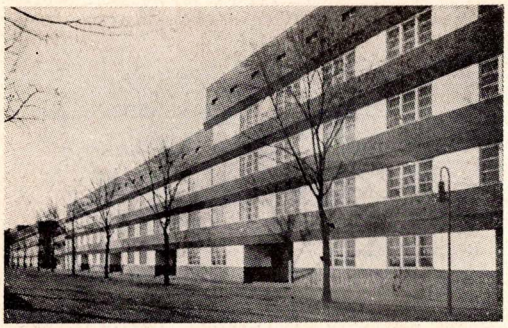
切　取　線

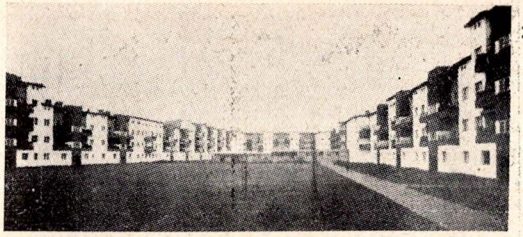
昭和四年度『建築と社會』特輯號廣告

二　月　號　震災豫防號（既刊）
三　月　號　レストラントとカフエー號（既刊）
四　月　號　鄉土建築號（既刊）
五　月　號　小住宅と室內裝飾號
六　月　號　都市問題號
七　月　號　浴場、浴室研究號
八　月　號　貸家建築とアパートメント號
九　月　號　商店建築號
十　月　號　林泉と庭園號
十一月號　照明、暖房、衞生研究號
十二月號　防火建築とビルヂング號
一　月　號　昭和四年建築大觀號

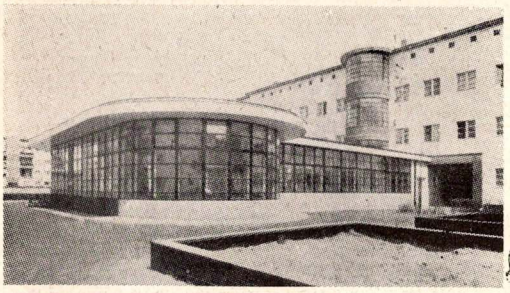
以上の如く主題目を定めて特輯致します幸ひ現在の所は好評を博して居ります、どし〳〵會員諸君の御投稿を冀ひます。原稿締切は其月の十八日です。

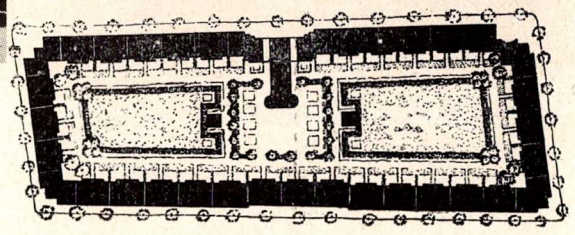
建築と社會編輯部


1


3


4

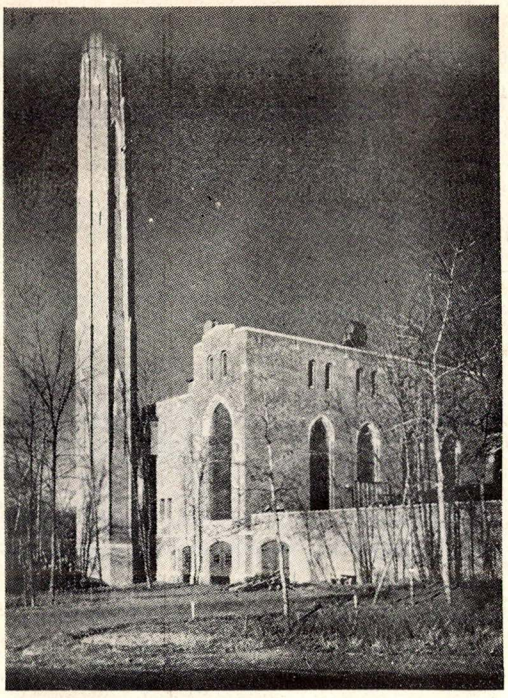

4


5

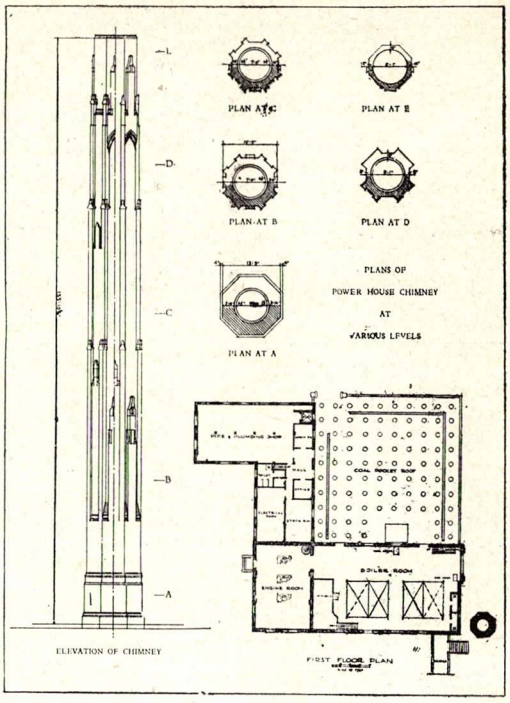
獨逸伯林リヒテンベルグの共同住宅 (2)
設計者　ERWIN GUTKIND
1 街路正面 2 中庭の運動場の小供室
3・4 中庭に面せる外觀 5 配置圖

切取線

絕對變色セヌ
セメント着色劑
英國製　パーフェクチン
一、普通の灰色セメントは勿論石灰、ドロマイト
プラスターも自由に着色し得て日光風雨の爲
變色の虞れなし
一、混合量は極めて少量にて充分着色し得る故に
セメントの効力を損せず
目下東京大阪の大都市に於けるコンクリート建築の外部着
色及內部の塗裝用として非常なる御賞贊と御用命を賜り居
れり
輸入發賣元
灰久本店
大阪市東區備後町一丁目
電話本町貳五參番
型錄見本進呈



米國ニユー、ハンプシヤー州
セント、ポールス、スクールの汽罐室と動力室
設計者　CHARLES. Z. KLAUDER



『セメフアルト』製品に就て

「セメント」製品又は釉藥を施さゝる燒成「ブロック」類は其硬化に當り必ず分子間に微細なる空隙を生じ水分は毛細管引力の作用に依り其空隙に浸入す故に(常に濕氣を帶び)一旦零度以下の寒氣に觸るゝ場合あらんか其水分は氷結して容積を增大し其結果破壞剝落又は風化して損傷す是「セメント」製品又は燒成「ブロック」類の一大缺點なりとす

「アスファルト」製品は溫度に依り强弱の變化甚しく冬季には相當の力を有すれども一旦强壓を受け又は夏期の暖熱に遭遇せんか著く强靱性を失ひて崩壞し易し

「セメフアルト」製品は或特殊の方法に依りて硬化せる「セメント製品」又は燒成「ブロック」中の分子間空氣の存ずる微細の空隙に「アスファルト」溶液中の可溶分を充塡せしめたるものなれば絕對に水分を吸收せず從て寒氣に依りて生する破壞、剝落、風化も亦絕對に起らず加ふるに既に「セメント」硬化力又は燒成工程の爲め充分の硬度を保たしめたる製品に粘性彈力ある「アスファルト」を注加することにより溫度又は壓力に依る强靱性の變化無く寧ろ一層の耐久力を增大す即ち「セメント」製品又は燒成「ブロック」の缺點を「アスファルト」に依りて補ひ『アスファルト混合製品』の缺點を「セメント」又は燒成工程によりて補ひたるものなれば「セメフアルト」製品は實に鬼に鐵棒式の完全優越したる製品なり

今左に比較對照表を揭げて其優劣を示す

比較對照表

區別	名稱	セメント製品	アスファルト混合製品	セメフアルト製品
吸水量		多	微量	絕無
磨滅性		少	稍多	最少
耐壓性		强	弱不同	最强
衝擊性		弱	强	最强
彈力性		無	大	大
溫度に依る强靱性の變化		無	甚大	無

營業品目　「セメフアルト」瓦　「セメフアルト」ブロック　「セメフアルト」スレート　「セメフアルト」タイル

大阪市西區京町堀一丁目四十番地(電土佐堀五八〇番)
工材社
長尾薫
阪口芳三郎

ランファン (二)

都市計畫家銘々傳の(六)

藤田進一郎譯

八 建築法規

地價の騰貴を望む地主らは、建築法規の制定を、大統領に一任しいろ〳〵の『制限や條件』を書きつらねたものが、ワシントシ大統領の名によつて『宣告』された。すべての家屋の外壁及び隔壁は、煉瓦または石造たるべしといふのが第一條、いかなる家屋も、屋根に至るまでの高さは、四十フィートを超ゆべからず、三十五フィートを下るべがらずといふのが第三條である。しかし、かうした制限は、大に家屋の建築を妨害することがわかつたので、一七九六年大統領は、一八〇〇年十二月まで、これが實施を延期し、さらに、一八一八年永久法となるまで再延期されたのである。

この建築法規から案ずるに、ちやうどイギリスや、その殖民地の都市のやうに、家屋を軒並に連續し、列をつくつて建築させようとしたものらしい。何ゆゑ西部地方の都市を、急激に發展せしめたところの、一軒づゝ自由にかけ離れた木造の家屋を建てさせなかつたか、多分それは、首都の建築としては、あまり見榮えがなさすぎるとでも考へたからであつたらう。

九 混沌たる行政

メリーランド、ヴアージニア兩州の法律のうちに含まれた住宅法は國會が司法事務をとるやうになるまでは有効であり、首都建設委員會はメリーランド州から建築物の取締、土地證券の記錄等に關する權力を與へられてをり、また、首都所在地の郡が一八〇〇年までは徴稅と道路修築との權利を揮ひさらに市がまだ全體して法人とはなつてゐなかつたので、行政當局が二重三重に入り亂れ、複雜混沌を極めてゐた。これは、合衆國政府が、海軍用の敷地を、首都建設委員會から買ひ受けねばならなかつたのをみてもわかる。

一〇 首都の父

ワシントン大統領は、國父(pater patriae)であると同時に、都父(pater urbis)でもある。首都をワシントン市(City of Washington)と名づけたのは、國父に對し、同時に都に對して最高の敬意を拂つたものである。首都建設についてのワシントンの効績には、眞に沒すべからざるものがあつた。かれはその正確な地位と、面積とを決定し、設計者を選任した。

かれはまたその不斷の努力と、練達した識見とをもつて、最も困難なる最初の十年間を、無事にきりぬけたのである。人々の意見の杆格を調停し、部下を使用するのに獨特の才能をもつてゐた。かれの理想と先見の明と、最上級の行政手腕とがなかつたならば、ランファンの夢想も、あれほどまでには、實現されなかつたかも知れない。ワシントンはランファンの計畫に修正を加へたこともあつたが根本においては、それを愛好し、できるだけそれに忠實であつた。ことに實際的方面は、ワシントンの最も深く關心するところであつた。最初の五年間に、議會の形勢が一變し、折角の計畫をも放棄してしまはねばならないやうな危險もあつたので、ワシントンは委員會に對して、分地の賣却や、印刷物廣告の頒布や、議事堂や私宅の建築や、その他のいろ〳〵の仕事をなるべく速かにとり行ふやうに、絕えずせきたてた。これは一日も早く、最早いかなる變更をもゆるさない程度にまで仕上けておきたかつたからである。この實際的な現實的なワシントンの態度と、その計畫者ランファンの藝術家肌の空想的態度とは、實に鋭角的な對象をなしてゐる。ランファンとしては、事情のゆるす限りのんきにゆつくりと構へ、首都の建設にあ

づかつてゐる私設會社から、低利の資金を借入れて、街路を開築し公共建築物を建築し、公園をつくり、埠頭と運河とを設け、萬事が整頓して、きれいにでき上つてしまつてからにすれば、高價に賣り拂ふことができると考へたのである。これも理由のないことではなかつた。今日大きな面積の土地區劃が、非常な勢ひで發展していつたのも、專らこの方法を用ひたからであつたが、しかし、これには莫大の資本と、確實に保障された市場とを要する。有體にいへばこの首都建設計畫は、元來經濟的基礎がゆるす以上の大じかけで着手されたのであつた。これほど廣大な土地を、かやうに貧弱な資力をもつてやり廻すことは、到底不可能であつたのである。

ワシントン大統領の秘書長ゼツファーソンは、旅行を好み、建築に趣味をもち、新都市の建設には熱心な興味をもつてゐた。いよ〳〵首都の位置が決定されたときには、土地獲得の手段について自分の意見を暗示し、『バビロンがフィラデルフィアに復活』したやうな直角式の計畫や、街路の幅員を百フィート乃至百二十フィートにすることを提議したものである。ゼツファーソンはまたフィラデルフィアの劃一的建築線の『嫌惡すべき單調』を非難してゐたが、パリの高さの制限には贊成であつた自ら計畫のスケツチを描いたり、街路の鋭角交叉に反對したり、さういふ個所においては、いかにして建築物を適應せしむるかなどを研究したりしてゐた。

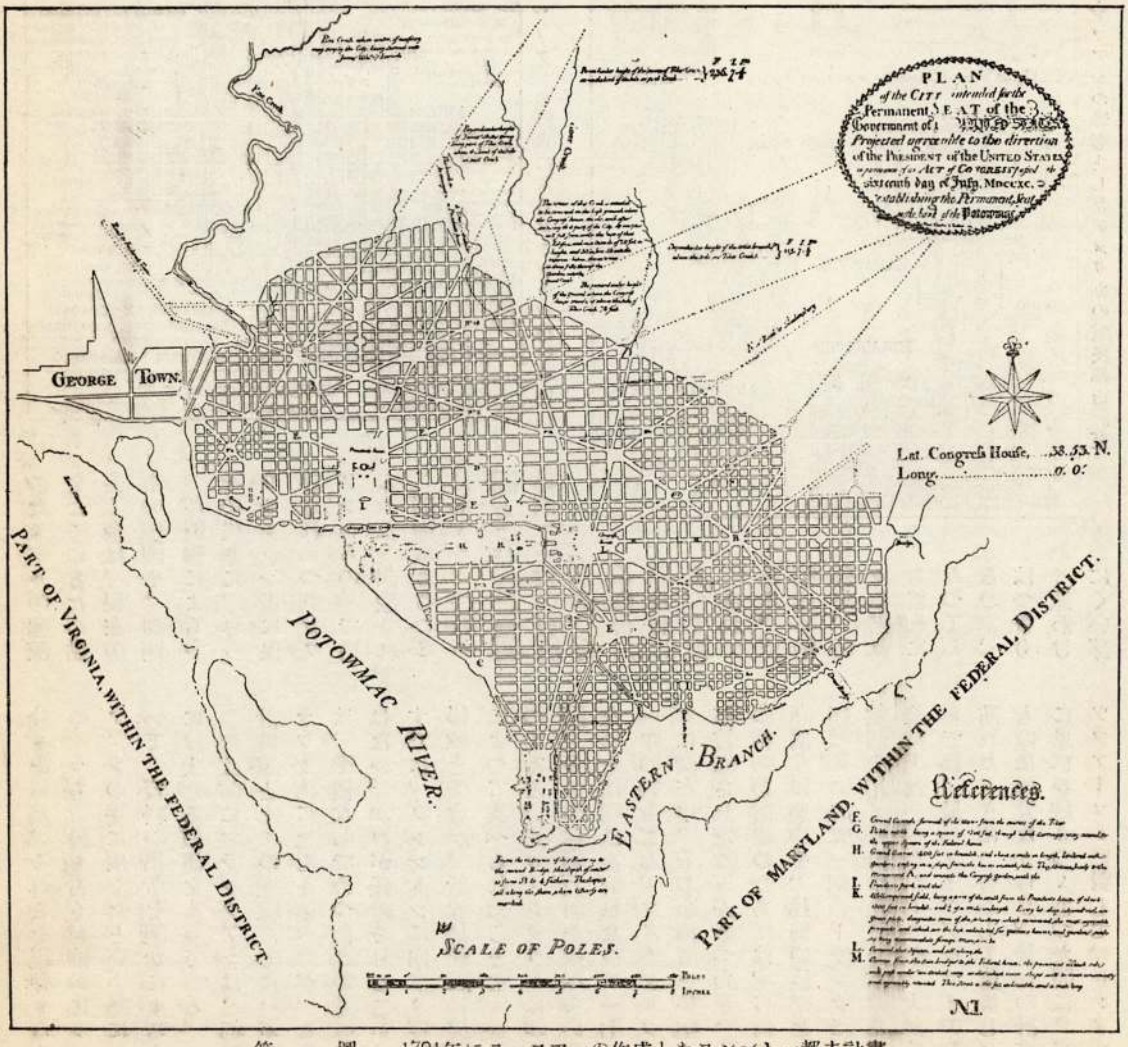
一一 ランファンの生涯

ランファンは、一七五四年八月二日、パリに生れた。父のピエル・ランファンは、ゴブラン織の畫工で、美術院の一員であつた。一七七七年アメリカへ渡來したときはランファンは陸軍技術中尉であつた。戰爭に參加して負傷し、捕虜となつて交換され、要塞築造の勳功によつて、大尉に昇進した。一七八三年フランス政府から三百リーブルの年金を支給され、革命の勃發までは、家族の財産からも相當の收入があつたのである。その後暫らく本國に歸つてゐたが、間もなくまたニューヨークに來り、技師及び建築家として身をたてようとした。愛國的野外劇を仕組み在鄉將校協會のために、紀念メタルを考案したこともあつた。前にちよつと述べておいたフェデラル・ホールを設計したのもこの頃のことである。これはよほど大急ぎの建築であり、豫定よりも多額の經費を要し、結局ランファンは請負人と口論し、市から提供された報酬を不十分としてはねつけるやうな始末となつたのである。それから新首都計畫のため、敷地たるべき聯邦地區（フェデラルディストリクト）の測量を依頼されたのは一七九一年三月初めのことであつた。かれの選任については、何等の條件もとりきめられなかつたのである。ランファンが最初め計畫をワシントン大統領に提出したちやうどその日、フランスから脫出しやうとしたルイ十六世が、捕へられてパリに送還されてゐる。おのが生國におけるこんな悲劇の發生は、ランファンの一身上にも非常な不幸をもたらし、漸く經濟的獨立のできるやうになつてゐたのが、俄かにまたもとの無一文の杢阿彌になつてしまつたのである。一七九一年の終りごろはフィラデルフィアにゐた。そこでかれはエリコツトやその他のものと、相變らず意見の衝突をしながら、計畫案印刷の準備をしたり、公共建築物の設計に沒頭したりしてゐた。ところが一七九二年二月末、首都建設委員會に對して、服從を拒絶したがため、ころ〳〵罷免されてしまつたのである。ワシントンの發意により、報酬として二千五百ドルを提供されたが、かれはそれを受け容れなかつた。その後かれはニュー・ジャーシー州パターソン市の計畫を企て、そこの工場の建築を設計したこともあつたが、かれの考へがあまりに大げさ過ぎるので、所有主たちの贊成を得るに至らず、沙汰やみとなつたのである。またフィラデルフィアでは、ある大建築物を設計したが、依頼者が事業に失敗し、ランファンはたゞ約束手形を頂戴してひつこまなければならなかつた。

晩年は主としてワシントンに住み、議會に向つて以前のかれが奉仕と損失とに對する賠償を請求することに、殆んど毎日かゝりきりであつた。十萬ドルを請求したが僅か三千ドルに値切り倒されてし

まつたのである。一八一二年の戰爭中、陸軍兵學校の敎授を辭し、市の附近の要塞を築造したことは一八一四年イギリス軍隊訪問の際の記錄に載つてゐる。最後の年はワシントン市の郊外に住むある田舍紳士の宅に寄遇し、そこで逝去したのは一八二五年のことであつた。本當らしい肖像畫は一枚も殘つてゐないが、たけ高く、丈夫らしい體格をそなへた、禮儀作法の高尙なりつぱな紳士であつたと傳へられてゐる。

ランファンは、その生涯のうちしばしば他人の不正義から、非常な迷惑を被つてゐる。しかし、その災厄をして、一層堪へ難きものにするあるものが、その性格のうちに內在してゐたことは疑ひを容れない。ジュッセルランドの觀察によると、かれは主要の精神的要素として、途方もない大仕掛けなことを好む癖があり、これが長所ともなり短所ともなつたとあるがたしかにこれは誤まつてゐる。英雄的な空想と、一種不可思議な盲目とは、かれの心中に共存することができたのである。常識からみておつたまげるやうなかれの計畫のうちには、進步向上の熱望がふくまれてゐたが、同時に殆んど不謹愼な、氣まぐれな妄誕にさへも近いものがあつたのである。かれの報告書は、自己の思想について、溢るゝばかりの熱心を現はしてゐた藝術家であるといふ點に、非常な名譽と誇りとを感じ



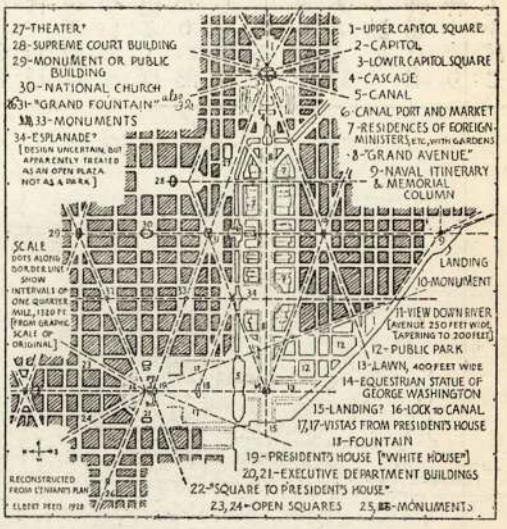
第一圖　1791年にランファンの作成したワシントン都市計畫

つゝあつたである。その一例をあげると、議事堂の位置につき、いかにも尤もらしい理由を述べたてた後の瞬間において、議事堂の建物の土臺から、高さ四十フィート幅百フィートの瀧を切つて落すことを提議してゐる。これをみてもわかる通り、かれは經濟上の問題には、一切顧慮しなかつた。もしかれの自由意志に放任してゐたならば、首都建設のために、アメリカが破產したかも知れない。かれの書いたものをみると、英文にせよ、佛文にせよ、明瞭ではあるが不精確である。ランファンの藝術的想像力は、陸軍技師としての教育によつて少しは拘束されたらうと思はれるが、決してさうではない。かれがワシントンの都市計畫をたてたときは、三十七歲であつたが、建築家としても、都市計畫者としても、殆んど全く無經驗であつたのである。これらの事實を綜合して考へると、かれの經歷および仕事の上にあらはれた醉狂さも、ほゞ理解することができるであらう。

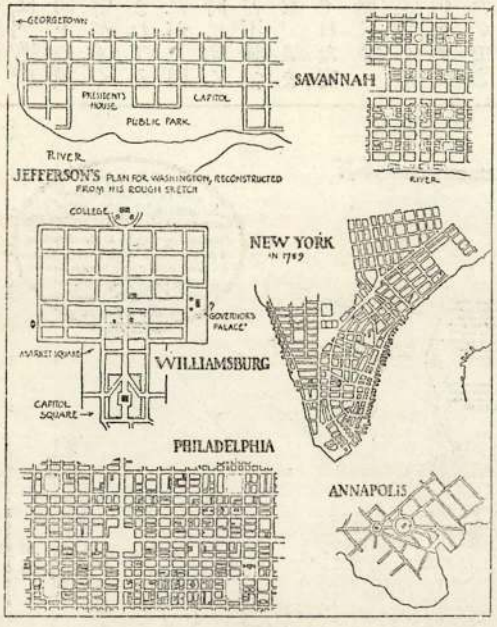
二二　資料の出所

ランファンの思想を產むに役だつたモデルの起源をたづぬるため姑らく余は、現在の市の地圖や、初期の印刷物によらずその代りに、專らワシントン市に保存されかつランファン自らの手で描かれたと想像される圖面によることにしよう。（第一圖および第二圖參照）一枚の石版刷が、合衆國海岸測量會によつて出版されてゐる、原稿は不精確で、所々ちぎれちぎれになつてゐるので、はつきりと見わけにくい部分もあるが、これこそ現存するもの、うちで最も古く、確かにランファンの手に成つたといふ點において、資料の出所を明かにする上に、大なる價値をもつてゐる。

余は前に、ランファンは、都市計畫家としての經驗なしに、ポトマック河にきたと述べたが、これは、準備なしであつたとの意味ではない。かれが任命される二年前すでに、ワシントンに向ひ、實に得難き機會が、新首都建設の提議によつて支へられたことを書き送つてゐる。ジョージタウンにゆく際、多少の參考資料を携へていつたことは疑ひを容れない。一七九一年の終りごろ、フィラデルフィアに滯在中、その事務所と住宅とが掠奪されたことがあつたが、その持物の財產のうちには、書物や高價な印刷物や、建築の模型を一杯つめこんだ一個のトランクと、數個の箱とがあつたといふ。その全部とはいへなからうが、大部分までは、最初フィラデルフィアを訪れたときに、苦心して蒐集したものに相違なからう。最初の計畫に思ひを練りつゝあつた間に、ゼツファーソンに對して、ロンドン

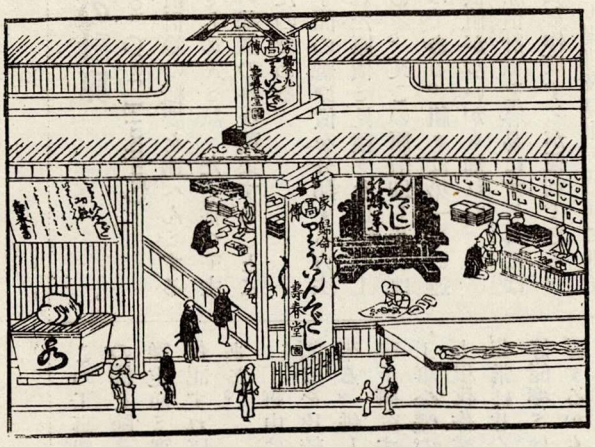


第二圖　ランファンの計畫になるワシントン市の中央部

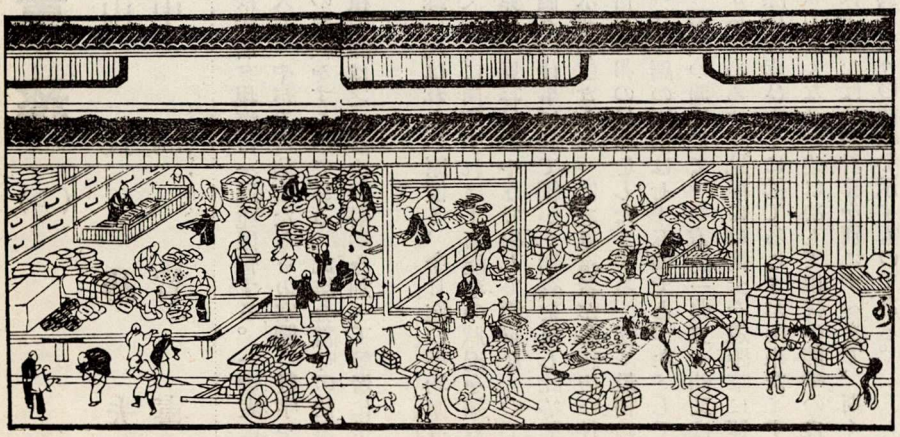


第三圖　ランファンの參考としたアメリカの殖民都市計畫

を含む二三の都市の計畫圖を購入せんことを依頼し、ゼツファーソンは、フランクフオルト、カルルスルーヘ、アムステルダム、ストラスブルグ、パリ、オルリアン、ボルドー、リオン、モンペリエ、マルセーユ、ツーラン、ミラン諸都市の地圖を屆け、ランフアン自らもまた、ロンドン、マドリツド フロレンス、ヴエニス諸都市の地圖を手に入れてゐる、アメリカの都市のうちでも、アンナポリスやサヴアンナーや、ウイリアムブルグや、フイラデルフィアの計畫に注意を拂ひつゝあつたことは、慥かである。(第三圖參照)またランフアンの計畫にある河岸に沿うて埠頭を設ける略圖は、一七八九年に出版されたニューヨーク市の計畫をそのまゝ借用したものらしいしかし余の見るところによれば、ランフアンのワシントン計畫に當つて、最も重大の影響を及ぼしたのは、何といつても、ヴエルサイユの市街並にその附近の計畫と、一六六六年の大火の後に、ジョン・イヴリンの立案したロンドンの復興計畫とでなければならぬ。しかしイヴリンの計畫案は、今日ではすつかり忘れられてしまつてゐる。(つゞく)



古の藥種屋 (順慶町池田)
弘化版 (浪華買物獨案内より)



舊大阪の商家建築 古の藥種屋 (道修町伏見屋)
弘化版 (浪華買物獨案内より)

誌上講座

建築工事の勘定と事務 (2)

由良基夫
中島智喜

第三章 手間原價の計算
(Labor Cost Finding)

本書に於しは建築業者に實用的なる原價計算の概要を述べんとするもので、工事の規模の大小何れにも適用せしめんと試みた。從つて主として將來に利用せられる主要なる原價の基數のみを蒐集することにし細末の工事原價を探究するの事を避けたのである。

本章に於ては各種の仕事に課せられる手間の總原價を分類する方法を述べるのであるが、之は斯くして得られた原價と見積とを比較し工事の實損益を豫想する場合に用ひるのである。又この原價即ち基數は將來に於ける見積の好參考資料となるものである。組立は第一章に述べた時間研究によつて得たる結果よりは價値が少いかも知れぬ。

工事費一覽表 (Cost Schedule) 原價計算を容易にする爲には先づ工事の各仕事を包括する工事費一覽表を作成するが便利である。且各仕事には代表符號を (Symbols) 附して記錄及見出しの便に供することゝする。工事費一覽表は次の各欄より成る。

1	2	3	4	5	6	7
代表符號	仕事名	摘要	豫定數量	實施數量	豫定單價	實施單價

この工事費一覽表は本店と現場に一通宛保管する。一覽表には5と7の欄を除き全部記入し、やがて實施したらその空欄に數字を記入し、豫定額と實施額との比較をするのである。此場合當時の仕事の狀況を併記すれば將來見積の際は之に多少の斟酌を加へて參考に供するのである。

工事中は毎日記錄に現はれたる原價と、今日迄の平均原價及び豫定額とを比較する。又適當に換算すれば工事能率の狀況を知ることが出來る。併しこの換算は一見容易のやうで決して簡單なものでない。能率を研究するには個々の仕事に就て細かく調査をなし此等を綜合して工事全體の能率を求めねばならぬ。例之見積者が各種の條件を調査の上根伐作業一立碼當り一弗の見積をしたとする。扨て最初の一週間は非常に甘く行つて一立方碼の原價は七十五仙であつたとしても決して好能率とは云へぬ。最後の週に於て一立方碼一弗五十仙又は其以上も要するかも知れぬからである。又見積には捨土を遠距離に運ぶ計算にしてあるものが實際には幸ひ近くに捨てることが出來たとする。此場合實施額は豫定額より安くなるが之は決して根伐の能率の良否には關係がない。即ち根伐と捨土は全然計算を別にすべきで、斯く分割して得られた數字こそ眞に夫々の能率を示すものである。

代表符號 原價計算に使用する代表符號は種々の作り方がある。使用者は適當なるものを撰擇すべきである。著者は從來記憶法 (MnemonicSystem) を用ひてゐるが尙外に十進數法 (Decimal System)

ふのがあつて却々好結果を擧げてゐる。

記憶法の特徴は符號を記憶に訴へ熟練すれば一々符號表を見る必要がなく且隨時必要なる符號を作ることが出來るのにある。

一般に推稱せられる代表符號の作り方は大體次の通りである。

代表符號の最初の文字を頭文字で表はし工事項目を代表せしめる。

例へば

B……煉瓦工事　(Brick Work)

C……大工事　(Carpenter Work)

D……根伐工事　(Digging Work

代表符號の第二番目の文字は母音のみを用ひ仕事の性質を代表せしめる。例へば

e……建方又は取付　(erection)

a……下拵　(making)

u……除去又は撤廢　(removing)

代表符號の第三番目の文字は父音を用ひ仕事の場所を代表せしめる例へば

w……壁　(walls)

f……床　(floors)

r……屋根　(roofs)

右の方法により

"Bew" なる代表符號を分解すれば

B=Brick work e=Erection w=walls

即ち壁煉瓦積となる。又、

"Bep" なる代表符號を分解すれば

B=Brick work e=erection p=partition

即ち間仕切煉瓦積となる。

或る仕事を更に詳しく分類せんとする場合は番號又は別符號を追加する。例へば地階壁煉瓦積は Bew に b (即ち basement) を追加し Bewb とし、一階壁煉瓦積は Bew1 として表はすのである。

次に十進數法とは代表符號を數字を以て表はすものである。例へば小數點を界として整數部は工事項目、小數第一位は仕事の性質、同第二位は仕事の場所を示す如き方法である。

設例

整數部(工事種目)

一……準備工事

二……根伐工事

三……混凝土工事

四……煉瓦工事

小數第一位(仕事の性質)

○・一……建方又は取付

○・二……下拵

○・三……取外し

小數第二位(仕事の場所)

○・○一……基礎

○・○二……壁

○・○三……床

○・○四……屋根

右の方法により

四・一三は床煉瓦積

三・二四は屋根混凝土練

三・一一は基礎混凝土打

となる。

記憶法に於ては分類の範圍は使用者の意思によつて定まるのであるが何處迄も詳細に分類することは經費を多く要する割合に効果のあがらぬものであるから相當の處で止める樣考慮すべきである。

元見積を知らしむべき範圍　會社によりては一般現場勤務員に

工事費見積を知らしめない爲に工事費一覽表の第六欄に單價の記入を省略することがある。併し少くとも工事主任及び世話役位には知らしめることが必要と思ふ。之は仕事に對する興味を刺戟し優秀なる成績を擧ぐるに與つて力あるものである。

豫算書は凡て其數量單價金額で充分仕事の出來得る見込のあるものでなければならぬ。徒らに豫定額を切詰める事は現場員に實行不可能なる事を思はしめ損失の豫感を與へ工事の初から意氣を沮喪せしむるものである。之を自信を以て現場に赴くものと比較すると既に意氣の上に格段の差があるものと言はねばならぬ。

手間原價の計算 以上述べし所の工事費一覽表、及び代表符號は原價計算を行ふに必須の準備行爲である。次は原價計算の說明に入る順序である。併しこの說明に就ては著者の縷述を省略し、或る模範的建築會社の制定する社員事務規定中より手間原價に關する部分を拔萃して左に揭げること、する。

× × ×

手間原價の計算に要する帳簿左の通り

一、原價仕譯帳(Cost Jounal)
二、原價元帳(Cost Ledger)
三、分類日記帳(Daily Distaibution Book)

原價仕譯帳及び原價元帳は一般簿記に用ひる仕譯帳又は元帳と同一形式である。分類日記帳は硬表紙附き横開き輪綴りの帳簿である。大さ横八吋縱五吋方眼紙を用ひた各欄は鉛筆を以て隨意現場にて作成のこと。

原價仕譯帳

本帳簿は原價仕譯用に供し每日一頁使用こす。書式の左上隅には午前中の天候こ溫度を右上隅には午後の天候と溫度を夫々記入せよ。中央上部には日附を記入し、各欄は左から代表符號、摘要、總原價、單位原價こする。摘要欄は更に仕事場所、出來高合計、セメント使用數石灰煉瓦數量欄等に細分せよ。

分類日記帳

分類日記帳には賃銀率、出勤時間及び原價の三欄を設く。此帳簿は各代表符號による仕事の正確なる原價を求むるものである。例へば世話役一人土工十五人が根伐に從事し(代表符號はDeg)。賃銀を世話役一時間當り四十二仙、土工を三十仙こし一日中即八時間根伐のみに從事したこするこ、夫々相當欄に記入する事によつて原價欄は世話役の分 0.42×8×1=3.36 及び土工の分 0.3×8×15=36.0 こなる。從つて合計金額 39.36 は其日の根伐に要した手間原價こなるのである。

尙原價欄の次に餘白を設け之に當日の出來高を記入する事こする、例へば本日根伐出來高八十二立方碼こ記すが如きである。

右記錄の結果は之を仕譯帳の同一代表符號欄へ轉記する。仕譯帳の手間總原價はペーロールの合計こ一致せねばならぬ。

仕事の出來高は每日調査記錄せねばならぬ。材料の使用高に就きても同樣である。

工事主任は以上の書類で每朝其前日に於ける仕事の出來高及び各仕事に對する單位原價を知る事が出來るのである。

原價元帳

本帳簿は各原價の臺帳こなるものである各頁は最上部に代表符號を記し單價數量其他の說明を附記する。內容は二欄に分ち一を手間原價の記入用とし他を材料數量の記入用こす。即ち各頁は常に手間別の各仕事の總原價を知る事が出來る。本帳簿は仕譯帳より每日遲延なく轉記せねばならぬ。

手間原價には之に附帶する經費を加算する。職工を他部へ貸與したる時は此手間を請求金として別途に整理するのである。

機械器具は工事の當初と終了の際現品一覽表を作成し本店へ報告するのだ。

數量調査

圖面の變更により數量に增減を生じたる時は工事主任は直ちに本店に通知して單價を訂正せねばならぬ。又工事主任は必要に應じ現場の原價計算係（Cost Keeper）に每週の出來高數量の計算方法を指示せねばならぬ。

× × ×

著者の經驗としては原價計算は時間記錄帳のみで充分分類日記帳の役をさせる事が出來ると思ふ。著者は從來能ふ限り帳簿の數を少なくするを以て主義としてゐる。併し之とても餘りに簡略化することは却つて記錄の目的を沒却することになる。要するに結果に於て大差なき正確さを得べき範圍內に於てなる丈け簡單なる方法を選ぶ事が必要である

時間記錄帳に就ては既に第一章に述べた所であるが之を以て分類日記帳を兼用せしむる場合は少しく記入法を異にするのである。例へば規定の時間外なる時は代表符號と共に始業時間を記入する。職工が終日同一仕事に從事するときは調査符標を記入欄の右上隅及び左上隅に巡回の都度順次記入する。若し一日中に仕事が變つたときは各代表符號に對し割宛てたる時間を記入する。終業後は各代表符號にし夫々時間を計算し原價仕譯帳又は直接元帳へ轉記するのである。

多桁式仕譯帳（Columnar Jounal） 原價仕譯帳及び原價元帳を省略し多桁式仕譯帳を用ひる方法がある。この多桁式は横罫帳簿で作成してもよいが既製品がある。

多桁式帳簿の使用例を示せば次の通りである。

基礎混凝土打

代表符號 Zef

日附	總勞働時間數	手間原價	使用材料 セメント	砂	砂利	打上坪數	備考

右帳簿は記帳さへ正確なれば各欄の合計 常に當日迄の總元價、單位元價及び工手間を表はし同時に其前日との能率の增減を比較することが出來る。

工事週報（Weekly Report） 工事に使用する元價記錄は其方法の如何を問はず每週規則正しく計算の結果を本店に報告せねばならぬ又報告の期間は賃銀計算の期間と一致せしむることを要する。第五圖に示すものは工事週報の一例である。本書式は通常淡紅色の用紙とす。

見積參考 原價計算法によつて得られた原價が見積の參考となることは既に本章の初めに述べた所である。併し之も其の參考となるには自ら或る制限を受けるものである。例へば煉瓦積手間が千個に付き二十五弗の原價を得たとしてもこの原價を以て其儘次の工事に應用することは考へものである。夫れは煉瓦積と云つても種々考慮を要する事項があるからである。即ち壁厚、接手の種類、開口及び隅の數、足場の狀態、煉瓦の撰別、材料運搬の距離等は凡て煉瓦積の原價に重要なる關係を持つものである。

隨つて一般見積の狀態を考へるに見積に際しては左迄極端に分類調査をしないものである。從つて原價調査は殊更に細目に亘つても左程

第五圖　手間原價週報

手間原價週報

工事番號　　週末　年　月　日

報告　年　月　日　　第　號

工事符號	手間原價	今週手間 數量	今週手間 單位原價	材料原價	手間合計	手間累計 數量	手間累計 單位原價	材料累計
計								

……　……　……

……　……　……

の効果がない。むしろ分類を簡易にし煉瓦の例をとつて言えば壁厚、煉瓦遣形、運搬距離、階數位の條件に一定し之によつて原價を求むることが有効である。

正確且制限なしに應用し得る原價を求むる方法は時間研究によるの他はない。時間研究に於ては一つの動作例へば煉瓦積に於て隅の垂直を計る仕事に就てストップ、ウォッチを以て幾度も繰返し調査した上一定の平均時間を求めるのである。從つてこの時間（即ち原價に相當すべきもの）は非常に確實なものとなる譯である。斯の如くして得た基數を多數に蒐集すれば理想的な見積資料を得ることが出來るであらうと思ふ。

第四章　材料の原價計算

煉瓦と混凝土　建築工事に於て各仕事に關する材料の原價計算は比較的簡單なものである。例へば煉瓦工事に於て受渡場所に於ける煉瓦千個の原價は購入契約の時既に決定して居る。此場合注意を要することは入場數と請求書の數量が一致せるや否やを確めることの位のものである。

原價計算に立方呎を單位として使用するときは壁一立方呎に付き煉瓦幾本を要するかを決定せねばならぬ。又之を反對に煉瓦千本を以て幾立方呎の壁を積み得るかを算出してもよい。何れにしても之等に要するモルタルの量を計算し之を使用數量に應じて割當てることが必要である。この割當計算は非常に重要で之により毎日使用するモルタルの調合の適否を判定するのである。

煉瓦工事及び混凝土工事に入り來る材料の正確なる原價計算をする場合セメントの使用量は毎日袋數によつて計算が出來る。併し砂、砂利及び碎石の如きものは其日の內に全部を使ひ盡さぬ限り計算は極めて概括的のものとなるを免れない。斯る材料は入場するとき貯藏槽に入れられ毎日の使用料は手押車（又は猫車）の運搬回數其他類似の方法で

計算するのであるが使用量と入場量とは中々一致するものではない。故に毎日又は毎週の計算を概算とし仕事が完成した時實際と調整することゝする。從つて各工事の材料の原價は最終の計算に係るものゝみが將來の見積に對して參考となるものである。而も夫れは使用數量によつて報告されねばならないので金額で表はしたものは殆んど役に立たぬ。その理由は物價は一般に時と場所に應じて變化するものであるからである。

尤も毎日又は毎週の記錄と雖も能ふ限り正確を得ることが必要で、之により實使用量と豫定使用量との關係を知る事を得るのである。例へば混凝土の調合を一、二、四、とし其の豫定使用量の標準を一立方碼に就きセメント一・三四袋、砂〇・四一立方碼、砂利〇・八一立方碼と定めるとゝ、實使用量が之を上下することによつて調合の不正確或ひは砂利の大さの不適當なることを發見し直ちに調節することが出來るのである。

混凝土床其他　從來の習慣上床及び舖道等の手間は面積（平方呎平方碼、又は一〇〇平方呎）によつて見積るから此等に要する各種の材料も亦同一の單位を使用して居る　但下地と仕上りの材料は區別して計算すべきである。

パラスター及びスタツコ　既製品であるプラスターを使用する場合は毎日仕事の終了後容樽の數によつて塗面坪を簡單に計算することが出來る。この計算から粉末プラスター一噸當りの塗坪面を算出する事が出來る。プラスター、スタツコ等は凡て前述の多桁式仕譯帳により毎日の使用量及び塗面坪を記錄するのが便利である。仕事を下塗り又は仕上げ等に分けて基數を求めることが好資料を得る上に必要である。

大工工事　大工工事に就ては材料で詳細に調査せねばならぬものは殆んどない。大工の用ひる材料は種類が極めて少ない。釘は使ふが之も各仕事に付き使用する樽數を計算し單位當りの數量を求めれば足るので手數を煩はす必要がない。

使用材料の報告　板張、板敷又は野地板張等に於て幾パーセントの利益を生ずるかを研究することは價値あることである。夫れには現場入場數量と使用數量を詳細に比較して見ねばならぬ。

既述の社員事務規定による材料報告の方法は次の如くである。

× × ×

手間原價週報の裏面に次の事項を附記すること

一、當日迄の仕事各部の進行狀況例へば煉瓦積は或る高さ迄積終りたりとか床は幾面坪敷終りたる等

二、各材料を次の如く分類すること。

一、今週中の煉瓦積總數
使用セメント（樽）
同　石灰（樽）
同　砂（立方碼）
同　モルタル顏料（封度）

二、今週中完成の混凝土壁、基礎、柱等
使用セメント（樽）
同　砂（立方碼）
同　碎石及び砂利（立方碼）
同　防水劑（封度）及び其種類

砂利保溫の爲め燃料を要したるときは其種類及び數量を報告すること。

鐵筋混凝土（鐵骨上の床スラブを除く）は數量を報告し工事が完成した時は使用假枠材の總數量、取外し總數量及び再用の概算數量等を記錄すること。

混凝土床及び補強床スラブ（但鐵骨ビーム使用のときに限る）グラノリシツク床、床下地、タコンクリート工事等は每週の總數量を報告し各材料は凡て百平方呎に付き記錄すること（平方呎を用ひず）

プラスター及びスタツコ等は一平方碼を單位として報告すること（平方呎　立方碼を用ひず）

ホロータイル其他の煉瓦工事に屬する材料は一〇〇平方呎單位とし一、〇〇〇個單位を用ひず。

石工事一〇〇立方呎單位とす。

其他凡ての材料は見積中の項目に使用せられる單位に倣つて報告すること。

× × ×

工費現狀報告　工事に就ての財政狀況が一つの綜となつて腦裡に印せらるゝには次の書式に依り手間、材料及び下請契約の總工費を每週作成する事を要する。

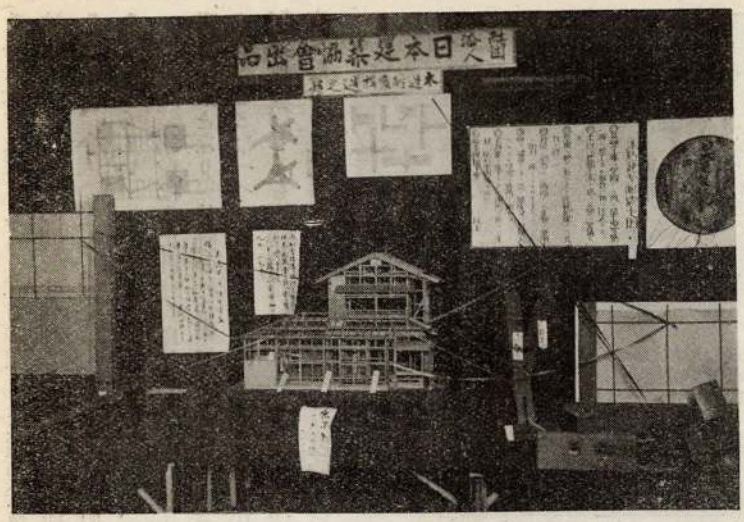
一、請負金額……
二、本日迄の總工事費
　內譯
三、賃　銀
四、雜　費
五、受附請求書（材料）（一式契約を除く）
六、一式契約高（材料）
七、下請契約高
八、合計……
九、控除金
　右內譯
一〇、立替運賃
一一、割戻金
一二、材料振替（追加工事へ）
一三、同（他工事へ）
一四、差引合計……
一五、（一）より（一四）を控除したる金額（工費殘金にして保險料及び利益金を含みたるもの）

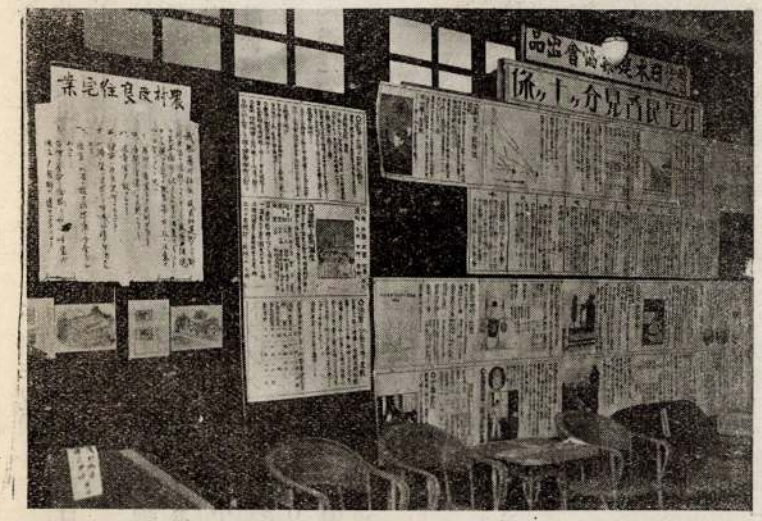
可成（一）と（一五）の金額は本店のみにて取扱ふがよいと思ふ。此報告書の數字は計算係の支拂帳と多少相違する。之は計算係の方では單に下請契約及び總額契約に對し實際支拂つたものを記入するに反し現場では之に附加する諸掛を算入するからである。又（七）の次に今後支拂ふべき材料手間の決定金額を記入すると（八）の金額が增し（一五）の金額が減少する。この殘高は今後支拂ふべき未決定の金額と利益を包含するものである。

本書式は現場で作成の上本店に送附され見積との比較をなし初めて其の效果を發揮するのである。

前號までの揭載

第一章　出面計算
第二章　賃金の仕拂







滋賀縣社會課主催

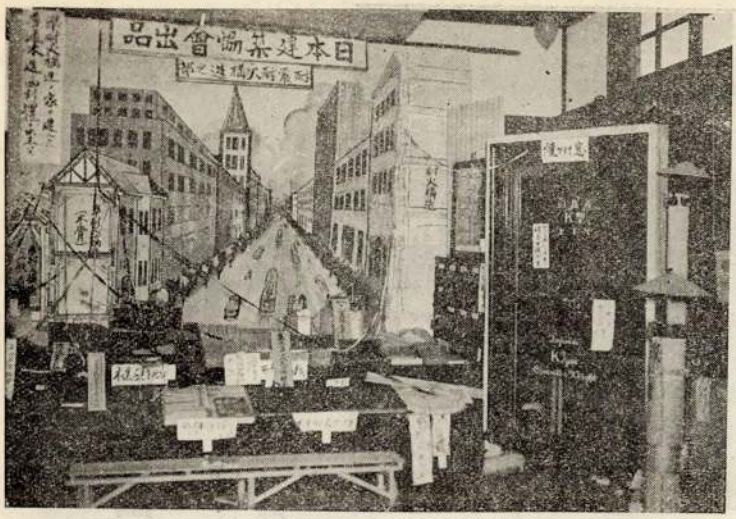
生活改善展覽會に就て

展覽會出品委員
中村義雄

近代文化の發達は都會のみではなく、六大都市を除く都市も、或ひは公會堂建築とか博覽會を開くとかに常に、民衆的な計畫や催物が多くなつて來た樣である。

水鄉の滋賀縣の今回の催は最も機宜を得た催物として、一般から抜きんた傾がある。

現代は個人の力より團體の力となり、商品にしても多量製產となり、販賣は團體販賣と化し、それに依つて起る方法として展覽會なるものが生じ、國產品を一般民衆に展開し批判を受け、改良に改善を加へ良品を最も安價に供給する物產を得なければならない時代である、生活の改善も議論の時代ではなく實行の時代である、生活の



改善は社會政策としても社會の進渉につれて、益々必要とせられてゐるので、今回の催しも此點に力を入れたらしい。

日本建築協會は常に社會改良運動の先驅となり、建築の社會生活の改善をこゝなへつゝあり、今回の展覽會に對しても協賛出品をなす事となり、正式に委員を定め前後三回の委員會に於て計畫を定め、委員長に坪井氏、委員には阪井氏、鹽地氏、山本氏、小笠原氏、中村氏、波江常務、松室第二部委員長ご云ふ陣容にて萬事洩漏なき樣に手配を、大和三宅兩書記をして之に當り、出品の計畫は

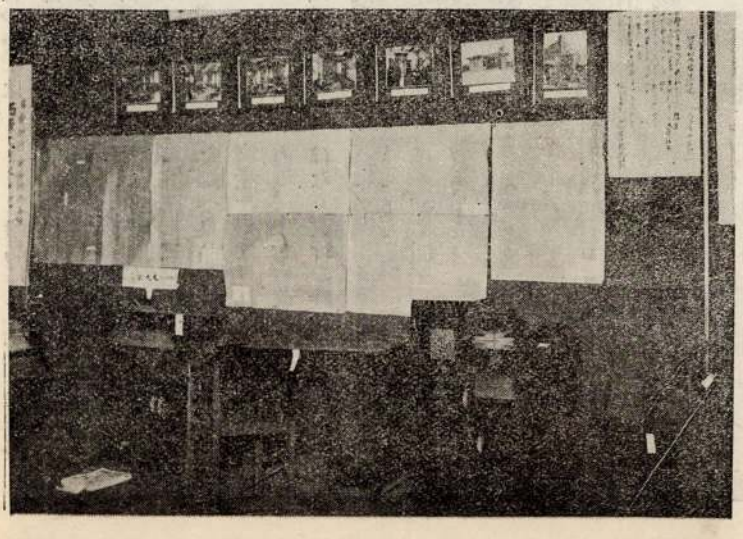
一、木造耐震構造の部　協會
二、住宅良否見分け十ケ條　藤原博士
三、農村住宅改良案　協會
四、耐震耐火構造の材料　協會
五、改良住宅の部
大鐵、市營住宅、小笠原氏、小川氏、
六、改良計器の部
大丸日本鋼鐵家具
七、衛生の部
西原、須賀、城口、SO商會
八、照明の部　みよし電氣

とし全體を日本建築協會出品として開明は三月三日より九日迄で二月の廿八日に雨の中を阪井委員「トラック」に積み込みを指揮し三宅書記同乘大津に送り出し六時搬入をなしたるが會場準備未了且不備の點ありたる爲社會課長に交渉其夜中に陳列場の完成を約す次の一日に全部を飾り付ける豫定にて兩書記大津に泊る、大阪とは近い所であるが土地不案内の爲めに以外に時間を費したるも、阪井委員早朝より小生も十時頃到着陳列を手傳ひそれより坪井委員長も着場の上午後六時頃大體終了した。

會場は大津公會堂木造の二階建で、階段も幅廣く協會の場所も二階の右翼の良い所であつた。

先ず始めに社團法人日本建築協會出品ご日の丸の印の中に書き現はし、耐震手法を施せる木造住宅





の模型と、それに各部分の實物大の模型とを色ごりの「テープ」で引き現はし、バックには其の部分の圖面と木造建築耐震七則を書き並べ、此の耐震構造を施行する場合は從來の建築の一割位增せば出來る等と、これを一般の人々に施行を勸め、

次は呼物の藤原博士の研究「住宅良否見分け十ケ條」と云ふ大きな見出しをして

一、南向きの室を
二、室が明るいこと
三、乾燥して居る家
四、風通しの良い家
五、家の圍りは空地を充分取ること
六、適當なる家の廣さ
七、適當なる設備と間取
八、便所と臺所の設備
九、水質の檢査は家に這る前に
十、周圍の狀況を考ふること

と云ふ十ケ條の各項目に就て繪と表と圖面とを以て、住宅を建てる人は敷地はどこを選ぶか間取りはどうか、採光と通風はどんな設計をすれば最も理想的かと、事細かに書き出し最も人の目を引き、一般の人に覺醒を促し、第三に農村改良住宅の案として、

日本の農村住宅は民衆的建物として野外生活に適應するものであり、米國の住宅に其の平面圖が似てゐることは注意すべきことである、從つてこれが改良する爲めには、

一、居所と寢室とを區別すること
一、居間と食堂とを區別すること
一、兒童室を設くること
一、一階の壁は堅固にして耐震水害を豫防すること
一、寢室は二階に設け水害に際し安全ならしむること
一、臺所の釜爐の燃料を利用して室内保溫の目的を達せしめること
一、便所は改良便所とすること

と記し圖案として二案を發表し睡れる農村の住宅に就て反省を促し、

次に耐震耐火の建築材料は何かそして其の品物はどんなもので如何なる場所に取り付くかを「バック」の繪より引出し、サッシ、シヤッター、金屬天井、瓦、床材料金鋼、煙突、ガラス、扉等實物展覽をなし、その材料は何商店で取扱つてゐるか迄記し

會場を折れ曲り大阪鐵道會社出品の懸賞募集をして集めたる新興日本の改良住宅の美しい色付圖案三點を飾り付け

續いて大阪市營住宅數案の圖面と、これの骨組の耐震構造から、色付をなしたる配景圖迄を並べ中流以下の住宅として比較的安く出來る案を圖で示し、其の上には某所に出來上りたる中流住宅の寫眞を並べて、此の部分を現代に必要なる中流住宅の部とした

會場を再度折れ曲り、鋼鐵製家具の實物に價格まで示したるものを並べ、バックには過去十數年間主として關西方面の中流木造住宅の工費の內譯十數軒を表にて現し並んで理想の臺所圖案を見せ

次は市內某邸某氏設計の耐震耐火住宅の、出來上りたる實例を寫眞と圖案とで示し其の前には、大丸の出品家具を出して、せまい會場を有利に且つ變化あらしめる可く、配置したのである、

終りに衛生の部として、西原、城口、須賀、SO商會の、特意の模型と實物にて、西原氏は淨化裝置を、城口氏は大正便所を、須賀氏は室內の一般衛生設備を、SO商會は改良便所と通風器とを陳列して、最終には「みよし」電氣の照明器具を特別室の如くなし、實際に點灯して見せたのである、

協會以外の出品は滋賀縣の物産が多く、陶滋器類、反物類等にして、改良臺所の實物室とか、婚禮衣裳の部等があつた、

協會出品は量に於ても最も多く人目に新しく、建築と云へばこんな工合に、こんな材料を以てするものであると云ふ事を知らしめたり、こんな注意と設備をせねばならないと云ふことを思はしめた、就中藤原博士の住宅見分け十ケ條と、大阪鐵道の圖案は人見を引いた、これを見る人別けをすると大鐵の圖案は學生、藤原博士のは教育家が、市營住宅と農村改良住宅及び材料は實際家が見たと云ふことである、

開會の日は七千人位であつたが七日間の入場數は八萬人位で、內三萬人は學生であつたとのことである、都會では每日の如く何かの展覽會を見ることが出來て、其見方も人々の頭の中が展覽會化して刺戟も少い樣であるが、大津市の如きは餘り此の種の催もの、少い爲め、都會人に比べて反響も多かつたことゝ信ずる。

會合

○第三部（資料）委員會 各分科會

△日時　二月十八日午後五時三十分——八時三十分
△會場　大同生命ビル、ライオン食堂
□第二分科會
△出席者　主査　中村義雄
委員　河合好吉、白石登喜男
△研究事項　スレートに關する研究
□第三分科會
△出席者　主査　須川廉太郎
委員　古川時三郎、永田三次郎、山田初次
△研究事項　木材に付内地產出の市場品の規格を調査す
□第四分科會
△出席者　主査　下浦光衛
委員　岡織吉
△研究事項　木材、鐵のペンキ塗及木材ワニス塗の材料手間の原價表作製の草案を作る
□第五分科會
△出席者　主査　森本藤吉
委員　糸永文古、藤村愛資、榊原準一
△研究事項　鋼製戸障子の資料蒐集研究をなす
□第六分科會
△出席者　主査　阪井米吉
委員　井上國助、伴秀雄、城口龜吉、須賀藤五郎
△研究事項　手洗器の各寸法に付規格の研究
□第七分科會
△出席者　主査　谷民藏
委員　萩原貞
△研究事項　當分科は建築諸般の機械器具、暖房等施設の研究にして先づ之が順序として電氣的に又機械等に區分し夫々權威ある專門家より研究資料を蒐集し漸次局部的に考究調査することゝす

○第二部（教化）委員會

△日時　二月十九日午後五時三十分——八時四十分
△會場　大同生命ビル、ライオン食堂
△出席者　委員長　武田五一
幹事　小笠原鋤　增山新平
委員　竹田延衛　山本春水
藤枝良一　小西一良
芝田知重　姫野武
△記事
一、本年度第一回の委員會に付事業計畫其他詳細日を左の決通定せり
1事業として講習會、見學をなすこと
2講習會は春秋二期開催とし
春期……青年技術家の講習會
秋期……建築職工の講習會
時期及講習科目等の細目大體擧定す
3見學は適當の時期を見計ひ諸工場及新建築物を見學すること
一、大體以上の方針に依り毎月例會（第二土曜日）を開き順次實行の具體方法を協定することゝす

○二月例會

△日時　二月二十四日の日曜日
△見學　桂離宮及京都御所の拜觀
△晩餐會場　萬養軒（京都四條寺町）
△出席者　桂離宮及京都御所
武田委員長外百四十七名
晩餐會　片岡會長外八十九名
△記事
一、當日朝來寒氣凜烈として時々白雪紛々たるを見つゝ新京阪電車桂驛前に德政委員斡旋により設けたる天幕張休憩所に於て京阪神各地より參加せらるゝ會員を迎へたるに來會者百四十八名を算す
一、總員を三班に分ち、大倉、松室、其他の委員の案内に依り休憩所より約七八丁の桂離宮に到り入門是に於て皇宮警手の案内により屋内と庭園拜觀するものに別れ順次拜觀を了し再び驛前休憩所に歸り晝餐
一、晝餐後一同順次新京阪電車に依り京都に向ひ京都御所を拜觀をなし解散午後晩餐會開會時迄自由行動をとる
一、午後五時晩餐會場萬養軒大食堂に集る會員九十名にして慰勞と親睦と兼ねたる大晩餐會は六時開始さる片岡會長の挨拶、當日の委員長として武田博士の挨拶ありて委員長指名に依り石本氏設樂氏外數名の離宮及御所拜觀に付感想談あり和氣藹々として拍手裡に解散をなす本日は近年稀なる大會合にして從つて委員諸彦の勞を多とするものなり
一、當見學會の委員及委員氏名
委員長　武武田五一氏
委員　德政金吾氏、大倉三郎氏、田中泰一郎氏、坪井誠一氏、波江悌夫氏、松室重光氏、松本儀八氏
古宇田實氏、宮本長治氏

○第一部（法制）委員會總會

△日時　二月二十五日午後五時三十分——九時
△會場　住友倶樂部談話室
△出席者　委員長　池田實
第一分科　主査　小川安一郎
委員　加藤善吉　林豪藏
北垣熊之介
第二分科　委員　竹中景一　前内文二郎
佐藤松太郎
第三分科　主査　今林彦太郎
委員　小川陽吉　和田貞治郎
鷲尾九郎　村上徹一
第四分科　主査　高田利一郎
委員　田中美一　久保田筆雄
島田艮馨

△記事

一、左記本夕の議事に付今林幹事より説明あり

1 各分科主査決定の件
2 各分科會定例日の件
3 分科總會定例日の件
4 各分科調査研究方針の件

一、次て各分科會を開き主査及定例日左の通決定

	主査	定例日
第一分科	小川安一郎氏	第二月曜日
第二分科	高木眞太郎氏	第二火曜日
第三分科	今林彦太郎氏	第二水曜日
第四分科	高田利一郎氏	第一火曜日

（各分科共定例日か休日に相當する場合は一日繰下げのこと）

一、分科總會定例日左の通決定

總會定例日　第三水曜日

一、各分科調査研究方針の件

池田委員長より各分科に對する希望大要

第一分科（都市計畫）

都市計畫に付ては本協會の大重要なる使命に付時機を誤らす可成急き研究されたし

第二分科（建築法規）

時々刻々に起る問題あり故に定例日の外に臨時にも開會研究を進められたし

第三分科（建築士法案）

本件は目下議會開會中に付可成急ぎ調査研究されたく日本建築士會作成の新しき法案による方便ならん

第四分科（工事請負規定其他）

勞働扶助法案の分より急かれたし大綱を作り協會の意見發表せれたし、故に先づ分科にて大綱を作り當委員會總會を經て常務會に提出すること、右に付協議の結果

二月二十七日午後五時半當分科會開催に決定

問題　勞働者扶助法案に付て

一、次て各分科に於て昨年の記錄に依り研究方針を定めらる

一、家屋稅に關する件　村上委員提案

村上委員より鐵筋コンクリートの家屋稅は苛酷なる嫌あり依つてビルヂング協會は當協會と妥協して研究したき希望さへあり、故に一分科を設け研究すべき價値あるものと存すとて種々說明あり委員長其他之れに贊成して

先づ

第一部に於て取扱ふものなりや否を諮り第一部なりと可決

次で第一部に取扱ふものとすれば何分科に於て研究するものなりやを諮り、各分科とも關係あるを以て、各分科より二名選出して臨時分科を設くる事に可決し主査及委員左の通決定

加藤　善吉氏、川口　一二氏（第一分科選出）

前内文二郎氏、佐藤松太郎氏（第二分科選出）

和田貞治郎氏、村上　徹一氏（第三分科選出）

高田利一郎氏、田中　美一氏（第四分科選出）

主査として村上徹一氏

當分科は臨時分科と稱し尙村上主査に於て家屋稅に付充分調査したる上定例日を定め研究する事に決定

一、次に漫談に入り午後九時散會す

○第四部（災害）委員會

△出席者　光安梶之助、池田宮彦、谷田實、落藤藤吉、黒田茂、塘路惣吉、古川豐、林豪藏、青柳貞世

△記事

一、光安委員長より今日迄の經過報告あり次で左記合議す

（イ）二分科を設くるに當り其名稱を強度計算及災害とするか

（ロ）第一、第二、分科とし內容を明確にせざるか

（ハ）二分科に委員を判然と區別するか

（ニ）二分科に對し別々に會合日を定むるや

（ホ）幹事を二名選擧するか、又は幹事二名、主査二名とするか或は幹事一名、主査二名但し幹事は主査を兼任する事を得とするか

右討議の結果（ロ）を採用し委員は誰れも望む問題を研究する事を得

但主査は各問題に付擔當を明にし其問題の研究解決速進を計ること

（ニ）に對してはなるべく同日に開く事毎月七日を定例會合日とし日曜日又は土曜日は繰上ぐる事

（ホ）幹事一名、主査二名、但主査一名は幹事兼務とする事に決定し、選擧の結果林豪藏氏主査に當選す、幹事兼主査一名は前會合決定の通り池田氏とす

一、本年度の研究事項に就て各委員より次の通り問題の提出あり

1 谷田委員

四月中旬東京に於て建築監督官會議あり、二月中に議案題材を集める事になつて居るも、日數無き爲、今日より研究する事は不可能ならんも、會議の時期迄にても宜しきを以て提案題材を當委員會に於て研究ありたし

（主として强度計算に關するもの）

右に就て落藤委員より次の通り註あり

△今年度の會議の題材は去年建築協會にて集めたる改正意見書等を內務省に於て取捨したるものと思はれるに付再び茲にて研究するも結局同一のものならん、故に去年提出したる改正案文を見て、含まざるものゝみを再び擧ぐる事を適當と思はる

2 落藤委員建築構造強度計の標準を建築學會にて以前に發表せられ居り、當協會に於ても標準を定め發表しては如何

3 光安委員

(イ)鐵筋コンクリート構造に用ゆる砂及砂利に含む塵分の檢出方法並に其含有許容量の研究

(ロ)建築法規に示されたる事務所及住宅の床活荷重を遞減する事を當局に提案するの件

差當り事務所建は毎平方尺五十封度住宅は四十封度とする事

右は各種文獻及實地調査により其合理なるを發表する事

(ハ)瓦斯又は電氣溶接に依る鐵骨架構並に鐵筋の接合に關して調査する事

(ニ)耐震計算に用ゆる床の活荷重を事務所、病院、住宅等を毎平尺十封度位迄に減ずる事

(ホ)東京府には高さ二十尺以下の建物に對する風壓は十封度なり、大阪府にても採用せられざるものなりや

(ヘ)風壓に依りて生ずる構材の應力は其許容應力度の三割迄の超過を許す事

4 黒田委員

セメントの製造方法は近來長足の進歩をなしつゝあり、從つて其強度は建築物法規の制定せられたる當時よりも餘程增進し居る筈なり、故にコンクリートの應力を四五キロ以上に增加し、同時に現場施工方法の良否によりて強度に非常なる差異あるを以て最も良き施工方法の指針を規定する事を提案するの件

5 鹽路委員

鐵筋コンクリート構造は其施工方法の良否によりて其強度に非常なる差を生ず、而して現今一般に行はれ居る方法に於て滿足し難きものあり、故に其改善方法を研究し之を一般の指針としたし

次に、三月七日の會議に就て前記各種提案の研究取捨分擔等を三月七日に決定せんとす

但(1)谷田委員の提案に對しては直ちに各自研究し三月七日に持寄る事に決定す。 以上

轉勤轉居

名譽贊助員

武田千代三郎君 靜岡縣ル東郡御殿場町深澤

會員

谷川勝次郎君 大阪市住吉區天王寺町五五 大阪市北區東野田町九丁目大阪高丁樽内大阪工業大學工事場大林組東野田出張所

藤田 茂君 神戸市荒田町四丁目三八ノ五

會員(地方在住)

出浦 高介君 東京市京橋區銀座四ノ一四銀座山口ビル四階 出浦建築事務所

野村 理一君 岐阜市末廣町六八番地

特別贊助員

刀禰 英彦君 大阪市天王寺區眞法院町四九

普通贊助員

森本 文章君 兵庫縣尼崎市外杭瀨高田二ノ一檜垣方

渥美 梧君 大津市下平藏町一四番地ノ二

篠原 實君 大阪市港區鶴町四丁目一七五 大阪市港區船町大日本人造肥料增築現場清水組出張所

倉崎太三郎君 東京府澁谷町神泉三一番地

紹介

第六回全國工業家大會は四月二十一日より三日間、廣島市に開く事となりました。折柄開催中の昭和產業博覽會の懇招により、廣島、吳地方の工業視察を兼ね此地方は未だ充分工業的に紹介されてゐないが、兵器、自轉車、オートバイ、電氣製鋼、冷凍機械、萬年筆、金ペン、足袋のコハゼ、針、コークス、砥石、人絹ゴム(スポンヂ)、染料、鑵詰、酒、炭酸カルシウム等各種興味ある工業に滿ちてゐます。今回は廣島市の工場誘致策の市是に則り、縣市會議所聯合で既に少なからざる寄附金を集め、大々的歡迎準備進行中、定めて從來に比し一層の好成績を擧げる事と確信します。奮つて御出席を願ひます。

期日 四月二十一日(日曜)、二十二日(月曜)二十三日(火曜)

場所 廣島市に於て

會費 大會經費金壹圓。懇親會出席者は別に同會費金參圓

申込期限 四月十五日限り

申込所 廣島市千田町廣島高等工業學校內、第六回全國工業家大會事務所、電話廣島二七〇六、二二九七

事務所 廣島縣廣島市千田町、廣島高等工業學校內

東京 東京市丸の內有樂館社、團法人工政會內

昭和四年三月

工政會理事長工學博士子爵 委員長 大河內正敏

廣島高等工業學校々長 副委員長 川口 虎雄

次第

第一日 四月二十一日(日曜)

第六回全國工業家大會 廣島市偕行社に於て(午前十時開會、同十一時半

閉會）

開會の辭　社團法人工政會理事

祝　辭　內閣總理大臣、內務大臣大藏大臣、陸軍大臣、海軍大臣、文部大臣、商工大臣、遞信大臣、鐵道大臣、吳海軍工廠長、廣島縣知事、廣島市長、廣島市商工會議所會頭

演　說　大會委員長

閉會の辭　大會副委員長

午　餐　同所に於て

講演會　同所に於て（午後一時半乃至同六時）

大懇親會　羽田別莊に於て（午後六時半開宴——會費金參圓）

第二日　四月二十二日（月曜）

工場視察

A班　午前七時　陸軍糧秣廠（廣島市宇品町）集合

1 陸軍糧秣廠（廣島市宇品町）

2 陸軍被服廠（廣島市皆實町）

B班　午前七時半　廣島驛集合、汽車にて海田市町に至る

1 日本製鋼所（海田市町）

2 廣島電氣發電所（吳線坂驛前）

C班　午前八時半　田村工業株式會社（廣島市外三筰町）集合

1 田村工業株式會社製針工場（針部、ゴム部）

2 松浦商店鑵詰工場（廣島市鐵砲町）

3 藤田製綿株式會社（廣島市蟹屋町）

昭和産業博覽會參觀（午後一時より全員）

工業懇談會（午後六時より）

廣島に關係深き酒、人絹、港灣、能率、化學工業等の問題に付き夫々組合又は協會と聯合にて開催。別に同時刻より各同窓會、同業會等隨意開催の豫定

第三日　四月二十三日（火曜）

工場視察

A班

1 吳海軍工廠

2 セーラー萬年筆阪田製作所（吳市二河通り）

3 三宅釀造所（吳市）

B班

1 廣海軍工廠

2 廣島瓦斯電軌阿賀骸炭製造所

3 廣島より汽艇にて吳に至りA班と合併

宮島遊覽（午後一時より全員）

尙吳、宮島間巡洋艦便乘方海軍大臣に出願中、多分許可の見込

工業懇談會（午後六時より）前日と同樣の趣旨により開催

別に前日同樣の趣旨により同業會、同窓會等隨意開催の豫定

特別第四日　四月二十四日（水曜）

學校試驗場參觀（有志、隨意）

1 廣島高等工業學校

2 廣島縣釀造試驗場

3 廣島縣工業試驗場

4 廣島縣立工業學校

備考

一、全國各地より廣島に至る二、三等汽車賃二割引

二、昭和産業博覽會、美術展覽會、先哲遺物展覽會等優待券寄贈

三、市內外電車、バス等の優待券寄贈

四、其他種々寄贈、優待方法の申出あり

寄贈雜誌

電氣評論　每號　其の他

都人士　每號　學士會月報　每號　學士會

建築世界　每號　其の他

朝鮮と建築　每號　朝鮮建築會

セメント界彙報　每號　日本ポートランドセメント同業會

住宅　每號　住宅改良會

建築雜誌　每號　建築學會

工政　每號　其の他

經濟資料　每號　東亞經濟調査局

土木建築　每號　其の他

建築新潮　每號　洪洋社

大阪工業俱樂部　每號　其の他

通俗衞生　每號　大阪府衞生會

帝國鐵道協會報　每號　其の他

工業評論　每號　其の他

電氣學會雜誌　每號　其の他

鐵道軌道經營資料　每號　鐵道同志會

趣味ノ園藝　每號　關西園藝會

土木建築之日本　每號　其の他

工業ト社會　每號　東京工業會

工業　每號　大阪工業會

滿州建築協會雜誌　每號　其の他

庭園と風景　每號　日本庭園協會

圖書室月報　每號　東京市政調査會

大阪工業俱樂部　每號　其の他

エンヂニヤリング　每號　其の他

工業要錄　每號　其の發行所

名古屋工業會々報　每號　其の他

大阪　每號　大阪都市協會

都市問題　每號　東京市政調査會

新建築　每號　其の他

京都の實業　每號　京都商工會議所

都市創作　每號　其の他

木材彙報　每號　大阪木材協會

建築學研究　每號　其の他

ヒ阪土木建築業組合報　每號　其の組合

木材新聞　每號　關西木材商報社

工業新聞　每號　其の他

日本建材新聞　每號　其の他

日本建築士　每號　其の他

東洋建材時報　每號　其の他

朝鮮鐵道協會會誌　每號　其の協會

住　每號　其の研究社

超科學　每號　大阪網島工業會

建築業協會々報　每號　其の協會

建築畫報　每號　其の他

土木建築工事畫報　每號　其の他

工業之大日本　每號　其の他

動力之節約　每號　工場能率增進研究會

役員

會長　理事　評議員　片岡安

副會長　宗兵藏
副會長　理事　高胖
理事　評議員　日高胖
監事　評議員　池田實
評議員　橫濱勉
主計　常務　評議員　德政金吾
同　常務　評議員　波江悌夫
同　常務　評議員　古宇田實
同　主計　常務　評議員　岡部顯則
同　常務　評議員　吉井長七
同　常務　評議員　坪井誠一
編輯　常務　評議員　池田谷久吉
同　常務　評議員　本間乙彥
同　常務　評議員　松本儀八
同　常務　評議員　酒井勇三郎
同　常務　評議員　伊藤幸太郎
評議員　小川陽吉
評議員　大野直平
評議員　大澤幸平
評議員　渡部圭吾
評議員　和田貞治郎
評議員　高田利一郎
評議員　竹内絲
評議員　竹田延朗
評議員　中村義雄
評議員　中島智喜
評議員　村上徹一
評議員　久保田筆雄
評議員　熊澤榮太郎
評議員　山脇友三郎
評議員　八木幸次郎
評議員　前內文二郎
評議員　增山新平
評議員　牧野利秋
評議員　小西一良
評議員　阪井米吉
評議員　芝田知重
評議員　下浦光衛
評議員　姫野武
評議員　樋口辰太郎
評議員　森本藤吉

編輯後記

◇…大阪の「街の氣象家」の言葉通り「奈良の御水採り迄」の寒さが、しと〳〵に忍び音の春雨に入れ替つた頃、第四月號の鄕土建築號が脫稿しました。

◇…編輯子は一月號以來の「發行日遲延の不名譽」を挽回するために大車輪の努力でした。さて、その出來榮へは…

◇…編輯方針を極めた當時は執筆を御願ひする顏振れも大がゝり、題名を豫定したのも廿項以上にも及んだのでしたが、御依賴した先も御多忙、編輯子も手も足も廻り兼ねて此の位で斷念致しました。

◇…一寸こゝで初めの計畫を御漏らせしませう。

執筆御依賴先　武田博士、今和次郎氏
本山大每社長、土屋元作氏、福良竹亭氏、堀居市民博物館長、等諸氏

題目　鄕土建築論說、寺小屋の發達、地方民家史、武家屋敷等

◇…御執筆は得られませんでしたが貴重なる祕書を借して頂いたり、隱れた鄕土建築を御敎示下さいました、今非圖書館長、市民博物館の橋本氏、萱島氏堀江の蒲田氏等に、厚く御禮申上げます。

◇…時代の進展につれ、都市計畫等の犧牲となつて、無慘に毀し屋の手にかゝつて往く運命をもつた、大都市とその近郊の鄕土建築を多少とも後世につたへることが出來れば望の一端は滿されてゐます。今號に殘したところは、機會を見て聚錄致しませう。

◇…先般本會主催で京都御所、桂離宮を拜觀し兼ねて京都で例會が開かれました武田博士の委員長で出席者も百五十名といふ近來にない多數で盛會裡に終りました。

◇…桂離宮の記事は特にこれを熟心に御研究の方に今執筆して頂いてゐますから來月號へ拜觀記と共に載ります、御期待を。

◇…新京阪神新建築集は本月は休載します。

◇…本誌は會員の制作に係る建築を可及的多數御紹介申上げてゐますがまだ洩れてゐます、御面倒でも御通知に預りたい。

◇…本誌五月號の特輯は小住宅と室內裝飾、六月號は都市問題です、御投稿を歡迎致します。

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	五拾錢	貳錢
十二冊	六圓	貳拾四錢

昭和四年三月廿八日印刷（每月壹回）
昭和四年四月一日發行（一日發行）

大阪市港區音羽町二丁目十四番地
發行兼編輯人　鷹取陽

大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷所　大阪活版所

大阪市西區土佐堀通一ノ一
大同ビルヂング
發行所　社團法人　日本建築協會
電話上四二六五番
振替口座大阪三九、九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番
振替口座二二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ振替又は爲替にて前金御拂込被下度候

國産



アスファルト

陸屋根防水用 ブローン
電氣絶緣用 アスフルト

地下室防水用
道路鋪裝用 アスファルト

御參考上
カタログ進呈

日本石油株式會社

大阪市西区江戸堀通三丁目
東京本社 下関 小樽

建築事務所案内

（次第不同）

池田建築事務所

所長

建築士 建築學士 池田實

所＝大阪市西區西道頓堀住友ビル
電話櫻川1144・3724
宅＝大阪市住吉區上住吉町174

大阪市北區曾根崎中二丁目
第一曾根崎ビルディング第四十一號
建築設計監督 小笠原建築事務所
電話北二一五五、二一五六番
建築士 小笠原鈅（てつ）
住所 大阪市此花區酉島町北港住宅二一〇號
電話 土佐堀三二〇四番

大阪市西區土佐堀通一丁目
大同生命ビルディング第八階
橋本建築事務所
建築士 工學士 橋本勉
電話土佐堀九三八番

建築事務所案内

（次第不同）

大阪市西區靱南通二丁目
ユタカビルデイング三階K室

岡部建築事務所

建築士 岡部顯則（アキノリ）

電話土佐堀五三二三番

大阪市東區高麗橋三丁目二八
千代田生命保險建物三階
電話本局二九六四番

横河工務所

工學博士 横河民輔
工學士 松井貴太郎
田中綱

東京市丸ノ内郵船ビルヂング六階
電話丸ノ内23二九八一番
大阪市北區堂島大毎ビルヂング五階
電話北四〇六四番

片岡石本建築事務所

工學博士 片岡安
工學士 石本喜久治

大阪市東區北濱四丁目五〇
電話本局三一三一番

宗建築事務所

建築士 工學士 宗兵藏
建築士 須川廉太郎
工學士 大倉三郎

建築事務所案内

（次第不同）

大阪市西區本田町通壹丁目
住友ビルヂング參階
電話西三四三三番

東京市京橋區南紺屋町
實業ビルヂング五階
電話京橋五六六九番

國枝工務所

工學士 國枝博

東京市本鄉區本鄉三丁目八番地
建築土木
設計監督

眞水工務所

電話小石川三九六三番

建築士 工學士 眞水英夫
工學士 野田六次

大阪市北區眞砂町四十一番地

眞水三橋建築事務所

電話北二〇四一番

松下由藏
早大工學士 太田正之

大阪市東區高麗橋筋二丁目
高麗橋野村ビルヂング六階

安井建築事務所

電話本局二〇七二番

建築士 工學士 安井武雄

神戸市下山手通六丁目七六
電話元町二六七一番

設樂建築事務所

建築士 設樂貞雄
工學士 設樂貞三
支配人 木村梅次郎

國産優良品

パイロット衛生器具

弊所が本邦に於ける斯業の先驅者として大小數百ケ所に施工したる多年の經驗と研究の結果漸次改良を加へたもので構造の堅牢、工費の低廉、成績の良好、地積を要する點なきこと等あらゆる特色を具備せるものであります。

洗面器、手洗器、流し類、和洋大小便器、浴槽等各種、



CW 50 — A

（御申越次第カタログ進呈）

専賣特許 第四二五九二號 新案特許 第四三二一號 第六三五四號 第六四二三號 第六〇七二號

西原式 汚水淨化裝置

我國にて始めて發賣せる組合せ衛生器具にて『持ち送り』『木捻』の類に至るまで全部取揃へ一組になつて居りますが金具類はすべて

合資會社ヤンソン製作所

また陶器類は

東洋陶器株式會社

の特製品で兩々相まつて外國製に劣らぬ優良品を皆樣に御奬め致します、續々御愛用のほど願ひ上げます。

本店 東京

西原衛生工業所

大阪市北區中之島五丁目三十番地 支店

電話 土佐堀 三七七八番

京都市下京區萬壽寺通不明門東入 出張店

電話 下京 一三四五番

營業所 名古屋

建築請負業者案内

（次第不同）

池田勘藏

大阪市北區曾根崎新地
三丁目拾三番
電話 局北一一五七番
北一五〇七番

鑿井工事請負業
日本鑿泉合資會社

大阪出張所 大阪市北區曾根崎町 太平ビルヂング
電話北三七七八番
東京市丸ノ内中通三號
本社 電話丸ノ内（二三）長一八三番
名古屋代理店 名古屋市東區東新町 萬歳生命ビルヂング四三號
電話東一四七一番

和洋住宅專門
白陽工務店

藤田辰三

大阪市北區曾根崎上三丁目三〇番地
電話北一五六二
一五六三

大阪市東區釣鐘町二丁目廿九番地
大倉土木株式會社
大阪出張所

電話東長 自三二一 至三二五
一三一二・六二五〇

建築請負業者案内

（次第不同）

大阪市東區農人橋二丁目十二番地

合名會社 **大阪橋本組**

代表社員 橋本政吉

電話 東一五八〇番 長東一五八一番 東一七五三番

東京市麹町區八重州町一ノ一 八重州ビルヂング四階

東京支店

電話丸ノ内(23)四七八〇番 四七八一番

小倉市大阪町十丁目百廿二番地

九州支店

電話長四三〇番

大阪市東區京橋三丁目七十五番地

株式會社 **大林組**

支店 東京、横濱、名古屋、小倉

營業所 京都、神戸、

工作所 大阪、東京、

特許ORC式テーパー型鐵筋コンクリート造

煙突工事

合名會社 **大阪鐵筋混凝土工務所**

大阪市港區小林町一六三

電話櫻川長一〇八六・二六二二

神戸出張所・名古屋出張所

（カタログ進呈）

大阪市東區横堀四丁目四十三番地

電話本町八三四（本店）

櫻川一六七（工場）

石川屋 岡本工務店

岡本武藏

岡本新次郎

山中茂一

建築請負業者案内

（次第不同）

ペンキ塗請負業

龜谷開作

大阪市北區鶴之町三十六番地
電話北六五四五番

足代（假設）
材料損料
鳶方（手傳）
工事負請業

中新

中川辰藏

大阪市北區曾根崎上一丁目
電話北恩一五三番

東京出張所
東京市神田區猿樂町
貳丁目參番地
電話神田(25)三〇五番

合名會社 **竹中工務店**

本店 大阪區堂島、堂ビル 北長八一〇
支店 東京市丸ノ內郵船ビル 丸ノ內(23)長一二五〇
神戸市熊內町六丁目 葺合 八〇六
名古屋市西區菁原町二丁目 長一八四二
京都市坊城通三條下ル 中二三八六
橫濱市花咲町十一丁目 一八八九
（長窪町關發(三)）

製作所 大阪市港區南境川町 西長八〇四
東京市深川區西平井町 大手二〇四六

△▷
◁□▽

建築請負業者案内

（次第不同）

諸石材販賣彫刻請負業

一手販賣（黃龍石（人造石用）石粉各種 幷ニ 高島産錆色（人造石用）石粉各種 黃龍石材各種）

通名石佐事

熊取谷熊次郎

本店 大阪市東區材木町七九
電話長東一六二六番

出張所 東京市下谷區上根岸四九
電話下谷一三二九番

株式會社

松村組

大阪市東區大手通一丁目二十六番地
電話東（長三一七二番 三一七三番 三五三三番）

東京本社

東京市丸ノ内仲十四號館十二號
電話丸の内（代表）二五五一番 二五五二番 二五五三番 二五五四番

大理石 鐵平石 萬成磨 工事及設計請負

大阪市此花區吉野町二丁目一六

合資會社

山田大理石製作所

電話土佐堀四三四二番

長尾新太郎
池上喜三信

御用ノ節ハ電話ニテ御一報次第御伺仕可候

藤木工務店

藤木正一

大阪市西區小林町七十五番地
電話（櫻川）一五五八番

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社 **鴻池組**

本店 大阪市西淀川區傳法町北三丁目壱
電話土佐堀（長二六二・四二一七）二六三・四二一八番

支店 東京市京橋區三十間堀三丁目三
電話銀座（長一九九〇番）一九九一番

製材工作場 大阪市港區池島町二丁目五五
電話西七六八・長一五二三番

合名會社 **有山組**

大阪市東淀川區十三西之町
電話 自宅用 北二〇五〇
營業用 北三〇五一

鐵骨橋梁鐵塔
建築金物請負

合資會社 **駒井喜商店鐵工部**

大阪市港區泉尾町七二番地
電話 櫻川（六五八番）二八八六番

安藤組大阪支店

大阪市北區堂島濱通
一丁目八五番地
電話長北四八四番

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社
佐伯組

本店　大阪市港區市岡町夕凪橋畔
電話特長西一〇九〇番

出張所

福岡市外馬出上町　電話長二二四二番
大分市南新地　電話長三七〇番
熊本市相撲町　電話長三九四番
小倉市中島町　電話長四〇六〇番
宮崎市宮田町　電話長六一〇番
東京市京橋區木挽町九丁目三三地

大阪市南區高津三番丁三番地
電話長戎二八一〇番

森本建築社

東京支店
東京市芝區白金三光町二五番地
電話高輪八一六七番

合資會社
清水組大阪支店

大阪市西區土佐堀通二丁目二番地
電話長土佐堀（六六六番
　　六六七番

（本店）東京
（支店）横濱、名古屋、京都
博多、京城、大連

大阪市西區土佐堀通三丁目二四

合資會社
錢高組

電話土佐堀（長三四一七
　　三四一八

東京市京橋區木挽町四丁目四

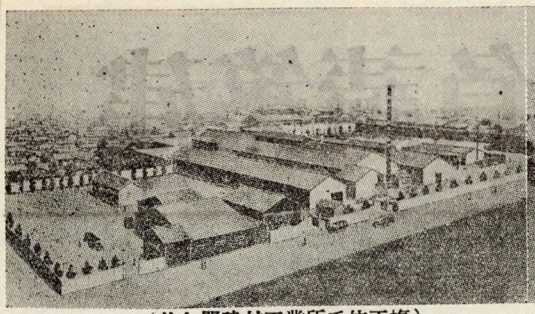
東京支店
電話銀座（四二九二番
　　長四二九三番
　　長二三四七番

名古屋市中區新榮町三丁目二九

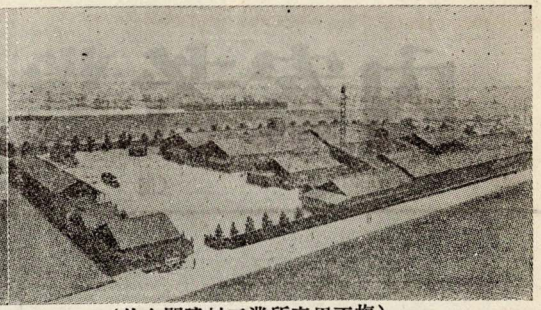
名古屋出張所
電話東三五一八番

横濱市高島町六丁目一二

横濱出張所
電話本局三〇七六番



（佐久間建材工業所千住工場）



（佐久間建材工業所高田工場）

佐久間式マルエス印便利瓦

製造法式　特許第七四四七七號
製造法式　特許第七五六二七號

陸屋根地下室防水材料

佐久間式マルエス印

コンパウンド
パーマネントルーフイング
疊下用紙
建築用紙
フェルト
C印フエルト
ルーフイング

國産として優秀なる

御用命

三菱地所部殿
東京府殿
東京市殿
大藏省殿
文部省殿
鐵道省殿
陸軍衛戍監督殿
清水組殿
大林組殿
大倉組殿
安藤組殿
高橋組殿
戸田組殿
竹中工務所殿
藤本組殿
（其他土木建築界各方面）

久原鑛業株式會社殿
藤田鑛業株式會社殿
帝國ホテル殿
藤倉電線株式會社殿
富士製紙株式會社殿
慶應大學殿
南滿州鐵道株式會社殿



佐久間建材工業所

所主　佐久間榮吉

東京府千住町三ノ三七〇番地
營業所　電淺草五〇〇六番
千住工場　電千住四〇二番
東京府高田町八〇四番地
高田工場　電淺草二五六番

東京工業試驗所報告

品名	抗張力 縱	抗張力 橫	水壓力 氣壓	加曲試驗 丸棒直徑	加曲試驗 廻轉度	加曲試驗 龜裂	試驗時期
佐久間式マルエス印半號ルーフイング	瓩 70·5	瓩 42.9	1.4	糎 0·5	° 180	生ゼス	大正十四年四月二十六日
某舶來一流(A)プライルーフイング	瓩 53.7	瓩 21.8	1.2	糎 1.3	° 180	生ゼリ	同上
佐久間式マルエス印半號ルーフイング	瓩 74.4	瓩 55.9	1.7	糎 0.5	° 180	生ゼス	大正十五年二月十日
某舶來一流(A)プライルーフイング	瓩 80.3	瓩 39.3	1.2	糎 1.0	° 180	生ゼリ	同上

（見本カタログは御申込み次第贈呈）

ノ社進榮

戸火防上捲　シュッサルーチス
類戸鐵種各　機降昇動手



營業所　東京市京橋區南紺屋町十二番地
實業ビルデング三階
電話京橋(56)二、二二九番

出張所　横濱市山下町一八四　岩井ビル
電話本局(2)二、七一四番

神戸市平野下祇園町一二二番地
電話元町　二、七〇九番

合資會社

榮進社

出張所　大阪市北區梅ヶ枝町梅ヶ枝ビル二階
電話北(三一二五)五三五九番
(五八六八)二八四六

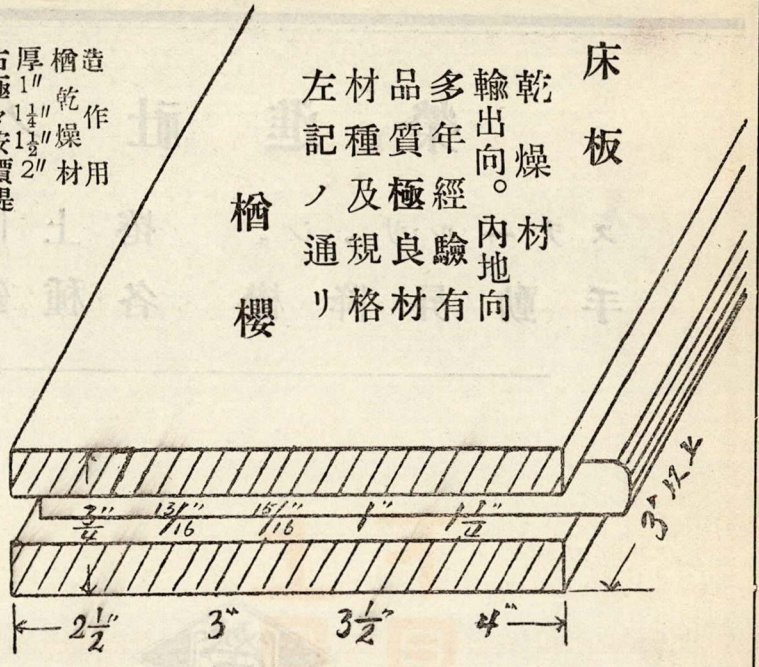
第一工場　東京府日暮里町日暮里三八番地
電話下谷(83)長(一、〇二七番
一、四〇二番
一、四八三番

第二工場　東京府日暮里町大字谷中本二五六番地

床板

乾燥材
輸出向。內地向
多年經驗有
品質極良材
材種及規格
左記ノ通リ

檜　櫻



造作用
檜乾燥材
厚1″ 1¼″ 1½″ 2″
右極々安價提
供是非當店へ
御引合願上候

福原工場大阪販賣店

港區泉尾梅ノ町四丁目
電話櫻川一六七番

小樽市入舟町二丁目三十四番地
福原床板製造工場

電話二七一三、一二三
振口小樽二五六七

大理石工事請負

合資會社
矢橋大理石商店

本店　岐阜縣不破郡赤阪町　電話五

東京市麹町區八重洲町一丁目
丸ノ內十號館五號
電話丸ノ內四六三九番

出張所

大阪市東區北濱四丁目二十二番地
電話本局㊁五三一九

京城府光化門通一九〇



金剛商會

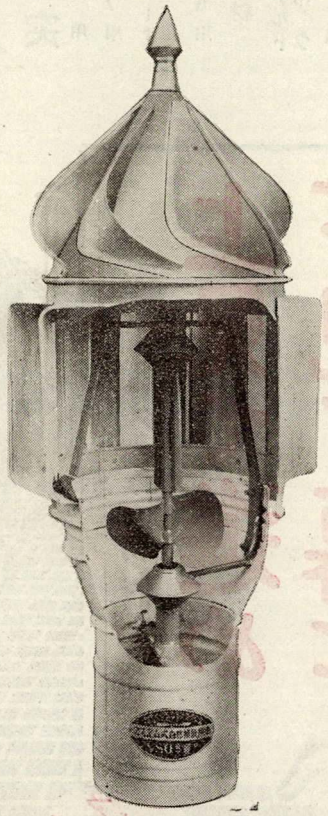
本店　東京市芝區虎ノ門四丁目　電話芝三九三・三九四・三九五
大阪支店　大阪市中區南園町二丁目　電話土佐堀二〇二五・二九四五
名古屋支店　名古屋市中區島町　電話本局一三五一

新案特許

プロペラー　特許　No. 118986
防水裝置　特許　No.　1306

エスエム式自然換氣風車

最新考案特許二件ヲ有スル
理想有効保證ベンチレーター



外側笠ノ廻轉ニヨリ内部吸上ゲプ
ロペラーノ廻轉ニヨリ換氣量ヲ最
大ナラシム

大阪市北區梅田阪急前（第一曾根崎ビル四階）

總發賣元

SO商會工事部

電話北 2155・2156

製造工場　大阪市東野田四番地

佐々木工作所（電東 696）

建築衛生設備設計施工

營業種目

▼水道▲公私水道、ポンプ、屋外給水裝置。
▼防火▲防火栓裝置 スプリンクラーシステム 消防用器具、サイヤーミンスコンネクション、ミニマツクス消火器。
▼衛生▲洋和風浴室、洗面場、臺所、便所、下水道、汚水淨化裝置、塵埃處理裝置。
▼煖房▲蒸汽暖房裝置、温水暖房裝置、熱氣晩房裝置。
▼換氣▲自然換氣、機械換氣、冷風換氣、空氣洗滌裝置。
▼冷藏▲リフリゼレーター。
▼眞空式掃除裝置▲セントラル、バキユーム、クリーニングシステム。
▼右設計工事請負及同機械器具材料製造並ニ輸入販賣

米國スタンダード衛生器具製造會社
米國スローンバルフ製造會社日本總代理店
米國シカゴポンプ製造會社

米國スペンサークリーナー會社
米國ベージボイラー製造會社日本總代理店
獨國ミニマツクス消火器會社

〔創業明治三十四年〕

宮内省御用達

株式會社 須賀商會

大阪東區高麗橋五丁目
電話本局 一一八九三番 一一八八九四五番

支店
名古屋
東京
京都

支店
住吉
神戸
博多



佛蘭西式洋瓦

◎綠色洋瓦　◎黑褐色洋瓦
◎赤色洋瓦　◎各種日本瓦

各種洋瓦の製造販賣
屋根工事の請負

十大特長

實質堅牢　形態合理
色彩優美　重量最輕
葺土無用　凍害絶無
葺方簡易　吸水殆無
製品統一　雪止不要

セメント製瓦にあらず
申込次第カタログ進呈

日本洋瓦株式會社 大阪出張所

大阪市西區堀江通一丁目四〇
（木綿橋停留所前）
電話櫻川一五八番

優良國產屋根材の權威



見本進呈

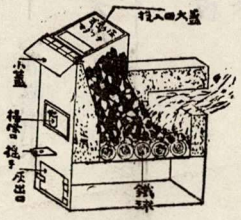
特許 無煙 專賣

動床式風呂竈 鐵球入

長州風呂 各種應用自在 箱風呂

最近御採用先

一住友工作部建築課殿
一三菱造船所建築課殿
一竹中工務店殿工事先
一京大工教授山田氏邸殿
一京大工教授岡本氏邸殿
一工學博士井口氏邸殿
一醫學博士松田氏邸殿
一武川長兵衛氏邸殿
一藤田小五郎氏邸殿
一山本藤作氏邸殿
一高島味淋釀造所殿
一大黒正宗釀造所殿
一株式會社壽屋殿
一府下山崎釀造所殿



用途

長州及箱風呂
製鉛用煮竈
飲食屋竈
染晒沸釜竈
鹽田沸釜
酒造其他煮沸釜竈
酒造其他殺菌竈
工場其他雜用沸竈
錢湯用風呂釜
製茶用竈

發明者燃料研究所長
工學博士 內藤游

燃燒有利ニ關スル工事設計
煤防除

波江野工生所

大阪市北區中ノ島町六丁目六
船津橋停留場東一丁
電話土佐堀七〇三九番

特賣店

株式會社 須賀商會

大阪市東區高麗橋五丁目
電話本局 一八九三番 一一八九四番 一一八九五番

新案

平安瓦發賣元

瓦

佐村木勝吉

品目

各國屋根瓦
各種色瓦
北國瓦
日本洋瓦

營業

土管各種
窯、便器類
葺上及販賣
淺野煙突

地番一十五町木材區東市阪大
（入へ北詰東橋寺寶久）
電話東三六一〇番

檜實剝繼手付

櫻

床板

同上羽目板
同上本寄木

特許第六六〇八九號
伊丹式パーケットリー（簡易寄木）
特許第六五八九一號
伊丹式フローリングブロック
（コンクリート床板上直接張込床材）
三菱合資會社營業課製
南洋產セラヤ材天井板
青森特產檜材根太土臺其他

大阪 伊丹商店

大阪營業所
大阪市西區靭中通一丁目二〇番地（市電信濃橋停留場北へ一丁東側）
電話長土佐堀二四一七番

名古屋營業所
名古屋市西區南外堀町四丁目一番地
電話長本局四五九六番



各省諸官衙指定工場

内外エレベーター株式会社

エレベーター
コンベアー
ホイスト
リフト
一般輸送機械
設計製作販売

神戸市下沢通二丁目
電話長田局一七七一・三七〇七
東京営業所
電話神田(三)七〇三・六〇七

◀工施ニ並賣販▶

耐火リノリウム
セメントプロツク　特許ストンプロツク
ドロマイト　特許ポーラスイ
㊭プラスター　マグネシヤセメント

葛生石灰株式會社發賣
㊭プラスター關西一手販賣元
大阪耐火リノリウム工業合資會社
大阪市西區薩摩堀南ノ町一番地
電話新町四三五九番

カタログ進呈

◀特許坂本式硝子屋根裝置▶

諸官衙・工場・倉庫・撮影所・病院・溫室等ニ廣ク御利用ヲ乞フ
屋根及ビ一般建築物天窓ニハ必ズ

坂本商會大阪出張所
大阪市西區薩摩堀南ノ町一番地
電話新町四三五九番



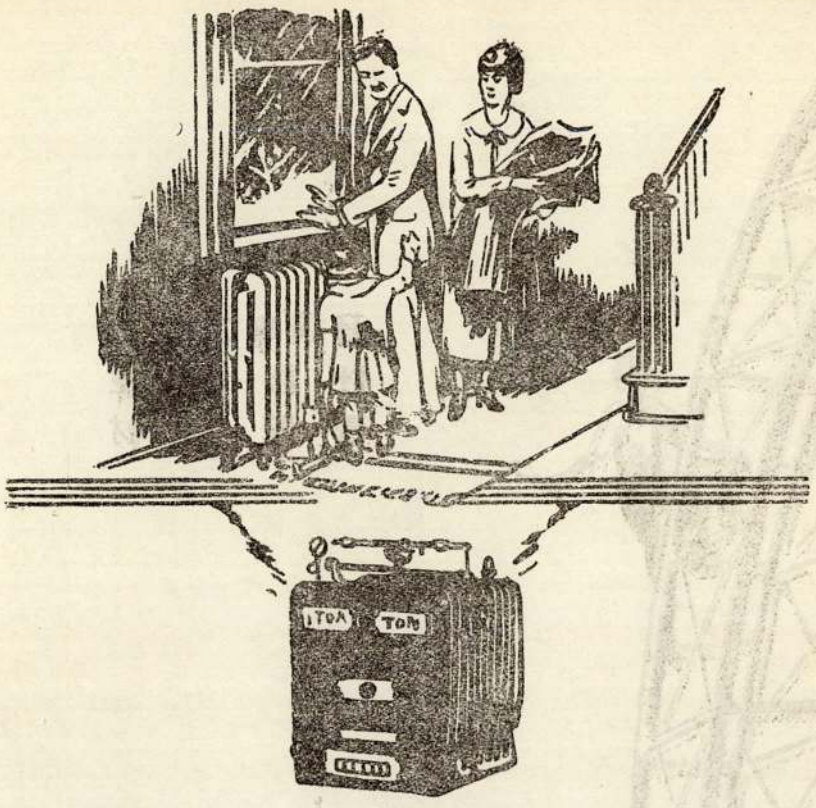
塗裝工事請負
並ニ設計
材料販賣

松本商店

本松壽美主店

大阪市北區宗是町十番地中島ビルヂング内

電話土佐堀二三九一・二一二五・三五〇九番



營業案內

煖房部　煖房、換氣
温濕氣調整
水道、衛生
設計、施工

製作部　各種放熱器
工作用高級機械
汽罐、鑄鐵品
コンベーヤー、リフト、ケーブルカー

株式會社

東亞鐵工所

大阪市此花區西九條濱通一〇

電話土佐堀（一一三七番
（三九六七番

株式會社

東亞鐵工所東京出張所

東京市麹町區丸ノ内ビル八七五

電話丸ノ内（23）一七九六番

ABC

淺野理化學工業所製

アサノソリヂットタイル
アサノソリヂット安全壁
アサノソリヂットスタイル
アサノリノリューム鋪床料

ユニオンアスファルト
小倉アスファルト
內外各種ルーフ井ングス
大連ドロマイト
大明式スカイライト
米國ミシシッピ會社製ガラス一切
網入波形グラス
米國GF會社各種ラス
セロテックス
內外各種ペンキ
其他橋梁材料並ニ請負

（型錄進呈）

一手販賣元

淺野物產株式會社大阪支店

建築材料部

タイルの山本窯業

大阪市北區芝田町

電話北 286. 5610

タイルとテラコッター

東京出張所

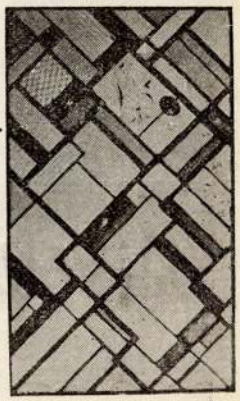
東京市日本橋濱町三丁目一地

(中之橋際) 電話浪速 1978番

ステインドグラス

グラスモザイク

VENUS STUDIO



大阪市東區谷町二丁目五 電東四二二〇

出張所 東京 代理店 京城

ベニス工房

最も進歩せる使い易いプラスター

スタッコ、マンチュリヤ

主なる特長

一、布海苔を要せず、其儘水にて練り塗工す
一、硬度適當なれば音響を反射せず
一、輕くして剝落、龜裂の憂なし
一、純白美麗、顏料にて着色任意、褪色せず
一、施行後水洗ひしても表面を損傷せず
一、價格低廉、御試用を乞ふ

耐火床張リグノイド
工場床張リグコツタ
美術床張マグコルク床
防火防水壁ロックスタッコ
水硬性防火防水壁リソイド
水硬性防音内壁エラスコ
マグネシアセメント

型錄進呈

一手販賣店元 三井物産株式會社

製造元 南滿鑛業株式會社

大阪市港區北境川町二丁目三十五番地

大阪出張所

電話長西三四八九番

玲光社

ステインドグラス
模細工
プリヅム
各種色硝子

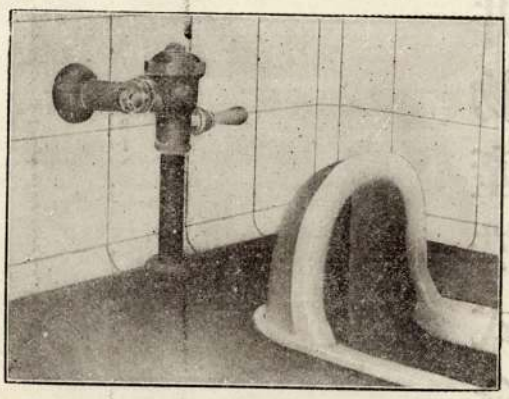
大阪市天王寺區南河堀町
電話 天王寺 七九四

東京澁谷青山南町七ノ二
電話 青山 一八八〇

耶太彌内木
耶三太崎三
太郎瀬廣

辦滌洗所便洗水

ヨネ.フラッシュ.バルブ



定指御課繕營學大國帝京東
可認御所役市都京・阪大・京東

製造發元賣 米本商店

大阪市天王寺區南河堀町二目丁三
電話櫻川三八八〇番

重なる納入先

東京帝國大學　京町堀ビルデング
正金銀行東京支店　太平ビルデング
日本大學　大阪市電氣局
大阪ビルデング　大軌電鐵會社
船場ビルデング　新京阪電鐵會社

大阪造幣局　大寶小學校
灘萬食料品店　八幡屋劇場
三越呉服店別館　兵庫縣立女學校
大阪府知事官舍　名古屋共濟ビル
大阪商船紅丸　京都明治ビル
芦原小學校　滿鐵病院

電燈と電力
照明器具
水道と暖房
機械と汽罐
設計製作
据付諸工事

特約 インターナショナル石油發動機
のぐち式A1型渦巻ポンプ
深井戸用各種ポンプ・ベリル
グライング・マグネット・ニチール

TRADE MARK

合資會社

大阪東区今橋貳十目一三地

オキナ商店

代表社員 小川繁太郎

電話本局一三八九
五九三二番
振替大阪二〇六一一番

布水防用室

下地根屋陸

専賣
許特
富士印
クロースルーフ井ング



本品は純麻織物を主要材料とし無酸乾燥性天然アスファルトを應用し強度仲度滲透壓に於て同種品中最高の記錄を有する合理的にして最も進歩せる

クロースルーフ井ング製造所

工場　大阪住吉
大阪市東區平野町四丁目五八　電話本局五四〇七番

家具と室内裝飾

笹岡家具裝飾店

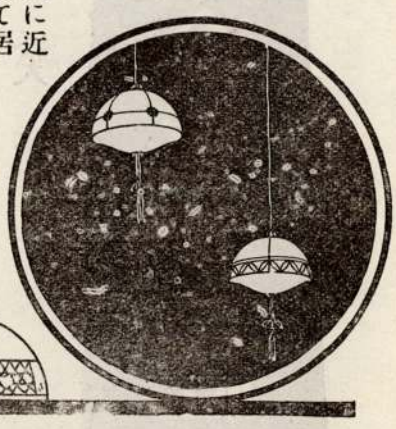
弊店は　眞面目がモットー
皆樣方の使用人

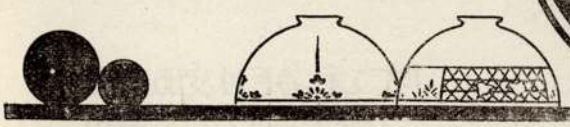
營業所　大阪市西淀川區海老町
工場　一四八五番地
電話土佐堀二九六九番
福ロクロク祿
振替口座大阪七九七三三番

多大の研究と犠牲とを拂ひ新しく生れた

シマダのセレストガラス（晝光色硝子）

本照明用硝子は電灯等に依る通常の人工光線に相等
含んでゐます短紫外線の大部分を硝子に
吸收し硝子を通過致します
光は太陽光線に近
き性質を有して居
ります故に
セレストガラス（晝光色硝子）と
命名し衛生的であり且つ眼に
好感を與ふるのみならず色の
辯別に最も好都合でありまして
實に理想的照明用硝子で
御座います





株式會社島田硝子製造所

東京支店	名古屋販賣所	大阪市内販賣所
東京市京橋區銀座二丁目	名古屋市東區朝日町二丁目	大阪市東區南本町二丁目

製品販賣　工事請負

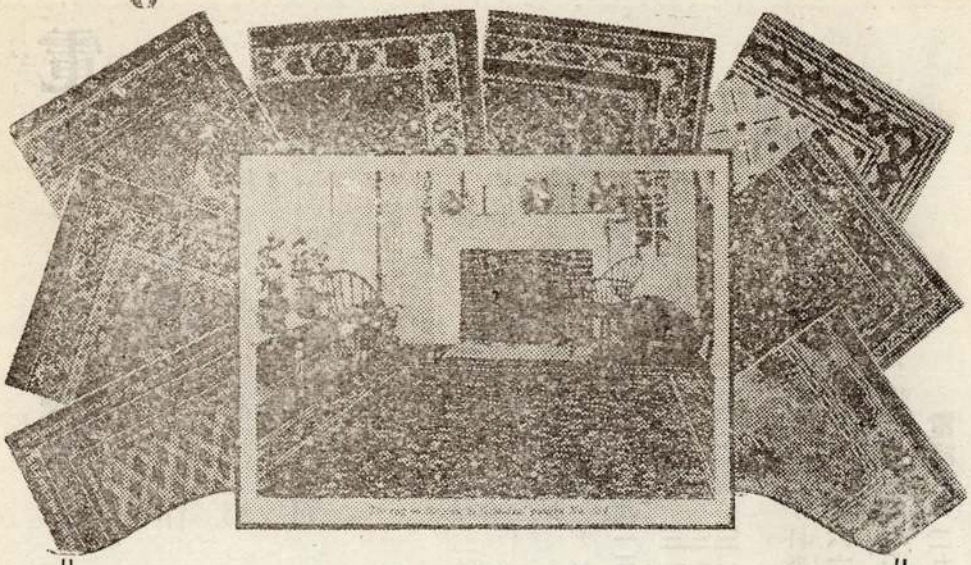
東洋コンクリート合資會社

安價　鐵筋コンクリート土管
ブロックブロック
電纜埋設用トラフ
其他各種製品應御注文

迅速　鐵筋コンクリート煙突
一般土木建築工事
特殊ブロック建築
ブロック塀

カタログ進呈

大阪市西淀川區海老江町
（阪神電車・淀川停留所脇）
電話土佐堀三八三四番



大小色々

模様色合各種

山中支那緞通

寸法並ニ模様
特別御註文ニ應ズ

大阪市東區高麗橋一丁目

山中商會

電力ト電燈

美術裝飾電燈器具製作
電燈電熱避雷針電話工事
設計監督工事請負

淺海商店

營業所　大阪市北區絹笠町九番地
　　大江ビルヂング三階
電話直通　北一五七六番
交換北一二一五番　三一九六番
　　二六二〇番　三一九五番
　　三一九七番

工事部　大阪市北區曾根崎上三丁目卅六番地
　　北六六四二番
東京支店　東京市芝區田村町七番地
　　電話芝(43)二九七〇番

特許

内藤式無煙風呂

浴場設備には
現代の文化的意義を充分に具備せる
内藤式無煙風呂釜を御採用願ひます

特長
下向きに燃えて絶對無煙焚方簡易
にして速く沸く燃料普通風呂釜の
三分の一

（カタログ進呈）

大阪市天王寺區大道三丁目
株式會社　内藤製作所
電話天王寺一〇一五番

負請事工計設量測

大正九年創立

資本金貳百萬圓

日本水道衛生工事株式會社

營業課目

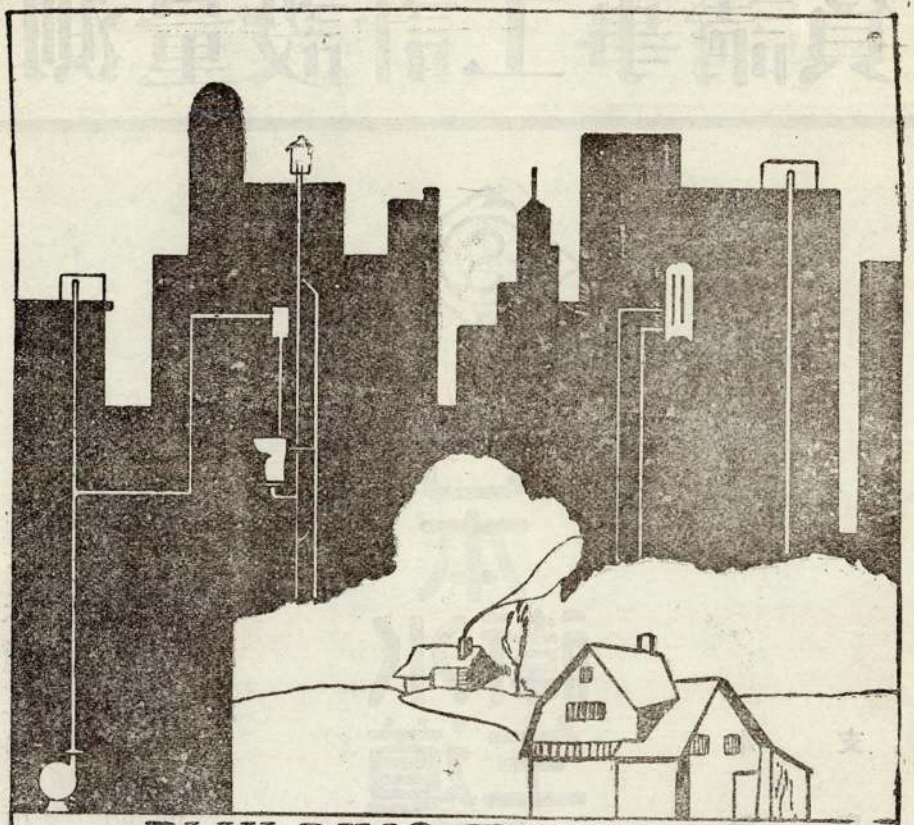
上下水道工事（市、町、村住宅地、官衙、兵營、工場）
水力電氣工事
建築衛生工事（防火、給水、給湯、排水、汚水淨化）
煖房、換氣工事（通風、冷房諸機械設備）
諸官廳ニ於ケル右工事手續代理行爲

電報略號　受信 ニチスイエイ　發信 ニス ヌハニ
振替口座　東京 五一五七五番　大阪 五三七一五番

本社　大阪市東區高麗橋詰町六〇　電話東局 (二)四二二番 四二三番

支店　東京市京橋交叉點第一相互館　電話京橋 (四)〇〇〇一番 〇〇二番

出張所　京都・神戸



都市水道
衛生給水
煖房換氣
防火裝置
特許汚水處理
病院設備

桐田商會

大阪市北區木幡町八二
電話北二七五一番

東京市芝區田村町十五
電話青山五三七五番

内外建築大家御指定品

サーテンティード便利瓦
ルーフィング



日本總代理店
合資會社 デウエット商會

東京市麹町區内幸町一丁目大阪ビル
電話銀座一〇八一番
大阪市東區今橋一丁目帝國ビル
電話本局三七四四番

便所之改善

専賣特許第三二七九八號

大正便所

特長

臭氣、蛆、蠅の發生
跳返、盜難の憂
絶對皆無
現在汲取式の理想的便所

専賣特許第三六七一五號

株式會社 城口研究所大阪支店

城口式汚水淨化裝置

自然

水洗便所必須 清潔、完全、簡易の下水に放流裝置

一般給水衛生工事

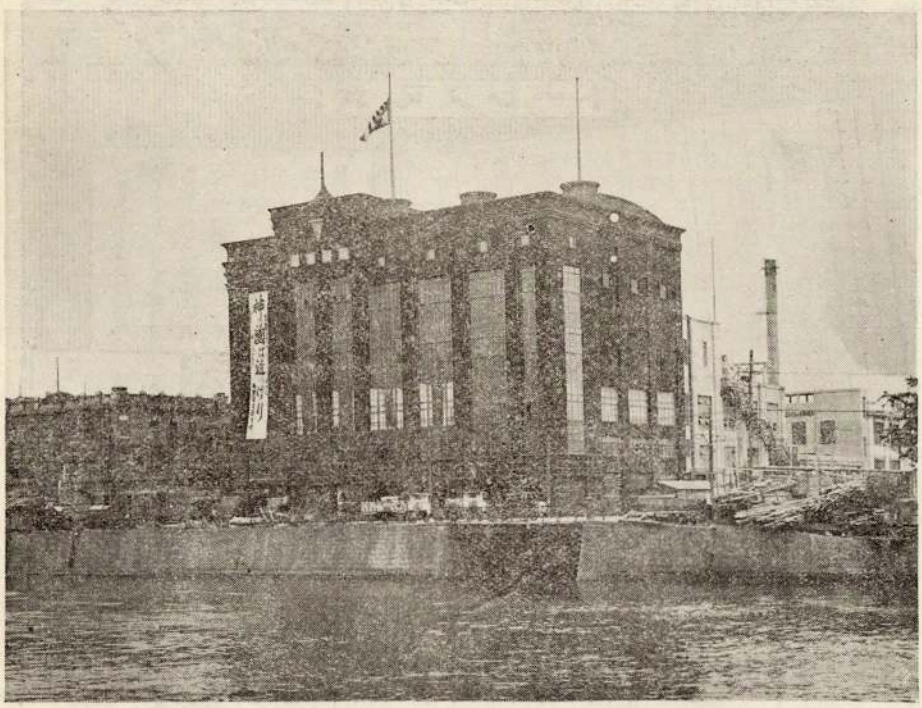
『パームチット濾水器』關西代理店

大阪市北區曾根崎中壹丁目五十七番地

電話北 特長 三二 一九 一五 八六番

本店	東京市神田區千代田町十八番地	電話神田 特長 二二五二番 二二五三番	
出張所	名古屋市西區本町三丁目五番地	東話電	二三〇七番
同	京都市大和大路前佛	祇園話電	四七四二番
同	神戸市三宮町一丁目百十七番地	三宮話電	一六八九番
同	横濱市常盤町五丁目八十一番地		
同	廣島市竹屋町百三十五番地	話電	二八〇八番

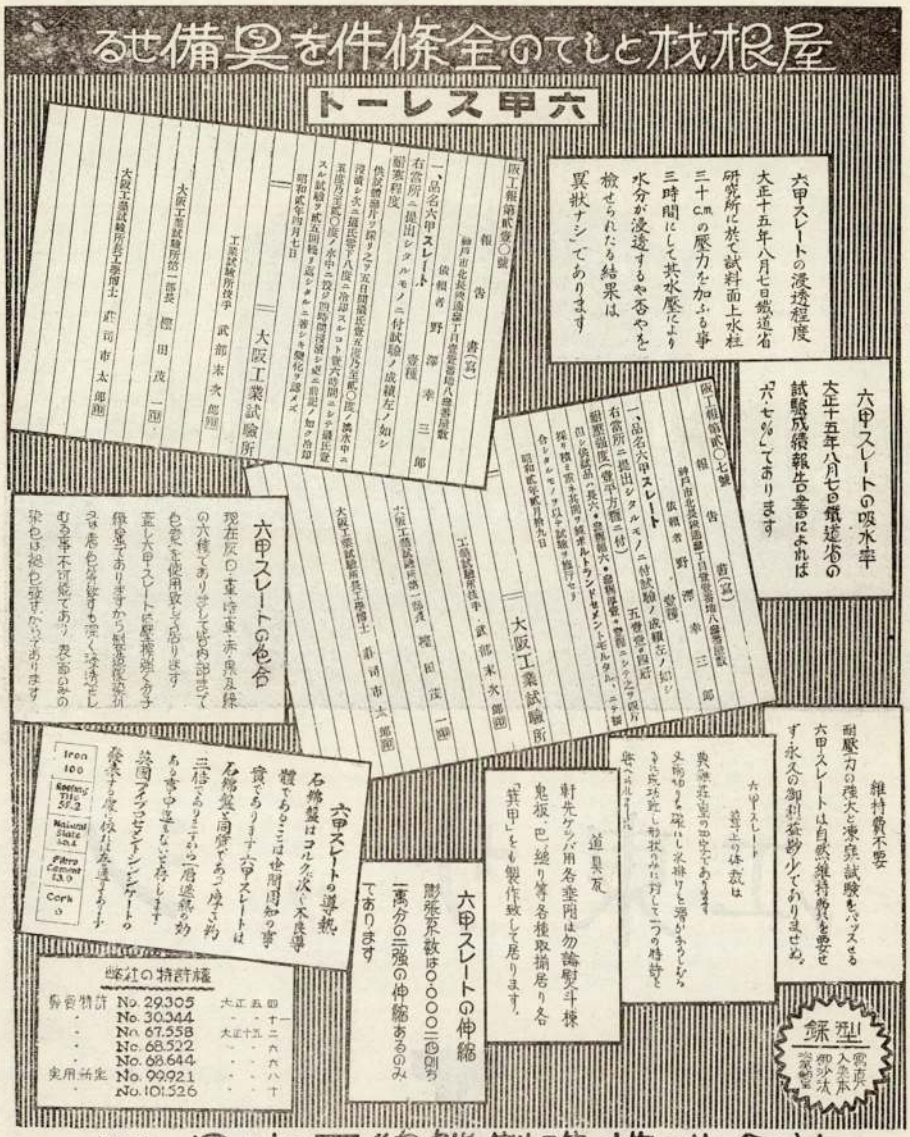
江東サツシ御採用の大阪朝日會館



江東サッシ

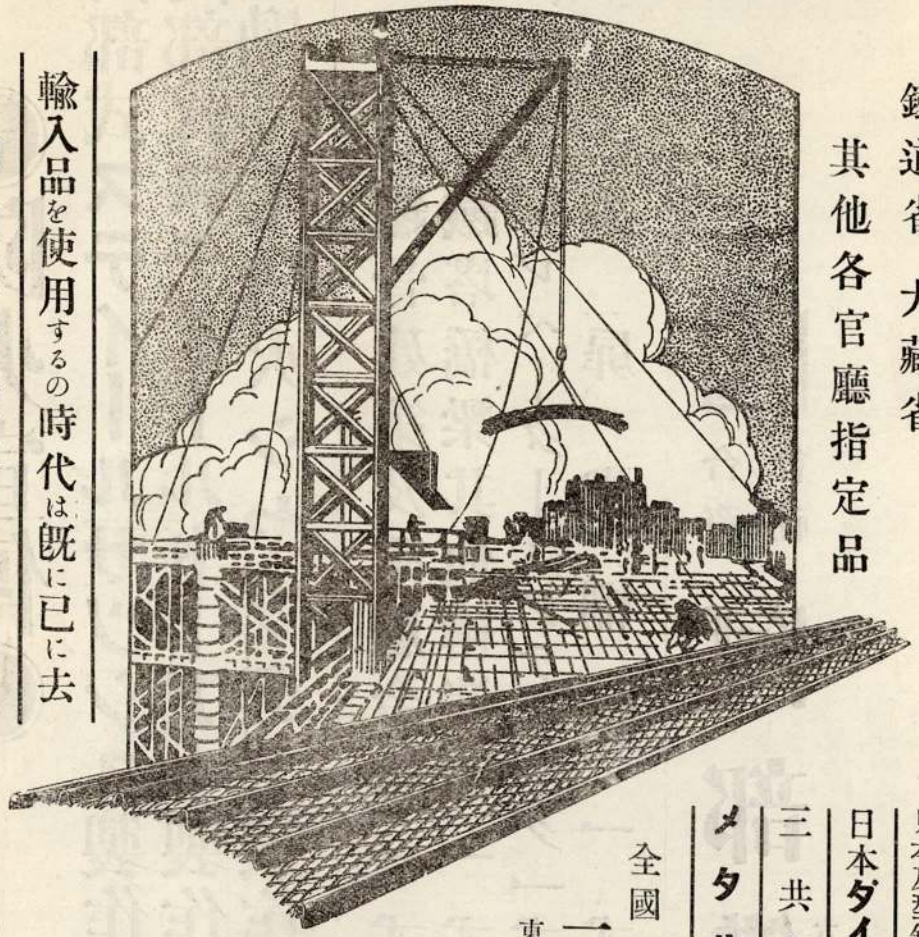
東京・龜戸

電話墨田3138番


屋根材としての全條件を具備せる
六甲スレート
六甲スレートの浸透程度
大正十五年八月七日鐵道省
研究所に於て試料面上水柱
三十cm.の壓力を加ふる事
三時間にして其水壓により
水分が浸透するや否やを
檢せられたる結果は
「異狀ナシ」であります
六甲スレートの吸水率
大正十五年八月七日鐵道省の
試驗成績報告書によれば
「六・七%」であります
報告書(寫)
依賴者 野澤幸三郎
一、品名六甲スレート
一、品名六甲スレート
大阪工業試驗所
六甲スレートの色合
現在反日の重油車・赤・黒及緑
の六種でありますしもの内部まで
も着色を使用致して居ります
茲に六甲スレートに耐酸強く分子
構造緻密でありますから耐酸染料
を以て着色せば強く染着しかも
なる事不可能でありますから着色の
染色は絶対に施さずにあります
六甲スレートの導熱
石綿盤はコルク次ぐ不良導
體でありますが六甲スレートは
石綿盤と同質であつて厚さの
三倍でありますから一層遮斷の効
あり雪中に置くも凍結しません
英國アスベストエンジニアーの
發表せる處に依れば各種材料の
Iron 100
Ebonite 11% 59.2
Natural Slate 10.4
Fibre Cement 13.9
Cork 0
維持費不要
耐壓力の強大と凍結試驗をパスする
六甲スレートは自然維持費を要せ
ず永久の御利益勘少でありませぬ
六甲スレート
道具屋
軒先ケラバ用各種附は勿論聟入斗棟
鬼板・巴・縋り等各種取揃居り各
「其甲」とも製作致して居ります
六甲スレートの伸縮
膨張率は0.0002三四割ろ
一萬分の三強の伸縮あるのみ
であります
會社の特許權
No. 29305
No. 30344
No. 67358
No. 68522
No. 68644
No. 99921
No. 101526
型錄
製造 日本石綿盤製造株式會社
發売 野澤幸三郎商店
神戸 元長狹ビル TD 番6 2830 2831
東京 丸ノ内 丸内3610
大阪 綿業會館 大正ビル内 北 5994
福岡 紺屋町三六 1945
旅館 413 寶泉 803 西洋料理
昭和ビル内

日本ダイヤモンドリブラス

鐵道省、大藏省
其他各官廳指定品



輸入品を使用するの時代は既に已に去れり
切に國産品の御愛用を希上ます

見本及型錄御申越次第進呈

日本ダイヤモンドリブラス
三共・キーラス
メタルラス各種

全國一手販賣店
三共貿易株式會社
東京市日本橋區江戸橋一丁目四番地
電話日本橋（二四八六番 二四八七番 三九九一番

關西總代理店
奥村重兵衛商店
大阪市北區中之島六丁目
電話土佐堀四六一番

製造元
合名會社 **日進製作所**
大阪市此花區四貫島旭町一丁目
電話土佐堀（二八四一番 三一三三番

●防火宣傳●

阿部式スティールサッシュ製作
阿部式スティールドーアー製作
自働捲上防火シャッター製作

鐵骨建築及附屬金物一式
鐵塔橋梁其他構造物一式
エレベーターリフテイング一式
鐵扉、鐵柵類一式

A 合資會社 **阿部鐵工所**

大阪市西淀川區浦江上二丁目五九
電話土佐堀（長一八一四番 三〇〇八一一番 八四一五番）
振替口座大阪四八〇〇番
受信略電（オウサカアヘテツ）

TRADE NKZS MARK M.F.G.CO

ダイヤモンド印

■便利瓦■

■アスファルトフエルト■

◎パーマネントルーフイング
◎アスファルトヘツシヤン
◎アスファルトクロツス
◎アスファルトフアブリツク
◎コツトンルーフイング
◎ビルデイングペーパー
◎ナフタリンペーパー

◆内外各種アスファルト◆

◎日建式耐酸防水アスファルト工事請負
◎天然石綿スレート葺及セメント瓦葺工事

大阪市西區南堀江通三丁目二十七番地
日本建材社
倉庫
電話櫻川二五九九番
振替口座大阪五三〇〇五番
大阪市西區南堀江通二ノ二二
電話櫻川三一二一番

各建築需要家に於て
大好評を博しつゝある



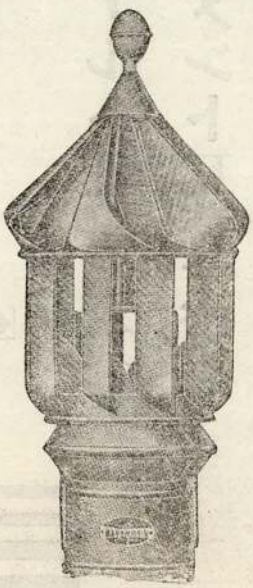
實用新案 第一一六二八五號
眞鍮代用
ユニオン眞鍮巻甲丸レール

特長

一、外見上何等正味眞鍮甲丸レールと變りません
一、他の巻レールと比べて眞鍮巻板を厚板地金を以て被覆してありますから耐久力は永久です
一、値段は他品と比べて半額以下ですみますから非常に經濟的です

是非一度御試用を乞ふ!!

!! 除風器界の權威 !!
!學理と實際に基き製作したる最新式除風吸揚器!


田中式ベンチレーター

營業科目
◉和洋式建築金物
◉ブロンズ眞鍮製建具裝飾金具
◉窓金手摺鐵柵鐵扉類
◉釘針金平浪板諸材料
◉鋼鐵自働防火シャッター

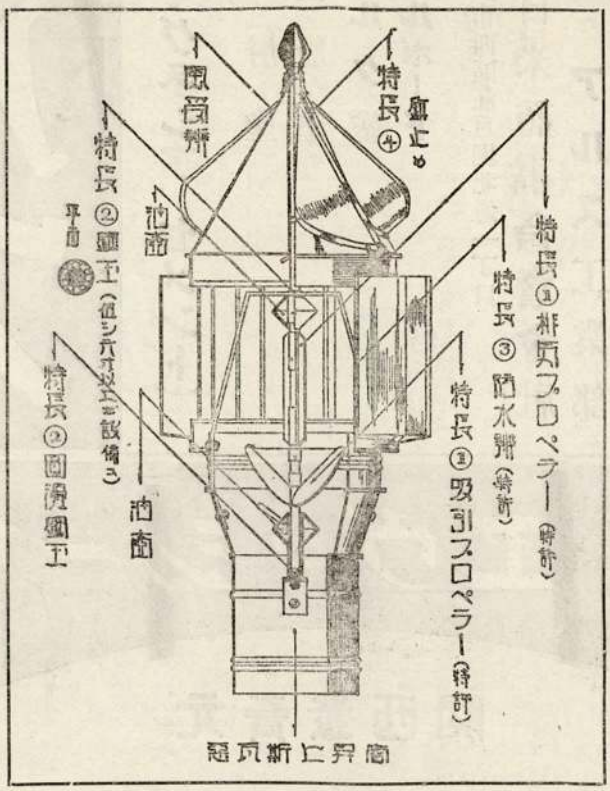
製作=直輸=負請=入

保健!衛生! 田中式除風吸揚器
(新案特許第一一四四八六號)
實用新案 (第一一四四八六號)

ユニオン印
建築金物 製作發賣元
合名會社 西孫南店 建築金物部
電話北二八五〇番
大阪市南區順慶町二丁目
同直輸出入部
電話船(一九六・一九七番 三〇二九番)
大阪市北區南森町五四番地
南森町交叉點二筋南ノ辻西入天神小橋筋

サドシマ
メタルシーリング

金属天井



廉價!! 且ツ品質優秀ノ定評ヲ得マシタ。熟練ナル職工ハ迅速叮嚀ニ施工致シマス。

カタログ進呈

多數同類品ト全然構造ヲ異ニシ發賣日ナラズシテ稱讃ヲ得マシタ。

カタログ進呈

エスエム式ベンチレーター

佐渡島西店建材部

大阪市南區安堂寺橋通三丁目

電話船場 九九九番 二三三番 二二三番

日米アルス

床張（山本式マグネシア、セメント）

アルス、一層塗
アルス、二層塗
アルス、コルク塗
塗込式スクールボード

製造
發賣元 日米商事合資會社
アルス工業部

大阪市西區江戸堀北通一丁目
電話土佐堀（一九五番）（七三〇五番）

NITIBEI ARS

關東代理店 山本アルス工業所
山本六三郎
東京府下大崎町居木橋一七

完全防水 エヴァシール

大理石代用 オパキサイト

マグスタッコ床塗

関西販売元

田中昌司商店

大阪市西區江戸堀南通四丁目

電話土佐堀 一四八七番 一八〇五番

江東サッシ

理想的未代の屋ルーフ材料



淺野スレート
日本石綿盤
朝日スレート
金剛スレート

品質堅牢
体裁優美

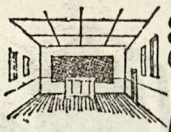
日本スレート販賣株式會社大阪支店

大阪市西區江戸堀南通一丁目廿一番地
電話土佐堀㊦3468番・3469番
本社 東京市京橋區三十間堀三丁目
電話銀座㊦684・841(專用)1860・1861・1862番(接續)
支店 {横濱市常盤町5丁目81番地電話本長者町(3)5207番
{門司市東本町四丁目 電話㊦548番
出張所 名古屋・仙臺・京城



淺野波形板

母屋が木貫でも鐵骨でも
野地板がなくも勾配が緩
くも取付られる
天下無敵の屋根材



淺野壁板

強靱の石綿セメント製ゆ
ゑ下見・内壁・天井・間仕
切壁等に用ひて
比類なき最適品



淺野煙突

燒けない・錆びない・
腐らない・火の用心
に
淺野煙突

淺野スレート株式會社

東京市	大阪市	市司門	名古屋市	札幌市
三十間堀三丁目 1860 1861	北濱七丁目 電話北 三地等 5081 5082	白水嶋 門司市 電話 1228 1931	三町目 中區南鍛冶屋 電話中 1097	北三條東四ノ一 電話長 598

建築ノ耐久ト美觀ハ屋根材料ノ撰定

KS式陸屋根地下室防水工事
太陽印アスファルトルーフキング
マルソイドルーフキング
テキサスルーフキング
各種アスファルトフエルト
耐酸性アスファルト工事
セメント防水劑マノール

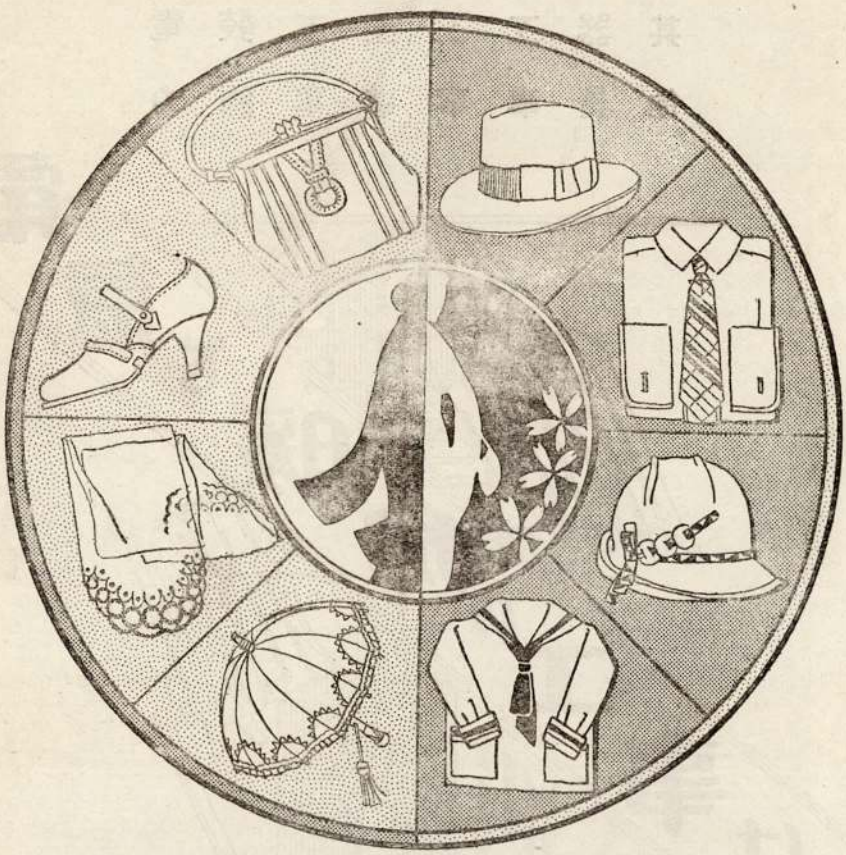
見本型錄呈上

本店 大阪市西區江戸堀南通五丁目
電話土佐堀 二一六六番
～ 二一五四番

木下謹三商店

支店 東京市日本橋區濱町三丁目三番地
電話浪花 二二五二番

石綿スレート（石綿盤）
天然スレート（石盤葺）
獨逸式セメント瓦
エキスパンデットメタルラス
淺野波形スレート
其他各種建築材料
販賣並ニ工事請負



長閑な春訪づれて　遊山に、ピクニックに

花に魁け　御買物は大丸へ

春向呉服新柄を始め紳士用品、婦人子供
用品等流行の數々豊富に取揃へて居ります

月曜休業

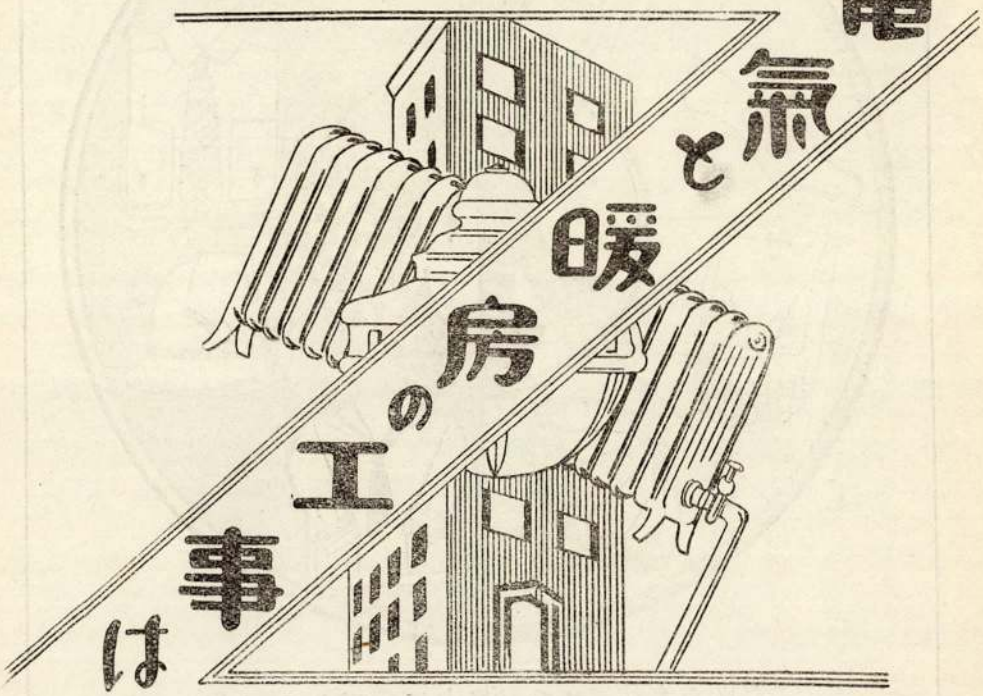
大丸

夜間營業

大阪心齋橋

電燈　電燈　電氣　衛生　水道　暖房　各種
販賣　力　裝飾　工事　工事　工事　工事　器具　其他

電氣と暖房の工事は



會社合資　大阪電氣商會
大阪暖房商會

社長　菅谷元治

大阪市西區江戸堀南通一丁目

電話　堀　佐　土　{ 局 544番 / 1446番 / 1837番 }

支店　東京　名古屋

テラコッタ　伊賀窯業株式會社
関西一手販賣

當社製作販賣
アーユス石
ドッグサイン
チールテイン
スス復興

政正合資會社

本社　大阪市西淀川區大仁本町壹丁目二十番地
電話長堀一九四九番　振替大阪四五六七六
名古屋出張所　名古屋市中區新柳町六丁目住友ビルヂング
電話　本局（2）二一九一番

地下水の利用

●地下水は永久不變にして而して經濟的なり!!

從來の不完全なる鑿井に依る地下水又は淺層の地表水にあらず絶對外界の影響を蒙らざる(眞の地下水)の利用にして弊會は最進の强馬力掘鑿機械と巧妙なる獨特の技術を以て地質の軟硬を不論、數百呎又は地點により千數百呎の深層堅磐をも進掘し安定せる良滯水層のみより收水するものにして

最近工事先御芳名	鑿井地點	水量(一晝夜)	用途	鑿井口徑	鑿井深度
大阪鐵道株式會社	大阪府下藤井寺	一、二〇〇石	上水道用	十二吋	八〇〇呎
大阪電氣軌道株式會社	大軌菖蒲池遊園地	一二、〇〇〇石	上水道用	十吋	七〇〇呎
日本染料製造株式會社	大阪市春日出町	八、〇〇〇石	工業用水	八吋	五〇〇呎
豐國セメント株式會社	名古屋東築港	三、〇〇〇石	汽罐給水	十吋	七五〇呎
東洋紡績株式會社	名古屋市下廣井町	一八、〇〇〇石	飲料及工場用	八吋	五〇〇呎
新京阪鐵道株式會社	兵庫縣伊丹町	七、〇〇〇石	上水道用	八吋	六〇〇呎
武雄町役場	佐賀縣武雄町	三、〇〇〇石	上水道用	六吋	九三五呎
大同土地興業株式會社	大阪府下櫻ヶ丘	五、〇〇〇石	上水道用	八吋	七〇〇呎
錦華紡績株式會社	佐賀市神野町	一〇、〇〇〇石	上水道用	十吋	八一七呎
堺市役所	堺市淺香山	三〇、〇〇〇石	上水道用	十二吋	一、九〇〇呎
佐賀市役所	佐賀市	改修增水工事中	上水道用	十二吋	六三〇呎
高岡市役所	高岡市外	目下工事中	上水道用	十二吋	三個所
大和川染工所株式會社	堺市七道	目下工事中	工業用水	十二吋	八三〇呎
豐田紡織庄内川染工所	名古屋市外庄内	目下工事中	工業用水	十二吋	五〇〇呎

地下水の利用計畫の際は御申越次第實地踏査御希望により詳細の計畫書御用仕度進呈仕候又御相談にも應可候



證明書

日本地下水協會

當社左記各鑿井ハ日本地下水協會請負作業ニ對シ責保水量ヲ超過シ成績優良ナル作業ニ際シ試驗員技術優秀ナル事ヲ證明ス

所名　直徑　深度　責任揚水量　揚水方法

（以下各鑿井ごとに口徑・深度・揚水方法を記載）

右内大山鑿井所ハ地層岩石ノ硬度九度ヲ超ユル堅磐ニ對シ鑿井ノ契約期限内ニ完成セルモノナリ

昭和二年七月

大同電力株式會社

過去二十有餘年間の經歷を有し各地に多數大鑿井を施工したるも一井として失敗したる事なきは弊會の誇とする所にして到る處賞讃を博し居れり弊會は技術本位にして堅實を旨とし純直營の責任ある施工をなし今日迄宣傳廣告はせざりしも近來各事業の發達に伴ひ水利問題は識者の等しく攻究する處となり地下水の利用漸く其範圍を擴め上水道諸工業灌漑大建築用等有ゆる方面に使用され今日にては各都市の上水道水源として採用せらるゝに至れり茲に地下水の利用を御勸めすると同時に今後格別の御引立を願ふ次第なり

獨逸最進ロービング式

大鑿井工事請負

日本地下水協會

上水道用水源
大建築用水源
施工業用水源
灌漑用水源

本社　堺市大濱北町公園地　電堺局二二二九

名古屋出張所　名古屋市中區矢場町東陽ビル　電中局七七七

(賜攝政宮殿下台覽)
各府縣市營繕課御推奨品

建築界之驚威

安くて
強くて
美しい

登錄商標 **ミクニ板** (特許杉柾目 檜柾目 天井板)

關東特約販賣店
東京市京橋區本材木町三丁目
篠田政之助商店

青森秋田岩手宮城四縣特約店
青森市濱町五丁目
小館木材株式會社支店

大阪府特約店
大阪市西區立賣堀南通二丁目
澤田秀吉商店

京都府特約店
京都市河原通夷川角
藤原彌三郎商店

其他全國樞要ノ地ニ特約店販賣店アリ

登商標錄

ミクニ板製造元
廣島縣福山市西町
日本木材工藝株式會社
長電三九七番

O-Cedar Polish

"It Cleans, Shines and Renews"

All of your Furniture, Autos, Linoleum and Pianos

英國專賣特許日本政府登錄濟
英國ヲセダー株式會社製品

ヲセダーポリシュ

和洋家具、樂器、リノリューム
床板、廊下、唐木、白木造リ
掃除手入れ用

英國ヲセダ會社日本總代理店
ヲセダポリシュ輸入販賣元
漁具製造輸出業
一般輸出入業

澤田合名會社

神戸市八幡通四丁目四四番
電話葦合四〇七一番
私書函三宮二五四番

◆各地百貨店、家具店、敷物商、藥舖、洋食料品店、金物店等にてお求め下さい

一、總ての塗リ物即ちバニス、ラッカー、ペイント、漆、シケラック、其他色々の塗料にて塗りたるものゝ美を保存するにはヲセダーポリシュに優るものはありませぬ、洋館、洋風の設備、洋家具、リノリューム床板等の保存法として掃除と手入れが一度に出來、塗面の光澤を優美に引立て新しきものは永久に美しく古きものも段々新らし味を加へ復活させます

一、塗面が汚なくなる原因は塗料が乾燥すると同時に酸化と風化の作用を受け塗面が變質し光澤が退化するからであります、此れを防止するには英國ヲセダー會社の製品ヲセダーポリシュに限ります

一、ヲセダーポリシュは杉檜等の樹脂から採つたもので、塗面の酸化と風化を完全に防止しますと同時に塗料と同化し乾燥を緩和します、眞に塗料の保護材、塗料の友として天下無二の優秀品であります

一、近來類似品又は模造品(油の色丈けを似せたもの、包裝レッテルを模倣したもの)が澤山ありますがヲセダーポリシュと比較する價値のあるものは一つもありません

上記の商標とヲセダーポリシュと云ふ名稱を御指示願ひます

煖房ト冷房

温濕度調整裝置

營業目科

各種煖房裝置　換氣裝置
衛生工事　汚水淨化裝置
給水給湯裝置　蒸氣諸裝置
宮崎式ペーチカ

大和工業株式會社

代表取締役　萩原貞

代表取締役　山崎寛二郎

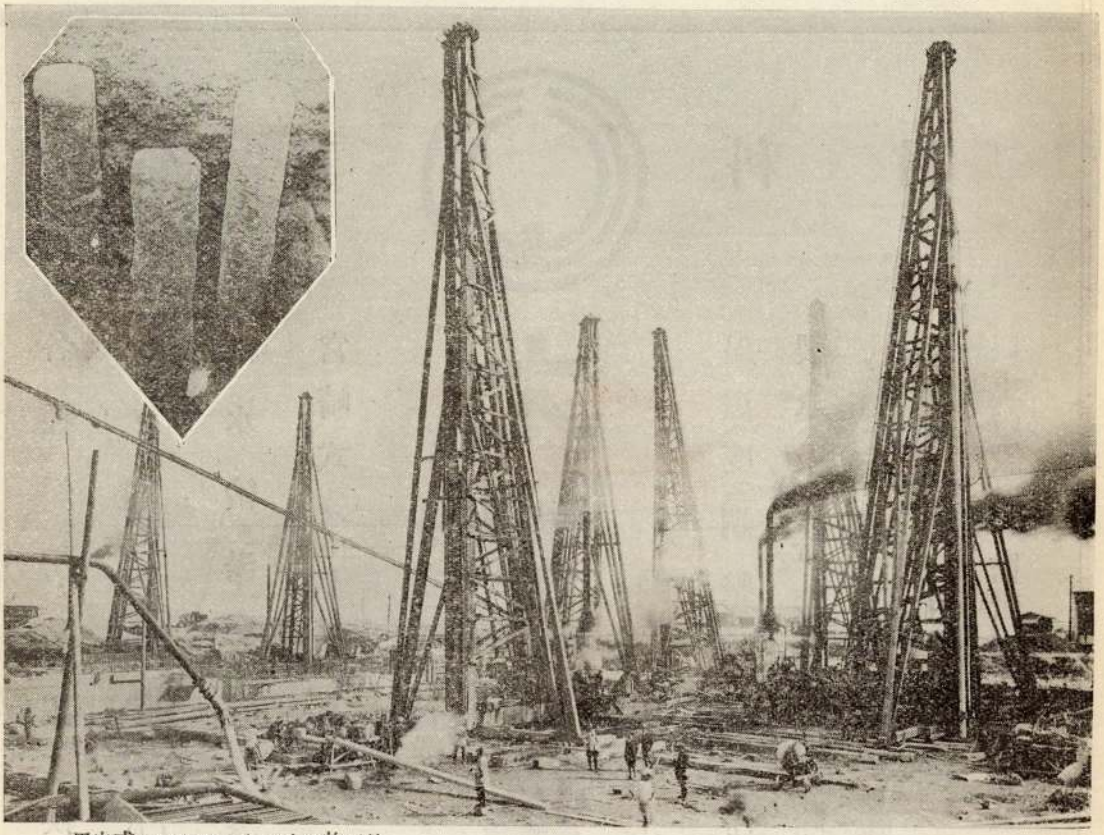
温濕度調整裝置　冷房裝置
製氷及び冷藏裝置　除塵裝置
氣送管裝置　眞空掃除裝置
ニユウマチックチユウヴ　バキユウムクリーナー
以上の設計、監督、工事請負並に材料販賣

本社　大阪北區曾根崎上四丁目三番地　電話局北一〇七八・六二九一番　略語受電（オサカダイワ）
支店　東京市京橋區南傳馬町三丁目五番地（第一相互館二〇八）　電話局京橋三二三七番　略語受電（トウケイダイワ）

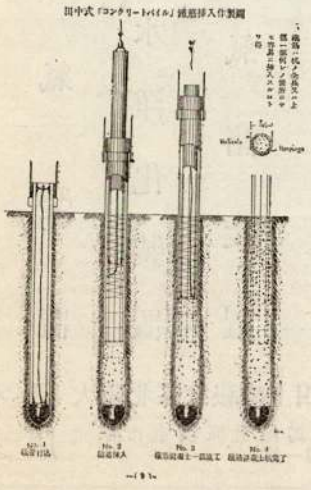
完絶セル基礎杭

特許田中式コンクリートパイル

鐵道省川崎汽力發電所基礎工事實況



田中式コンクリートパイル施工法



田中工業株式會社

本　社

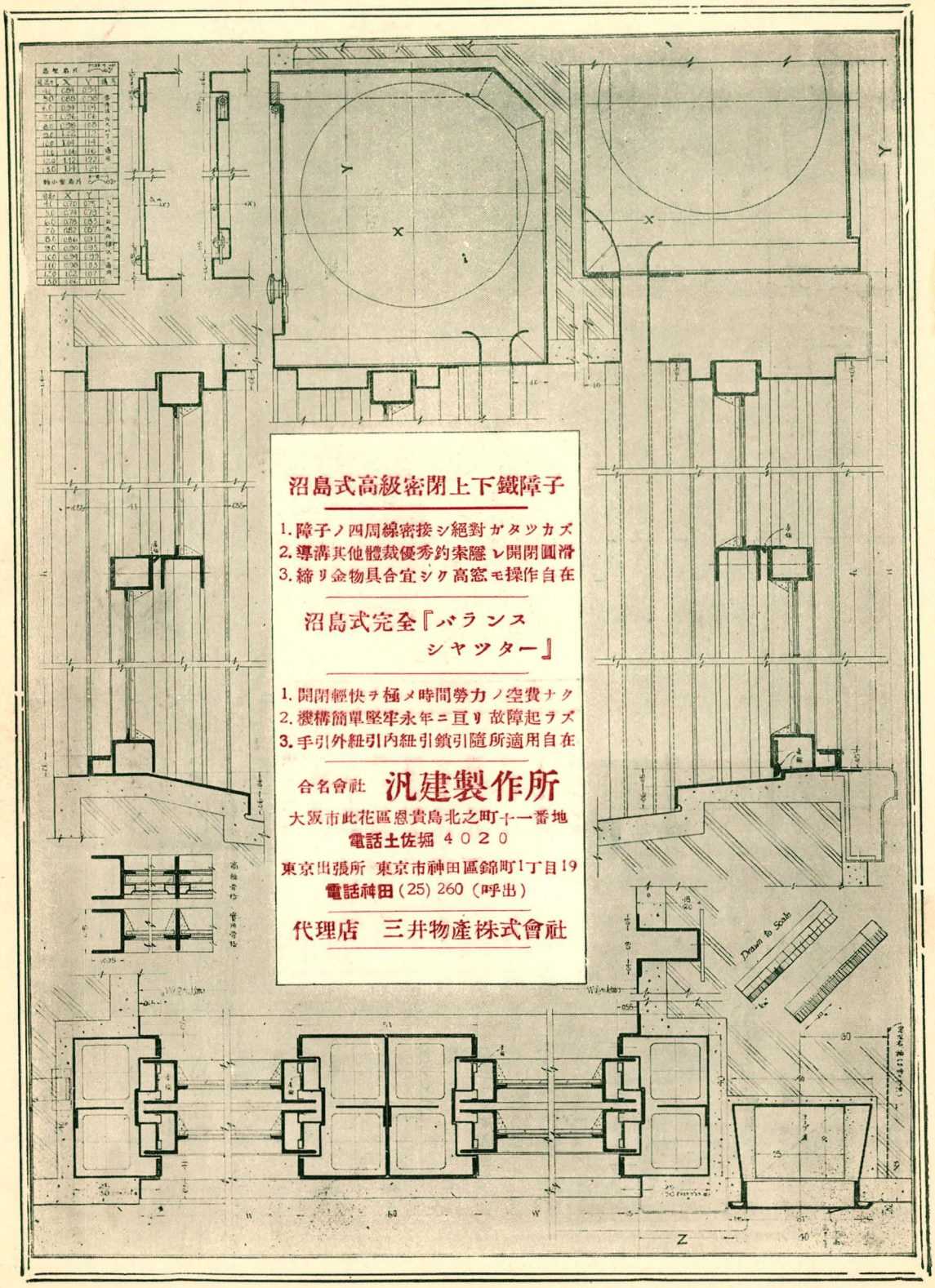
東京市麹町區永樂町丸ビル五五八區

電話丸ノ内九四三番

大阪支店

大阪市北區宗是町大阪ビル六一三室

電話土佐堀　二八一二番


沼島式高級密閉上下鐵障子
1. 障子ノ四周縁密接シ絶對ガタツカズ
2. 導溝其他體裁優秀ニシテ軽快ニ開閉圓滑
3. 締リ金物具合宜シク高窓モ操作自在
沼島式完全『バランス シヤツター』
1. 開閉輕快ヲ極メ時間勞力ノ空費ナク
2. 機構簡單堅牢永年ニ亘リ故障起ラズ
3. 手引外紐引内紐引鎖引隨所適用自在
合名會社 汎建製作所
大阪市此花區恩貴島北之町十一番地
電話土佐堀 4020
東京出張所 東京市神田區錦町1丁目19
電話神田(25)260(呼出)
代理店 三井物產株式會社
Drawn to Scale

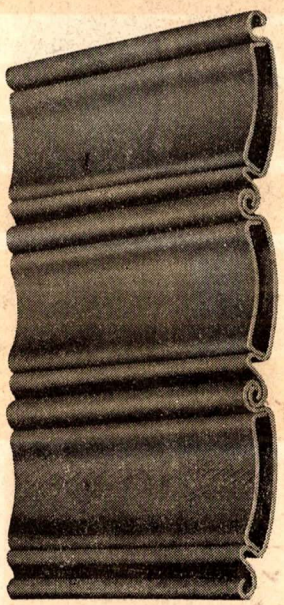
SUDZKI'S PAT. **HOLLOW SHUTTER** PAT. AP'L'D TO THE U.S.A.

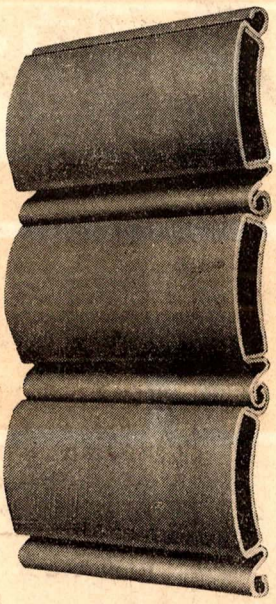
米國特許出願

日特
英許

鈴木式ホロー・シヤター

（最新式シヤッター）





大正十五年英國政府へ特許出願中の處昭和二年二月十七日第二六五八七三號を以て特許々可せらる

ホロー式の特徴

1 ホロー式は權威ある火熱注水試驗の結果熱の傳導の遲いのが著しい特徴であつた。

2 ホロー式は高尚優美、堅牢無比、强盜、暴漢をして意氣銷沈せしむ。

3 ホロー式を DREADNOUGHT SHUTTERと英國人は評した。

4 ホロー式は卷徑が少さく素直に釋れて下る。

5 講鐵は特許鈴木式二重底レールを附屬せしむ。

6 錆止ペンキは浸漬式を用ゆ。

7 機械は精巧、圖畫は、美麗周圍と調和す。

ホロー式取付實例

◉取付場所及時日

◉名古屋市御器所町
南消防署

◉昭和貳年參月廿五日

1 ホローシヤター三號型鎖引

2 巾 二十二尺 高十二尺出來上り寸法

3 シヤター重量二百貫、シヤフト壹百貫 合計三百貫

4 錆止ペンキ浸漬式を用ゆ

5 上下時間 輕く手繰て廿秒

◉取付けの結果◉

丈夫で、輕くて、工合のよいので皆な驚歎してゐる

東京 巢鴨町宮下一五四五—一五五五

建築金物商會

支店 京都市東山通月見町二